

高知県感染症発生動向調査事業報告

第 17 号

平成25年 1 月～26年12月

高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会
(事務局 高知県健康政策部健康対策課)
高知県感染症情報センター
(高知県衛生研究所内)

はじめに

近年、グローバル化による国際交流の進展，地球規模での気候変動の影響などから，新興・再興感染症等の蔓延や流行が繰り返されるようになってまいりました。

平成 26 年には，西アフリカでのエボラウイルス病の流行や，約 70 年ぶりにみられた国内でのデング熱の流行，SFTS（重症熱性血小板減少症候群）の発生数の増加などがあり，対策の強化が求められましたが，その都度，県民の方々への適切な情報提供とそれぞれの感染症に応じた予防対策等についての日ごろの普及啓発が重要であることを再認識いたしました。

また，平成 25 年には全国的に風しんが流行し，国は，平成 26 年 3 月に“早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに，平成 32 年度までに風しんの排除を達成すること”を目標とした「風しんに関する特定感染症予防指針」を策定し，取り組みを強化しました。

本県においても風しんについては，麻しん同様に医師により診断された全患者の病原体検査を実施することとして対応しているところです。

高知県では，県医師会をはじめ多くの医療関係者のご協力を得て，感染症発生動向調査事業を実施し，収集・分析した情報を週報・月報・年報として各関係機関や県民の皆様にインターネット等を介して提供し，感染症の発生・拡大防止に備えた事前対応型の対策を推進しているところです。

この度，感染症予防の資料としてご活用いただく事を目的として，平成 25 年及び平成 26 年の 2 年間の事業概要をとりまとめ，高知県感染症発生動向調査事業報告書第 17 号を発行いたします。本報告書が皆様にご活用いただけること祈念するとともに，ご意見をいただければ幸甚に存じます。

最後に，本報告書の作成にあたり，ご尽力いただきました高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会の委員の皆様並びに県医師会・定点医療機関をはじめとした多くの医療関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに，今後も本事業の推進になお一層のご指導とご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月

高知県健康政策部長
山 本 治

第17号の発刊に寄せて

— 感染症の脅威と対応戦略 —

平成25・26年には感染症に関して3つの新たな事例が発生しました。第1は平成26年3月から始まった西アフリカでのエボラ出血熱（エボラウイルス病）の大流行です。流行地では高い死亡率ですが、米国での死者は1名のみで他の患者は回復したことより、適切な医療により死亡率は低下すると推測されます。日本では1類感染症指定医療機関が各県に存在しないこと、高知県における疑い患者搬送訓練の中で実際に診療にあたる職員の確保や健康管理がなどの問題が浮かび上がってきました。エボラ出血熱への対応を検討する中で、感染症の脅威と人類が長い間続けてきた感染症との闘いを改めて実感しました。第2は平成26年8月に発生したデング熱の国内感染です。重症患者は発生せず、感染場所と推測された都内の公園閉鎖等により終息しました。地球の温暖化やグローバルな人の動きにより、これまで念頭に無かった感染症が日本で発生する可能性が高まっています。第3は重症熱性血小板症候群（SFTS）です。平成25年1月に国内初例が確認されたわずか2か月後に高知県第1例が報告され、平成26年12月までに14例が報告されています。そのうち幡多地域からの報告が10例と多い理由は、地域での疾病理解が進んでいるためと聞きました。感染症との戦いにおいて、「彼を知り己を知らば百戦危うからず」を実践して下さっているようで心強い限りです。

感染症発生動向の変化は次の通りです。麻しんの報告は平成21年以降なく、風しんは平成24年以降3年間で14例の報告がありましたが、臨床的あるいはIgG抗体などで診断されています。麻しん・風しんが疑われる場合は最寄りの保健所に連絡して下されば、検体を搬送し高知県衛生研究所で抗原検査を行います。PCR検査法により病原体検出技術は目覚しく進歩し、衛生研究所では種々の感染症を正確かつ迅速に診断できるようになっています。さらにペニシリン耐性肺炎球菌感染症も激減し、肺炎球菌とインフルエンザ菌による髄膜炎・敗血症などの重症感染症も経験しなくなりました。水痘ワクチンは平成26年10月に定期接種化されましたが、早くもその報告数が減少している可能性があります。このような動向からもワクチン効果は明らかであり、今後子宮頸がんワクチンの勧奨再開、ロタウイルス・おたふくかぜ・B型肝炎などのワクチンの定期接種化が強く望まれます。

喜ばしいことに高知県内のワクチン接種率が向上しています。関係各位の努力に敬意を表するとともに、取り組みの継続により「ワクチンで予防できる病気（VPD）」をしっかりと予防しましょう。

感染症対策は、感染症に係るすべての方々はその立場でご尽力下さることで成し遂げられます。今後ともご協力ご支援をお願いします。

平成27年3月

感染症発生動向調査部会

会長 吉川清志

目 次

I 患者情報

高知県における感染症の年次的推移（第17報）	1
1 年間報告累計	2
2 インフルエンザ	3
3 咽頭結膜熱	4
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5
5 感染性胃腸炎	6
6 水痘	7
7 手足口病	8
8 伝染性紅斑	9
9 突発性発疹	10
10 百日咳	11
11 ヘルパンギーナ	12
12 流行性耳下腺炎	13
13 R Sウイルス感染症	14
14 流行性角結膜炎	15
15 無菌性髄膜炎	16
16 マイコプラズマ肺炎	

II 検査情報

感染症発生動向調査における病原微生物分離	21
----------------------	----

III 地域情報

2013年、2014年高知県須崎地域における感染症発生動向	33
2013/2014シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討	37
小児における細菌性重症感染症の発生動向 — Hibと肺炎球菌ワクチン開始前後での県下における疫学的変化 —	40
注目すべき感染症対策	44

IV 高知県感染症情報月報（平成25年1月～26年12月）	51
-------------------------------	----

V 参 考

高知県の伝染病	193
高知県日本脳炎患者発生状況	194

VI その他

高知県感染症発生動向調査事業実施要綱	195
高知県感染症対策協議会規約	257
高知県感染症対策協議会委員名簿	258
高知県感染症対策協議会の体系図	259

I 患者情報

高知県における感染症の年次的推移（第17報）

2013年（平成25年）1月から2014年（平成26年）12月までの報告

1 年間報告累計

疾患別の報告総数および1定点医療機関当たり報告数を、年次別に報告総数の多い順に配列し、それに全国の報告総数、1定点医療機関当たり報告数および前年の順位を併記したものが、2013年（平成25年）（表1）と2014年（平成26年）（表2）である。

インフルエンザと感染性胃腸炎とで1位と2位が年ごとに交代することが多かったが、2013年、2014年とも感染性胃腸炎が1位である。

1) 2013年

感染性胃腸炎は、10年には過去2位10,567名の報告があり、その後増減を繰り返し13年の報告数は8,265名である。

2位のインフルエンザは、89年以降2位であった12年の報告数16,747名から減少し13年の報告数は11,888名である。

3位の手足口病は、89年以降最大であった11年の報告数3,345名から12年は113名と大幅に減少したが、13年の報告数は大幅に増加し2,716名である。

4位の水痘は、12年の報告数2,421名から減少し13年の報告数は1,717名である。

5位以下で増減の目立った疾患は、ヘルパンギーナで13年は89年以降最大となる報告数1,714名である。また、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は13年報告数771名と調査開始以来最少である。

2) 2014年

感染性胃腸炎は、13年の報告数8,265名から増加し14年の報告数は9,052名である。

2位のインフルエンザは、89年以降2位であった12年の報告数16,747名から13年に引き続き減少し14年の報告数は11,477名である。

3位の流行性耳下腺炎は、89年以降最小であった10年の報告数294名から増加が続き13年の報告数は1,618名である。

4位の水痘は、13年の報告数1,717名から減少し14年の報告数は1,491名で調査開始以来最少である。

5位以下で増減の目立った疾患は、手足口病が13年3位2,716名から大幅に減少し14年8位836名の報告数である。

表1 年間定点報告累計（全国との対比）

2013年（平成25年） 単位：人

定 点	順 位	疾 病 名	高 知 県		全 国		前年 順位
			総 数	定点当たり	総 数	定点当たり	
内 科 ・ 小 児 科	1	感染性胃腸炎	8,265	275.50	1,071,415	341.00	2
	2	インフルエンザ	11,888	247.67	1,166,322	237.20	1
	3	手足口病	2,716	90.53	303,339	96.54	12
	4	水 痘	1,717	57.23	175,030	55.71	3
	5	ヘルパンギーナ	1,714	57.13	94,755	30.16	7
	6	RSウイルス感染症	1,233	41.10	96,625	30.75	5
	7	流行性耳下腺炎	913	30.43	41,005	13.05	9
	8	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	771	25.70	253,953	80.83	4
	9	突発性発疹	600	20.00	89,476	28.48	8
	10	咽頭結膜熱	295	9.83	72,972	23.22	11
	11	伝染性紅斑	60	2.00	10,118	3.22	6
	12	百日咳	50	1.67	1,662	0.53	10
眼 科		急性出血性結膜炎	0	0.00	676	0.99	
		流行性角結膜炎	23	7.67	20,606	30.21	
S T D		性器クラミジア感染症	23	3.83	25,606	26.29	
		性器ヘルペスウイルス感染症	6	1.00	8,778	9.01	
		尖圭コンジローマ	2	0.33	5,743	5.90	
		淋菌感染症	8	1.33	9,488	9.74	
基 幹		細菌性髄膜炎	11	1.38	445	0.94	
		無菌性髄膜炎	20	2.50	1,298	2.76	
		マイコプラズマ肺炎	233	29.13	11,337	24.07	
		クラミジア肺炎（オウム病を除く）	17	2.13	749	1.59	
		感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	5	0.63	159	0.34	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	379	47.38	20,155	42.43	
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	2.25	3,161	6.65	
		薬剤耐性緑膿菌感染症	6	0.75	319	0.67	
		薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	8	0.02	

表2 年間定点報告累計（全国との対比）

2014年（平成26年） 単位：人

定 点	順 位	疾 病 名	高 知 県		全 国		前年 順位
			総 数	定点当たり	総 数	定点当たり	
内 科 ・ 小 児 科	1	感染性胃腸炎	9,052	301.73	1,004,756	319.58	1
	2	インフルエンザ	11,477	239.10	1,742,819	354.23	2
	3	流行性耳下腺炎	1,618	53.93	46,340	14.74	7
	4	水痘	1,491	49.70	157,640	50.14	4
	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,119	37.30	304,247	96.77	8
	6	RSウイルス感染症	1,006	33.53	100,296	31.90	6
	7	ヘルパンギーナ	917	30.57	137,040	43.59	5
	8	手足口病	836	27.87	83,683	26.62	3
	9	突発性発疹	704	23.47	87,981	27.98	9
	10	咽頭結膜熱	320	10.67	78,959	25.11	10
	11	伝染性紅斑	42	1.40	32,342	10.29	11
	12	百日咳	15	0.50	2,066	0.66	12
眼 科		急性出血性結膜炎	0	0.00	412	0.60	
		流行性角結膜炎	28	9.33	20,225	29.61	
S T D		性器クラミジア感染症	24	4.00	24,914	25.58	
		性器ヘルペスウイルス感染症	1	0.17	8,649	8.88	
		尖圭コンジローマ	4	0.67	5,685	5.84	
		淋菌感染症	4	0.67	9,799	10.06	
基 幹		細菌性髄膜炎	9	1.13	394	0.83	
		無菌性髄膜炎	18	2.25	897	1.90	
		マイコプラズマ肺炎	229	28.63	6,455	13.65	
		クラミジア肺炎（オウム病を除く）	23	2.88	325	0.69	
		感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	143	17.88	4,023	8.51	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	292	36.50	17,956	37.72	
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	0.50	2,258	4.74	
		薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.50	266	0.56	
		薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	4	0.01	

※薬剤耐性アシネトバクター感染症は10月より全数報告に変更されています

2 インフルエンザ

定点当たりの報告数を全国と比較すると13年は全国と同程度であったが、14年は0.67倍と少ない(表3)。また、流行パターンは13年14年ともに全国と同様に推移し、ピークは12～13年が13年2月(第5週定点当たり31.94)、13～14年が14年1月(第9週定点当たり21.54)である(図1)。

年齢別発生分布は、13年は、20歳以上が37%と最も多く、5～9歳が24%、10～14歳が17%と、5～14歳で40%を占めている。14年は、1～9歳で微増し、10～14歳、20歳以上で微減した(図2)。

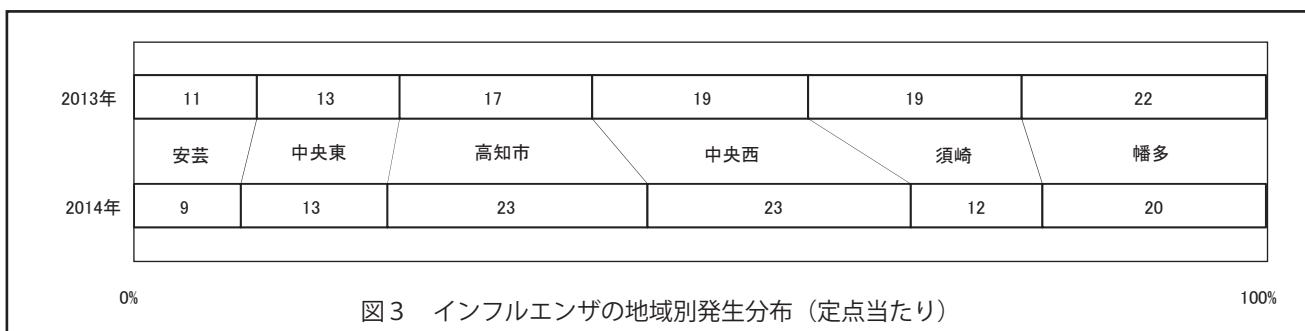
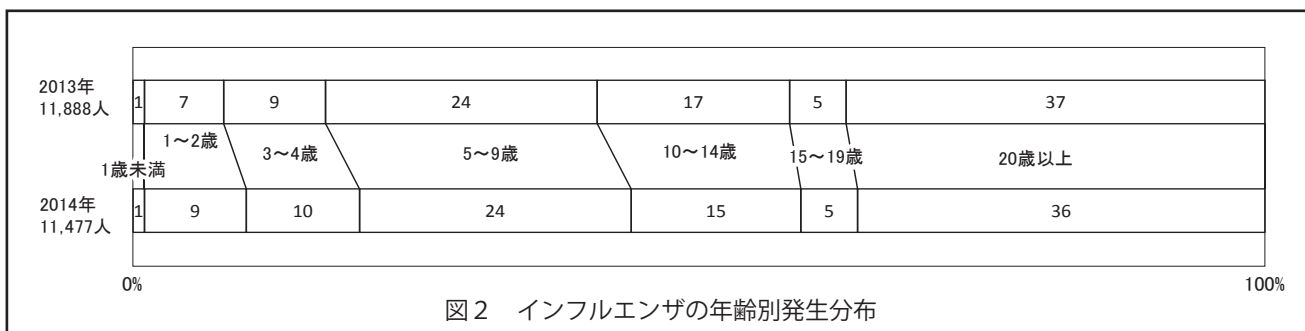
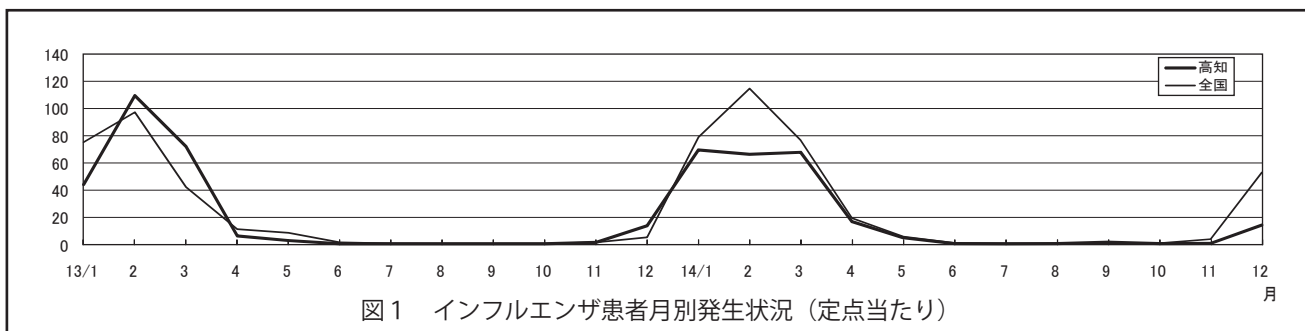
地域別発生分布は、13年は幡多、須崎、安芸で

増加し、高知市、中央西で減少したが、14年では高知市・中央西で増加し、須崎、幡多、安芸で減少した(図3)。

ウイルス分離検出状況は、13年はApdm09型4件、A香港型102件、B型37件、14年はApdm09型50件、A香港型27件、B型29件である。

表3 インフルエンザの年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	11,888	247.67	237.20
2014	11,477	239.10	354.23



3 咽頭結膜熱

13年と14年の定点当たりの報告数の比較では、全国、高知県とも1.08倍で微増した。また、高知県の報告数は、13年、14年とも全国の報告数の0.42倍とかなり少ない(表4)。

定点当たり報告数の推移を全国と比較すると、13年14年とも高知県は全ての報告月で全国を下回った。また、ピークは13年12月、14年7月と全国と同じであった(図4)。

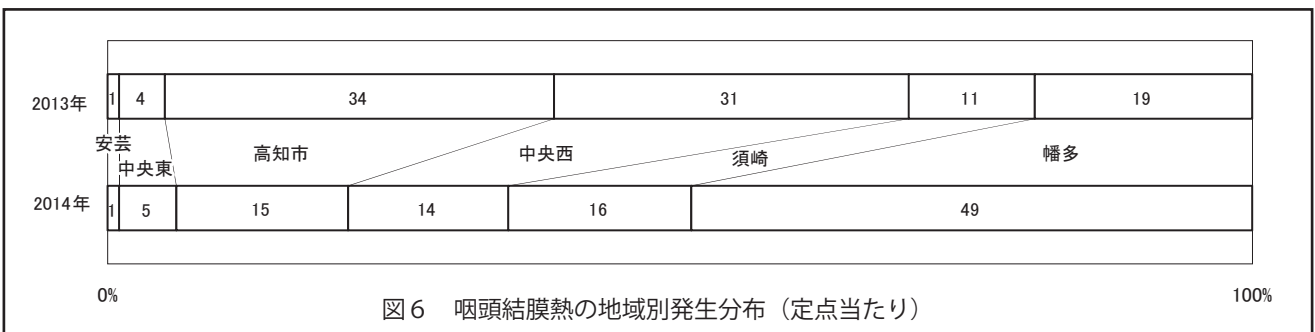
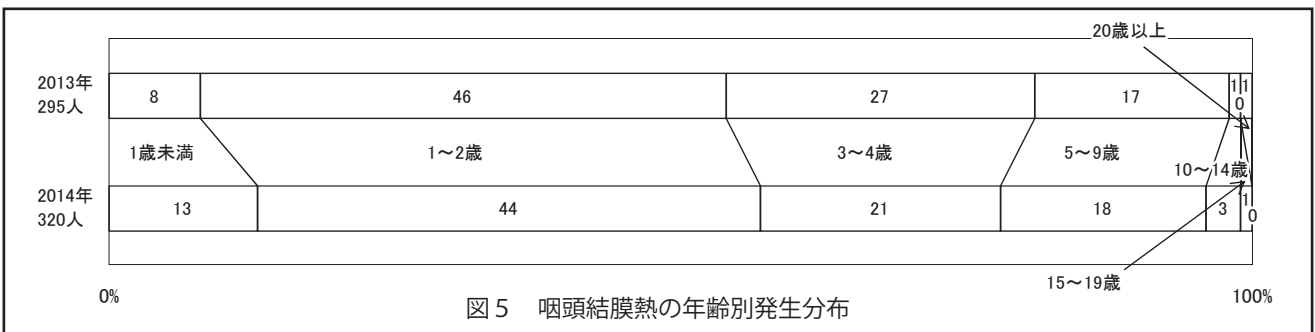
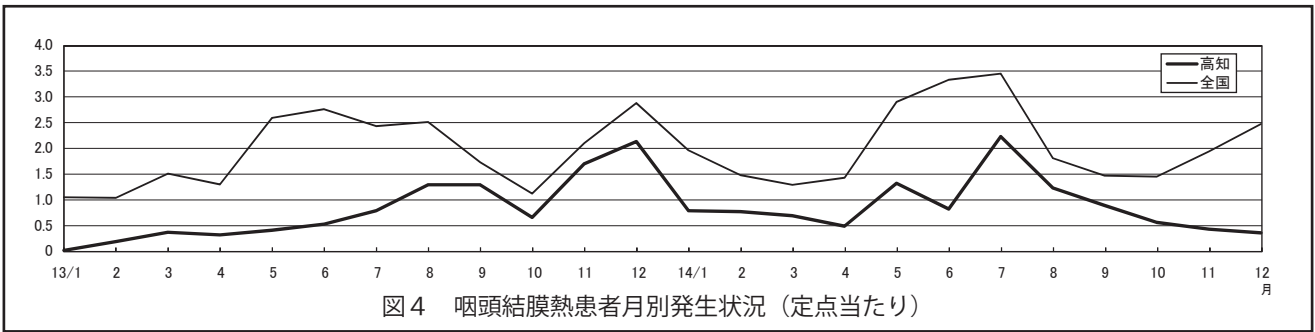
年齢別発生分布は、1～2歳の割合が最も高く、3～4歳、5～9歳、1歳未満と続き、これらの年

齢でほぼ90%を占めている(図5)。

地域別発生分布は、13年は高知市・須崎・安芸で増加し、中央西・中央東・幡多で減少した。14年は幡多・須崎・中央東で増加し、高知市・中央西で減少した(図6)。

表4 咽頭結膜熱の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	295	9.83	23.22
2014	320	10.67	25.11



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの報告数は13年14年とも高知県は全国を大きく下回った。00年～12年の年間報告数は1,200～2,500名程度で推移し、13年の771名は調査開始以来最小の報告数である(表5)。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、05年末から11年5月まで高知県は全国より少ない状況が持続していたが、11年6月～8月、12年3月に全国を上回った。その後13年14年とも高知県は全国より少ない状況を維持している(図7)。

年齢別発生分布は、13年～14年では、5～9歳が約50%と変化が無いが、3～4歳が18%から

34%と約2倍に増加し、10～14歳が16%から9%と約半分に減少した(図8)。

地域別発生分布は、13年は中央西で増加し、須崎・幡多・中央東・安芸で減少した。14年は須崎・高知市・幡多で増加し、中央西・中央東・安芸で減少した(図9)。

表5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	771	25.70	80.83
2014	1,119	37.30	96.77

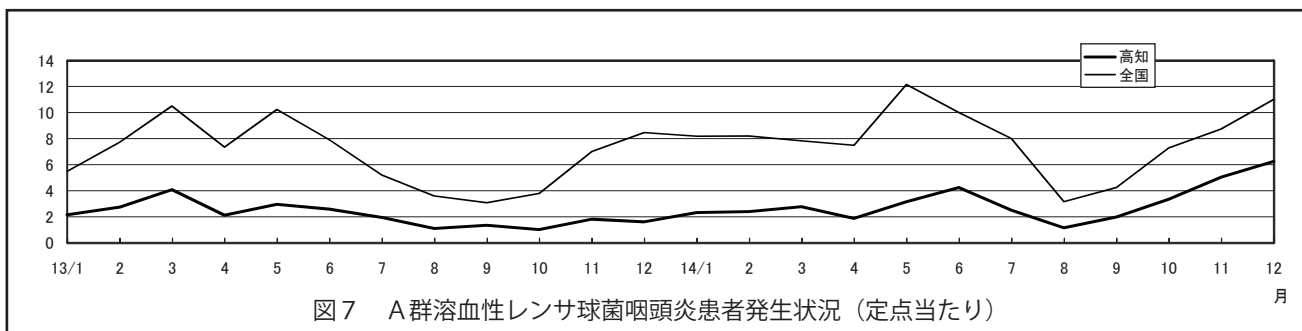


図7 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者発生状況(定点当たり)

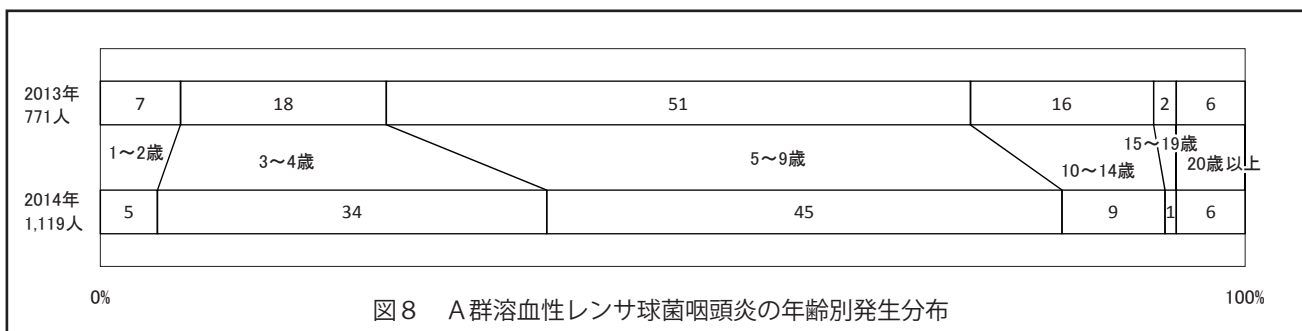


図8 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢別発生分布

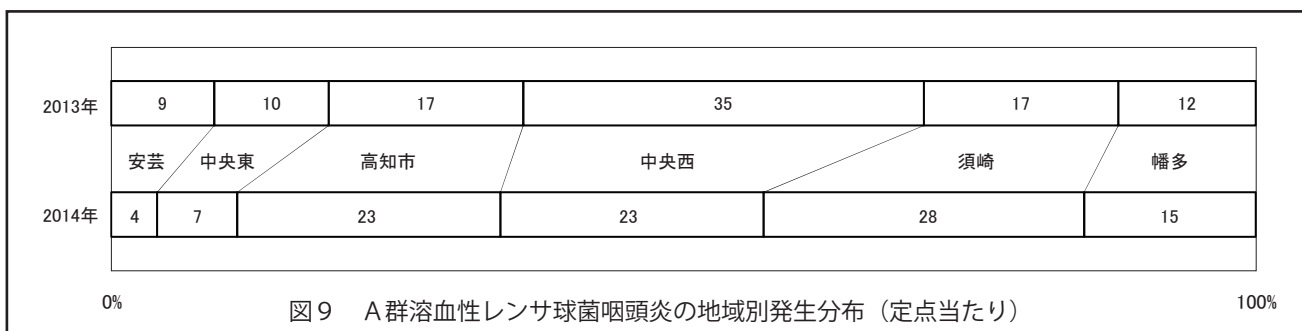


図9 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の地域別発生分布(定点当たり)

5 感染性胃腸炎

定点当たりの報告数は、13年14年とも全国を少し下回った。

高知県の報告数は、06年に11,070名と調査開始以来最高値を示し、その後も07年9,704名、08年9,470名と高い値を示していたが、09年は6,794名と、04年以降では最も少ない報告数となった。10年は10,567名と再び増加に転じ、過去2番目の報告数となり、その後も13年8,265名、14年9,052名と高い値を示している（表6）。

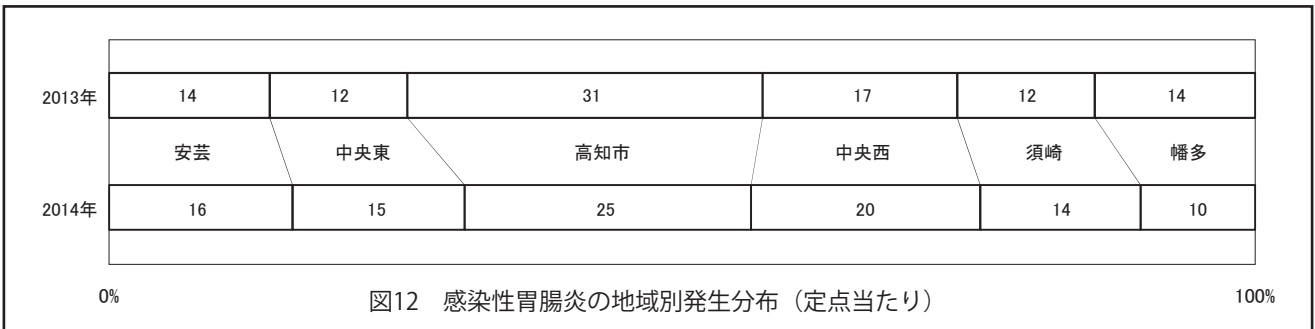
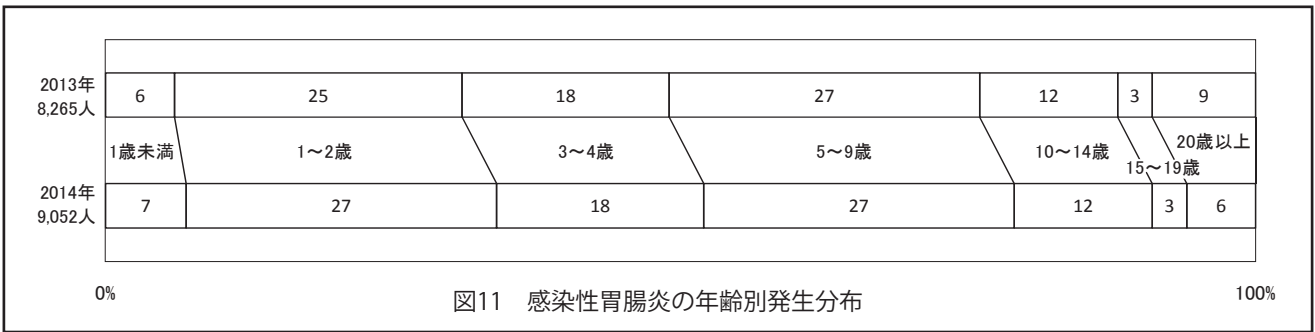
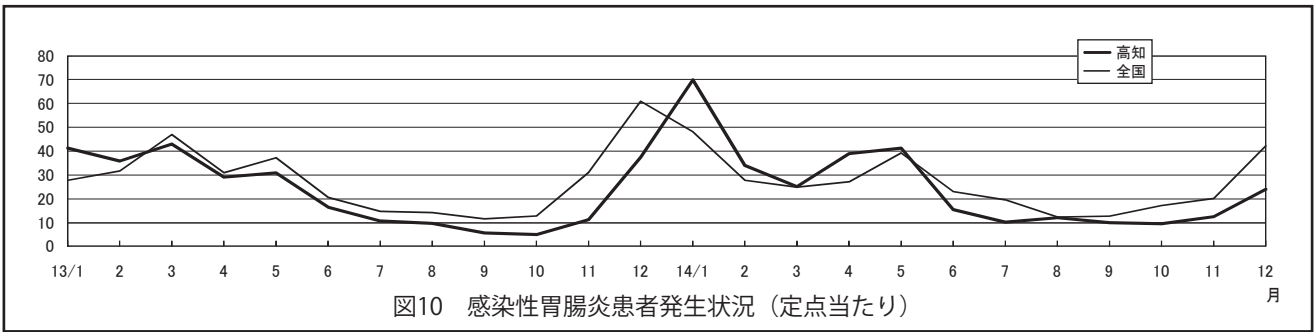
定点当たり報告数の推移を全国と比較すると、13年14年とも流行時期及びピーク値が全国とほぼ一致している（図10）。

年齢別発生分布は、4歳以下が約50%を占め、5～9歳の27%が続いている（図11）。

地域別発生分布は、13年は高知市で6%増加し、中央西・須崎・幡多・中央東で1～2%減少した。14年は中央西・安芸・中央東・須崎・幡多で2～4%増加し、高知市で6%減少した（図12）。

表6 感染性胃腸炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	8,265	275.50	341.00
2014	9,052	301.73	319.58



6 水痘

定点当たりの報告数は、13年14年とも全国とほぼ同じである（表7）。98年以降でみると高知県での報告数は2～3年周期で2,000～3,000名と比較的大きく変化しているが、12年は2,421名と増加したが13年は1,717名、14年1,491名と減少し、14年は調査開始以来最少となった。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、ピーク値の差は多少みられるものの流行時期は同様に8～10月が少なく、12～6月までが多い。これは夏休みの影響が推測される（図13）。

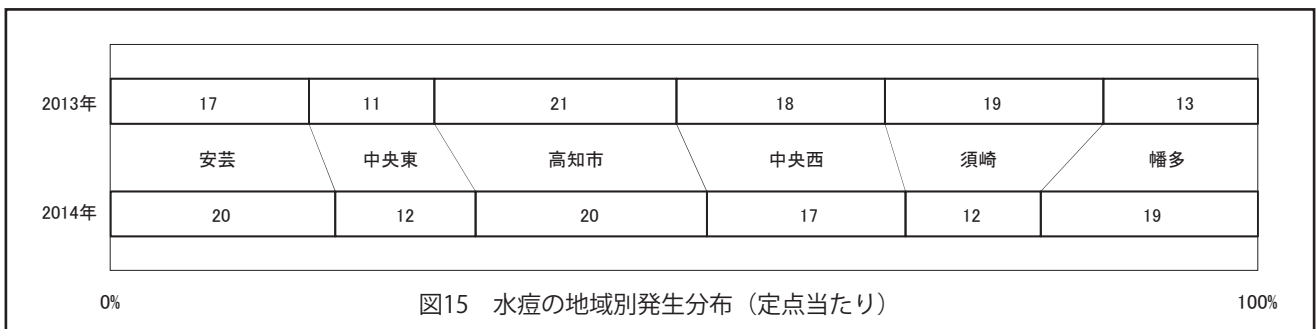
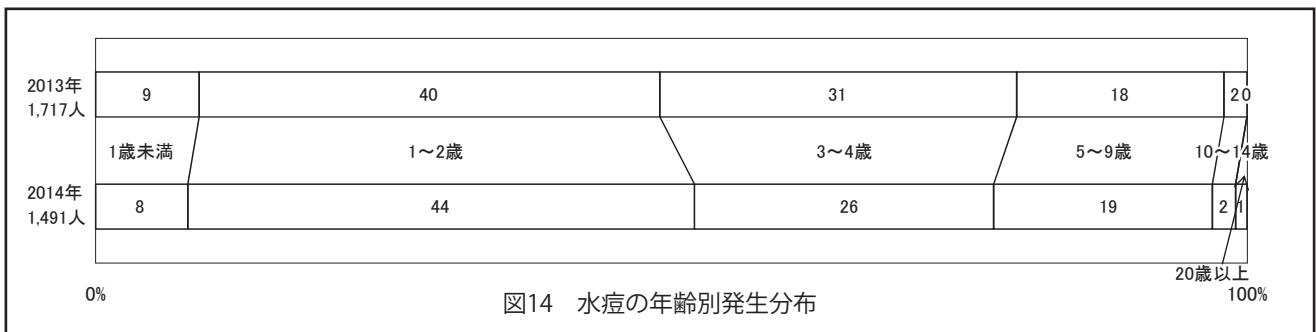
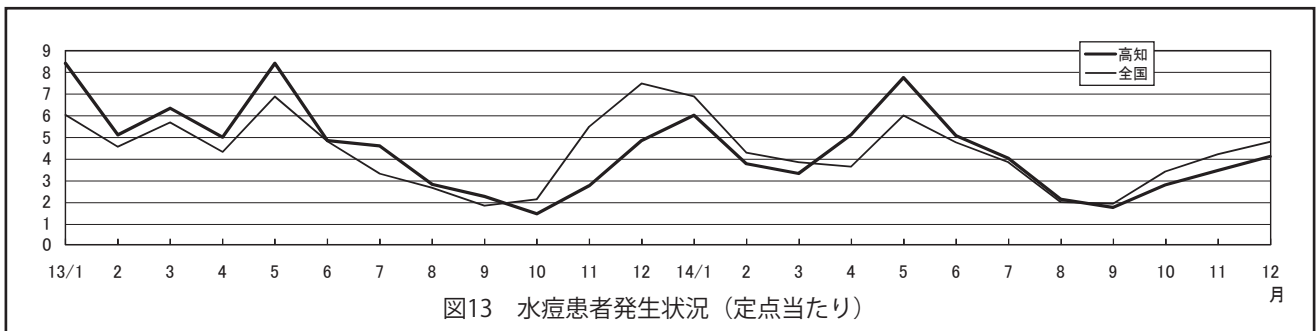
年齢別発生分布は、11～14年では毎年非常に似通っており、1歳未満7～9%、1～2歳40～

47%、3～4歳26～31%、5～9歳13～19%、10～14歳1～2%で数%の差のみであり、変動が少ない（図14）。

地域別発生分布は変動がみられ、13年は高知・須崎・中央東・中央西で増加し、幡多・安芸で減少した。14年は幡多・安芸・中央東で増加し、須崎・中央西・高知市で減少した（図15）。

表7 水痘の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	1,717	57.23	55.71
2014	1,491	49.70	50.14



7 手足口病

定点当たりの報告数は、05～09年にかけ連続して全国を下回っているが、10年は高知県で、11年12年は全国的に大きな流行があった。この疾患は年によって流行規模に比較的大きな差があり、調査開始以来約400～3,000名が報告されている。13年の2,716名は91年以降3番目に多い報告数である。14年は836名と少ない(表8)。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、全国の流行のピークは90年以降一定して7月であったが、13年は8月であった。高知県のピークは一定せず13年は8月、14年は12月である(図16)。

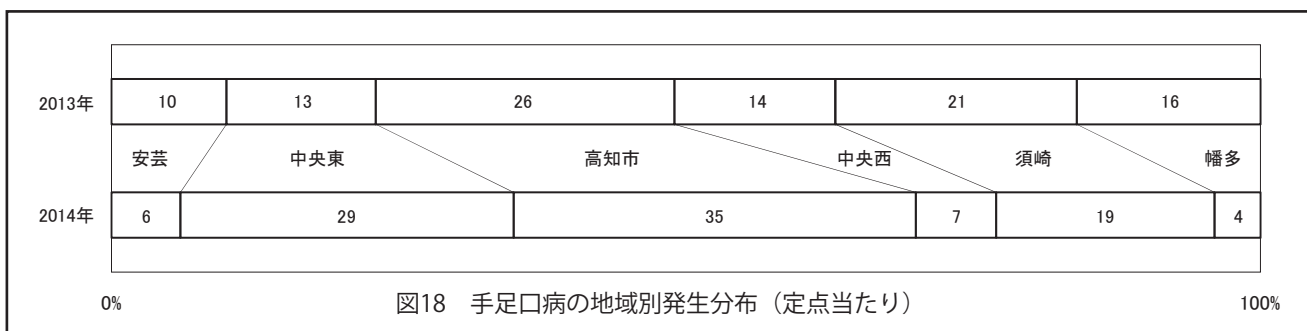
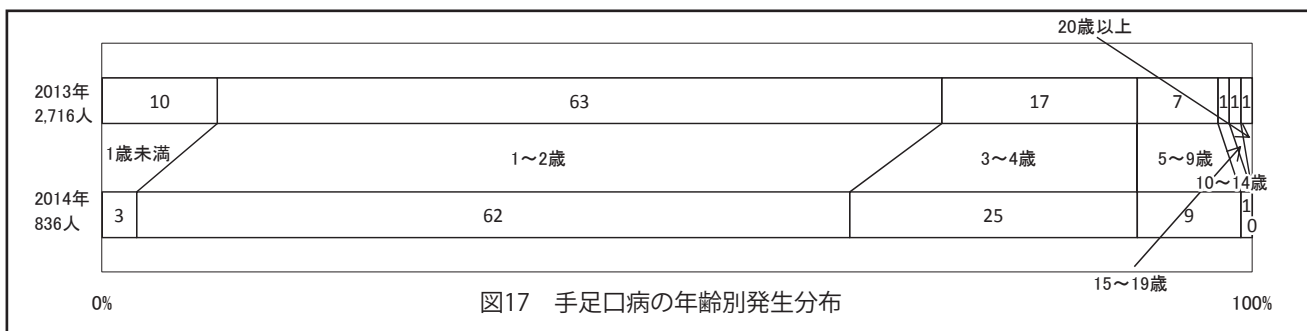
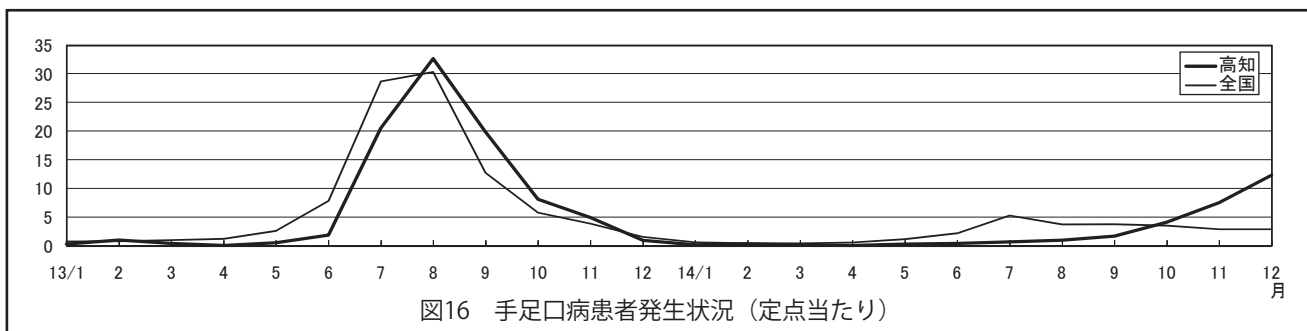
年齢別発生分布は、13年は1～2歳、15～19歳が増加し1歳未満、3～4歳、5～9歳、10～14歳が減少したが、14年は3～4歳、5～9歳が増加

し1歳未満、1～2歳、15～19歳、20歳以上が減少した。0～9歳までの報告数は13年14年とも全体の95%以上を占めている(図17)。

地域別発生分布は、13年は安芸・須崎が増加し、高知市・幡多・中央西・中央東が減少した。14年は高知市・中央東が増加し、幡多・安芸・中央西・須崎が減少した。この2年間では増減が少ない地域とそうでない地域がみられるが、各地域に注目すると1～2年周期で増減を繰り返している(図18)。

表8 手足口病の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	2,716	90.53	96.54
2014	836	27.87	26.62



8 伝染性紅斑

定点当たりの報告数は、00年以降99名（00年）から1,123名（07年）と大きく変動しており、07年は00年以降最大の流行であるが、08年は激減して178名となった。12年は820名と00年以降2番目に多い報告数であるが13年、14年は減少し、14年は42名と00年以降最少の報告数である。13年は全国より少なく、14年は大きく下回った（表9）。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、高知県は07年が突出した高い値で全国を上回った以降11年まで全国を下回っていたが、12年は再び全国を大きく上回った。13年、14年ともに全国を下回った（図19）。

年齢別発生分布は、13年は5～19歳が32%と12年（48%）より減少し、3～4歳（30%）が12年（22%）、1歳未満（10%）が12年（2%）に比

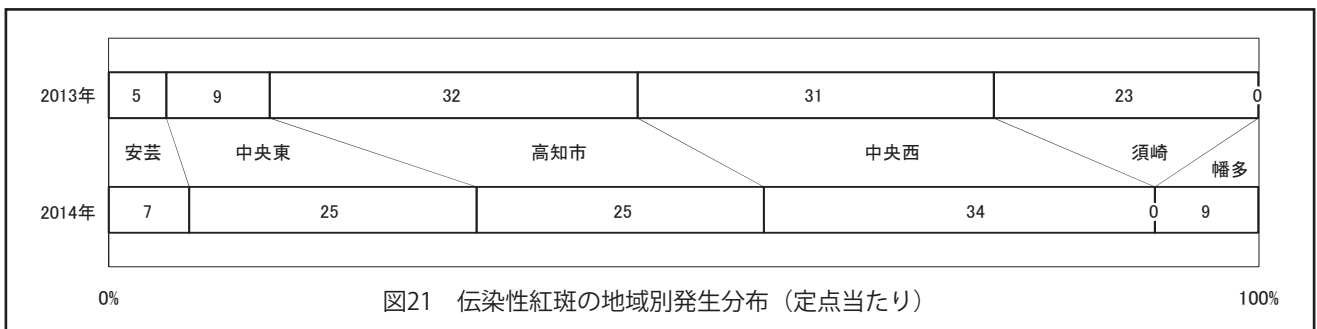
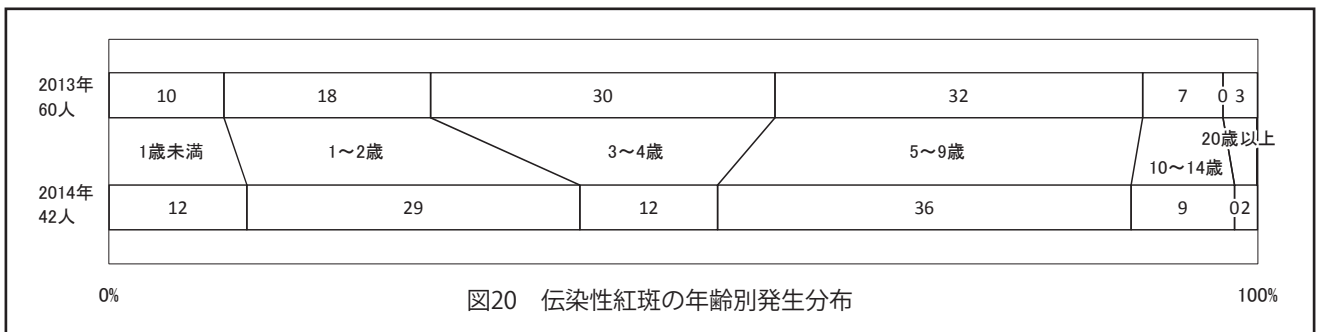
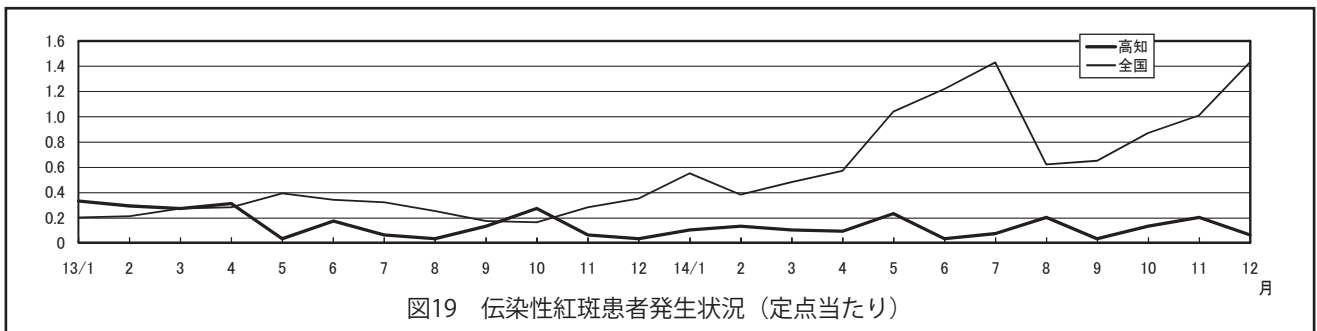
較して増加した。また、14年は1～2歳が29%、5～9歳が36%と増加し、3～4歳が12%に減少した（図20）。

地域別発生分布では、12年は須崎・中央西・安芸が多かったが、13年は高知市・中央西・須崎が多かった。14年は、中央西・中央東・幡多・安芸で増加し、須崎で大きく減少した（図21）。

また、調査開始以来、83年、87年、92年、97年、02年、07年、12年で報告数が多くなっており、5年周期で流行を繰り返している。

表9 伝染性紅斑の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	90	2.0	3.22
2014	42	1.4	10.29



9 突発性発疹

高知県の定点当たりの報告数は、全国よりも少ない状況が持続している(表10)。また、報告数は年々減少傾向にあり、02年に1,000名を割り、その後も減少し13年は600名と調査開始以来最少となった。14年は704名である。この原因は出生数の減少も関与していると推測される。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、一年を通じて変動が少なく全国に類似している(図22)。

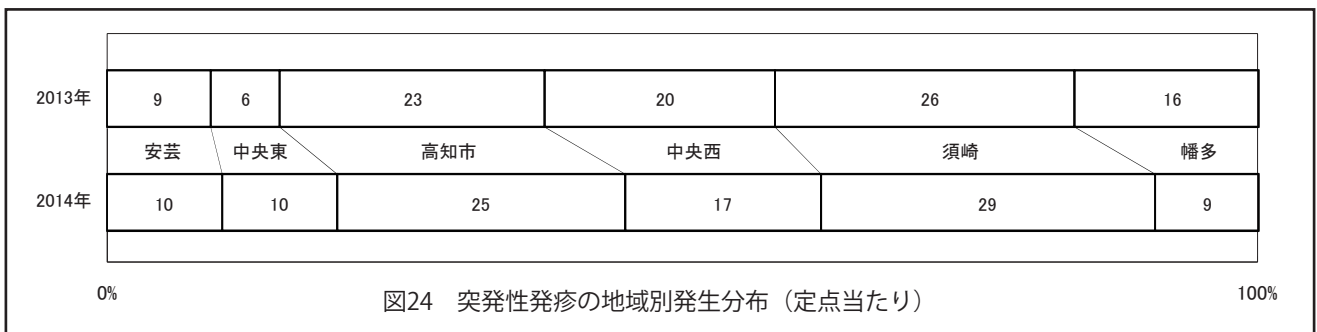
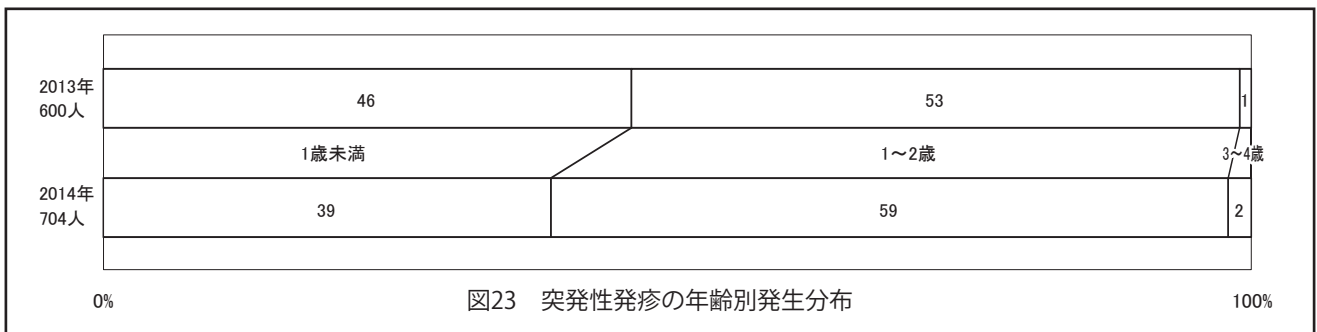
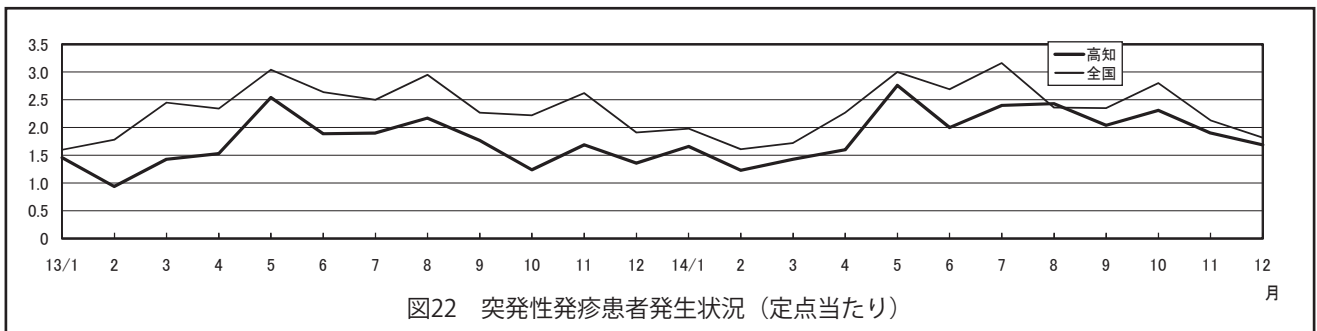
年齢別発生分布では、13年14年とも例年通り2歳以下が98%以上を占めている。1歳未満は10年

まで半数以上を占めていたが、11年以降1～2歳が半数以上を占め13年14年とも同様である(図23)。

地域別発生分布に大きな変動がないことが特徴であるが、須崎・高知市でやや多い(図24)。

表10 突発性発疹の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	600	20.00	28.48
2014	704	23.47	27.98



10 百日咳

高知県の定点当たりの報告数は、13年は全国より3.15倍多く、14年は0.76倍少ない(表11)。92年以降最大の12年311名から13年は50名と大幅に減少し、14年は15名とさらに減少した。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、13年は2月、9月を除き高知県は全国より高い値で維持し、4月にピークがみられるが、全国は低い値でほぼ一定に推移している(図25)。

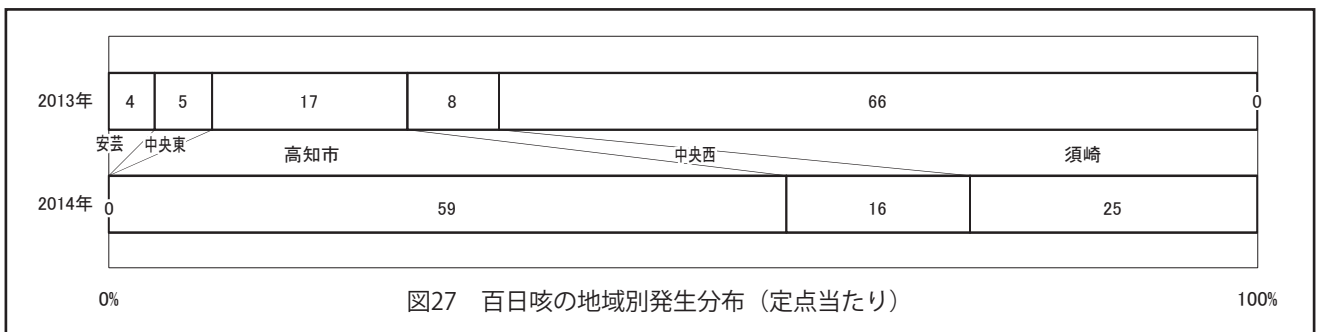
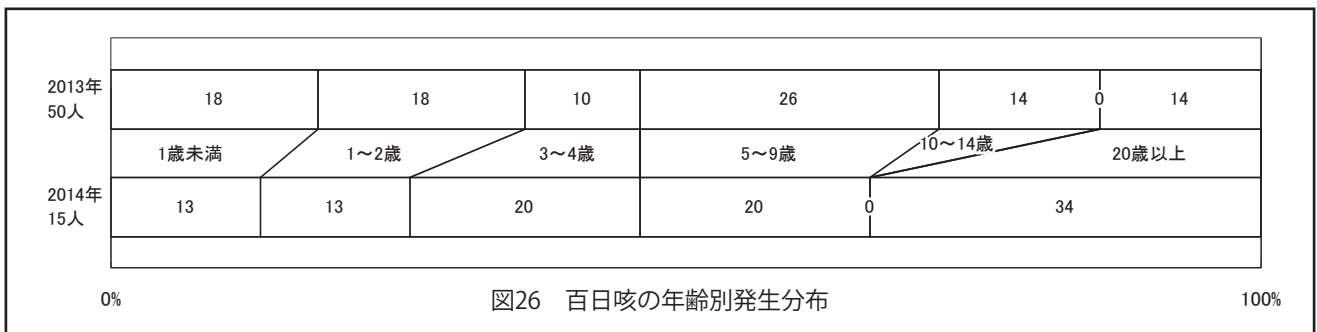
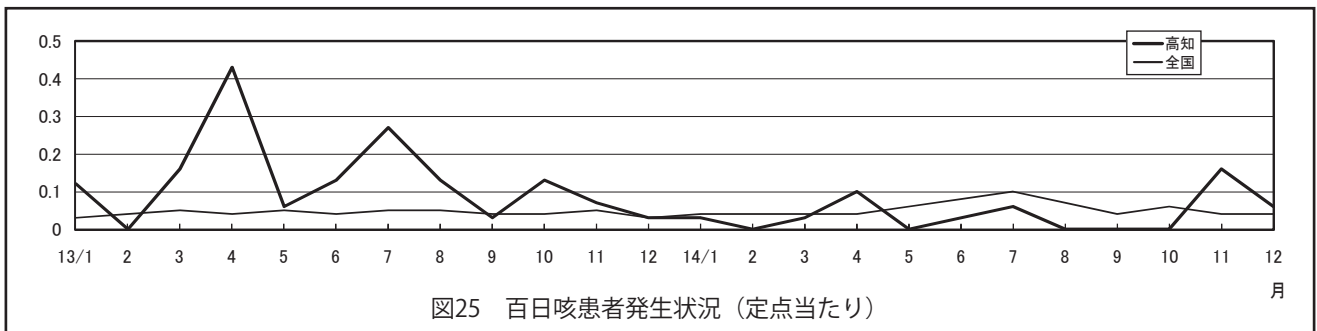
年齢別発生分布は、08年は4歳以下が52%を占めその後も減少し12年は19%であったが、13年14年はともに大幅に増加し46%である。また、07

年以降20歳以上では2年毎に増減を繰り返し12年16%、13年14%、14年34%である(図26)。

地域別発生分布は、年によって流行地域が大きく変化することが特徴である。07年以降は須崎の割合が非常に高かったが、14年は大幅に減少した。14年は高知市が大幅に増加した(図27)。

表11 百日咳の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	50	1.67	0.53
2014	15	0.50	0.66



11 ヘルパンギーナ

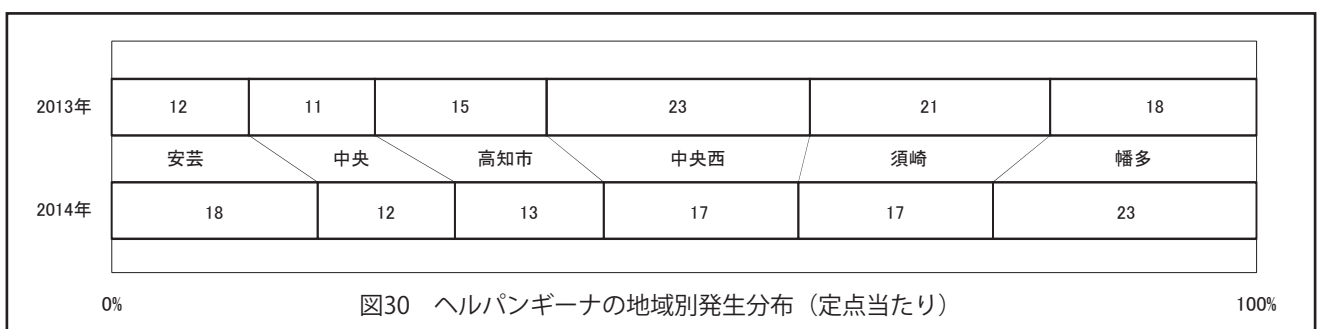
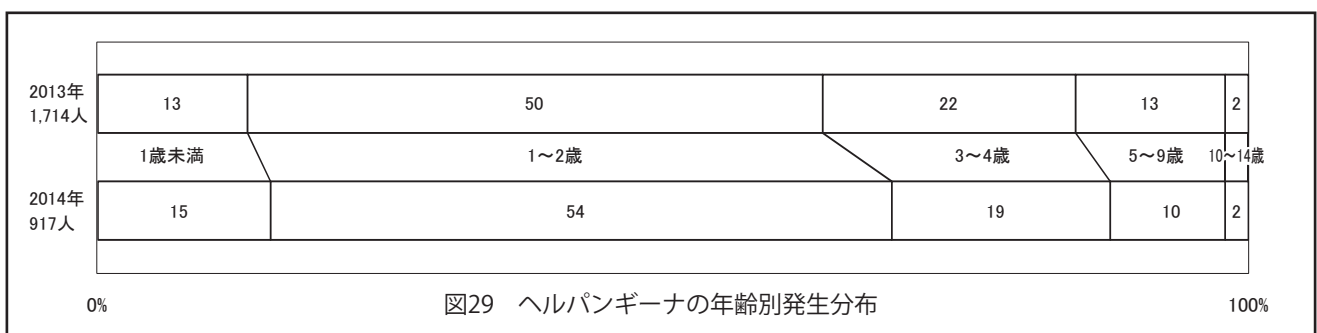
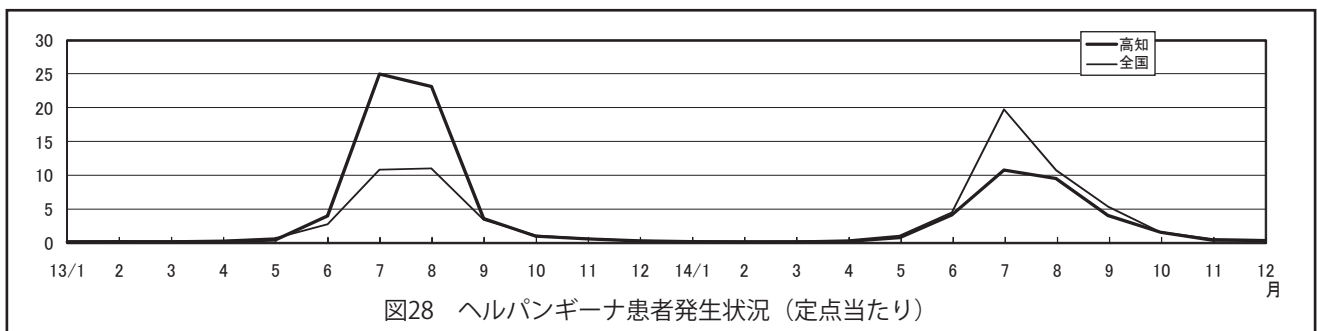
定点当たりの報告数は、13年は急増し89年以降最大の報告数1,714名と全国の1.89倍、14年は0.70倍である（表12）。調査開始以来最少となった09年668名を除き、00年以降800～1,500名で推移している。全国では7月にピークとなるが、高知県では同様に7月が最高値となる年と前後する年があり13年14年はともに7月である（図28）。

年齢別発生分布は、毎年同様の分布を示し、1～2歳が50%以上を占めている（図29）。

地域別発生分布は、13年は中央東・高知市・中央西・安芸で増加し、他の全ての地域で減少した。14年は安芸・幡多・中央東で増加し、他の全ての地域で減少した（図30）。

表12 ヘルパンギーナの年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	1,714	57.13	30.16
2014	917	30.57	43.59



12 流行性耳下腺炎

定点当たりの報告数は、10年は調査開始以来最小の報告数294名であったが、その後増加し13年913名、14年1,618名の報告数である。13年は全国の2.33倍、14年は3.66倍と全国より多い報告数である（表13）。

定点当たりの推移を全国と比較すると、高知県は06年後半から増加傾向がみられ、09年前半まで連続して全国より高い値が持続している。その後は逆転し11年後半までは全国よりかなり低い値を持続しているが、13年後半からは全国を大きく上回っている（図31）。3～5年毎に増減をくり返す疾患であり、14年は報告数が多い周期の年である。

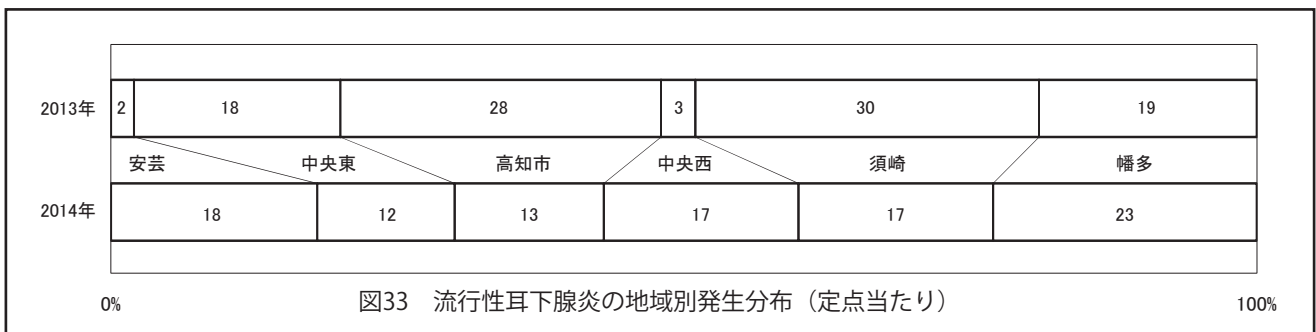
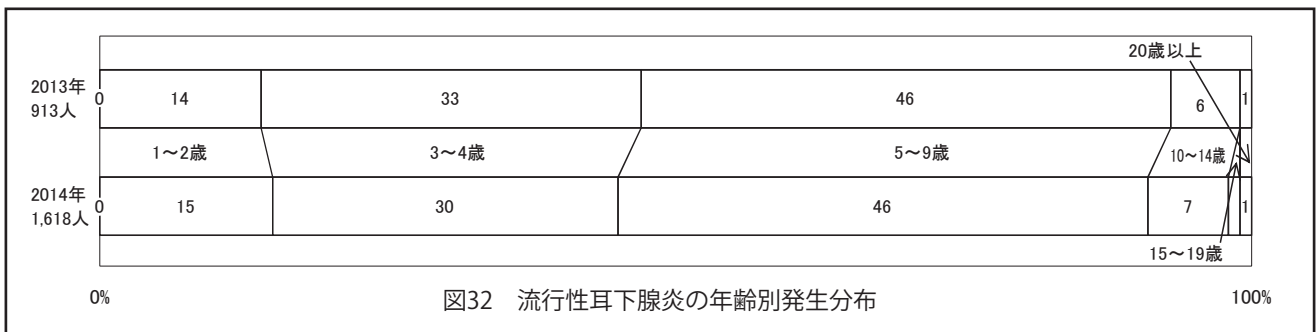
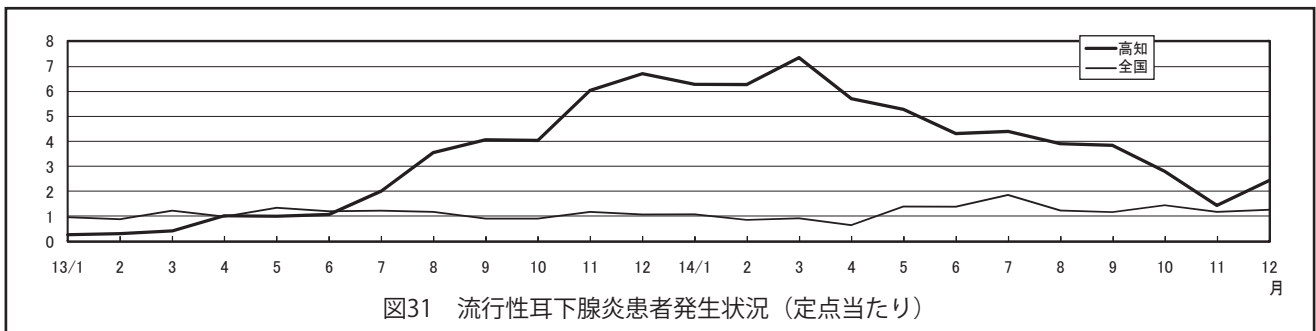
年齢別発生分布はほとんど変動がなく、5～9歳

が46%で最も多く、3～4歳が30～33%程度で続いている（図32）。

地域別発生分布では、年毎に比較的大きな変動がみられ、13年は須崎・高知市で大きく増加し、幡多で大きく減少した。14年は安芸・中央西で大きく増加し、須崎・高知市で大きく減少した（図33）。

表13 流行性耳下腺炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	913	30.43	13.05
2014	1,618	53.93	14.74



13 RSウイルス感染症

04年から調査が行われている疾患で、高知県の報告数は04年229名であったが、その後増加し11年に1,026名となり13年1,233名、14年1,006名と1,000台が続いている。13年は調査開始以来最高の値である。定点当たりの報告数は13年、14年ともに全国を上回った(表14)。

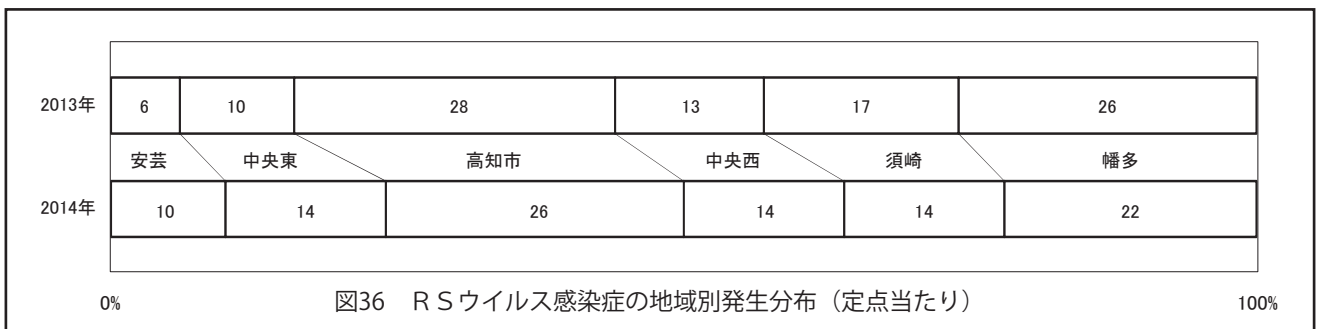
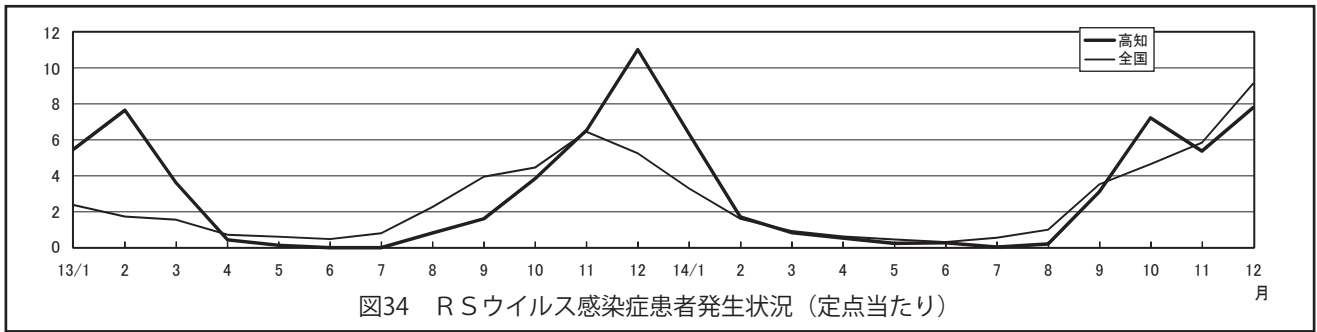
年齢別発生分布は、2歳以下が9割以上を占めている(図35)が、保険制度上の問題で検査されていないのみで、それよりも上の年齢や保護者も罹患している。兄弟から、または保育所で感染し、2歳未満では喘鳴・呼吸困難のためしばしば入院する疾患である。

患である。

地域別発生分布では、13年は幡多・高知市で増加し、須崎・中央東・安芸で減少した。14年は中央東・安芸・中央西で増加し、幡多・須崎・高知市で減少した(図36)。

表14 RSウイルス感染症の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	1,233	41.10	30.75
2014	1,006	33.53	31.9



14 流行性角結膜炎

定点当たりの報告数は、07年08年とも高知県が全国を上回っていたが、09年以降は全国を下回り、13年0.25倍、14年0.32倍である。13年の報告数は調査開始以来最少の23名である（表15）。

年齢別発生分布は、12年に比し13年は1～2歳（9%）、50～59歳（13%）、70歳以上（17%）で増加し、20～29歳（9%）で減少しているが、14年は30～39歳（32%）で増加し、40～49歳（4%）50歳～59歳（4%）で減少し、20歳以上で13年

までは9割程度占めていたが14年は7割程度である（図38）。

地域別では、11年12年ともすべて高知市からの報告である。

表15 流行性角結膜炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2013	23	7.67	30.21
2014	28	9.33	29.61

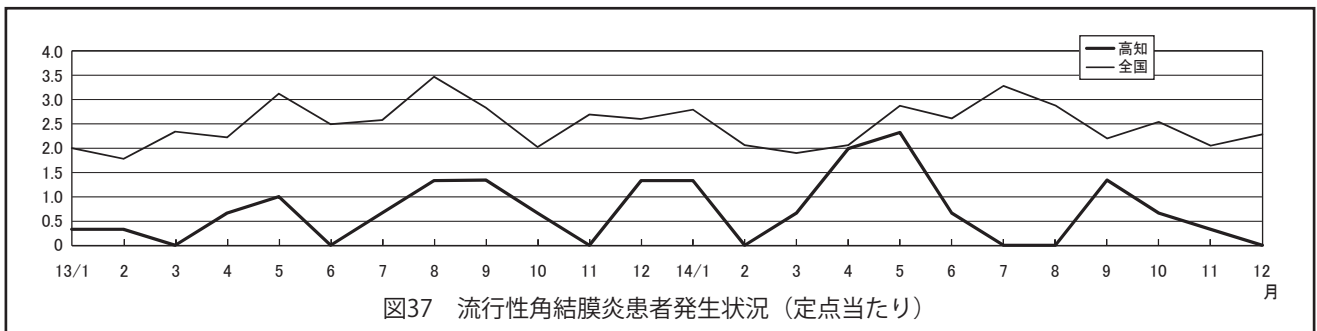


図37 流行性角結膜炎患者発生状況（定点当たり）

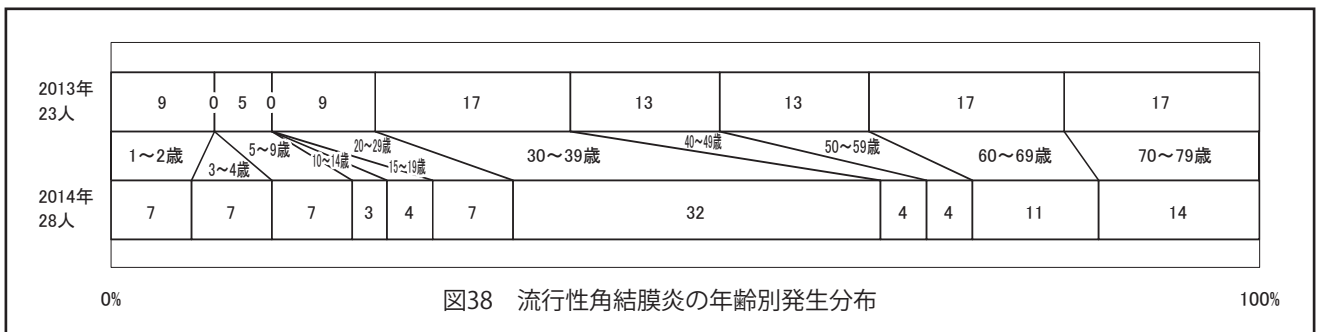


図38 流行性角結膜炎の年齢別発生分布

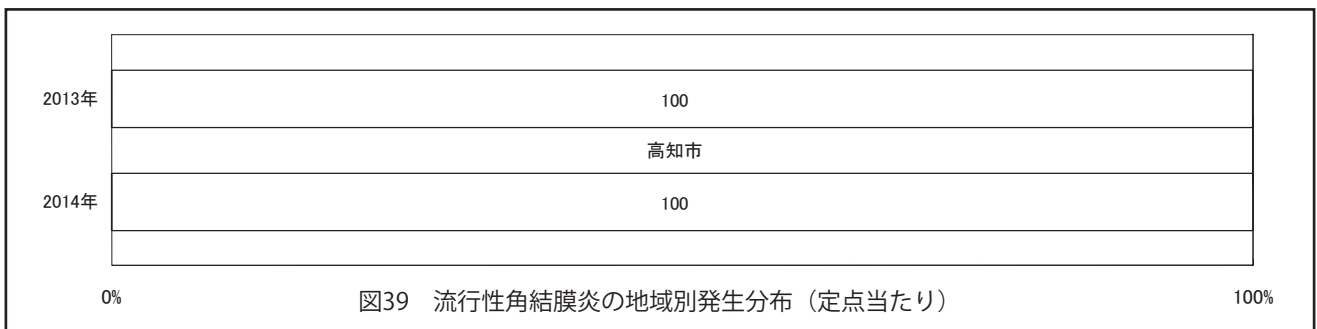
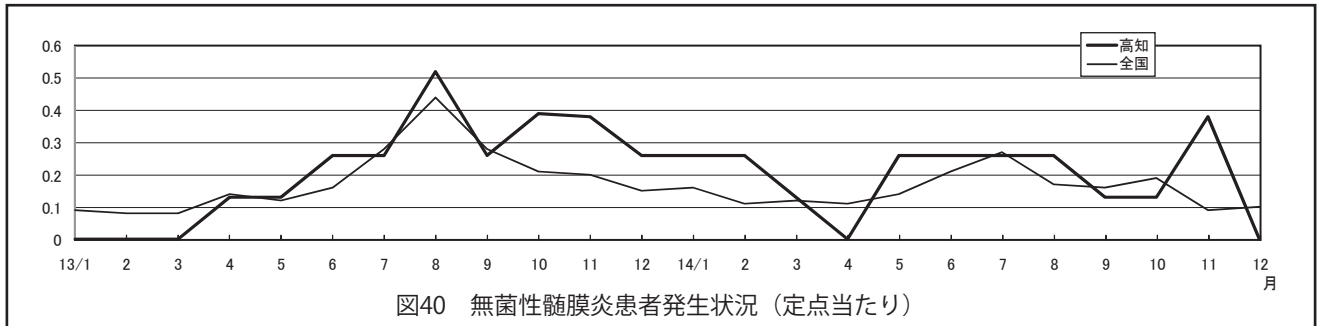


図39 流行性角結膜炎の地域別発生分布（定点当たり）

15 無菌性髄膜炎

定点当たりの報告数は、04年から08年まで全国よりも少ない報告数で推移していたが、09年以降で全国を上回っている。報告数は13年20名、14年18名である（図40）。



16 マイコプラズマ肺炎

定点当たりの報告数は、05年以降全国よりも少ない報告数で推移しているが、13年、14年は全国よりも多い報告数に変化している。13年は233名、14年は229名の報告数であった。（図41）。

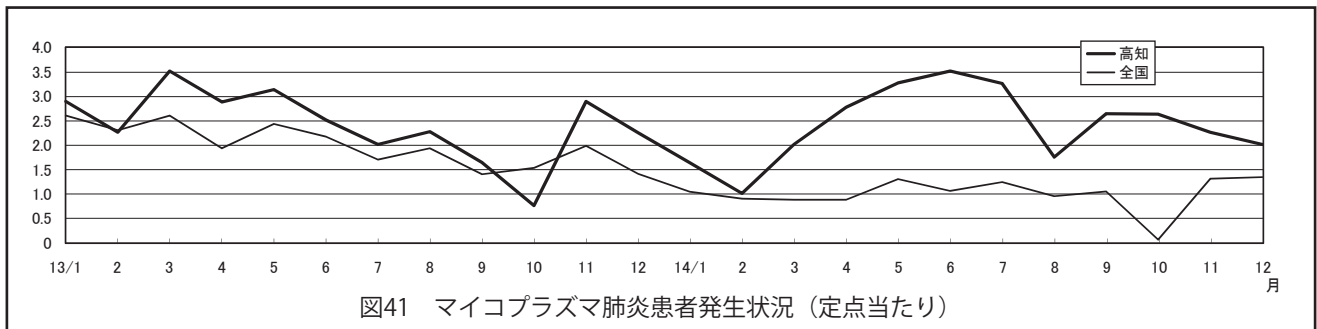


表 16 施設におけるインフルエンザ様疾患年別、週別発生状況

年	12月				1月				2月				3月				4月	計	型
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週			
1981～1982			18				42	1,406	2,181	3,457	2,063	1,072	427	49			10,715	B A香港	
1982～1983							428	768	1,935	1,731	944	1,200	140	72			7,218	A香港	
1983～1984						396	9,264	10,463	784		35						20,942	Aソ連	
1984～1985								628	1,376	3,015	1,663	4,057	2,822	1,051	59		14,671	B	
1985～1986	61	850	943	2,868	77		9	86	184								5,078	A香港	
1986～1987						70	755	702	626	42		110					2,305	Aソ連	
1987～1988								12			8	1,476	412	908	1,206		74	4,096	B A香港
1988～1989		35	338			27	624	1,009	312	117	21	66					2,549	Aソ連	
1989～1990		20	51			554	7,405	8,177	3,980	497	300	1,219	510	265	289	22	23,289	B A香港	
1990～1991								58	12	44	55		30	43			242	B A香港	
1991～1992							290	1,278	2,470	2,174	2,518	882	71	22			9,705	Aソ連 A香港	
1992～1993						91	1,265	4,792	2,142	859	768	881	1,380	234			12,412	B A香港	
1993～1994												22	20				42	A香港	
1994～1995						569	8,977	6,622	697	129	71	85	11	19			17,180	B A香港	
1995～1996								106	25		65	71	24			18	309	Aソ連 A香港	
1996～1997						17	3,875	1,052	264	296	885	831	177	49	49		51	7,546	B A香港
1997～1998						5		41	359	1,269	2,030	1,528	491	160				5,883	A香港
1998～1999	18						720	1,677	666	153	125	84	131	12		18	18	3,622	B A香港
1999～2000							378	1,955	2,184	666	348	336	126	40				6,033	Aソ連 A香港
2000～2001							74	20	354	661	918	1,250	671	417	193	13		4,571	B Aソ連 A香港
2001～2002			49				42	214	324	446	134	512	208	21	5			1,955	B Aソ連 A香港
2002～2003			38				481	2,251	1,047	929	146	386	420	98	120	91		6,007	B A香港
2003～2004							115	272	195	174	58	123	46	14				997	B A香港
2004～2005							36	0	8	247	389	202	357	156	78			1,473	B A香港
2005～2006							72	39	307	334	1,356	1,684	866	1,282	256	38		6,234	B Aソ連 A香港
2006～2007													17	98	24	31	51	221	B Aソ連 A香港
2007～2008							107	188	316	187	129	205	157	32		67		1,388	B Aソ連
2008～2009							47	443	909	355	97	40	290	85	59	23		2,348	B Aソ連 A香港

年	8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月	計	型
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週			
2009～2010	4	32	112	167	213	63	56	203	214	645	1,852	1,826	2,589	2,265	3,072	1,277	880	846	307	3	14	94	122	100	133	17,089	Apdm09 Aソ連

年	12月				1月				2月				3月				4月	計	型								
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週											
2010～2011							50	250	193	77	72	77	54												773	B Apdm09 A香港	
2011～2012					14	1,141	1,184	574	227	56	113	40	36	32												3,417	B A香港
2012～2013	9		50	20		77	133	537	345	133	143	134	96	99	73									35	1,884	A香港 B	
2013～2014	16	51				10	149	101	33	64	84	96	69	98	72										67	910	A香港 Apdm09 B

表 17 医療機関におけるインフルエンザ様疾患年別、週別発生状況

年	12月				1月				2月				3月				4月	計	型	検体採取月日
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週				
1981～1982	22	16	26	36	42	20	53	193	659	1,108	1,606	946	873	409	169	58	6,236	B A香港		
1982～1983	6	4	7	4	5	32	58	318	871	960	888	750	402	210	48	11	4,574	A香港		
1983～1984	10	6	10	5	24	311	1,864	2,196	801	316	106	41	6	44	10	1	5,751	Aソ連		
1984～1985	5	2	2	1	1	7	4	33	256	802	1,461	1,789	1,836	1,034	424	214	7,871	B	60.1.29	
1985～1986	194	780	1,654	1,748	609	319	184	105	72	60	12	14	2	2		5	5,760	A香港	60.12.4	
1986～1987	3	1	17	3	56	199	601	1,054	809	519	292	233	130	74	41	25	4,057	Aソ連	62.1.5	
1987～1988			10	4	5	13	25	57	98	82	121	148	375	793	1,518	1,327	4,576	B A香港	B型 63.1.22 A香港 63.3.3	
1988～1989	1	26	214	576	512	592	644	683	648	435	245	137	55	28	31	71	4,898	Aソ連	元.12.5	
1989～1990		2	2	10	46	464	2,419	3,544	2,806	1,636	984	931	791	552	414	157	14,758	B A香港	A香港元.12.20 B型 2.1.24	
1990～1991	16	27	23	19	17	13	23	22	60	72	59	87	99	189	253	285	1,264	B A香港	A香港 3.2.27 B型 3.4.5	
1991～1992			1	4	5	12	38	240	1,135	1,854	1,718	1,313	938	529	200	65	8,052	Aソ連 A香港	Aソ連 4.1.23 A香港 4.1.23	
1992～1993	2	3	32	55	62	394	1,598	2,741	2,238	1,572	1,537	1,377	1,334	1,154	693	337	15,129	B A香港	B型 4.12.24 A香港 5.1.7	
1993～1994		3			3		4	45	80	66	52	56	49	54	14	12	438	A香港	6.2.1	
1994～1995			3	6	89	1,014	3,413	3,320	1,425	541	271	265	283	450	398	332	11,810	B A香港	A香港 7.1.10 B型 7.1.19	
1995～1996	7	31	53	57	95	130	278	523	706	854	607	614	563	365	210	85	5,208	Aソ連 A香港	A香港 7.12.22 Aソ連 7.12.28	
1996～1997	3	10	23	244	536	1,308	1,824	1,641	1,056	616	502	554	723	639	588	370	10,637	B A香港	A香港 8.12.12 B型 9.1.31	
1997～1998	21	18	17	4	17	22	45	184	740	2,023	2,094	1,733	22	568	257	156	41	7,962	A香港	10.1.19
1998～1999	8	2	20	39	136	777	1,856	2,075	1,233	556	433	532	212	220	169	163	115	8,546	B A香港	B型 10.12.21 A香港 11.1.4
1999～2000	8	9	9	28	108	268	1,011	1,852	2,069	1,388	891	686	468	258	122	49	21	9,245	Aソ連 A香港	A香港 11.12.30 Aソ連 12.1.5
2000～2001	4	3	8	7	5	7	26	36	207	527	811	1,518	1,183	1,001	980	553	245	7,121	B Aソ連 A香港	B型 13.1.16 A香港 13.3.12 Aソ連 13.4.9
2001～2002	1	7	14	35	45	173	282	505	827	949	711	780	693	451	357	226	86	6,142	B Aソ連 A香港	A香港 13.12.14 Aソ連 13.12.18 B型 14.1.26
2002～2003	1	9	66	131	402	887	1,738	2,325	1,908	1,542	1,083	777	855	700	614	458	305	13,801	B A香港	A香港 14.12.6 B型 14.12.20
2003～2004		3	3	4	13	56	145	344	679	962	890	1,030	719	439	269	116	24	5,696	B A香港	A香港 16.1.5 B型 16.3.18
2004～2005	2	4	12	17	15	13	44	166	387	1,003	2,040	2,780	3,083	2,695	1,857	1,031	1,391	16,540	B A香港	A香港 16.12.17 B型 17.1.19
2005～2006	1	4	22	69	119	355	506	640	784	1,022	1,548	1,915	2,170	2,046	1,289	849	524	13,863	B Aソ連 A香港	Aソ連 17.12.16 A香港 17.12.9 B型 18.1.16
2006～2007		2		1	3	5	4	5	25	108	158	213	329	382	584	836	1,983	4,638	B Aソ連 A香港	A香港 19.1.23 Aソ連 19.2.14 B型 19.3.9
2007～2008	30	57	197	289	215	351	836	1,507	1,680	1,278	704	659	449	353	268	167	284	9,324	B Aソ連	Aソ連 19.11.27 B型 20.1.25
2008～2009	10	12	38	29	148	346	935	1,921	2,028	1,490	1,025	689	870	750	842	825	1,042	13,000	B Aソ連 A香港	Aソ連 20.12.1 A香港 21.1.9 B型 21.1.26

年	8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月	計	型	検体採取月日
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週				
2009～2010	107	116	144	135	180	204	152	117	228	351	798	1,293	1,538	1,863	1,910	2,204	1,551	1,347	1,216	1,067	777	610	558	297	278	19,042	Apdm09 Aソ連	Apdm21.8.6 Aソ連 21.8.16

年	12月				1月				2月				3月				4月	計	型	検体採取月日
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週				
2010～2011	3	1	12	25	77	226	678	1,118	1,291	937	703	640	404	545	838	738	3,463	11,699	B Apdm09 A香港	A香港 22.10.4 Apdm09 22.10.28 B型 23.2.5
2011～2012	6		19	53	119	937	2,847	3,201	2,602	1,749	1,056	706	406	311	291	402	1,545	16,250	B A香港	A香港 23.12.10 B型 24.1.21
2012～2013	17	61	134	156	157	350	608	986	1,533	1,413	1,216	1,090	1,210	949	621	468	425	11,394	A香港 B	A香港 24.10.29 B型 24.11.5
2013～2014	96	117	188	238	312	418	645	1,003	952	631	645	859	1,034	860	913	822	1,429	11,162	A香港 Apdm09 B	A香港 25.11.16 Apdm09 26.1.8 B型 26.1.5

表 18 インフルエンザの年別月別患者数（定点医療機関）

年 月	1980年 昭和55年	1981年 昭和56年	1982年 昭和57年	1983年 昭和58年	1984年 昭和59年	1985年 昭和60年	1986年 昭和61年	1987年 昭和62年	1988年 昭和63年	1989年 平成元年	1990年 平成2年	1991年 平成3年	1992年 平成4年	1993年 平成5年
1	291	201	344	413	4,397	301	1,291	1,910	100	2,431	9,279	135	1,430	4,795
2	3,193	692	4,444	3,687	1,275	5,888	88	1,853	449	1,465	4,342	317	5,823	6,724
3	1,242	769	1,537	721	79	1,722	10	270	4,820	122	1,181	861	804	3,620
4	49	35	50	2	3	31	6	37	1,199	0	55	92	12	20
5	58	0	9	0	0	3	6	14	146	0	6	12	8	0
5	4	0	1	0	1	0	0	5	0	1	1	0	0	20
7	0	2	0	0	0	0	30	0	0	4	0	0	0	0
8	0	0	0	0	1	0	14	0	3	0	1	0	0	0
9	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0
10	0	9	2	2	2	0	1	0	7	0	0	0	0	0
11	0	25	6	13	10	24	8	0	0	0	58	0	0	0
12	17	126	24	33	10	4,376	51	14	817	14	85	5	98	8
計	4,854	1,859	6,417	4,872	5,778	12,345	1,508	4,105	7,541	4,037	15,008	1,422	8,175	15,187

年 月	1994年 平成6年	1995年 平成7年	1996年 平成8年	1997年 平成9年	1998年 平成10年	1999年 平成11年	2000年 平成12年	2001年 平成13年	2002年 平成14年	2003年 平成15年	2004年 平成16年	2005年 平成17年	2006年 平成18年	2007年 平成19年
1	52	7,836	1,732	6,365	268	4,844	3,239	74	1,832	7,260	1,237	238	1,620	17
2	254	2,502	2,638	2,395	6,590	2,526	5,034	3,063	3,133	4,257	3,601	6,210	5,269	504
3	160	1,586	690	1,802	1,865	914	918	3,962	1,120	2,077	875	9,287	6,674	3,003
4	65	154	97	205	64	476	12	187	71	137	22	546	256	1,250
5	14	18	22	5	1	92	1	21	0	7	2		12	295
5	0	22	0	0	7	19	0	0	0	1	0		2	22
7	0	28	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	
8	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
9	0	23	0	0	5	0	0	0	0	0	0			
10	2	13	0	0	8	1	0	0	1	0	0			
11	0	3	9	9	7	14	1	2	0	0	3		3	20
12	9	148	280	80	76	63	22	57	207	10	40		3	573
計	556	12,358	5,468	10,861	8,891	8,950	9,227	7,366	6,364	13,749	5,780	16,281	13,840	5,684

年 月	2008年 平成20年	2009年 平成21年	2010年 平成22年	2011年 平成23年	2012年 平成24年	2013年 平成25年	2014年 平成26年
1	4,589	5,378	2,241	2,099	7,104	2,101	3,330
2	3,090	4,074	278	3,571	6,113	5,255	3,169
3	908	2,852	18	3,406	1,761	3,451	3,243
4	191	765	6	2,582	1,194	278	781
5	39	102	1	630	175	113	211
6		32	2	45	5	0	7
7		32		3	0	0	0
8		384	2		2	0	3
9		671	4	1	0	1	56
10	2	2,787	6	4	5	0	8
11	5	7,515	34	4	15	50	10
12	89	6,103	42	81	353	639	659
計	8,913	30,695	2,634	12,426	16,727	11,888	11,477

表 19 月別発生状況 (2013 年)

単位：人

分類	疾病名	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2類	結核		11	13	10	13	17	9	15	2	10	14	8	6	128
3類	腸管出血性大腸菌感染症		1						1		1				3
4類	レジオネラ症				1			1							2
	デング熱				1		2								3
	つつが虫病												2	1	3
	レプトスピラ症													1	1
	日本紅斑熱											1			1
	重症熱性血小板減少症候群					1	1	1							3
5類	梅毒					1	2				1	2	1	1	8
	後天性免疫不全症候群									2					2
	侵襲製肺炎球菌感染症					1									1
	風しん						4			3		1		1	9
総計			12	13	12	16	26	11	16	7	12	18	11	10	164

(保健所受理日の月数で計算)

表 20 保健所別報告数 (2013 年)

単位：人

分類	病名	HC	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
2類	結核		20	12	55	22	9	10	128
3類	腸管出血性大腸菌感染症			2	1				3
4類	レジオネラ症				2				2
	デング熱				3				3
	つつが虫病			2	1				3
	レプトスピラ症							1	1
	日本紅斑熱		1						1
	重症熱性血小板減少症候群				1	1		1	3
5類	梅毒			1	5	1	1		8
	後天性免疫不全症候群			2					2
	侵襲製肺炎球菌感染症			1					1
	風しん			3	5		1		9
総計			21	23	73	24	11	12	164

(保健所受理日の月数で集計)

表 21 月別発生状況（2014年）

単位：人

分類	疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2類	結核	11	8	11	11	14	16	9	14	13	13	5	9	134
3類	腸管出血性大腸菌感染症								3		1	1		5
4類	つつが虫病											2	1	3
	日本紅斑熱					1	2	2		2				7
	デング熱					1				1				2
	レジオネラ症						1			1	1	1		4
	重症熱性血小板減少症候群					1	3	3	1	1	1		1	11
5類	アメーバ赤痢			1			2	1	2			1		7
	ウイルス性肝炎		1											1
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症									2	1	1	3	7
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1			1									2
	急性脳炎			1										1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症											1		1
	後天性免疫不全症候群									2	2	3		7
	侵襲性インフルエンザ菌感染症												1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症			1		1							2	4
	破傷風			1		2							1	4
	梅毒	1			1					1			1	4
風しん										1			1	
総計		13	9	15	13	20	24	15	20	23	20	15	19	206

(保健所受理日の月数で集計)

表 22 保健所別報告数（2014年）

単位：人

分類	病名	HC	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
2類	結核		15	25	52	11	13	18	134
3類	腸管出血性大腸菌感染症			1	4				5
4類	つつが虫病			3					3
	日本紅斑熱		5		1			1	7
	デング熱				2				2
	レジオネラ症		1		3				4
	重症熱性血小板減少症候群		1			1		9	11
5類	アメーバ赤痢			3	3			1	7
	ウイルス性肝炎			1					1
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症			1	6				7
	クロイツフェルト・ヤコブ病				2				2
	急性脳炎			1					1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1				1
	後天性免疫不全症候群			3	4				7
	侵襲性インフルエンザ菌感染症				1				1
	侵襲性肺炎球菌感染症				4				4
	破傷風				4				4
	梅毒				4				4
風しん				1				1	
総計			22	38	92	12	13	29	206

(保健所受理日の月数で集計)

Ⅱ 檢 査 情 報

感染症発生動向調査における病原微生物分離

吉川清志

1 月別疾患別検査数および検出件数

1) ウイルス

表1, 表2の上段の小計のとおりで, 検査件数は2013年988件, 2014年は965件である. 新型インフルエンザが流行した09年1,105件を除けば, 増減はあるものの700件程度で推移していた検査件数が2年連続で900件を超えた.

疾患別検査件数では, 例年通りインフルエンザと感染性胃腸炎が多い. インフルエンザは13年162件, 14年123件で, 03年以降では09年841件を除けば, 69~248件で推移している. 感染性胃腸炎は13年141件, 14年185件で, 03年以降では94~241件で推移している. 咽頭

結膜熱は11~13年は10件前後であったが14年は41件に急増した(03年以降では9~72件). ヘルパンギーナは13年61件, 14年35件(03年以降では18~65件), 手足口病は13年92件, 14年49件(03年以降では16~105件)であり, それぞれ流行の大小等により変動がある. 無菌性髄膜炎は13年28件, 14年49件で, 通常20~30件であるが時に検査件数が増加する. その他(調査研究に係わる検体)の件数は13年496件, 14年480件と増加している.

2) 細菌

表1, 表2の下段の小計のとおりで, 検査件数は13年377件, 14年106件であり, 後述する

表1 月別疾患別検査件数 (2013年)

定点区分	疾患名	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ウイルス	咽頭結膜熱	8	1			2				2	3				
	感染性胃腸炎	141	11	9	15	15	25	12	21	6	7	7	3	10	
	ヘルパンギーナ	61	1				3	3	37	11	4	1	1		
	手足口病	92					2	6	24	15	21	8	13	3	
	流行性耳下腺炎	0													
	インフルエンザ(小児科)	145	30	60	22	2	4						4	23	
	インフルエンザ(内科)	17												5	12
	無菌性髄膜炎	28			1	1	3		8	4	4	3	3	1	
	その他	496	30	43	36	51	69	42	41	52	26	45	36	25	
	小計	988	73	112	74	71	106	63	133	91	62	64	65	74	
細菌	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10		1	3	2	1			1	1		1		
	感染性胃腸炎	7		1		2			1	2			1		
	百日咳	190	12	14	4	21	23	20	18	15	11	30	15	7	
	細菌性髄膜炎	2									2				
	マイコプラズマ肺炎	153	22	18	15	11	24	14	18	4	2	12	12	1	
	その他	15		1	2	4	5	1			1	1			
	小計	377	34	35	24	40	53	35	37	22	17	43	29	8	
合計	1,365	107	147	98	111	159	98	170	113	79	107	94	82		

表2 月別疾患別検査件数 (2014年)

定点区分	疾患名	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ウイルス	咽頭結膜熱	41	5	5	3	5	3	2	3	4	5	2	3	1
	感染性胃腸炎	185	36	17	10	15	20	21	24	9	9	4	8	12
	ヘルパンギーナ	35		1			1	7	10	12	2	1	1	
	手足口病	49			1			2	10	6	8	3	11	8
	流行性耳下腺炎	3				1		1	1					
	インフルエンザ(小児科)	110	32	34	27	6	3	1	5		1			1
	インフルエンザ(内科)	13	2	4	4	1	1							1
	無菌性髄膜炎	49	4	3	5	4	2	2	9	6	7	4	1	2
	その他	480	39	31	40	40	41	37	64	36	64	42	24	22
	小計	965	118	95	90	72	71	73	126	73	96	56	48	47
細菌	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10				2			1		2		3	2
	感染性胃腸炎	0												
	百日咳	69	6	14	9	7	5	5	6	1	3	1	6	6
	細菌性髄膜炎	0												
	マイコプラズマ肺炎	25	7	4	9	2	3							
	その他	2				1				1				
	小計	106	13	18	18	12	8	5	7	2	5	1	9	8
合計	1,071	131	113	108	84	79	78	133	75	101	57	57	55	

百日咳の共同研究以前の04～11年の検査件数は102～243件、共同研究の12年は1,057件と多い。百日咳は高知県衛生研究所でPCR検査が可能になった09年から11年は100件前後で推移し、12年は国立感染症研究所との共同研究と県内での流行により568件に増加したが、その後13年190件、14年69件と減少している。マイコプラズマ肺炎の13年153件から14年25件の減少は、流行の終息に加えて保険診療可能となり抗原診断を中止したためである。感染性胃腸炎は、かつては100件以上の検査が行われていたが、徐々に減少し13年7件、14年0件であった。自施設での細菌培養検査実施が原因と考えられる。A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は13年、14年共に10件で03～06年は42～95件、07～12年は7～33件と徐々に減少している。原因は迅速診断キットによると考えられるが、血清型の判別のためには衛生研究所での一定数の検体検査が必要である。

ウイルスと細菌の合計検査件数は、03年以降では12年1769件が最高で08年597件が最低である。03～07年は839～1,182件であったが、09年以降は百日咳共同研究などで変動がみられた12年を除くと989～1,369件でやや増加傾向にある。今後もウイルス検査が主体となると推測される。

なお、月別ウイルス検査材料は表3、表4のとおりで、咽頭ぬぐい液が最も多く便が続ぎ、次が鼻腔ぬぐい液または髄液の順である。12年から鼻腔ぬぐい液の検体が増加している。冬季と夏季の検体数が多い理由はそれぞれの時期に流行するウイルス感染症のためである。夏季の便検体が比較的多い理由は、冬季はノロまたはロタウイルスの流行が中心であり迅速検査による診断が可能であるが、夏季の多種類の胃腸炎原因ウイルスを診断する方法が他に無いことが一因と推測される。

表3 ウイルス検査材料件数(2013年)

検査材料	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
咽頭ぬぐい液	51	87	48	33	58	39	94	53	39	28	39	58	627
咽頭うがい液				1				1					2
鼻腔ぬぐい液	4	8	5	4	10	6	6	7	4	9	8		71
便	11	9	16	20	26	14	26	16	9	18	8	11	184
髄液	2	2	2	2	3	2	5	10	5	6	2	2	43
穿刺液	1		1										2
鼻汁	1		1	8	4	2					1		17
喀痰等		1			3			1			1	1	7
尿	1			1				3	4		2	1	12
胸水					2					1			3
水痘内容物			1								1		2
羊水												1	1
その他	2	4	1	2			2	1	1		3	1	17
計	73	112	74	71	106	63	133	92	62	63	65	74	988

検査件数は受付日に基づいて集計しています

表4 ウイルス検査材料件数(2014年)

検査材料	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
咽頭ぬぐい液	61	66	53	40	33	44	75	51	54	30	31	23	561
咽頭うがい液						1		1		1	1	1	5
鼻腔ぬぐい液	3	7	9	4	6	2	7	2	8	8	7	5	68
便	41	20	17	18	21	22	30	9	16	8	8	12	222
髄液	8	2	8	8	6	3	9	8	9	4	1	5	71
鼻汁	1		1	2	1					1		1	7
喀痰等				1				2	1				4
尿	2		1				3	1	5	4			16
水痘内容物										1			1
その他	2					3	2	1		1		1	10
計	118	95	90	72	38	29	51	22	42	26	17	47	965

検査件数は受付日に基づいて集計しています

2 疾患別、月別分離検出状況

1) ウイルス

疾患別、月別分離検出状況は表5、表6のとおりで、13年656件、14年617件であり、11年433件、12年443件に比し増加した。分離検出率は、13年656/988 = 66.4%、14年617/965 = 63.9%で、11年66.5%、12年62.2%と同程度である。

13年の疾患別分離検出件数(表5)は、第1位インフルエンザ151件、第2位感染性胃腸炎と手足口病94件で同数、第4位ヘルパンギーナ57件、第5位無菌性髄膜炎14件、第6位咽頭結膜熱2件、その他244件である。

14年の疾患別分離検出件数(表6)は、第1位感染性胃腸炎137件、第2位インフルエンザ115件、第3位手足口病46件、第4位ヘルパンギーナ30件、第5位咽頭結膜熱26件、第6位無菌性髄膜炎17件、第7位流行性耳下腺炎1件、その他245件である。

これらをさらに深く検討する。

インフルエンザ：12～13年の流行株はAH3NTであり102件、他にAH1pdm09 4件に加えてB型はVictoria 19件、NT 15件、Yamagata 3件検出された。時期的には、AH3が13年1月から3月まで、B型は12年11月から5月まで検出され、1～3月にはA・B型が同時に検出された。

13～14年の流行株はAH3に引き続きAH1pdm09が検出され、2種類のA型が同一シーズンに流行する特異なパターンであった。AH3は12年11月9件、12月35件、1月12件、2月10件、3月2件(合計68件)検出され、AH1pdm09は1月9件、2月24件、3月17件(合計50件)検出されている。B型はYamagata, NT, Victoriaがすべて1月から検出され、それぞれ合計15件、10件、4件検出され、5月の検出が最終であった。

咽頭結膜熱：13年は咽頭結膜熱検体からの

Adenovirus 検出はなく、その他の疾患から 1 型 7 件、2 型 5 件、2/6 型 9 件、3 型 3 件、5 型 5 件、6 型 4 件、41 型 3 件、11/35 型 2 件、C 型 4 件、NT3 件の合計 45 件検出された。

14 年は咽頭結膜熱検体から Adenovirus3 型が 7 件、1 型が 2 件、2/6 型、5 型、NT が各 1 件、合計 15 件検出され、その他の疾患から 1 型 4 件、2 型 3 件、3 型 4 件、5 型 1 件、6 型 9 件、41 型 6 件、NT2 件、合計 29 件検出された。

感染性胃腸炎：12～13 年の Norovirus は GII NT が流行株で、12 年 10 月に 1 件検出された後、11 月 12 件、12 月 16 件、13 年 1 月 6 件と続き、7 月までに合計 64 件検出された。その他の Norovirus は GI NT が 2 件、GII/4 が各 1 件検出された。Rotavirus は AG1 が流行株で、2 月から 6 月までに 9 件検出された。その他の Rotavirus は ANT と AG9 が各 1 件検出された。例年通り Noro. の流行が 11 月から始まり、2 月から Rota. の流行が加わった。その他では、Sapovirus 19 件、Coxsackievirus 14 件、Adenovirus 11 件などが検出された。

13～14 年の Norovirus は GI INT が流行株で、13 年 12 月 1 件、14 年は 1 月 26 件が最も多く、7 月までに 59 件検出され他の型は検出されなかった。Rotavirus は AG3 が流行株で 1 月 2 件以降 6 月までに 9 件検出された。その他の Rotavirus は ANT が 1 件検出された。Sapovirus が 12 年 11 月 1 件、12 月 2 件から始まり、1 月 12 件以降合計 22 件検出され、Norovirus と同様の時期に検出されていることが特徴である。その他では、Adenovirus 15 件、Coxsackievirus 14 件などが検出された。

ヘルパンギーナ：13 年は Coxsackievirus A8 型が流行株で 32 件検出され、Cox. A6 型 4 件、B5 型 2 件、B8 型 4 件、Enterovirus 71 型 2 件、NT1 件が検出された。ヘルパンギーナ以外の疾患からは B5 型が 20 件と最も多く、Cox. A8 型が 15 件で続いている。

14 年は Coxsackievirus A5 型が 12 件と最も多く、A4 型が 10 件で続き、B2 型 3 件、A2 型、B3 型、Enterovirus 71 が各 1 件検出された。ヘルパンギーナ以外の疾患からは Cox. B2 型が 20 件で最も多く、A4 型 13 件、A5 型 6 件、Entero. 71 型 8 件などである。

手足口病：13 年は Coxsackievirus A6 型と Enterovirus 71 型が流行株で、それぞれ 43 件、33 件検出された。前者は 7～11 月のやや短期間に、後者は 5～12 月の比較的長期間検出された。その他は Cox. A8 型 4 件、B5 型、Entero. NT が各 1 件検出された。

14 年は Coxsackievirus A16 型が流行株で 26 件検出され、その他では Enterovirus 71 が 5 件、NT が

1 件検出された。

無菌性髄膜炎：13 年は Coxsackievirus が 7 件、Echovirus が 3 件、HHV6・7 が 3 件検出され、14 年は Cox. 6 件、Echo. 4 件、HHV6・7 が 4 件、Parechovirus 3 型が 2 件検出された。

その他：前述したウイルスに加えて、13 年は Rhinovirus 69 件、HHV6 39 件、HHV7 39 件、RSvirus 22 件、Parainfluenza 3 17 件、Human metapneumovirus 16 件、Human bocavirus 2 件、Herpes simplex virus 2 件が検出された。14 年は 13 年と同様に Rhinovirus 95 件、HHV6 29 件、HHV7 17 件、RSvirus 9 件、Parainfluenza 28 件、Human metapneumovirus 25 件、Herpes simplex virus 2 件に加えて、Parechovirus 19 件、Cytomegalovirus 15 件、EBvirus 5 件、Varicella zoster virus 1 件、Human parvovirus B19 1 件など多種のウイルスが検出された。特に Parechovirus は、新生児乳児に重篤な病状を引き起こすウイルスであり、全国的に報告が増加し注目されている。このように多種のウイルスを検出する高知県衛生研究所の技術は、新たに病原体の検出が求められる場合等に重要である。

2) 細菌

検査総数は表 7、表 8 の右下に示した通りで、13 年 377 件から 14 年 106 件に減少した。11 年 389 件、12 年 1057 件よりも大きく減少し、07 年 137 件、08 年 102 件の水準に戻っている。11～13 年はマイコプラズマの流行があり衛生研究所で Lamp 法による検査を導入したこと、12 年は国立感染症研究所と共同で百日咳の研究を行ったため、検体数の大幅な増加がみられた。病原菌分離検出状況も表のとおりで、検出率は 13 年 $84/377 = 22.3\%$ 、17 年 $12/106 = 11.3\%$ であり、11 年 40.4%、12 年 44.7% と比較すると大きく低下した。08 年以前は 60～70% 程度で推移していたが、百日咳の検出率が低いいため検出率は低下している。百日咳の抗原診断は保険診療では行われておらず、正確な診断のためには必須の検査であり、衛生研究所の果たす役割は大きい。

疾患別分離検出率は次のとおりである。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 13 年 $8/10 = 80.0\%$ 、14 年 $7/10 = 70.0\%$ で、11 年 87.9%、12 年 92.0% よりも低下しているが高率に検出されている。感染性胃腸炎は 13 年 $4/7 = 57.1\%$ (内 1 件は *Mycoplasma pneumoniae*) で、11 年 56.0%、12 年 75% と同程度である。14 年は検体が提出されなかった。百日咳は 13 年 $30/169 = 17.8\%$ (内 7 件は *Mycoplasma pneumoniae*)、14 年 $1/69 = 1.4\%$ で、11 年 12.2%、大きな流行がみられた 12 年 36.4% から年ごとに低

下している。その他は、13年 42/169 = 24.9%、14年 4/27 = 14.8%で、11年 43.8%、12年 51.8%よりも大幅に低下した。この原因はマイコプラズマ肺炎の流行が終息し、Mycoplasma pneumoniae の検出が大幅に減少したことである。

A 群溶血性レンサ球菌は、13年は2～5月、14年は9～12月の検出が多い。血清型は、13年は T28 型 3 件、T4 型 2 件、TB3264 型、T12 型、T1 型が各 1 件の合計 8 件、14年は Untypable 3 件、T12 型 2 件、TB3264 型 2 件の合計 7 件検出された。11年（T12 型 14 件、T1 型 9 件など合計 29 件）、12年（T1 型 10 件、T12 型、Untypable が各 2 件など合計 23 件）と比較すると、T1 型が減少消失し、T12 型は継続して検出されている。

感染性胃腸炎は、13年は Campylobacter jejuni が 2 件、Campylobacter coli が 1 件検出された。14年の提出検体が 0 件の原因は、診療所における便培養検査が検査機関でなされるようになったことが原因と考えられる。

百日咳は、13年には 21 件の Bordetella pertussis が 1 年を通して検出されたが、14年は 1 件のみと大きく減少し 12 年の流行が完全に終息した。百日咳検体から Mycoplasma pneumoniae が多数検出されたことは、発熱がない場合のこの 2 つの疾患の鑑別の困難さを示している。

その他では、13年は Mycoplasma pneumoniae が 41 件検出されたが、14年は 4 件に減少した。その原因は、マイコプラズマ抗原検査が保険適応されたことおよび年度途中から衛生研究所がマイコプラズマの検査を中止したことによる。

感染性胃腸炎原因菌別年次推移（表 9）によると、Campylobacter jejuni が継続的に最も多く検出され、89年から 94 年までは Salmonella typhimurium が、95年から 11 年までは Salmonella enteritidis が次に多く検出されている。Salmonella が thphimurium から enteritidis に変化した原因、およびその後徐々に検出されなくなった原因は不明である。

表 7 月別件数及び病原細菌分離検出状況（2013 年）

臨床診断	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1/1	3/3	2/2	1/1			0/1	0/1		1/1		8/10
Streptococcus pyogenes T28				1		1						1		3
Streptococcus pyogenes TB3264					1									1
Streptococcus pyogenes T4				1	1									2
Streptococcus pyogenes T12				1										1
Streptococcus pyogenes T1			1											1
感染性胃腸炎		1/1			1/2			1/1	0/2			1/1		4/7
Campylobacter jejuni					1			1						2
Campylobacter coli			1											1
Mycoplasma pneumoniae												1		1
百日咳		4/12	1/14	1/4	11/21	3/24	2/20	1/18	0/15	3/11	4/30	0/15	0/7	30/191
Bordetella pertussis			1	1	10	2	2			2	3			21
Mycoplasma pneumoniae		4		1	1	1		1		1	1			9
その他		11/22	4/19	1/17	4/15	4/28	4/15	3/18	1/4	0/5	5/13	5/12	0/1	42/169
Mycoplasma pneumoniae		11	4	1	3	4	4	3	1		5	5		41
Staphylococcus aureus I					1									1
計		15/34	7/35	5/24	18/40	8/53	6/35	5/37	1/22	3/17	9/43	7/29	0/8	84/377

病原細菌検出数/検査件数

表 8 月別件数及び病原細菌分離検出状況（2014 年）

臨床診断	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎					2/2			0/1		1/2		2/3	2/2	7/10
Streptococcus pyogenes T12												1	1	2
Streptococcus pyogenes TB3264										1			1	2
Streptococcus pyogenes Untypable					2							1		3
百日咳		0/6	0/14	0/9	0/7	0/5	0/5	0/6	0/1	0/3	0/1	0/6	1/6	1/69
Bordetella pertussis													1	1
その他		3/7	0/4	1/9	0/3	0/3			0/1					4/27
Mycoplasma pneumoniae		3		1										4
計		3/13	0/18	1/18	2/12	0/8	0/5	0/7	0/2	1/5	0/1	2/9	3/8	12/106

病原細菌検出数/検査件数

表 9 感染性胃腸炎原因菌別年次推移

原因菌	年度	1989	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
	平成元年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
Campylobacter jejuni () は%	189 (75.2)	159 (84.5)	152 (81.2)	115 (74.6)	47 (50.8)	67 (63.2)	52 (57.1)	58 (55.7)	50 (45.5)	49 (51.6)	58 (50.8)	44 (56.4)	40 (34.5)	54 (57.4)	65 (56.0)	44 (66.7)	68 (70.1)	39 (54.9)	54 (72.0)	38 (71.7)	14 (77.8)	13 (72.2)	11 (78.6)	1 (11.1)	1 (50.0)		
Salmonella Enteritidis () は%	3 (1.2)		7 (3.7)	2 (1.2)	1 (1.3)	2 (1.9)	4 (4.4)	13 (12.5)	42 (38.2)	30 (31.6)	23 (20.2)	13 (16.7)	16 (40.5)	17 (17.0)	16 (30.2)	35 (12.1)	8 (8.2)	8 (12.7)	5 (6.7)	4 (7.5)	1 (5.6)	2 (11.1)	2 (14.3)				
Enterohemorrhagic E. coli					2	3	2	1	2	1																	
Salmonella Typhimurium	8	7	1	2	4	6			2		1	1	1		3												
感染性胃腸炎原因菌総細菌	251	188	187	154	80	106	91	104	110	95	114	78	116	94	116	66	97	71	75	53	18	18	14	9	4		

3 各種疾患の発生状況と病因の考察

1) インフルエンザ

患者発生状況は図1、報告人数は表のとおりある。12～13年のシーズンは12月(369名)に流行が始まり、10月から6月までの報告数は11,587名、2月がピークであった。13～14年のシーズンも12月に流行が始まり、11月から6月までの報告数は11,430名と前シーズンとほぼ同じで流行の規模は中程度であるが、1～3月がほぼ同数であり流行のピークが明らかでない。9月56名は幡多地域でのA型の集団発生である。03年以降で年間報告数が最も多かった年はAH1pdmが流行した09年で30,695名、最も少なかった年は翌10年2,634名であるが、この特別な2年を除くと12年16,727名が最も多く、07年5,684名が最も少ない。13年の月別ウイルス分離状況(表10)をみると、AH3NTが流行株で2月からB型も加わりピークを形成した。14年の月別ウイ

ルス分離状況(表11)は、13年末からのAH3NTの流行が始まり、1月からAH1pdmとB型が加わったためピークが形成されなかったと推測される。

インフルエンザ報告人数

2013年1月	2,101	2014年1月	3,330
2月	5,255	2月	3,169
3月	3,451	3月	3,243
4月	278	4月	781
5月	113	5月	211
6月	0	6月	7
7月	0	7月	0
8月	0	8月	3
9月	1	9月	56
10月	0	10月	8
11月	50	11月	10
12月	639	12月	659
合計	11,888		11,477

表10 インフルエンザの月別ウイルス分離状況

(2013年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
AH1pdm		4												4
AH3NT		22	31	5								9	35	102
BNT		1	9	2		3								15
B/Victoria		4	7	8										19
B Yamagata			1	1	1									3

表11 インフルエンザの月別ウイルス分離状況

(2014年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
AH1pdm		9	24	17										50
AH3NT		12	10	2						1			2	27
BNT		2		4		4								10
B/Victoria		3		1										4
B Yamagata		4	2	4	5									15

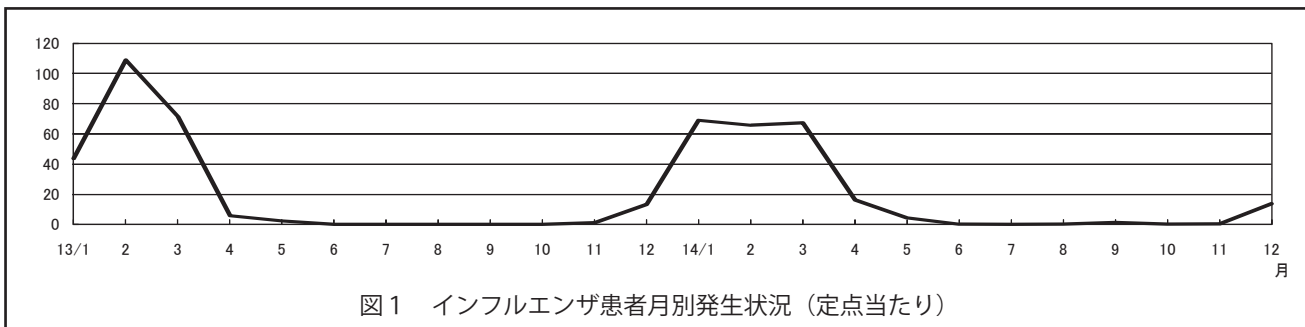


図1 インフルエンザ患者月別発生状況(定点当たり)

2) 咽頭結膜熱

患者発生状況は図2、報告人数は表のとおりある。13年の年間報告数は295名、ピークは12月、14年の年間報告数は320名、ピークは7月である。全国は夏と年末に2つのピークがみられるが、高知県のピークはどちらか1つの場合が多い。03年以降の年間報告数をみると、08年までは729～522名であるが、09～14年は473～149名と減少している。12年の報告数は149名と少なかったが、13年14年は中程度である。13年の月別ウイルス分離状況(表12)ではAdenovirus

は検出されなかった。14年の月別ウイルス分離状況(表13)をみると、Adenovirus3型が流行株で7件検出され、その他の型が5件検出されている。

表12 咽頭結膜熱の月別ウイルス分離状況

(2013年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Cox B5									1					1
Rhino			1											1

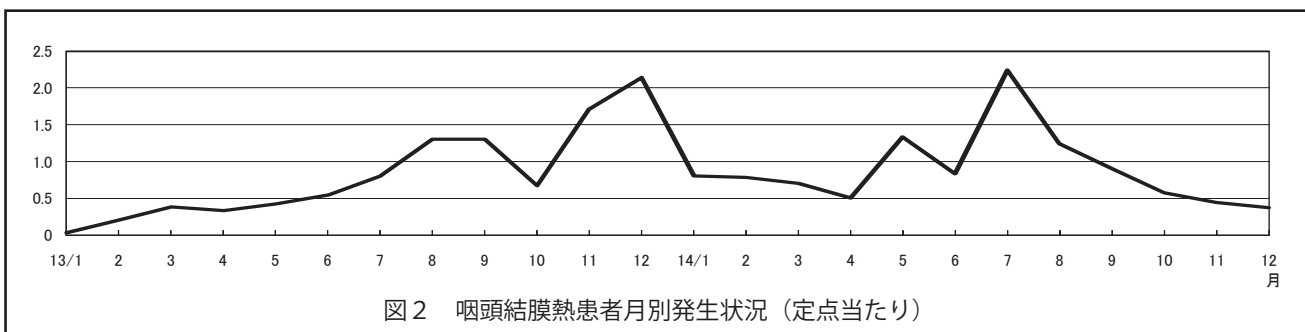
表 13 咽頭結膜熱の月別ウイルス分離状況

(2014 年)

ウイルス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno1				2									2
Adeno2/6	1												1
Adeno3	4	2							1				7
Adeno5		1											1
AdenoNT										1			1
Cox A2									1				1
Cox B2								1					1
Echo 11								1					1
Parecho 3							1						1
Parainflu 3									1				1
RS A									1		1		2
Rhino				3			1	1	1			1	7

咽頭結膜熱報告人数

2013年1月	1	2014年1月	24
2月	6	2月	23
3月	11	3月	21
4月	10	4月	15
5月	13	5月	40
6月	16	6月	25
7月	24	7月	67
8月	39	8月	37
9月	40	9月	27
10月	20	10月	17
11月	51	11月	13
12月	64	12月	11
合計	295		320



3) 感染性胃腸炎

患者発生状況は図 3、報告人数は表のとおりである。12～13年のシーズンは11月(832名)から流行が始まり、12月(2,022名)がピークで、11月から5月の報告数は8,263名である。13～14年のシーズンは12月(1,121名)から流行が始まり1月(2,100名)にピークを迎えたが、3～4月に2峰性のピークをきたし、12月から5月までの報告数は7,391名である。03年以降の年間報告数は、06年11,070名が最高で、03年6,123名が最低である。13年の月別ウイルス分離状況(表14)をみると、Norovirusの流行株はGII NTで1～7月に25件検出され、他にGINTが2件、GII/4が1件検出されている。Rotavirusの流行株はAG1で2～6月に9件検出され、他にANTとAG9が各1件検出されている。Norovirusと同じカリシウイルス属のSapovirusは、2と3月に各5件と多いが年間を通して合計19件検出されており、感染性胃腸炎の重要なウイルスである。14年の月別ウイルス分離状況(表15)をみると、Norovirusの流行株はGII NTで1月26件、2～5月29件、6～12月4件、合計59件検出されたが、他の型のNorovirusは検出されなかった。Rotavirusの流行株はAG3で1～6月に9件検出され、他にANTが1件検出された。Sapovirusは

1月が12件と多いが、年間を通じて合計22件検出された。これら3種のウイルスの他に、13年14年共にAdenovirus, Coxsackievirus, Echovirusなどが多数検出されている。Coxsackievirusは手足口病やヘルパンギーナの原因ウイルスでもあるが、13年12件検出されたB5型は同年の上記2疾患からは1～2件検出されたのみである。14年6件検出されたB2型は同年のヘルパンギーナから2件のみの検出であるが、5件検出されたA4型は同年のヘルパンギーナから10件検出され、臨床的には感染性胃腸炎とヘルパンギーナの2つの疾患を発症している。

感染性胃腸炎報告人数

2013年1月	1,242	2014年1月	2,100
2月	1,083	2月	1,017
3月	1,289	3月	750
4月	872	4月	1,167
5月	923	5月	1,236
6月	490	6月	460
7月	317	7月	301
8月	286	8月	357
9月	165	9月	295
10月	144	10月	282
11月	333	11月	371
12月	1,121	12月	716
合計	8,265		9,052

表 14 感染性胃腸炎の月別ウイルス分離状況

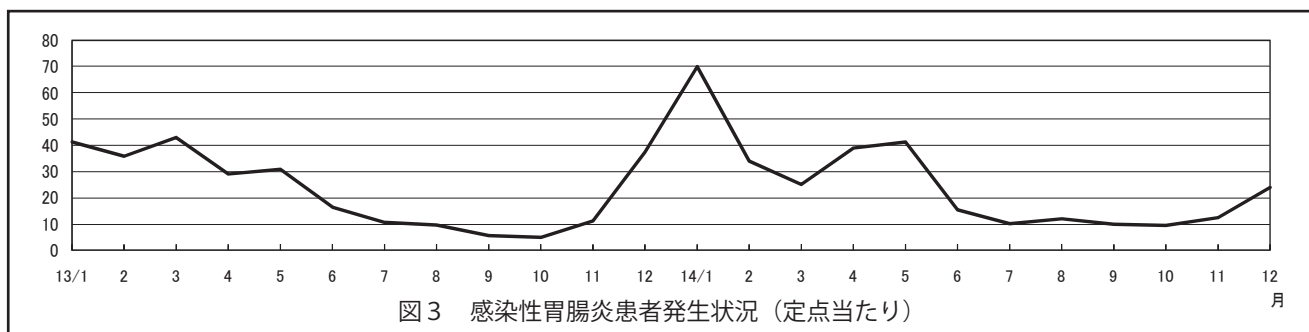
(2013 年)

ウイルス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Noro GI NT	1						1						2
Noro GII NT	6		5	5	5	2	2						25
Noro GII/4												1	1
Rota A NT		1											1
Rota AG1		1	1	4	2	1							9
Rota AG9		1											1
Sapo		1	5	5	2		1	1			1	3	19
Adeno 1							1						1
Adeno 2/6			1		2								3
Adeno 3										1			1
Adeno 41					3								3
Adeno 5					1								1
Adeno 6											1		1
Adeno NT					1								1
Astro NT					2	1							3
Cox A8								1					1
Cox B4				1									1
Cox B5			1		6	1	3			1			12
Echo 6							1						1
Echo 11										1			1
HHV 6									1				1
hMPV								1					1
Rhino						1	1		1			1	4

表 15 感染性胃腸炎の月別ウイルス分離状況

(2014 年)

ウイルス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Noro GII NT	26	9	6	8	6	1	1						59
Rota A NT	1												1
Rota AG3	2		2	2	1	2							9
Sapo	12	3	1	1	2				1		1	1	22
Adeno 1						2							2
Adeno 3					1								1
Adeno 41		1	1				1		1				6
Adeno 6		1			1	1					2		5
Adeno NT										1			1
Cox A4							2	1	2				5
Cox A5						1	1						2
Cox B1												1	1
Cox B2					1	1	4						6
Echo 11											1	1	2
Echo 30								1					1
Enterovirus NT												1	1
Herpes simplex 1											1		1
HHV 6					1								1
hMPV				1									1
Parecho 1											1	1	2
Parecho 3						2							2
Rhino						1	2	1	1	1			6



4) 手足口病

患者発生状況は図4、報告人数は表のとおりである。13年は6月から増加し8月にピークを迎え年間報告数は2,716名である。12年97名から激増し、10年3,257名、11年3,345名に近い多数の報告である。14年は夏には増加せず12月にピークを迎えたが、年間報告数は中程度の836名である。03年以降の年間報告数は、11年3,345名が最高で、12年97名が最低で変動幅が大きな疾患であり、2～3年報告数が多い年の翌年は少なくなる傾向がある。13年の月別ウイルス分離状況（表16）をみると、流行株はCoxsackievirusA6型（43件）とEnterovirus71型（33件）であり、5月からEnterovirus71型が検出され7月からCoxsackievirusA6型が加わっている。14年の月別ウイルス分離状況（表17）をみると、流行株はCoxsackievirusA16型で8月以

降に26件検出され、特に11月12月に各9件と多い。これにEnterovirus71型が5件で続いている。

手足口病の報告人数

2013年1月	7	2014年1月	3
2月	28	2月	8
3月	10	3月	1
4月	0	4月	0
5月	14	5月	6
6月	54	6月	10
7月	615	7月	18
8月	980	8月	27
9月	594	9月	49
10月	242	10月	122
11月	146	11月	224
12月	26	12月	368
合計	2,716		836

表 16 手足口病の月別ウイルス分離状況

(2013 年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Cox A6								8	9	13	7	6		43
Cox A8								2	1	1				4
Cox B5							1							1
Echo 6										1				1
Entero 71					1	4	13	5	4		2	4		33
Entero NT						1								1
Adeno 2								1						1
Adeno 5								1						1
Adeno 6								1						1
Herpes simplex									1					1
HHV 6						1								1
HHV 7									1				1	2
Rhino						1		1	1			1		4

表 17 手足口病の月別ウイルス分離状況

(2014 年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
CoxA16									2	4	2	9	9	26
Entero 71									1	4				5
Entero NT								1						1
Adeno 1													1	1
Adeno 2												1		1
HHV6								2						2
HHV7								2						2
Parecho 1										1				1
Parecho 3										1				1
Cytomegalo								1						1
Rhino									3				1	4

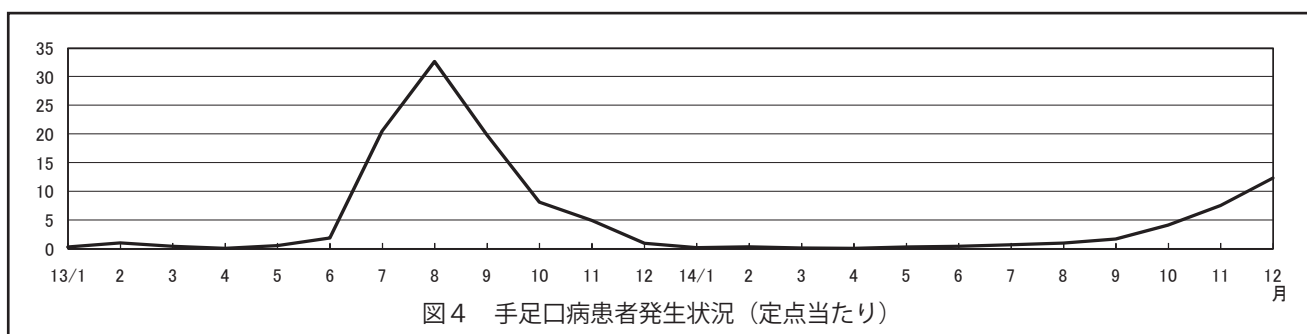


図 4 手足口病患者発生状況 (定点当たり)

5) ヘルパンギーナ

患者発生状況は図 5、報告人数は表のとおりである。13 年は 6 月から増加し 7 月から 8 月にピークを迎え 9 月までが流行期間で、年間報告数は 1,714 名で 03 年以降では最も多い。14 年も同様に 6 月から 9 月までの 4 か月の流行期間で、7 月から 8 月にピークを迎えたが 13 年よりかなり少なく年間報告数は 917 名 (03 年以降では少ない方から 3 番目) である。03 年以降の年間報告数は、13 年 1,714 名と AH1pdm が流行した 09 年 668 名を除くと (09 年は新型インフルエンザ以外の多くの疾患の報告数が大幅に減少した)、1,319 ~ 807 名で変動幅が比較的小さく、流行時期の変動も少ない疾患である。13 年の月別ウイルス分離状況 (表 18) をみると、流行株は CoxsackievirusA8 型で 7 月 26 件を中心に、6 ~ 8 月の 3 か月間に 32 件検出された。14 年の月別ウイルス分離状況 (表 19) をみると、CoxsackievirusA5 型が 5 ~ 8 月に 12 件、Cox.A4 型が 6 ~ 8 月に 10 件検出され、この 2 つの型が流行株である。

ヘルパンギーナの報告人数

2013 年 1 月	0	2014 年 1 月	1
2 月	1	2 月	0
3 月	0	3 月	0
4 月	1	4 月	2
5 月	8	5 月	19
6 月	115	6 月	120
7 月	749	7 月	320
8 月	694	8 月	282
9 月	104	9 月	117
10 月	25	10 月	43
11 月	13	11 月	7
12 月	4	12 月	6
合計	1,714		917

表 18 ヘルパンギーナの月別ウイルス分離状況

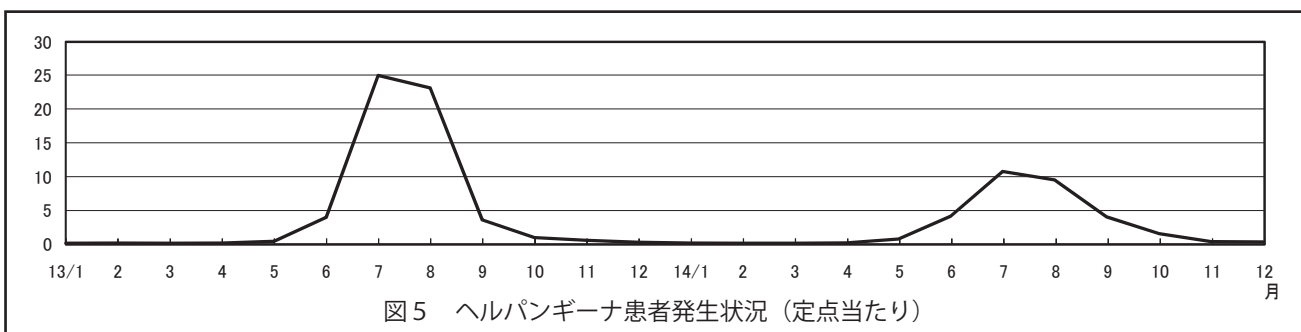
(2013 年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Cox A6								1	2			1		4
Cox A8							1	26	5					32
Cox B5								2						2
Cox B8							1			3				4
Entero 71							1	1						2
Entero NT								1						1
Adeno 2								2						2
Adeno 2/6					1									1
Herpes simplex		1												1
HHV 6						1			1					2
HHV 7		1							1					2
Human metapneumo							1		1					2
Parainfluenza 3						1								1
Rhino								1						1

表 19 ヘルパンギーナの月別ウイルス分離状況

(2014 年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Cox A2											1			1
Cox A4								1	5	4				10
Cox A5							1	5	2	4				12
Cox B2								1		1	1			3
Cox B3										1				1
Entero 71												1		1
Parainfluenza 3									1					1
Rhino									1					1



6) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

患者発生状況は図 6、報告人数は表のとおりで、基本的には夏から秋に減少し、11 月頃から増加に転ずる疾患である。12 年 11 月 102 名、12 月 126 名と増加したが 13 年 1 月以降の報告数が少なく、年間報告数は 771 名と少ない。14 年は、13 年末の増加がみられず冬から春の報告数も少ないが、10 月から増加し年間報告数は 1,119 名に達した。03 年以降の年間報告数は、2498 ~ 771 名と変動幅が大きい。13 年の T 型別検出状況 (表 20) は、T-28 型 3 件、T-4 型 2 件、T-1 型、T-12 型、B3264 型が各 1 件検出された。14 年の T 型別検出状況 (表 21) は、U T 型 3 件、T-12 型、B3264 型が各 2 件検出された。11 年 12 年には T1 型と T12 型が多数検出されたが、13 年 14 年は検体数が少なく特定の T 型の検出は認められない。

表 22 は 89 年以降の T 型別の推移を示している。分離件数の多い順は、1 位 T-12 型 480 件、T-4 型 449 件、T-1 型 360 件で 13 ~ 14 年にも検出されているが、13 ~ 14 年は B3264 型、T28 型、UT 型の検出がやや多くなっている。分離株数が 13 年 8 件、14 年 7 件と減少しているため、検査定点機関からの検体の提出をお願いしたい。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告人数

2013 年 1 月	65	2014 年 1 月	70
2 月	83	2 月	73
3 月	123	3 月	84
4 月	64	4 月	57
5 月	89	5 月	95
6 月	78	6 月	128
7 月	59	7 月	76
8 月	34	8 月	35
9 月	41	9 月	60
10 月	31	10 月	101
11 月	55	11 月	152
12 月	49	12 月	188
合計	771		1,119

表 20 A群レンサ球菌T型別検出状況（患者由来）

T型別	2013年月別菌株数												計	%	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
T-1	1													1	12.5
4			1	1										2	25
12			1											1	12.5
28			1		1						1			3	37.5
B3264				1										1	12.5
計	1	3	2	1							1			8	100.0

表 21 A群レンサ球菌T型別検出状況（患者由来）

T型別	2014年月別菌株数												計	%			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
12													1	1	2	28.6	
B3264													1	1	2	28.6	
UT				2										1	3	42.9	
計				2									1	2	2	7	100.0

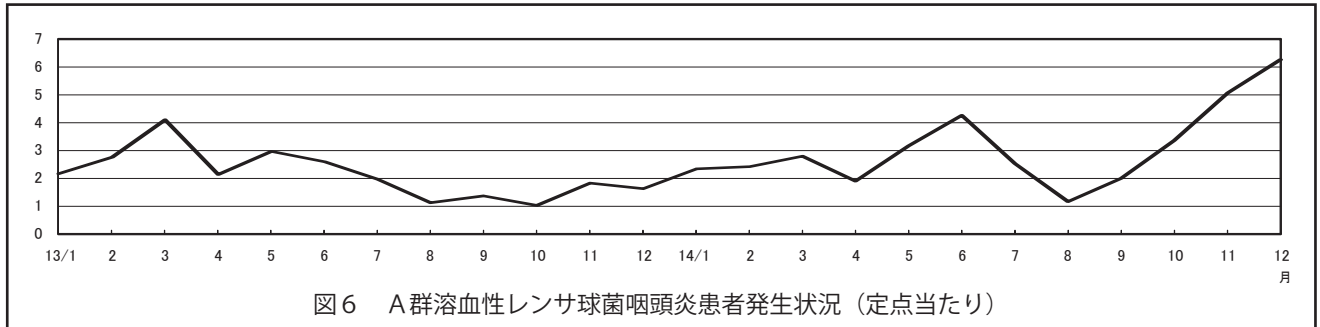


表 22 T型別の年次推移

年	T型別	1	2	3	4	6	9	11	12	13	22	23	25	28	B3264	5/27/44	14/49	UT	分離株数
1989		16			12	28		2	12		2			4	10				86
1990		44			20	9	2	2	41		7			3	6			1	135
1991		32			48	1	3	1	36	3	43	1		2	2			4	176
1992		12			76			9	33	15	26			3	4	3		5	186
1993		21		46	40			2	31	24	8			1	40	1		1	215
1994		8		67	8			1	32	1	4			7	15			4	147
1995		5		11	26				34					1	7	1		5	90
1996		30		1	39			2	44	1				15	6			9	147
1997		41	2	7	17	1		1	52		2			9	11			16	159
1998		11	2	2	21	39		2	25		1		2	18	18				141
1999		11	3	2	32	45			13	1	10			18	13			5	153
2000		1	3	1	4				3	1			3		3			1	20
2001		19	1	1					22				7	11	3		1		65
2002		40	1		6	3			20				1	3	6			1	81
2003		6			27			4	4				2	2	5			3	53
2004		2			41				18				4	1	4		1	5	76
2005					10				11									2	23
2006		19			2	1	2		14									5	43
2007		17			3		1		7								1	1	30
2008		1			5								10						16
2009									1					3				1	5
2010		4			8				6				2					3	23
2011		9			1				14				1	1	3				29
2012		10			1				4				2	2				4	23
2013		1			2				1					3	1				8
2014									2						2			3	7
合計		360	12	138	449	127	8	26	480	46	103	1	34	107	159	5	3	79	2,137

表 23 薬剤別, T 型別, MIC 値 (2012 年 1 月～12 月分離菌株)

(東京都健康安全研究センター)

No.	T 型別	薬剤感受性試験結果 (微量液体希釈法: ドライブレート (栄研化学) 使用)									
		ABPC	CEX	CDTR	CFDN	TC	CP	EM	CAM	CLDM	LCM
1	T-12	0.03	0.5	0.008	0.008	32	4	>64	>16	>4	>64
2	T-25	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	4	16	8	<=0.5	0.5
3	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	16	16	<=0.5	0.5
4	T-UT	0.03	0.5	0.008	0.008	32	4	>64	>16	>4	>64
5	T-1	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	2	16	16	<=0.5	0.25
6	T-12	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	2	16	16	<=0.5	0.5
7	T-UT	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	2	16	16	<=0.5	0.5
8	T-28	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	4	>64	>16	>4	>64
9	T-4	0.03	0.5	0.008	0.008	32	2	0.06	0.06	<=0.5	0.25
10	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	16	16	<=0.5	0.25
11	T-12	0.03	0.5	0.008	0.015	32	4	>64	>16	>4	>64
12	T-25	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	2	8	8	<=0.5	0.5
13	T-1	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	2	16	16	<=0.5	0.25
14	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	16	16	<=0.5	0.5
15	T-UT	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	0.12	0.12	<=0.5	0.25
16	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	16	16	<=0.5	0.5
17	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	16	16	>4	0.5
18	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	16	16	<=0.5	0.25
19	T-28	0.03	0.5	0.008	0.015	0.25	2	>64	>16	>4	>64
20	T-UT	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	>64	>16	>4	>64
21	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	0.25	2	16	16	<=0.5	0.25
22	T-1	0.03	0.5	0.008	0.008	64	2	>64	>16	>4	>64
23	T-12	0.03	0.5	0.008	0.015	64	4	>64	>16	>4	>64

S: 感性 I: 中間 R: 耐性

〈 参 考 〉

* CLSI : M100-S21, Jan. 2011
MIC Interpretive Standard for Streptococcus spp.
β-Hemolytic Group

	S	I	R
ABPC (ampicillin)	≦ 0.25	—	—
CEX (cephalexin) I	≦ 0.5	—	—
CFDN (cefdirin) III		—	—
CDTR (cefditoren) III		—	—
TC (tetracycline)	≦ 2	4	≧ 8
CP (chloramphenicol)	≦ 4	8	≧ 16
EM (erythromycin)	≦ 0.25	0.5	≧ 1
CAM (clarithromycin)	≦ 0.25	0.5	≧ 1
CLDM (clindamycin)	≦ 0.25	0.5	≧ 1
LCM (lincomycin)	—	—	—

東京都健康安全研究センターの研究事業のなかで、分離菌株を毎年送っていましたが、研究事業の終了に伴い 2013 年分については送付していません。
なお、東京都健康安全研究センターに確認したところ、引き続き検査可能ということで 2013 年、2014 年分もあわせて今後送付する予定です。

Ⅲ 地 域 情 報

2013年, 2014年高知県須崎地域における感染症発生動向

もりはた小児科 森 畑 東洋一

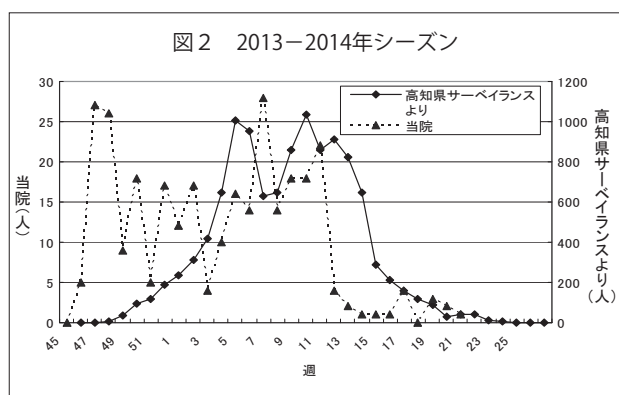
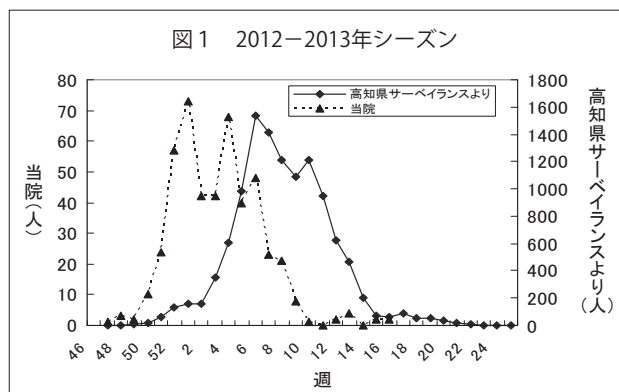
はじめに

2013年, 2014年における須崎地域における感染症発生動向を, インフルエンザ, ヘルパンギーナ, 手足口病 (HFMD), それと関連してエンテロウイルス感染症の動向を中心に, 2012年当地域で大流行をみた百日咳のその後の患者発生状況について報告する.

1. インフルエンザ

流行のパターン

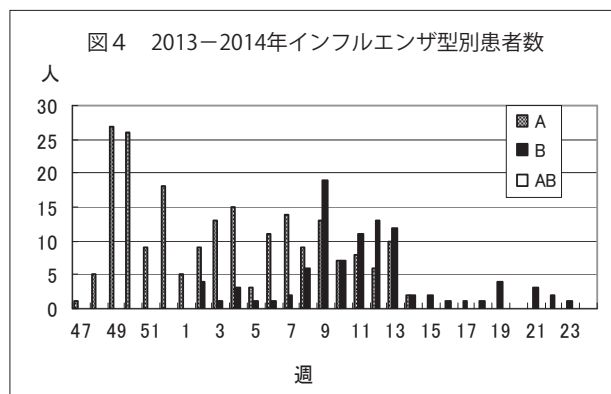
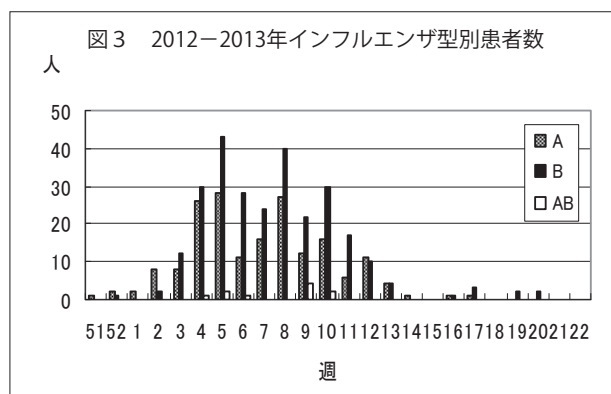
図1, 図2はそれぞれ12-13年, 13-14年シーズンの週別患者数を示す. 12-13シーズンは47週に最初の患者が, その後急増し1週から6週にかけてピークをなし, その後終息に向かう (患者数461名). 県サーベイランスと比べ当地域は早いピークがみられた. 13-14年シーズンは45週から4週頃にかけてと7から11週にかけての2峰性のパターンがみられた (患者数336名).



インフルエンザ型別患者数 (図3, 図4)

12-13シーズンはA型で始まった流行が2週以後はB型優位となりA,B型が混在する流行を見た

(A型181名, B型271名, AB型10名). 13-14シーズンはA型が8週まで優位で, それ以後はB型優位となり, いつものシーズンの流行パターンを呈した (A型226名, B型96名, AB型10名).



年齢別・型別患者数 (図5)

2012-13年シーズンはB型優位の流行があり, そのパターンを年齢別・型別についてみると, 1歳未満児, 1-4歳児はA型が優位であったが, 5歳以上ではB型が流行の中心をなしていた.

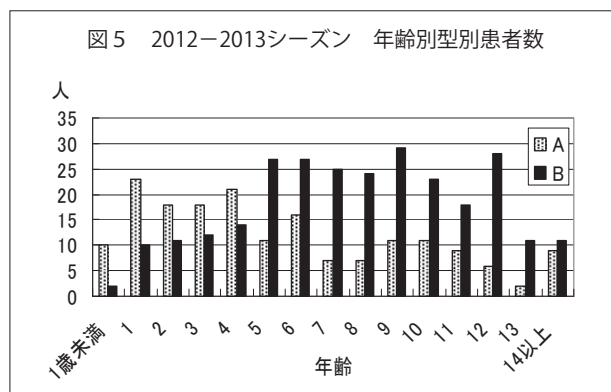


表1 分離ウイルス

		2012-13	2013-14
A 型	AH3	28	12
	AH3/Victoria	6	
	AH12009pdm	2	16
B 型	B NT	4	5
	B /Victoria	2	
	B/yamagata		1

インフルエンザウイルス分離・検出（表1）

各シーズンの患者咽頭吐沫からのウイルス分離では、2012 - 13シーズンはA型ではAH3が28件、AH1pdm09が2件検出され、2013 - 14シーズンではAH3が13件に対し、AH1pdm09が18件とやや多く検出された。B型については検体数が少ないがそれぞれのシーズンでB / victoria 2件、B / yamagata 1件が分離された。2012 - 13シーズンにB型優位の流行がみられたが、victoria系が混在し、B型のワクチン株（yamagata系）との不一致が関係したとも考えられる。

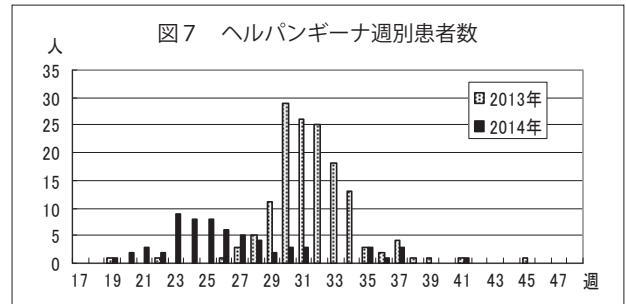
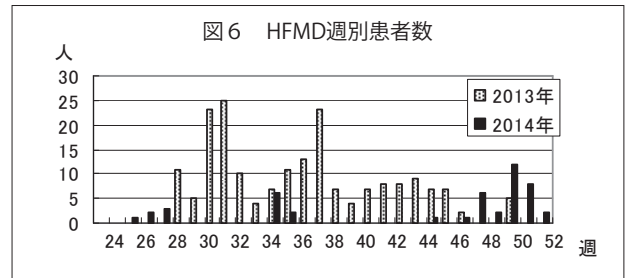
2. 手足口病（HFMD）、ヘルパンギーナ、不明発疹症—エンテロウイルス感染症の動向

2011年にCoxA群（CA）6型によるHFMDが大流行し、特異な症状として爪甲脱落症を認め、爪からCA6型が検出された報告もある。一方、ヘルパンギーナについても従来はCA6型が主因の1つであるが、HFMD同様複数のCA群型が検出される。

今回の報告対象ではないが、2012年夏季に、四肢を中心に顔面に発疹を伴う不明発疹症（カルテには伝染性紅斑、EVウイルス感染、HFMD疑い）からCA9型が22件検出された。これについても後述する。最近のエンテロウイルスの動向について、高知県衛生研究所で当院患者検体（HFMD、ヘルパンギーナ、不明発疹症）から検出された結果を検討した。

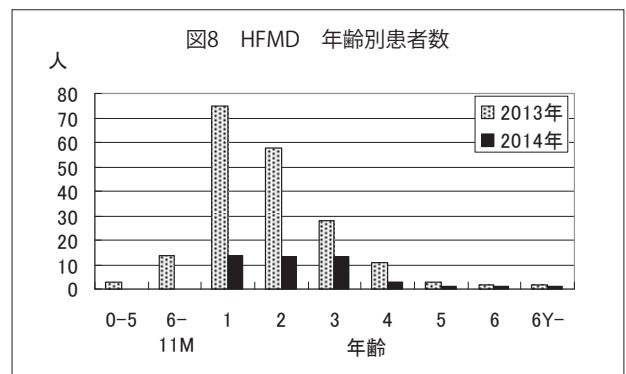
週別患者数

図6、図7にHFMD（2013年196人、14年46人）、ヘルパンギーナ（13年140名、14年64人）の週別患者数を示す。両疾患とも2013年に大きな流行がみられた。患者発生はHFMDは初夏から秋口まで長い期間流行が続く傾向があり14年は小さな流行が3期間に見られ12月になっても患者発生がみられCA16型が検出されている。一方、ヘルパンギーナは13年は典型的な流行パターンを示すが、14年は5月から始まり患者数も少なく7月末には終息した。



年齢別患者数

HFMD、手足口病の患者発生年齢は2013年、2014年とも良く似たパターンで1歳をピークに乳幼児を中心に分布する通常の流行パターンであった。検出ウイルス（表2、表3）はHFMDは13年がCA6 21, CA8 5, CB5 1件 Enterovirus71 17件検出されCA6とEntero71が主病因ウイルス、14年はCA16 8件、Entero71 6件のみを検出。ヘルパンギーナは13年CA6 1, CA8 13, CB5 1件でCA8が、14年はCA4 8, CA5 7件検出されCA4とCA5の混在が主病因ウイルスであったと思われる。病原微生物検出情報でもHFMDは13年はCA6優位にEntero71を検出、14年はCA16とEntero71がほぼ同じ割合で検出、ヘルパンギーナは13年はCA6とA8がほぼ同数検出され、14年はCA4が主病因ウイルスとして国内で多数検出されている。



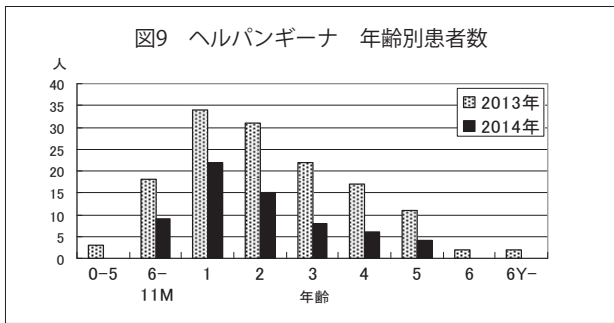


表2 HFMD 検出エンテロウイルス

	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
CA2								1					1
A4						1		1					2
A5										1			1
A6	2		10		6		14		38		21		91
A8											5		5
A9				6									6
A10							1		3	2			6
A12										2			2
A16					49	12	1	1				8	71
CB2													0
B3													0
B4													0
B5	1	1	2			1					1		2
Entero.71	13	14	4	4	4		2	68			17	6	132

表3 ヘルパンギーナ検出エンテロウイルス

	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	合計
CA2								10		4			14
A4						5		3		3			8
A5	1			2	8			5					7
A6			4		19		5	1	7		1		37
A8											13		13
A9													0
A10					1		1		3				5
A12										4			4
A16					1								1
CB2												2	2
B3												1	1
B4									1				1
B5											1		1
Entero.71			1				1	3					5

HFMD とヘルパンギーナを中心としたエンテロウイルスの動向 (表 3, 4)

最近 12 年間 (2003 年から 2014 年) の当院の HFMD とヘルパンギーナ患者の咽頭塗沫から検出されたエンテロウイルスの動向を表 2 と 3 に示す。12 年間の合計でみると HFMD は Entero71 > CA6 > CA16 であるが 07 年に CA16 の大流行後は CA6 が隔年で主病因ウイルスになっている。Entero71 は 10 年に大流行の後は流行はなく 13 年に CA6 優位に Entero71 が検出。14 年は CA16 と Entero71 のみが検出された。ヘルパンギーナは CA6 が主病因ウイルスとされていたが、10 年以降は A2.A4.A5 や

A8.A10A など複数の型が検出され、13 年は A6 が 1 件に対し A8 が 13 件、14 年は A4 が 8 件、A5 が 7 件で A6 は検出されていない。さらに CoxB 群が 3 件検出されている。

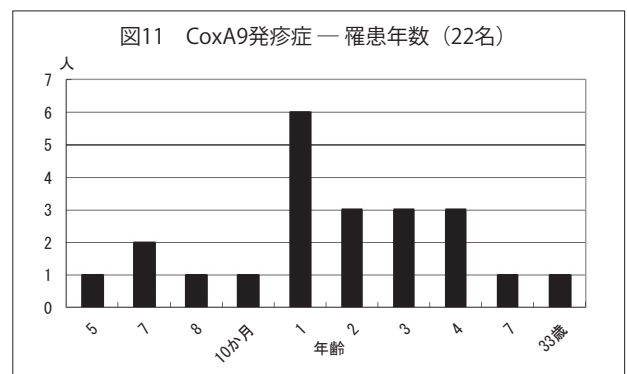
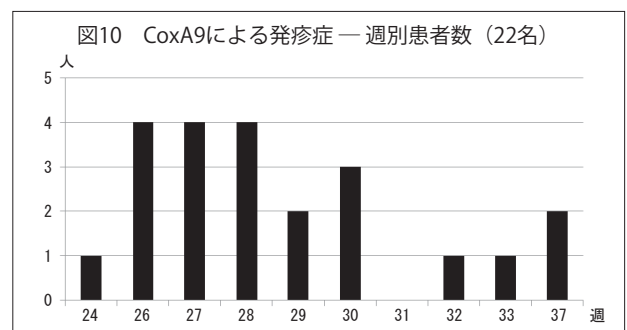
不明発疹症と病因ウイルス

エンテロウイルスは日常診療の中では発疹症の病因ウイルスとなることから、2012 年から 13 年で不明発疹症としてウイルス検出をおこなった結果を表 4 に示す。

表 4 不明発疹症 検出ウイルス

	CoxA4	A5	A6	A8	A9	A12	CoxB2	B5	Echo9	Echo30	B19	Parainfluenza3	Rhinovirus
2012					22	3			1		3		4
2013			1	3				3			1	1	5
2014	1	1			1		2			1		2	1

複数のエンテロウイルスが検出されたが 2012 年に CA9 が 22 件検出されている。A9 が検出された患者の発疹は四肢、顔面を中心に一部の患者は軀幹にも認め、検査提出時の診断名として、手足口病、伝染性紅斑、EB ウイルス感染症やその疑いとなっている。いわゆる顔面四肢型の発疹症であった。

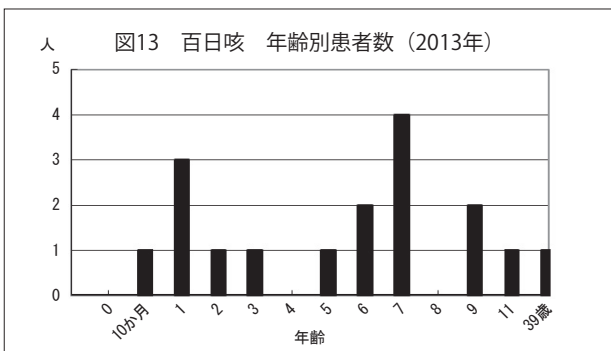
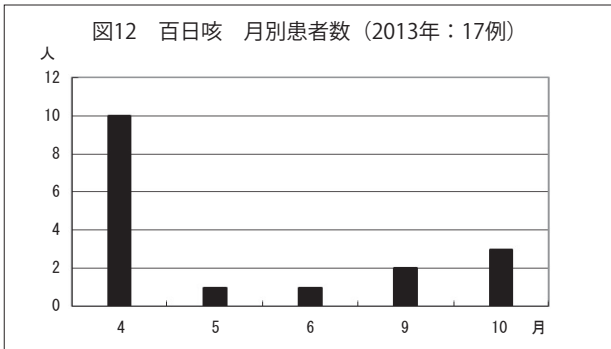


週別患者発症時期は 24 週から 30 週に集中してみられ、罹患年齢は乳幼児が中心であったが 33 歳の母親も 1 例みられた。尚、表 2 で 2006 年に HFMD として A6 が 6 件検出されている。

3. 百日咳

2012年当地域でLAMP法により、百日咳と診断された患者が約100名といった百日咳の地域で流行をみた。その後の百日咳患者発生状況を簡単にまとめる。

2013年はLAMP陽性で診断された患者数は17例で月別発生患者数を図12に示す。



2014年は12月に5歳男児1例のみであり、地域での百日咳の流行は終息していると思われる。

2013/2014 シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討

ふないキッズクリニック 船井 守

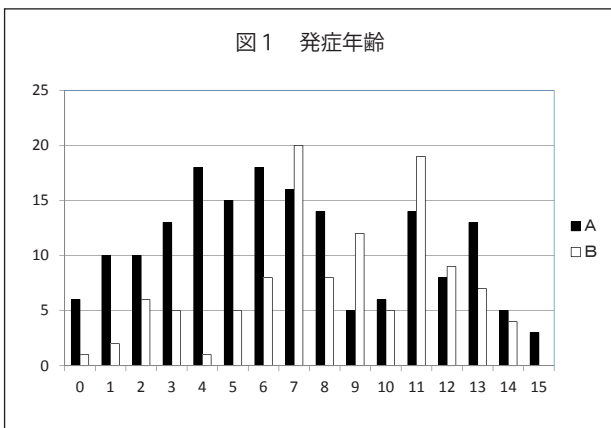
2013/2014 シーズンに当院を受診した 15 歳以下の患児について臨床的検討を行った。

1 患者数

平成 25 年 11 月 26 日から平成 26 年 5 月 20 日にインフルエンザ診断キットでインフルエンザと診断した 15 歳以下の当院受診患児は延べ 286 例であった。A 型は 174 例、B 型は 112 例であった。このうち A 型、B 型両方感染例は 9 例、A 型 2 回感染例は 1 例であった。

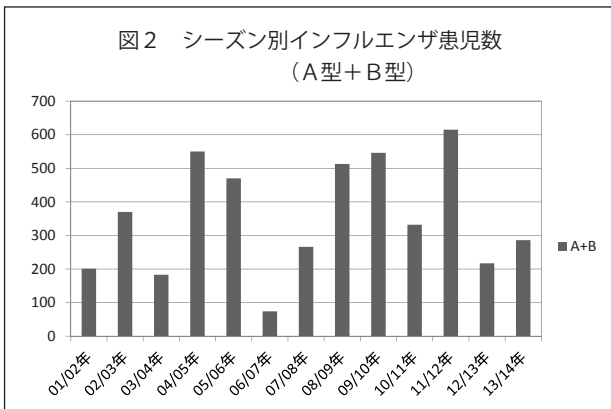
2 発症年齢 (図 1)

発症年齢は A 型は 0 歳から 15 歳まで幅広くみられ、年齢の大きなピークはなかった。B 型は 0 歳から 14 歳までみられ 7 歳 20 例、11 歳 19 例とやや多かったが年齢の大きなピークはなかった。



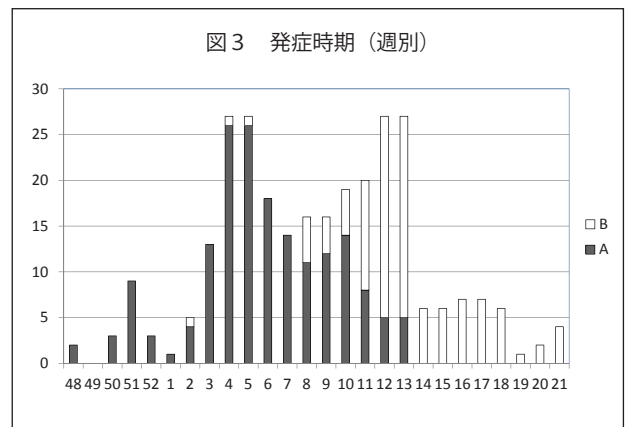
3 過去 13 シーズンの患児数 (図 2)

当院の過去 13 シーズンのシーズン別の当院受診インフルエンザ患児数ですが 2013/2014 シーズンは中規模の流行であった。



4 発症時期 (図 3)

週別の発症時期ですが A 型は平成 25 年 11 月 26 日 (第 48 週) から平成 26 年 3 月 27 日 (第 13 週) までみられた。B 型は平成 26 年 1 月 8 日 (第 2 週) から平成 26 年 5 月 20 日 (第 21 週) までみられた。第 14 週以降は B 型のみ流行した。



5 高知県定点との患者数の比較 (表 1)

感染症サーベイランスの高知県定点からの報告では平均 238 例であった。当院は 286 例で 1.2 倍であった。11 月末から流行がみられ 5 月まで流行が続いた。高知県の定点では 1 月～3 月に月平均 66～69 例で大きなピークはなかった。週別でも第 9 週の 21.54 例が最多であった。当院も A 型、B 型の流行が重なった 3 月は 93 例でやや多かったが、週別でも最多 27 例と大きなピークはなかった。

	当院	高知県 (一定点)
11月	2	50 (1.0)
12月	15	639 (13.3)
1月	73	3330 (69.3)
2月	64	3169 (66.0)
3月	93	3243 (67.6)
4月	26	781 (16.3)
5月	13	211 (4.4)
計	286	11423 (238.0)

6 A 型鑑別診断キットによる AH 1 パンデミック 09 の患児数 (表 2)

A 型インフルエンザは A (H1N1) パンデミック 2009 (以下 AH1 パンデミック 09 と略) の鑑別が

できるクリアライン Influenza A/B/ (H1N1) 2009 診断キットを使用した。キットで A 型陽性、AH1 パンデミック 09 陽性で AH1 パンデミック 09 と診断したのは 38 例、A 型陽性、AH1 パンデミック 09 陰性で A 香港型と診断したのは 136 例であった。両方感染は 1 例あった。

しかし、この診断キットは AH1 パンデミック 09 の抗体認識部位に変異が認められ 2013/2014 シーズンは感度が低下していたため、AH1 パンデミック 09 は実際にはもっと多かったと考えられた。

表2 A型インフルエンザの鑑別診断キットの判定

クリアラインInfluenza A/B/(H1N1)2009で判定

①H1pdm2009 38例?
(A型陽性、H1pdm09陽性)

②H3N2 ? 136例?
(A型陽性、H1pdm09陰性)

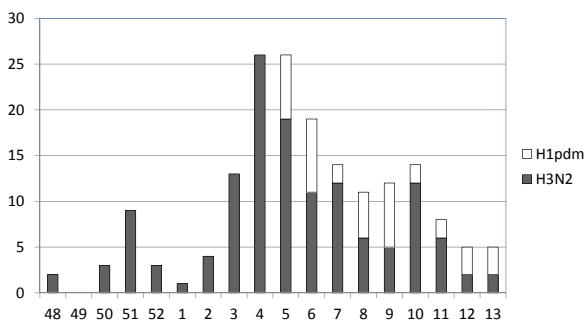
(両方感染が1例)

* 2013/2014シーズンはクリアラインのH1pdm09の検出感度は64.2%と低下していた。

7 A型鑑別診断キットによるA1パンデミック09の発症時期(図4)

A型鑑別診断キットによる発症時期の患者であるがA香港型は平成25年11月26日(第48週)から平成26年3月24日(第13週)まで、AH1パンデミック09は平成26年1月30日(第5週)から3月27日(第13週)までみられた。

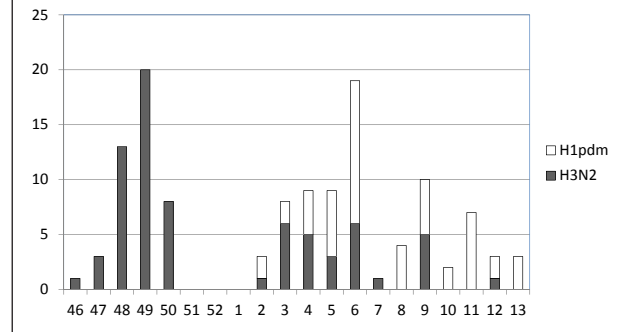
図4 当院のA型インフルエンザ週別患者数



8 高知県のインフルエンザウイルスA型の分離の時期(図5)

高知県衛生研究所の週別のインフルエンザウイルスA型の分離ですがA香港型は平成25年11月16日(第46週)から平成26年3月17日(第12週)まで、AH1パンデミック09は平成26年1月8日(第2週)から平成26年3月24日(第13週)までみられた。

図5 高知県衛生研究所の週別のインフルエンザウイルスA型分離



9 高知県ウイルス分離と鑑別キットの月別発症の比較(表3)

高知県衛生研究所のウイルス分離と鑑別キットの判定との月別の比較ですが衛生研究所ではA香港型は11月から3月まで分離され、AH1パンデミック09が1月から3月に分離され、B型は1月から5月に分離されていた。当院も同じような傾向であった。

表3 高知県衛生研究所のウイルス分離との比較(月別)

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
当院							
AH3	2	15	63	34	22	0	0
AH1	0	0	7	21	10	0	0
B	0	0	3	9	61	26	13
高知県(ウイルス分離)							
AH3	17	28	15	9	1	0	0
AH1	0	0	14	22	14	0	0
B	0	0	13	7	7	6	4

10 高知県の過去5シーズンの比較(表4)

過去5シーズンのA型インフルエンザの流行をみると、2009/2010シーズンのAH1パンデミック09の大流行、2011/2012シーズンのA香港型の大流行があり、その後AH1パンデミック09が2シーズン流行しなかったが、2013/2014シーズンに流行がみられ2種類のA型亜型が流行した。

表4 A型シーズン別発症数

当院症例数(A型)	高知県衛生研究所報告
	AH3 : H1pdm09
9/10	546例 0:580
10/11	180例 18:115
11/12	474例 42: 0
12/13	84例 59: 4
13/14	174例 70: 50

考 察

当院ではインフルエンザの診断に 2011/2012 シーズンから A (H1N1) パンデミック 2009 の鑑別ができるクリアライン診断キットを使用した。2011/2012 シーズン、2012/2013 シーズンは当院の診断キットで AH1 パンデミック 09 陽性例はなく、2013/2014 シーズンで初めて陽性例が認められた。これは高知県衛生研究所のインフルエンザウイルスの分離でも A 型は 2011/2012 シーズンは AH3N2 のみ、2012/2013 シーズンもほとんどが H3N2 であったことと一致していた。2013/2014 シーズンでは H3N2、H1 パンデミック 09 の両方ともウイルス分離されていた。しかし、この迅速診断キットは AH1 パンデミック 09 の検出感度は 2009/2010 シーズンは 86.3% (44/51)、2010/2011 シーズンは 97.3% (145/149) であったが、2013/2014 シーズンは 64.2% (70/109) と低下した。(2011/2012、2012/2013 シーズンは AH1 パンデミック 09 が流行しなかったため検証できていない。) これは AH1 パンデミック 09 で迅速診断キットの抗体認識部位に変化が起こったためと報告された。このために当院で AH1 パンデミック 09 を 38 例と診断したが実際はもっと多かったと考えられた。ただ、発症期間は当院、高知県のウイルス分離とも 1 月から 3 月に AH1 パンデミック 09 の発症を認めたため流行期間については実際の流行とほぼ同じと考えられた。2013/2014 シーズンは A 香港型、AH1 パンデミック 09、B 型の 3 種類が流行したため期間が長引いたと考えられた。

まとめ

平成 25 年 11 月 26 日～平成 26 年 5 月 20 日までに延べ 286 例 (2 回感染例 10 例を含む) のインフルエンザ患児が受診した。A 型は 174 例、B 型は 112 例であった。A (H1N1) パンデミック 2009 の鑑別ができるインフルエンザ迅速キットの判定では A 香港型は平成 25 年 11 月 26 日から平成 26 年 3 月 24 日まで、AH1 パンデミック 09 は平成 26 年 1 月 30 日から 3 月 27 日まで、B 型は平成 26 年 1 月 8 日から平成 26 年 5 月 20 日までみられた。中規模の流行で 1 週間の患児数の最多は 27 例で大きなピークはなく、約 6 か月にわたって長く続いた。1 シーズンに 3 種類のウイルスが流行したため、流行期間が長引いたと考えられた。

注：この報告では高知県のインフルエンザウイルスの分離状況は採取日を元としているため高知県感染症情報の月報と月別のウイルス分離数が少し違ってきます。

小児における細菌性重症感染症の発生動向

— Hib と肺炎球菌ワクチン開始前後での県下における疫学的変化 —

高知県立幡多けんみん病院 小児科 前田明彦
高知県立あき総合病院 小児科 佐藤哲也
国立感染症研究所 感染病理部 寺内芳彦
高知大学医学部 小児思春期医学 藤枝幹也

【はじめに】

インフルエンザ菌 type b (Hib) と肺炎球菌は、小児細菌性髄膜炎の原因菌の1位と2位であり、生命を脅かす細菌性侵襲性感染症（菌血症、化膿性関節炎、化膿性骨髄炎、心膜炎等）原因菌の2位と1位を占めている。両者ともに小児重症細菌感染症を起こす主要な細菌である。

先進諸国では、すでに定期予防接種により患者数は激減し、ワクチンの有効性が実証されている。我が国においては2008年12月から任意（自己負担）の予防接種としてHibワクチンの接種が開始され、2011年1月から全額公費の任意接種としてHibワクチンに加えて7価結合型肺炎球菌（PCV-7）ワクチンがスタートし、2013年4月から両者ともに定期接種となった。公費負担となって、両ワクチンの接種率は、飛躍的に上昇した。

ワクチンの効果を評価するために、ワクチン導入前後でHibと肺炎球菌による重症感染症の小児患者について、高知県下で全数調査を行った。その結果、ワクチンがきわめて有効であることが確認され、同時にワクチン接種する上での注意点も浮かび上がってきたので報告する。

【対象と方法】

県下患者の全数調査を行った。対象は、Hib、肺炎球菌による髄膜炎と侵襲性細菌感染症（敗血症、喉頭蓋炎、骨髄炎、関節炎、心膜炎、心内膜炎、脳膿瘍等）の小児例とした。

2007年1月～2014年12月を調査期間とした。2007年7月に本調査を目的とした研究グループ（小児感染症グループスタディ in Kochi）を立ち上げた。定期的に会合を持ち、化膿性髄膜炎に加えて、敗血症、喉頭蓋炎、骨髄炎、関節炎、心膜炎、心内膜炎、脳膿瘍など侵襲性細菌感染症（非髄膜炎）患者の全数について報告するシステムを構築し前方視的に調査した。2007年1月～6月は後方視的調査を行った。

県下の小児が入院可能な施設の全て、すなわち、高知大学医学部附属病院、高知医療センター、国立病院機構高知病院、高知赤十字病院、JA高知病院、

細木病院、県立あき総合病院、田野病院、幡多けんみん病院、渭南病院の小児科医師に研究グループに参画してもらい、症例報告と起因菌の送付を依頼した。

患者年齢、性別、診断名、起因菌、初期治療、合併症、転帰、後遺症、予防接種歴などを調査項目とした。起因菌解析は国立感染症研究所で行った。

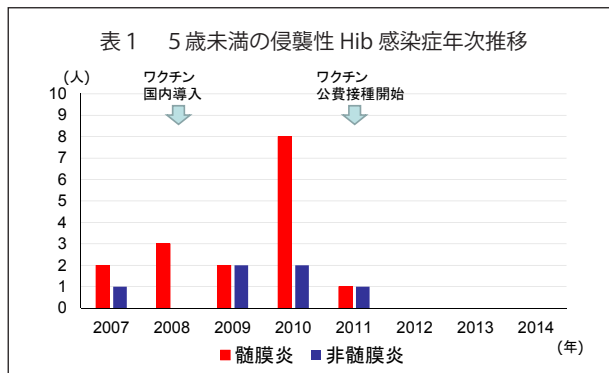
厚生労働科学研究費「ワクチンの有効性向上のためのエビデンス及び方策に関する研究（代表者 神谷齊 / 庵原俊昭）」の拠点研究として実施した。

【結果と考察】

1. Hib 感染症患者の推移

表1に示すように、Hib 髄膜炎は、Hib ワクチン定期接種開始前の2007年～2010年は各2例、3例、2例、8例／年（平均3.8例／年）の発症がみられていたが、全額公費接種開始年の2011年には1例、2012年以降は3年連続で発症ゼロと著しく減少した。同様に、Hib による（非髄膜炎）侵襲性感染症も減少し、定期接種により、ここ3年間は発症ゼロが続いている。

高知県の5歳未満人口を27,885人として算定すると、人口10万人あたりの患者数すなわち罹患率は（表2）、公費接種開始前後の3年間の比較で、Hib 髄膜炎が11.7人から0人に、Hib 侵襲性感染症が3.9人から0人に減っており、減少率は実に100%であった。海外および全国での調査でも同様に高い数字が示されており、Hib ワクチンの疫学的にみた効果は絶大である。



2. 肺炎球菌感染症患者の推移

一方、肺炎球菌髄膜炎は、ワクチン全額公費接種開始前の2007年～2010年は各1例、3例、2例、1例/年（平均1.8例/年）の発症があったが、公費接種開始年の2011年以降は4年連続で発症ゼロが続いている。肺炎球菌性侵襲性感染症は、2007年～2010年は各1例、7例、6例、11例/年（平均6.3例/年）の発症がみられていたが、公費接種開始年の2011年には1例、2012年以降は5例、4例、1例/年で平均3.3例/年とHibに比べるとなだらかではあるが減少が確認された（表3）。

5歳未満人口あたりの罹患率は（表2）、肺炎球菌性髄膜炎は公費接種開始前の3年間で5.5人/10万人、公費接種開始後の4年間で0人で、減少率は100%であった。非髄膜炎侵襲性感染症は、公費接種開始前後で22.6人から12.0人に減っており、減少率は47%であった。

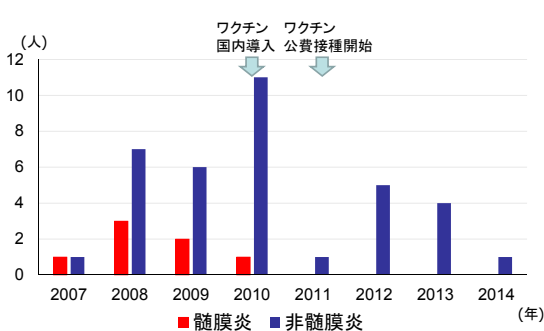
表2 重症感染症罹患率推移

(高知県)	(公費接種開始)			
	2007-2010	2011	2012-2014	減少率(%)
Hib髄膜炎	11.7	3.6	0	100
Hib非髄膜炎	3.9	3.6	0	100
肺炎球菌髄膜炎	5.5	0	0	100
肺炎球菌非髄膜炎	22.6	3.6	12.0	47

(全国10道県)	(公費接種開始)			
	2007-2010	2011	2012	減少率(%)
Hib髄膜炎	7.7	3.3	0.6	92
Hib非髄膜炎	5.1	3	0.9	82
肺炎球菌髄膜炎	2.8	2.1	0.8	71
肺炎球菌非髄膜炎	22.2	18.1	10.6	52

罹患率:5歳未満人口10万人当たり

表3 5歳未満の重症肺炎球菌感染症年次推移



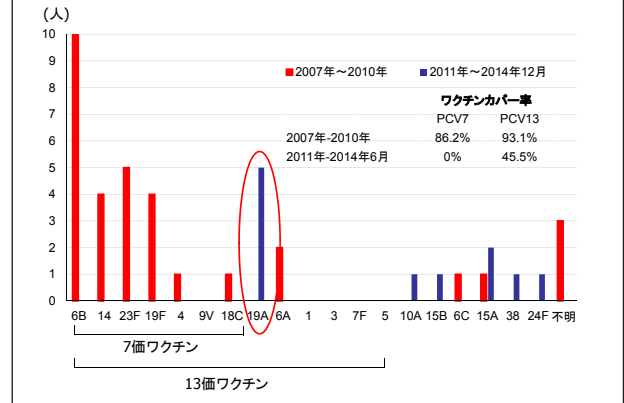
3. 肺炎球菌による重症感染症の血清型別患者分布

Hib ワクチンが100%の疫学的予防効果を示したのに対し、肺炎球菌ワクチンの予防効果が劣る理由は、肺炎球菌には多様な血清型があるため、ワクチンで全ての型がカバーできないことが主因と考えられる。肺炎球菌ワクチンは7つの血清型(6B, 14B, 23F, 19F, 4, 9V, 18C)をカバーする7価

ワクチン(PCV7)が先行して導入され、2013年11月から7価の血清型に加えて19A, 6A, 1, 3, 7F, 5を加えた13価ワクチン(PCV13)に切り替えられた。

県下の肺炎球菌症例について、血清型別の患者数分布を表4に示す。公費接種開始前の2007年～2010年はPCV7およびPCV13で予防可能な血清型がそれぞれ86.2%、93.1%を占めていた。2011年の公費接種開始以降PCV7とPCV13の接種率上昇に伴い、PCV7でカバーされる血清型の患者は1例も報告されておらず、肺炎球菌ワクチンの効果は確認された。一方でPCV7に含まれない血清型があらたに出現し増加している。PCV7に含まれないがPCV13に含まれている、血清型19Aの占める割合が増加しているが、ワクチンがPCV13に切り替えられたので今後減少が期待される。

表4 肺炎球菌感染症血清型別患者数

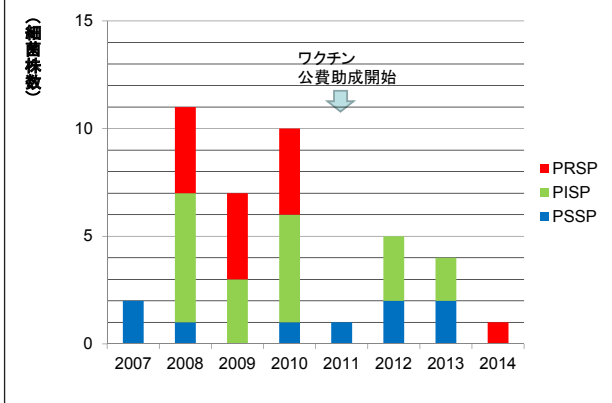


4. 肺炎球菌重症感染症の起因菌の薬剤感受性

ペニシリンGに対する感受性の高低を基準に、肺炎球菌は、最小発育阻止濃度(MIC)が0.06μg/ml以下のペニシリン感受性肺炎球菌(PSSP)、0.125～1μg/mlのペニシリン中間感受性肺炎球菌(PISP)、2μg/ml以上のペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)と分類される。PRSPやPISPなどの薬剤耐性肺炎球菌は、難治性感染症の病像を呈し、治療に難渋する例や後遺障害をのこす例が多く、临床上問題となる。

県下の重症感染症の起因菌の薬剤感受性について表5に示す。公費接種開始後は、PRSPやPISPといった耐性肺炎球菌が検出される頻度が減っている。この原因としてはワクチンの効果に加えて、抗菌薬の適正使用も貢献している可能性がある。

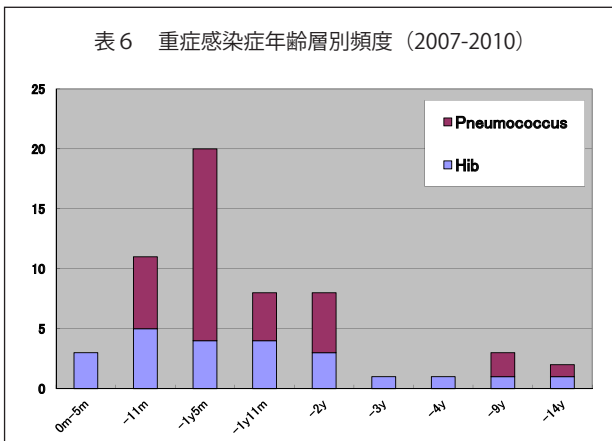
表5 肺炎球菌重症感染症の起炎菌の薬剤感受性 (高知県, 2007-14)



5. 年齢別の患者数

公費接種開始前にあたる2007～2010年の報告例について、起炎菌別に発症年齢を集計した結果を表6に示す。Hibも肺炎球菌も重症感染症は0歳から2歳までに多く、それ以降は散発的な発生であった。公費接種の対象者は5歳未満の小児であるが、乳児期早期から接種を進めないと、手遅れになって効果が期待できない可能性がある。

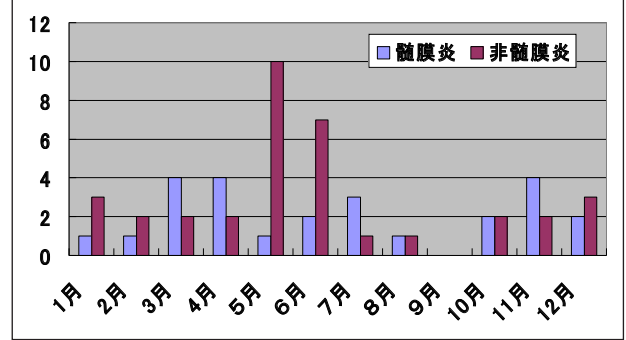
表6 重症感染症年齢層別頻度 (2007-2010)



6. 月別の患者数

月別の重症感染症患者数を表7に示す。髄膜炎は1年をとってほぼ均等に発症がみられた。一方、特に肺炎球菌による非髄膜炎は5～6月に偏って多く、集団保育開始の時期と一致していた。全国で同様な傾向が観察されており、保育開始前の予防接種完了が重要と考えられた。

表7 月別報告数 (2007-2010)



7. 基礎疾患を有する児

5歳以上の児は4例報告され(表8)、いずれも基礎疾患を有していた。また、1例をのぞいて、予防接種は未接種であった。基礎疾患をもつ例では、特に速やかに予防接種を完遂させるべきであり、たとえ年長児でも積極的に予防接種を受けるべきであろう。

表8 5歳以上の侵襲性感染症報告例 (2007-14)

年齢	性別	診断	起炎菌	入院日	治療	細菌血清型	基礎疾患
9y6m	M	髄膜炎	PSSP	080401	PAPM + CTX	6A	Mondini奇形
			Hib				
10y2m	F	敗血症	Hib	081027	PIPC	生物型2	重症心身
			BLNAR		+CTX		障害児
5y6m	F	心内膜炎	PRSP	090806	ABPC →	血清型18F	無病
		敗血症			PAPM/BP		
10y3m	M	敗血症	PISP	100321	CTM	血清型23F	骨髄移植後 Fanconi貧血

【終わりに】

高知県の重症感染症患者全数調査の結果、Hibワクチンと肺炎球菌ワクチンの発症予防効果は、非常に顕著であった。効果の高いワクチンであっても打たなくては利かない。とくに広い医療過疎エリアを抱えた本県では、医療アクセスがよくない地域が多い。そのため診断治療の遅れが後遺障害につながる例も少なくない。これらの予防接種完遂を啓発し接種率をあげる継続的な努力が必要である。

近年、働く母親の増加とともに、こどもの保育開始は低年齢化している。月別発症者数や年齢分布の調査で、重症細菌感染症が集団保育開始とともに頻度が増える傾向が確認された。また、年上の同胞がいる例もリスクが高いことが本調査の担当者らの一致した見解である。予防効果の高いHibワクチンと肺炎球菌ワクチンは推奨年齢である0歳2カ月から速やかに開始し、集団保育を始める前までに初回3回、追加の1回と進め完了することが重要である。

同胞がいる児については早期に感染症に曝される頻度が高いのでワクチンスケジュールが遅れがちである。第2子以降の児のほうが重症感染症に対する備えが第1子以上に重要であり、出遅れずに予防接種を開始し完了する努力も重要である。

調査期間中に、肺炎球菌性敗血症の0歳8カ月例は、PCV7接種歴があり、3回目の接種から1カ月を経て発症した。起病菌は血清型6Bであり、ワクチンフェーラー例と考えられた。いかなる予防接種にも限界があり、その要因の1つとしてワクチンフェーラーがある。Hib、肺炎球菌による重症感染症は、予備能の低い年少者に好発し重症化しやすい。したがって、長期間の免疫効果持続は不要なのかもしれない。しかし、ワクチンフェーラーについては今後、継続的に監視していく必要がある。

肺炎球菌ワクチン接種率向上により、非ワクチン血清型の肺炎球菌が検出される頻度が上がる傾向は、海外からも報告されている。ワクチン血清型の選択は今後も頻度の高い血清型をカバーできるように流動的に行われることが望ましいと思われ、今後の課題である。

【謝辞】

本研究グループに加わり患者を報告して下さった下記の小児科医師に深謝します。阿部孝典，小倉英郎，新井淳一，島崎洋成，島内泰宏，武市知己，西内律雄，本淨謹士，前田賢人，石本浩市，川上浩一郎，橋詰 稔，浜渦正司，浜田文彦，船井 守，森澤 豊，山遠 剛，脇口 宏（敬称略）

注目すべき感染症対策

高知県衛生研究所 松本道明

近年、新興・再興感染症の流行として、2012年9月以降流行している中東呼吸器症候群（MERS）、日本で2013年1月に初めて報告された重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、中国から2013年4月に初めて報告された鳥インフルエンザ（H7N9）のヒト感染、西アフリカ諸国で2014年3月以降流行しているエボラ出血熱、日本で2014年8月に報告された渡航歴のないデング熱症例などが話題となったので、ここで高知県の取組みと併せ紹介する。

1 中東呼吸器症候群（MERS）

1) 経緯

2012年9月以降、中東地域に居住又は渡航歴のある者を中心に患者が断続的に報告されており、医療施設や家族内等において限定的なヒトからヒトへの感染が確認されているウイルス性の感染症である。原因となるウイルスは、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属のMERSコロナウイルスで、2003年に流行した重症急性呼吸器症候群（SARS）とは異なる病気である。輸入症例が世界各地で報告され日本国内で患者が発生するおそれが高まったことから2014年7月に指定感染症に指定された後、2015年1月21日に二類感染症となった。

2) 症状

38℃以上の発熱及び咳を伴う急性呼吸器症状を呈し、臨床的又は放射線学的に肺炎、ARDSなどの実質性肺病変が疑われる。

3) 感染経路

人がどのようにしてMERSに感染するか、まだ正確には分かっていない。患者から分離されたMERSコロナウイルスと同じウイルスが、中東のヒトコブラクダから分離されていることなどから、ヒトコブラクダがMERSコロナウイルスの感染源動物の一つであるとされている。一方、患者の中には動物との接触歴がない人も含まれている。家族間や、医療機関における患者間、患者－医療従事者間など、濃厚接触者間での感染も報告されている。

4) 疑い患者の対応

- ①疑い患者を診察した医師は、最寄りの保健所へ連絡する。
- ②検査は、衛生研究所でPCR検査、陽性のときは国立感染症研究所で確定検査を行う。
- ③検査検体は、鼻腔吸引液、鼻咽頭拭い液又は咽頭

拭い液等。

5) 予防対策

- ①中東地域を旅行する場合は、こまめに手を洗う、加熱が不十分な食品（未殺菌の乳や生肉）や不衛生な状況で調理された料理を避け、果物や野菜は食べる前によく洗う、といった一般的な衛生対策を心掛ける。咳やくしゃみの症状のある人や、動物（ラクダを含む）との接触は可能な限り避ける。
- ②医療機関において疑い患者に接する際の感染予防対策としては、以下のガイダンスを参考に、標準予防策、飛沫感染予防策等の徹底を図る。

「中東呼吸器症候群（MERS）・鳥インフルエンザ（H7N9）患者搬送における感染対策」（国立感染症研究所ホームページ）

「中東呼吸器症候群（MERS）・鳥インフルエンザ（H7N9）に対する院内感染対策」（国立感染症研究所ホームページ）

- 6) 2015年1月21日現在のMERS疑い患者が発生した場合の標準的対応（右図参照）

2 鳥インフルエンザ（H7N9）

1) 経緯

2013年3月31日中国政府が鳥インフルエンザ（H7N9）のヒトへの感染があったことを公表し、それ以降多くの発症者事例が報告されている。感染源はまだ分かっていないが、中国政府の調査では、ヒトからヒトへの持続的な感染は確認されていない。患者の感染推定地域は、福建省、広東省、浙江省、江蘇省、上海市、新疆ウイグル自治区で多く報告され、2015年1月20日現在までの発生状況は、感染が確定された者485名（うち死亡者184名）である。2013年5月にヒトからヒトへ感染することを前提として指定感染症に指定され、その後2015年1月21日に二類感染症となった。

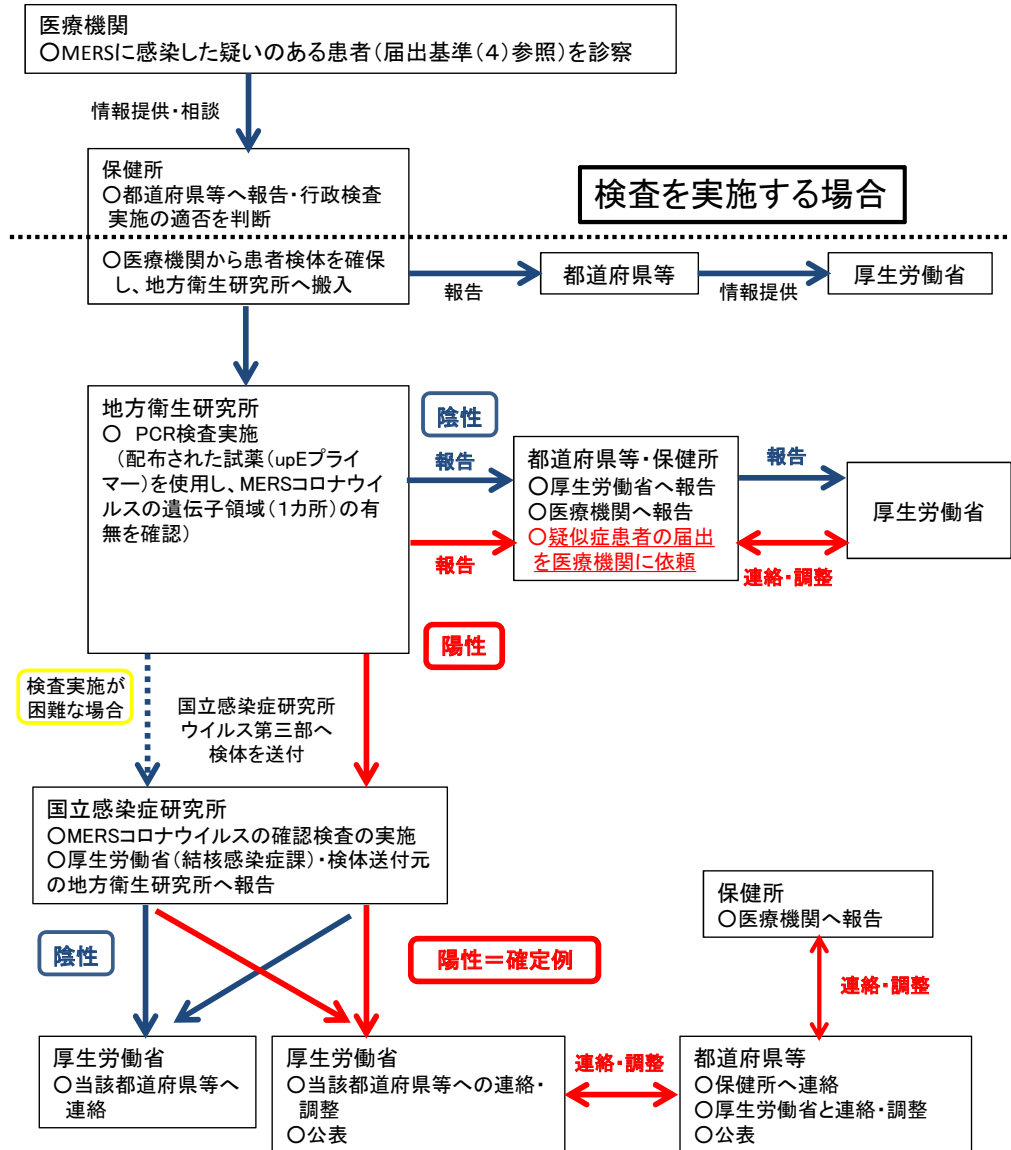
2) 症状

高熱と急性呼吸器症状を特徴とする。下気道症状を併発し、重症の肺炎が見られることがある。

3) 感染経路

現時点では、感染源は不明である。中国においては、市場で販売されていた鶏や鳩からも、患者から検出されたウイルスと同様の鳥インフルエンザ（H7N9）ウイルスが検出されているが、患者が直接鳥類から感染したかどうかはまだ分かっていない。

6) 2015年1月21日現在の MERS 疑い患者が発生した場合の標準的対応



患者の多くに、家きんとの接触があったことが報告されているが、全ての患者について家きんと接触が認められたわけではない。感染源や感染経路については、現在調査が行われている。

4) 疑い患者の対応

- ① 38℃以上の発熱と急性呼吸器症状を呈し、症状や所見、渡航歴、動物との接触歴等から鳥インフルエンザ(H7N9)を疑う患者を診察した場合は、最寄りの保健所へ連絡する。
- ② 衛生研究所でPCR検査、陽性のときは国立感染症研究所で確定検査を行う。
- ③ 検査検体は、喀痰、咽頭拭い液等。

5) 予防対策

- ① 鳥インフルエンザが発生している地域への渡航に際しては、不用意に鳥類に近寄ったり、触れたりしない。特に、家きんが飼育されている場所や、生きた

鳥を販売している市場、食用に鳥を解体している場所などに立ち入らない、こまめに手を洗う、咳エチケットを心掛けるなど注意喚起している。

- ② 医療機関において疑い患者に接する際の感染予防対策としては、以下のガイダンスを参考に、標準予防策、飛沫感染予防策等の徹底を図る。

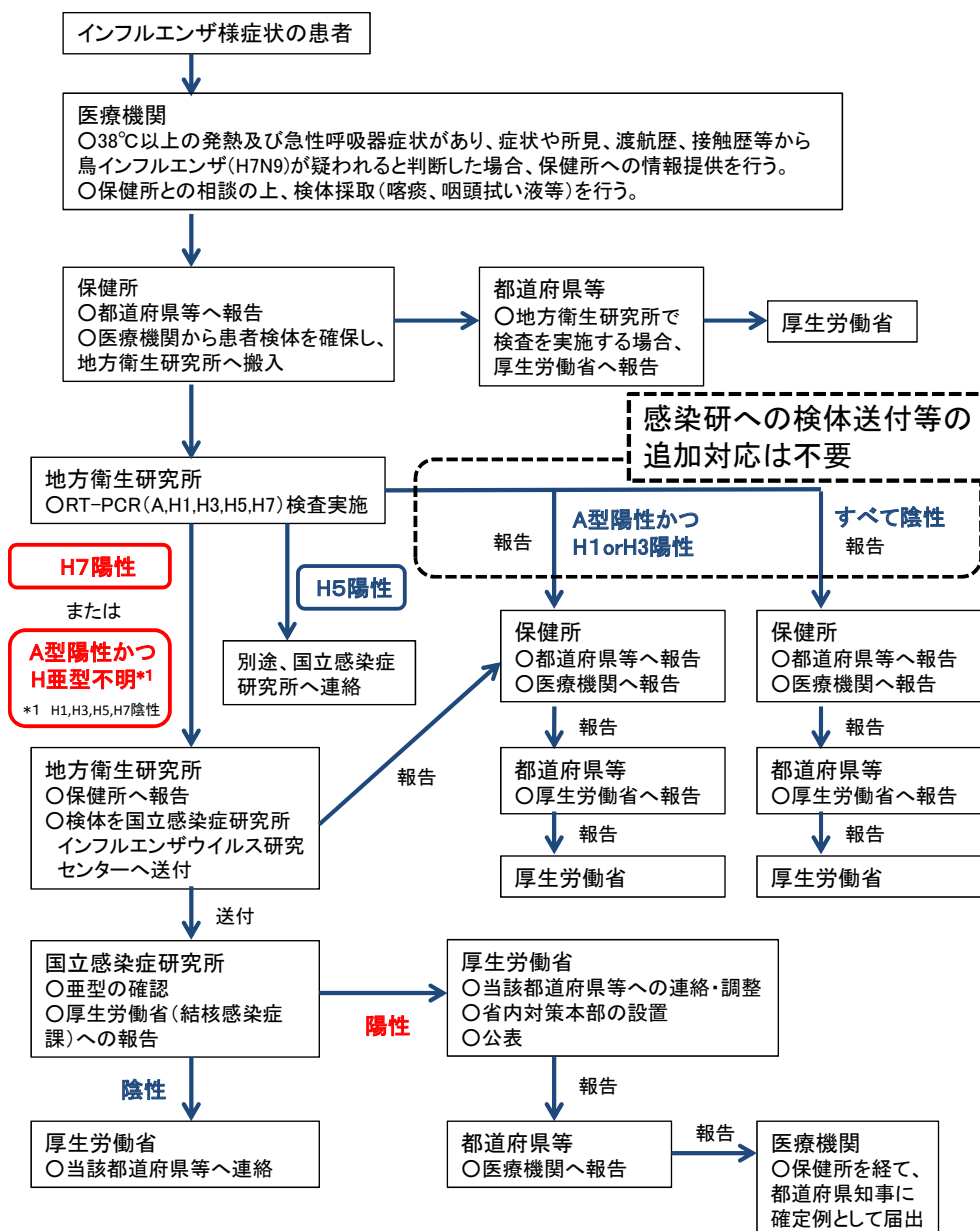
「中東呼吸器症候群(MERS)・鳥インフルエンザ(H7N9)患者搬送における感染対策」(国立感染症研究所ホームページ)

「中東呼吸器症候群(MERS)・鳥インフルエンザ(H7N9)に対する院内感染対策」(国立感染症研究所ホームページ)

6) 2015年1月21日現在の鳥インフルエンザ(H7N9)

疑い患者が発生した場合の標準的対応フロー(この対応は、今後の状況により変更予定)(次頁図参照)

6) 2015年1月21日現在の鳥インフルエンザ(H7N9) 疑い患者が発生した場合の標準的対応
(この対応は、今後の状況により変更予定)



3 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

1) 経緯

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は、中国において 2006 年頃より患者の発生が報告されるようになり、2011 年に初めて原因ウイルスがブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新種のウイルスであると報告された新しいダニ媒介性の感染症である。2013 年 1 月国内初の患者が報告されて以降 2014 年末までに四国、九州、中国、近畿の 15 県において 113 名 (うち高知県 14 名) の患者報告があった。また、さかのぼり調査の結果国内でも少なくとも 2005 年から SFTS 患者が発生していた。

2) 症状

潜伏期間は 6 日 ~2 週間。症状は、発熱と消化器症状 (嘔吐、腹痛、下痢、下血など)、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などであり、血液検査所見では血小板と白血球の顕著な減少などがみられる。

3) 感染経路

SFTS は主にこのウイルスを保有するマダニの刺咬により感染する感染症である。

4) 疑い患者の対応

- ① 疑い患者を診察した医師は、最寄りの保健所へ連絡する。
- ② 衛生研究所で PCR 検査後、陽性のときは国立感染症研究所で確定検査を行う。

③検査検体は、基本は血清、他に EDTA 入り血液も可能。

5) 予防対策

① SFTS を予防するためには、マダニに刺されないように注意すること。特に、マダニの生息するような草むらや藪などに行く場合にはなるべく長袖・長ズボンを着用するなど肌を露出しない服装とするなどの対策が必要である。また、マダニ類の多くは人や動物に吸着すると、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から長いものは10日以上）吸血する。吸血中のマダニに気がついた時は、無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚に残ったり、マダニの体液を逆流させる恐れがあるため、医療機関（皮膚科）で除去してもらおう。

②医療機関での感染予防対策としては、以下のガイドダンスを参考に、標準的予防策に加え接触、飛沫予防策とフェイスシールドなどを使用する。「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）診療の手引き【第3班】2014.3.20」（独立行政法人 国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室）

4 エボラ出血熱

1) 経緯

エボラ出血熱は、フィロウイルス科のエボラウイルスによる熱性疾患であり、日本では感染症法において一類感染症に位置付けられている。エボラウイルスは主に接触感染でヒトからヒトへ感染を起こし、エボラ出血熱は高い致死率を示す。エボラウイルスには5つの亜属（ザイール、スーダン、ブンディブジョ、タイフォレスト、レストン）があり、1976年に中央アフリカで発見されて以来レストンエボラウイルス以外はサハラ砂漠以南の熱帯雨林地域で発生していた。今回の流行は、2013年12月西アフリカのギニアに始まり2014年3月ギニア政府はWHOに対してエボラ出血熱のアウトブレイクを報告した。5月以降隣国のリベリア、シエラレオネにおいて患者数は急速に増加した。この3カ国以外にマリ、ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカで初発例や限定的な二次感染が確認された。

2) 症状

2～21日（平均約1週間）の潜伏期間で発症は突然である。症状は発熱、疼痛（頭痛、筋肉痛、胸痛、腹痛など）、無力症が多い。2～3日で急速に悪化し、死亡例では約1週間程度で死に至ることが多い。出血は報告にもよるが、主症状ではないことも多い。

3) 感染経路

エボラウイルスに感染し、症状が出ている患者の体液等（血液、分泌物、吐物・排泄物）や患者の体液等に汚染された物質（注射針など）に十分な防御なしに直接接触した際、感染する。空気感染は否定的である。一般的に症状の無い患者からは感染しない。また、流行地では、エボラウイルスに感染した野生動物（オオコウモリ、サル、アンテロップ等）の死体やその生肉に直接接触した人が感染する。

4) 疑い患者の対応

- ①過去3週間以内に流行地域（ギニア、リベリア、シエラレオネ）に渡航又は滞在していたことが確認された入国・帰国者については、健康監視を実施している。万一、21日以内に、発熱症状がみられた場合は、速やかに検疫所に連絡する。
- ②エボラ出血熱が疑われた場合、一類感染症の患者が入院できる第一種感染症指定医療機関（県内では高知医療センター）へ保健所が移送する。
- ③第一種感染症指定病院に入院、検体採取する。
- ④国立感染症研究所へ検体を搬送し、検査を実施する。
- ⑤検査検体は、血液。

5) 予防対策・対応

(1) 流行国への出国者、流行国からの帰国・入国者

- ①検疫所のホームページや空港等におけるポスターの掲示を通じて、アフリカの発生国への渡航者や帰国者に対する注意喚起を行っている。
- ②渡航前に、厚生労働省検疫所や外務省の海外安全情報のホームページなどで現地の流行状況等、最新情報を確認する。
- ③流行国では、手を洗う、病人・動物との接触を避けるなど基本的な衛生対策を確実に行う。
- ④過去3週間以内の流行国滞在者の帰国・入国者は、21日間1日2回の体温その他の健康状態について検疫所に報告する。万一、21日以内に発熱の症状がみられた場合は、速やかに電話にて検疫所に連絡する。

(2) 行政及び医療機関

エボラ出血熱の疑似症患者が発生した場合、患者の移送や医療機関の受入れ等について適切に対応できるよう行政及び医療機関が一体となった連携体制を整備している。

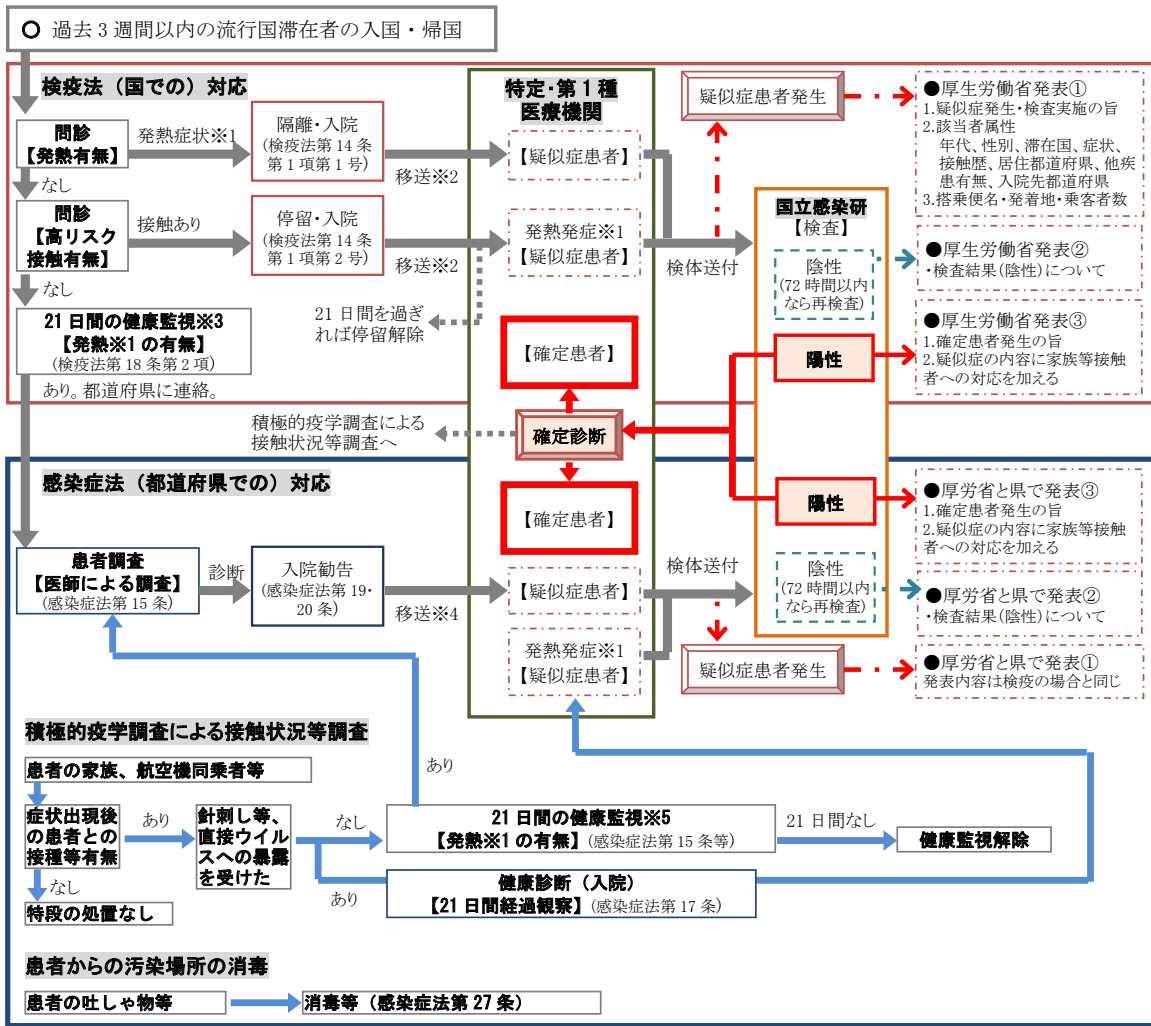
6) エボラ出血熱発生時の全体フローチャート（H26.11.21 国版を基に表現を高知県で修正）（次頁図参照）

5 デング熱

1) 経緯

デング熱は蚊が媒介するフラビウイルス科に属す

6) エボラ出血熱発生時の全体フロー（H26.11.13 国板を基に表現を高知県で修正）



※1 38℃以上の熱。
または
到着前 21 以内にエボラ出血熱患者（疑い患者含む）の体液等（血液、体液、排泄物など）との接触歴（感染予防策の有無を問わない）があり、かつ、体熱感を訴える者。
※2 検査法に基づき、検査所が行う。ただし、高知空港、高知港での検査の場合は、検査所から最寄りの保健所に移送の依頼を行う場合がある。
※3 エボラ出血熱の発生国からの出国後、最大 21 日間（エボラ出血熱の最大潜伏期間）、検査所に対し、毎日、体温、症状の有無等を報告。さらにリスクに応じて具体的な対応を実施。
※4 感染症法に基づき都道府県知事（保健所）が行う。
※5 患者に接触後、最大 21 日間（エボラ出血熱の最大潜伏期間）、都道府県（保健所）に対し、毎日、体温、症状の有無等を報告。さらにリスクに応じて具体的な対応を実施。

る Dengue ウイルスによっておこる熱性疾患で、ウイルスには 4 つの血清型がある。アジア、中南米等の熱帯・亜熱帯地域で流行している。国内では輸入症例が年間 200 例ほど報告されてきたが、2014 年 8 月、約 70 年ぶりに国内で Dengue 熱症例が報告された。その後 10 月下旬までに 162 例の症例報告があった。感染推定地域は、162 例中 159 例が東京都で、千葉県 1 例、兵庫県 1 例、不明 1 例であった。報告自治体は 19 都道府県で高知県は 9 月に 1 例あり感染推定地域は東京都であった。症型は、Dengue 熱 161 例、Dengue 出血熱 1 例であったが、出血熱 1 例はショック症状がなく重症 Dengue ではなかった。臨床所見は、ほぼ全例に発熱を認め、他に頭痛、発疹が主であった。診断方法は、非構造蛋白抗原（NS1）

の検出や PCR 法による遺伝子検出であった。国内で報告された血清型はすべて I 型であった。高知県の 1 例は、非構造蛋白抗原（NS1）の検出及び PCR 法による遺伝子検出により診断した。

2) 症状

2～15 日（多くは 3～7 日）の潜伏期間の後に、急激な高熱で発症する。発熱、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔気・嘔吐などの症状がおこる。ただし、発熱以外の症状を認めないこともある。発症時には発疹はみられないことが多いが、皮膚の紅潮がみられる場合がある。通常、発症後 2～7 日で解熱する。発疹は解熱時期にでることが多い。検査所見では血小板減少が認められ、白血球減少も約半数でみられる。また CRP は陽性化しても他疾患と比較すると高値

にならないとの報告もある。血管透過性亢進を特徴とするデング出血熱があり、全身管理が必要となることもある。

3) 感染経路

感染源となる蚊（ネッタイシマカやヒトスジシマカ）はデングウイルスを保有している者の血液を吸血することでウイルスを保有し、この蚊が非感染者を吸血する際に感染が生じる。なお、人がデングウイルスに感染しても無症候感染の頻度は、50～80%とされている。

4) 疑い患者の対応

- ①疑い患者を診察した医師は、最寄りの保健所へ連絡する。
- ②衛生研究所でPCR法による検査及び非構造蛋白抗原（NS1）の検出を行う。
- ③検査検体は、血液又は血清。

5) 予防対策

- ①デング熱はヒトー蚊ーヒトの感染環で成立しているため、長袖、長ズボンの着用、防虫スプレー、蚊取り線香の使用などの防虫対策により媒介蚊に刺されないことが重要である。
- ②国内ではヒトスジシマカがデング熱を媒介する可能性のある蚊である。

高知県では、蚊が媒介する感染症の一つであるウエストナイル熱対策として県内5個所で蚊を捕集している。2014年9月以降デングウイルスの検査（PCR法）を追加し行ったが検出されていない。なお蚊の捕集は、通例5月～10月の間実施している。しかし、昨年国内でデング熱症が報告されたことでデング熱対策として通年で捕集し、ヒトスジシマカの生息状況とデングウイルス保有状況を調査している。（参照：高知県衛生研究所ホームページ ウエストナイル熱）

IV 高知県感染症情報(月報)

高知県感染症情報 2013年1月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		144	260	923	272	199	303	2,101	369	7,103
小児科	咽頭結膜熱				1				1	13	4
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			6	23	26	6	4	65	126	155
	感染性胃腸炎		47	159	672	130	43	187	1,238	2,022	703
	水痘		20	10	117	20	23	63	253	363	166
	手足口病				1	1		5	7	1	7
	伝染性紅斑			1	9				10	17	107
	突発性発疹		3	3	18	6	5	9	44	48	41
	百日咳				3		1		4	3	5
	ヘルパンギーナ									6	3
	流行性耳下腺炎				3	1		4	8	17	113
	RSウイルス感染症		1	23	76	8	14	42	164	212	275
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				1				1	6	3
STD	性器クラミジア感染症				1			1	2	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症				1				1		
	尖圭コンジローマ				1				1		
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										1
	無菌性髄膜炎										1
	マイコプラズマ肺炎			3	21				24	46	17
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									3	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		4	4	14			2	24	41	18
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				1				1	3	
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			219	469	1,886	464	291	620	3,949	3,298	8,724
前月			219	420	1,518	338	210	593			
前年同月			368	1,298	3,526	1,010	719	1,803			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年1月

全国情報（12月31日～1月27日）

第1週（12月31日～）から第4週（～1月27日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の1月の上位6疾患の合計は119.21で、12月99.48よりも増加したが昨年・一昨年の1月よりも少ない。増加の原因はインフルエンザ（12月4位7.32）で10倍以上に増加し、過去5年間と比較するとやや多い。今シーズン都道府県から報告されたウイルスは香港（AH3）が789件、AH1pdm09が31件、B（ビクトリア系）が27件などである。感染性胃腸炎（同1位67.24）は大きく減少し、例年よりも少ない。水痘（同2位8.05）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位7.81）、マイコプラズマ肺炎（同6位3.96）、RSウイルス感染症（同5位5.10）は総て減少した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	インフルエンザ		3.91	12.07	22.58	36.44	75.00
2	感染性胃腸炎		4.36	8.44	7.04	7.85	27.69
3	水痘		1.67	1.92	1.12	1.34	6.05
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.53	1.53	1.51	1.94	5.51
5	マイコプラズマ肺炎		0.52	0.83	0.62	0.63	2.60
6	RSウイルス感染症		0.57	0.69	0.53	0.57	2.36

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の1月の上位6疾患の合計は104.34で、12月104.20とほぼ同じで全国よりも少ない。インフルエンザ（12月3位7.69）は増加のスピードが全国よりも1週間遅く、全国の6割足らずに留まっている。週報で1月に報告された迅速検査の結果はA型1341件、B型655件で高知県ではB型の比率が高い。感染性胃腸炎（同1位67.40）は減少したが全国よりもかなり多い。高知県でも水痘（同2位12.10）、RSウイルス感染症（同4位7.06）、マイコプラズマ肺炎（同5位5.76）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同6位4.19）は総て減少した。しかし、疾患別では全国と差があり、RSウイルス感染症は全国の2倍以上であるが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は全国の1/2以下である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	インフルエンザ		3.27	7.29	12.67	20.54	43.77
2	感染性胃腸炎		4.67	12.57	11.40	12.63	41.27
3	水痘		2.57	3.03	1.13	1.70	8.43
4	RSウイルス感染症		1.17	0.90	1.33	2.07	5.47
5	マイコプラズマ肺炎		0.50	0.63	1.13	0.75	3.01
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.27	0.67	0.53	0.70	2.17

2. 全体の傾向

麻しんと風しんの報告無し。関東地方では風しんの流行があり、平成24年1月以降先天性風疹症候群が6名発生しているの、感受性者（夫から妊婦への感染が多いとされている）は予防接種をしておくべきである。

インフルエンザが急増しているが、感染性胃腸炎は大きく減少した。RSウイルス感染症は全国2位と多く、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は全国で最も少ない。流行性耳下腺炎は全国同様に少ない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2,101名（12月369名）。急激に増加しているが、今年のピークは2月になりそうである。インフルエンザの流行の立ち上がりや規模は毎年異なっており、過去10年間の1か月の最高値は2005年3月9,287名、最低値は2007年3月3,003名である。地域別定点当たり報告数は高知市57.69から中央東23.64と差があり、年齢別では5～9歳447名、10～14歳346名、1～4歳333名、20～29歳167名、15～19歳145名で、80歳以上57名、0歳53名と全年齢に分布している。ウイルスは香港（AH3）が8件、AH1pdm09が2件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 1名（12月13名）。4～5月頃まで20名未満が続くことが多い。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 65名（12月126名）。冬季に増加する疾患であるが、2006年以降、多い年と少ない年がほぼ交互にみられており今シーズンは少なく、1月としては過去10年間では2006年55名に次いで少ない。定点あたり報告数2.17は全国で最も少ない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,242名（12月2,022名）。今シーズンは流行開始が11月と早めで、12月がピーク

となり、1月には急激に減少している。終息は3～5月と幅があるため、今後は流行の継続期間に注目したい。全国的には四国・九州が多い。Norovirus G II NTが6件検出された。

5) 水痘

報告数 253名(12月363名)。3か月連続で250名以上と多い。夏休みが始まる7月頃から減少に転じる疾患である。

6) 手足口病

報告数 7名(12月1名)。非常に少ない報告数が継続している。

7) 伝染性紅斑

報告数 10名(12月17名)。昨年前半の流行から徐々に減少している。

8) 突発性発疹

報告数 44名(12月48名)。40～60名程度で大きな変動はみられない。

9) 百日咳

報告数 4名(12月3名)。2か月連続して1桁の報告数となり、非流行期に入ったと考えられる。

10) ヘルパンギーナ

報告数 0名(12月6名)。例年4月頃までは1桁の報告数である。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 8名(12月17名)。1桁の報告数は過

去10年間で初めてである。全国も過去10年間で最も少ない。定点あたり報告数0.26は山梨0.08・長野0.18に次いで少ない。

12) RSウイルス感染症

報告数 167名(12月212名)。僅かに減少したが比較的多く、定点あたり報告数5.56は徳島県10.82に次ぐ全国2位と多い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(12月6名)。10年前の2003年は19～46名の報告があり、急速に減少してきた。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 24名(12月46名)。半減したがかなり多い。全国は昨年次に多い報告数で推移している。Lamp法にてMycoplasma pneumoniaeが15件検出された。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 24名(12月41名)。減少しやや少ないが変動範囲内の報告数である。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 1名(12月3名)。非常に少ない報告数が続いている。

高知県感染症発生動向調査部会

会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年																総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		
2	結核									136	148	164	151	192	131	8	930	
	計									136	148	164	151	192	131	8	930	
3	コレラ	1					1					1					3	
	バラチフス	2															2	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								25	
	腸チフス		1						1								2	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	1	148	
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	1	180		
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3					28	
	Q熱	1	1	2				1									5	
	オウム病			1		1											2	
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8		64	
	マラリア								2					1			3	
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9		38	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4		118	
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1				6	
	レプトスピラ症											1		4	2		7	
	E型肝炎												1		1		2	
	デング熱												1				1	
計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	0	274		
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		24	
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	4	3	3			3		53	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				26	
	ジアルジア症		1	2	1												7	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1			1	1		2	
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1		14	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		9	
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3		35	
	髄膜炎菌性髄膜炎										1						1	
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		18	
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10		98	
	麻疹										5						5	
	風しん										1	1			4		6	
計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	0	298		
新型	新型インフルエンザ											34					34	
	計											34					34	
動物	鳥インフルエンザ												1				1	
	計												1				1	
総計	61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	9	1,717		

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

1月はウイルス71件、細菌34件の搬入があり、そのうちウイルス26件、細菌15件の病原体を検出し、また、平成24年12月に搬入された検体でウイルス6件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus C 1件、Human herpes virus 7 1件、Influenza virus AH3 NT 8件、Influenza virus A H1 pdm09 2件、Influenza virus B NT 1件、Noro virus GII NT 7件、Rhinovirus 8件、Respiratory syncytial virus 1件、Respiratory syncytial virus A 2件、Rota virus group AG9 1件、また、細菌の内訳は、*Mycoplasma pneumoniae* 15件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	12.10	Rhinovirus
2	5ヶ月	女	咽頭結膜炎	39℃,	ぬぐい液	12.11	Rhinovirus
3	1	男	感染性胃腸炎	38℃, 咳漱, 上気道炎, 気管支炎,	ぬぐい液	12.12	Respiratory syncytial virus Rhinovirus
4	4	男	下気道炎	37℃, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	12.18	Rhinovirus
5	3	女	下気道炎	下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	12.18	Rhinovirus
6	2ヶ月	男	気管支炎	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	12.19	Rhinovirus Respiratory syncytial virus A
7	3	女	咽頭炎 喘息	38℃, 咳漱,		12.19	Rhinovirus
8	2	女	感染性胃腸炎	39℃, 下痢,	ふん便	12.20	Norovirus GII NT
9	1	女	急性咽頭炎	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	12.20	Rhinovirus
10	8	女	マイコプラズマ	38℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	12.25	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
11	3	男	マイコプラズマ肺炎	38℃, 肺炎,	ぬぐい液	12.26	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
12	1	女	両側急性中耳炎、上気道炎、熱性けいれん	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	12.27	Adenovirus C
13	1ヶ月	男	百日咳	咳漱, 上気道炎, 気管支炎,	ぬぐい液	12.30	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
14	2	男	マイコプラズマ	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	1.4	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
15	8	男	マイコプラズマ	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	1.4	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
16	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.5	Influenza virus A H3 NT
17	6	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.5	Influenza virus A H3 NT
18	9	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.7	Influenza virus B NT
19	5	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.8	Influenza virus A H3 NT
20	10	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1.8	Influenza virus A H3 NT
21	9	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.8	Influenza virus A H3 NT
22	5	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.8	Influenza virus A H3 NT
23	37	男	-	38℃,	ふん便	1.9	Norovirus GII NT
24	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液 鼻汁吸引	1.9	Influenza virus A H1pdm09
25	4	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.11	Influenza virus A H3 NT
26	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	1.11	Norovirus GII NT
27	1	男	-	39℃, 下痢, 嘔吐,	ふん便	1.12	Rotavirus group A G9
28	9	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H1pdm09
29	7	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	1.15	Human herpes virus 7
30	10	女	マイコプラズマ	咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.15	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
31	7	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.17	Norovirus GII NT
32	1	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H3 NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
33	2	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1. 18	Norovirus GII NT
34	5	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	1. 18	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
35	4	女	マイコプラズマ	39℃, 気管支炎,	ぬぐい液	1. 19	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
36	1	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	1. 19	Norovirus GII NT
37	1	男	気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	鼻咽頭	1. 21	Respiratory syncytial virus A
38	1	男	マイコプラズマ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 21	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
39	4	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 21	Norovirus GII NT
40	11	女	マイコプラズマ肺炎	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 22	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
41	10	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	1. 23	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
42	7	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	1. 23	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
43	9	男	マイコプラズマ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 24	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
44	4	女	マイコプラズマ肺炎	40℃, 肺炎,	ぬぐい液	1. 27	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
45	6	女	マイコプラズマ	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	1. 29	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

高知県感染症情報 2013年 2月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		296	945	1,818	656	381	1,159	5,255	2,101	6,113
小児科	咽頭結膜熱			2	3	1			6	1	14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	9	26	27	3	12	83	65	252
	感染性胃腸炎		37	201	558	123	38	116	1,073	1,242	663
	水痘		12	24	49	7	12	50	154	253	125
	手足口病				4			24	28	7	2
	伝染性紅斑			1	6	2			9	10	74
	突発性発疹			5	14	2	3	4	28	44	48
	百日咳			1					1	4	8
	ヘルパンギーナ							1	1		5
	流行性耳下腺炎				4	1	1	3	9	8	65
	RSウイルス感染症		4	37	90	31	15	52	229	167	193
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				1				1	1	4
STD	性器クラミジア感染症				1				1	2	
	性器ヘルペスウイルス感染症				1				1	1	
	尖圭コンジローマ									1	1
	淋菌感染症										2
基幹	細菌性髄膜炎										3
	無菌性髄膜炎										1
	マイコプラズマ肺炎			3	15				18	24	7
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				2				2		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		4	4	20			2	30	24	27
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									1	9
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			359	1,232	2,612	850	453	1,423	6,929	3,956	7,616
前月			219	469	1,891	464	291	620			
前年同月			381	1,440	2,919	986	572	1,320			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年2月

全国情報 (1月28日～2月24日)

第5週(1月28日～)から第8週(～2月24日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の2月の上位6疾患の合計は142.53で、1月119.21よりも増加した。増加の原因はインフルエンザ(1月1位75.00)であるが、4週36.44をピークに減少している。今シーズンの流行規模は過去5年間では平均よりもやや大きい。感染性胃腸炎(同2位27.69)は軽度増加し、2週以降は7～8台で大きな変動なく推移しているが、過去5年間の平均よりも少ない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同4位5.51)も増加し週ごとの変化は小さい。水痘(同3位6.05)、マイコプラズマ肺炎(同5位2.60)、流行性角結膜炎(同7位2.00)、RSウイルス感染症(同6位2.36→2月8位1.72)は減少した。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ		35.82	26.70	16.31	13.90	92.73
2	感染性胃腸炎		7.77	7.75	7.29	8.81	31.62
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.87	1.99	1.67	2.20	7.73
4	水痘		0.98	1.29	1.04	1.28	4.59
5	マイコプラズマ肺炎		0.77	0.56	0.48	0.49	2.30
6	突発性発疹		0.46	0.46	0.41	0.45	1.78
	流行性角結膜炎		0.50	0.47	0.39	0.42	1.78

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の2月の上位6疾患の合計は163.03で、1月103.97よりも大きく増加し全国を上回った。この原因はインフルエンザ(1月1位43.77)の増加であり、全国よりも遅れて増加しピークは5週32.00と高くないが減少が緩やかである。感染性胃腸炎(同2位41.24)は減少しているが全国よりも多い。RSウイルス感染症(同4位5.47)は増加し全国の4倍以上である。逆に水痘(同3位8.43)は大きく減少したが全国よりも僅かに多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同6位2.17)は1月と同様に全国の約1/3に留まっている。マイコプラズマ肺炎(同2.89)は全国とほぼ同じである。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ		32.00	29.44	25.33	22.71	109.48
2	感染性胃腸炎		9.87	9.60	7.53	8.77	35.77
3	RSウイルス感染症		2.73	1.97	1.43	1.50	7.63
4	水痘		1.40	1.33	1.57	0.83	5.13
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.63	0.93	0.53	0.67	2.76
6	マイコプラズマ肺炎		0.63	1.25	0.13	0.25	2.26

2. 全体の傾向

麻しんと風しんの報告無し。インフルエンザはA型B型共に流行しており、急激に増加した後、徐々に減少している。感染性胃腸炎と共に今後の流行継続期間に注意すべきである。百日咳の流行は終息した。RSウイルス感染症は全国1位と多いが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と突発性発疹は下から3位と少ない。流行性耳下腺炎は2か月連続で非常に少ない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 5,255名(1月2,101名)。今シーズンのピークは2月で、過去10年間では中程度の報告数である。地域別定点あたり人数と(報告数)は、幡多144.88(1,159名)、中央西131.20(656名)、高知市113.63(1,818名)、高幡95.25(381名)、中央東85.92(945名)、安芸74.00(296名)である。年齢別では、5～9歳1,170名、10～14歳891名、1～4歳887名、30～39歳484名、20～29歳326名の順である。ウイルスはAH3(香港)16件、BNT8件、B/Victoria7件が検出された。週報のインフルエンザ迅速検査結果では、A型とB型の比率は県全体では2.2:1であるが、高幡は1.3:1とB型の比率が高く、幡多は10:1とA型の比率が高い。

2) 咽頭結膜熱

報告数 6名(1月1名)。4～5月までは少ない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 83名(1月65名)。冬季に増加する疾患であるが今シーズンは少なく、定点あたり報告数2.76は沖縄2.63、和歌山2.71に次いで少ない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,073名(1月1,242名)。12月2,022名をピークに減少しているが、3か月連続で4桁である。3～4月に再上昇することが多い。ウイルスはRota AG1とRota AG9が各1件検出された。

5) 水痘

報告数 154名(1月253名)。大きく減少し

たが、増減しながら7月頃まで3桁が続く。

6) 手足口病

報告数 28名(1月7名)。幡多から24名の報告があり、この時期としては異例の急な増加である。

7) 伝染性紅斑

報告数 9名(1月10名)。昨年前半の流行から徐々に減少し、2010年11月3名以来の1桁である。

8) 突発性発疹

報告数 28名(1月44名)。過去10年間で最も少ない。定点あたり報告数0.94は山梨県0.46に次いで少ない。

9) 百日咳

報告数 1名(1月4名)。報告数1名は2011年5月以来であり、昨年の流行が終息した。

10) ヘルパンギーナ

報告数 1名(1月0名)。例年4月頃までは1桁である。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 9名(1月8名)。2か月連続で1桁と非常に少なく、全国も過去10年間で最も少ない。

12) RSウイルス感染症

報告数 229名(1月167名)。今シーズン最

多であるが、過去3シーズンの300名/月以上には及ばない。定点あたり報告数7.63は、2位徳島県4.61を大きく上回り全国1位である。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(1月1名)。2009年2月以降では2桁の月は3回のみである。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 18名(1月24名)。12月46名から徐々に減少し、20名以下となるのは2012年4月9名以来であり、今後の推移に注目したい。Mycoplasma pneumoniaeが3件検出された。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 30名(1月24名)。増加したが20～40名程度の変動範囲内である。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(1月1名)。2004年をピークに減少し、2012年5月以降は0～3名と少ない。(最も多かったのは2004年2月53名)

高知県感染症発生動向調査部会

会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
2	結核									136	148	164	151	192	131	24	946
	計									136	148	164	151	192	131	24	946
3	コレラ	1					1						1				3
	バラチフス	2															2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								25
	腸チフス		1						1								2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	1	148
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	1	180	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3				28
	Q熱	1	1	2				1									5
	オウム病			1		1											2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	64
	マラリア									2					1		3
	レジオネラ症			2		1		1			9	7	3	6	9		38
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4		118
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1				6
	レプトスピラ症											1		4	2		7
	E型肝炎												1		1		2
	デング熱												1				1
計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24		274	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		24
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				26
	ジアルジア症			1	2	1					1			1	1		7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1						1						2
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1		14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3		35
	髄膜炎菌性髄膜炎									1							1
	破傷風			2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1	18
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10		98
	麻しん										5						5
	風しん										1	1			4		6
	計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29		298
新型	新型インフルエンザ										34						34
計											34						34
動物	鳥インフルエンザ												1				1
計													1				1
総計		61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	25	1,733

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

2月はウイルス108件、細菌35件の搬入があり、そのうちウイルス35件、細菌5件の病原体を検出し、また、平成25年1月に搬入された検体でウイルス28件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 11/35 1件、Herpes simplex virus 1 1件、Human herpes virus 6 1件、Human herpes virus 7 4件、Influenza virus AH 1 pdm09 2件、Influenza virusA H3 NT 30件、Influenza virusB NT 8件、Influenza virusB/Victoria 7件、Noro virus GI NT 1件、Rhinovirus 3件、Respiratory syncytial virusA 3件、Rota virus group AG1 1件、Rota virus group AG9 1件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 1件、*Mycoplasma pneumoniae* 4件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.5	Influenza virus A H3 NT
2	10	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1.8	Influenza virus A H3 NT
3	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.9	Influenza virus A H1pdm09
4	4	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.11	Influenza virus A H3 NT
5	9	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H1pdm09
6	7	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	1.15	Herpes simplex virus 1
7	1	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H3 NT
8	6	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.22	Influenza virus B/Victoria
9	9	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.23	Influenza virus A H3 NT
10	4	女	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.23	Norovirus GI NT
11	1	女	気管支炎	39℃, 気管支炎,	ぬぐい液	1.24	Rhinovirus
12	12	男	インフルエンザ	39℃, 腹痛, 咳漱,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus A H3 NT
13	10	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus A H3 NT
14	9	男	インフルエンザ	40℃, 嘔気, 腹痛, 咳漱,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus B/Victoria
15	5	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.24	Rhinovirus
16	3	女	出血性膀胱炎 (アデノウイルス、BKウイルス疑)	血尿	尿	1.24	Adenovirus 11/35
17	3	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.25	Influenza virus A H3 NT
18	12	男	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1.25	Influenza virus A H3 NT
19	3	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	1.25	Influenza virus B/Victoria
20	4	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.26	Influenza virus A H3 NT
21	10	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.26	Influenza virus A H3 NT
22	0	男	肺炎、無呼吸	38℃, 咳漱, 気管支炎, 肺炎,	ぬぐい液	1.26	Respiratory syncytial virus A
23	1	男	ウイルス性発疹症	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.27	Respiratory syncytial virus A
24	1	女	—	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.28	Respiratory syncytial virus A
25	4	男	インフルエンザ	40℃, 嘔気, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.28	Influenza virus A H3 NT
26	1	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.28	Influenza virus A H3 NT
27	7	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.28	Influenza virus B/Victoria
28	47	女	インフルエンザ	38℃, 関節痛,	ぬぐい液	1.29	Influenza virus A H3 NT
29	11	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.29	Influenza virus A H3 NT
30	7	女	咽頭炎、喘息	咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.29	Rhinovirus
31	9	女	—	39℃, 四肢体幹に点状出血	ぬぐい液	1.30	Human herpes virus 7
32	1	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	1.30	Influenza virus A H3 NT
33	8	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.31	Influenza virus A H3 NT
34	15	男	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1.31	Influenza virus B/Victoria

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
35	5	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.1	Influenza virus A H3 NT
36	1	女	マイコプラズマ	40℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	2.1	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
37	1	男	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	—	2.1	Rotavirus group A G1
38	10ヶ月	女	急性肺炎	39℃, 下痢, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	2.2	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
39	4	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.4	Influenza virus A H3 NT
40	8	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.4	Influenza virus A H3 NT
41	6	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.4	Influenza virus B/Victoria
42	8	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	2.4	Human herpes virus 7
43	1	女	突発性発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	2.6	Human herpes virus 6
44	9	男	不明発疹症	嘔吐, 嘔気, 腹痛, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	2.6	Human herpes virus 7
45	9	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	2.7	Rotavirus group A G9
46	10	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2.8	Influenza virus A H3 NT
47	5	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.8	Influenza virus A H3 NT
48	3	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.9	Influenza virus A H3 NT
49	4	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	2.9	Influenza virus B/Victoria
50	11	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	2.9	Human herpes virus 7
51	13	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.12	Influenza virus A H3 NT
52	6	男	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	2.12	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
53	12	男	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.14	Influenza virus B NT
					血清		
54	9	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus A H3 NT
55	9	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus B NT
56	1	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus B NT
57	7	女	マイコプラズマ	40℃, 肺炎,	ぬぐい液	2.15	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
58	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus A H3 NT
59	7	男	インフルエンザ	39℃, 腹痛, 咳漱,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus A H3 NT
60	10	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	2.16	<i>Bordetella pertussis</i>
61	8	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus B NT
62	7	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus A H3 NT
63	6	男	インフルエンザ	40℃, 関節痛, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus A H3 NT
64	2	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus B NT
65	9	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus B NT
66	7	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus B NT
67	6	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.19	Influenza virus A H3 NT

高知県感染症情報 2013年 3月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		188	780	931	377	293	882	3,451	5,255	1,761
小児科	咽頭結膜熱				10		1		11	6	6
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12	22	35	34	7	13	123	83	354
	感染性胃腸炎		57	210	641	80	90	211	1,289	1,083	987
	水痘		20	40	62	16	9	44	191	154	222
	手足口病			1				9	10	28	3
	伝染性紅斑				7	1			8	9	83
	突発性発疹			2	18	9	4	10	43	29	58
	百日咳				5				5	1	21
	ヘルパンギーナ									1	3
	流行性耳下腺炎			6	4		1	1	12	9	103
	RSウイルス感染症			15	67	7	2	17	108	229	130
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									1	3
STD	性器クラミジア感染症				2				2	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									1	1
	尖圭コンジローマ										2
	淋菌感染症										1
基幹	細菌性髄膜炎			1	1				2		1
	無菌性髄膜炎										1
	マイコプラズマ肺炎			8	20				28	18	12
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				1				1	2	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	4	14			6	26	30	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				2				2		8
	薬剤耐性緑膿菌感染症				1				1		1
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			279	1,089	1,821	524	407	1,193	5,313	6,940	3,787
前月			359	1,232	2,623	850	453	1,423			
前年同月			131	615	1,780	443	322	496			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年3月

全国情報 (2月25日～3月31日)

第9週(2月25日～)から第13週(～3月31日)までの13週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の3月の上位6疾患の合計は110.14で、2月178.16(5週に補正、以下同じ)よりも大幅に減少した。その原因は、インフルエンザ(2月1位115.91)が大きく減少したことであり、第4週36.44をピークに週毎に減少している。感染性胃腸炎(同2位39.53)は増加し、第10週は今年の最高値である。(今シーズンの最高値は昨年49週19.62)3位以下の疾患の順位は2月と変わらず、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同3位9.66)、水痘(同4位5.74)、マイコプラズマ肺炎(同5位2.88)、突発性発疹(同6位2.23)の順で報告数も大きな変動はない。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	感染性胃腸炎		9.59	10.39	10.18	8.81	8.00	46.97
2	インフルエンザ		12.26	10.37	8.13	6.75	4.38	41.89
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.23	2.37	2.28	1.95	1.69	10.52
4	水痘		1.06	1.23	1.08	1.16	1.18	5.71
5	マイコプラズマ肺炎		0.51	0.50	0.53	0.58	0.48	2.60
6	突発性発疹		0.47	0.48	0.50	0.49	0.51	2.45

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の3月の上位6疾患の合計は132.44で、2月203.79(5週に補正、以下同じ)から大きく減少したが、全国よりもかなり多い。インフルエンザ(2月1位136.85)は約1/2に減少したが、全国の1.7倍とまだ多いことがその原因である。しかし、週毎の減少傾向をみると、全国よりも急激で第13週は全国とほぼ同じ報告数となっている。感染性胃腸炎(同2位44.71)は横ばいで、第4週12.63が今年の最高値であったが、第12週からの減少傾向は全国よりも著しい。水痘(同4位6.41)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同5位3.45)、マイコプラズマ肺炎(同6位2.83)は小幅な変動であるが、RSウイルス感染症(同3位9.54)は大きく減少した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3か月連続で全国の1/2以下である。逆に、RSウイルス感染症は、全国2月8位2.15、3月8位1.55と比較して3か月連続で2倍以上と多い。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ		25.21	19.77	12.94	9.75	4.23	71.90
2	感染性胃腸炎		9.47	9.37	9.87	7.83	6.43	42.97
3	水痘		1.00	1.43	1.63	1.43	0.87	6.36
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.37	0.90	0.53	0.73	0.57	4.10
5	RSウイルス感染症		1.17	0.87	0.73	0.43	0.40	3.60
6	マイコプラズマ肺炎		0.50	1.00	0.50	0.88	0.63	3.51

2. 全体の傾向

麻しんと風しんの報告無し。今年の累積報告数はそれぞれ62例、2,021例(全国の感染症週報第12週)で、関東地方を中心に風しんの流行があり先天性風疹症候群が発生している。妊娠を希望されている女性のうち、抗体のない方はすぐに予防接種をすべきである。現在、風しん単独の予防接種は手に入らないため麻しん・風しん混合の予防接種を受けてほしい。抗体がある人が接種しても害はなく、免疫がアップして有効である。冬型感染症であるインフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症が終息に向かっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・水痘・マイコプラズマ肺炎はまだ多い。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3,451名(2月5,255名)。定点あたりの報告数は、幡多110.26、中央西75.40、高幡73.25、中央東70.90、高知市58.20、安芸47.00の順で、県西部で多い。高知県では第12週(9.75)に注意報値(10)を下回り、第13週(4.23)には総ての地域で注意報値を下回った。今後、終息に向かうが4月の減少幅が気になるところである。ウイルス型別では、AH3 NT4件、B NT2件、B/Victoria6件、B/Yamagata1件が検出された。週報による迅速検査の報告によると、第6週から報告総数は減少し、B型の比率が高くなっている。

2) 咽頭結膜熱

報告数 11名(2月6名)。増加するのは6月頃であることが多い。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 123名(2月83名)。増加したが今シーズンの報告数は少ない。血清型はT-12とT-28が各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,289名(2月1,083名)。1月と同程度まで増加したが、週毎の報告数は減少傾向にあるため4月は減少に転じると推測される。ウ

イルスは Noro GII NT が 5 件, Rota AG1 が 1 件, Sapovirus が 5 件検出された。

5) 水痘

報告数 191 名(2月 154 名)。例年程度であり、夏休み頃まで 3 桁の報告数が続く。

6) 手足口病

報告数 10 名(2月 28 名)。2 月は非流行期にしては多かったが、今月は通常に戻った。

7) 伝染性紅斑

報告数 8 名(2月 9 名)。非流行期であり、しばらくの間この程度で推移するであろう。

8) 突発性発疹

報告数 43 名(2月 29 名)。非常に少なかった 2 月に比べ、通常の報告数となった。

9) 百日咳

報告数 5 名(2月 1 名)。昨年の流行が終息し、12 月以降 1 桁で推移している。Bordetella pertussis が 1 件検出された。

10) ヘルパンギーナ

報告数 0 名(2月 1 名)。1 月 0 名であり、非流行期にしても過去 10 年間でこれほど少ないことは無い。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 12 名(2月 9 名)。1 月 8 名、過去 10

年間で報告数が 1 桁は無く、今月も同程度に少ない。

12) RS ウイルス感染症

報告数 108 名(2月 229 名)。大きく減少し終息に向かっている。今シーズンは流行の開始が 9 月(75 名)と早く、ピークは 2 月 229 名と高くなかったが継続期間が長い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0 名(2月 1 名)。1 月 1 名、3 か月連続で非常に少ない。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 28 名(2月 18 名)。再び増加し、高知県では昨年同期よりも多いが、全国では昨年同期の 7~8 割に減少している。Mycoplasma Pneumoniae が 1 件検出された。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 26 名(2月 30 名)。ペニシリン耐性肺炎球菌とは異なり、一定の報告数が持続している。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 2 名(2月 0 名)。昨年・今年と非常に少ないが、これは全国も同様である。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年																								総計			
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25													
2	結核																									956			
	計																									956			
3	コレラ	1																								3			
	バラチフス	2																								2			
	細菌性赤痢	11	4	2			3	1	2	2															25				
	腸チフス	1																								2			
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	1	148												
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	1	180												
4	A 型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3	28							
	Q 熱	1	1	2																								5	
	オウム病				1																								2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	64												
	マラリア											2											3						
	レジオネラ症				2			1			1											39							
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	15	4	118														
	日本脳炎	1	1	1																								6	
	レプトスピラ症												1	1											7				
	E 型肝炎													1	1											2			
	デング熱													1											2				
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	2	276												
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1											24							
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3			53													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4			4	3	3							6	1	3	26										
	ジアルジア症				1	2	1											7											
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1																								2
	急性脳炎											1	2	6	3	1	14												
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1											9											
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	35													
	髄膜炎菌性髄膜炎											1											1						
	破傷風			2	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	18												
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	98													
	麻しん											5											5						
	風しん											1	1											6					
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	298													
新型	新型インフルエンザ																									34			
計																									34				
動物	鳥インフルエンザ																								1				
計																								1					
総計																									1,745				

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

3月はウイルス71件、細菌24件の搬入があり、そのうちウイルス48件、細菌4件の病原体を検出し、また、平成25年2月に搬入された検体でウイルス30件、細菌2件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Adeno virus 2/6 2件、Adeno virus 5 1件、Coxsackie virus B4 2件、Coxsackie virus B5 1件、Human herpes virus 6 5件、Human herpes virus 7 5件、Human metapneumo virus 2件、Influenza virus AH3 NT 15件、Influenza virusB NT 3件、Influenza virusB/Victoria 11件、Influenza virusB/Yamagata 2件、Noro virus G II NT 6件、Rhinovirus 11件、Respiratory syncytial virusA 2件、Respiratory syncytial virus 1件、Rota virus group AG1 1件、Rota virus group ANT 1件、Sapo virus genogroup unknown 6件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 1件、*Campylobacter coli* 1件、*Mycoplasma pneumoniae* 1件、*Streptococcus pyogenes T1* 1件、*Streptococcus pyogenes T12* 1件、*Streptococcus pyogenes T28* 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	3	女	上気道炎	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.9	Influenza virus A H3 NT
2	1	男	急性咽頭炎	42℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	2.9	Respiratory syncytial virus
3	1	男	急性気管支炎	40℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻咽腔	2.12	Rhinovirus
4	12	男	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.14	Influenza virus B/Victoria
					血清	2.14	
5	9	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus B/Victoria
6	1	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus B/Victoria
7	9	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus A H3 NT
8	7	男	インフルエンザ	39℃, 腹痛, 咳漱,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus A H3 NT
9	8	女	上気道炎	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus B/Victoria
10	7	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus B/Victoria
11	6	男	インフルエンザ	40℃, 関節痛, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus A H3 NT
12	7	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.18	Influenza virus A H3 NT
13	3	女	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐,	ぬぐい液	2.18	<i>Campylobacter coli</i>
14	10	男	不明発疹症	咳漱, 発疹,	ぬぐい液	2.18	Human herpes virus 7
15	9	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.19	Rhinovirus
16	4	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.19	Rhinovirus
17	6	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.19	Influenza virus A H3 NT
18	3	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.19	Influenza virus A H3 NT
19	2	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2.20	Influenza virus B/Yamagata
20	9	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	2.20	Rotavirus group A NT
21	5	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.21	Influenza virus A H3 NT
22	4	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2.21	Rhinovirus
23	8	女	気管支炎	38℃, 下気道炎,	鼻咽腔ぬぐい液	2.21	Rhinovirus
24	2	女	熱性痙攣	39℃, 口内炎, 中枢神経系障害,	髄液	2.21	Human herpes virus 7
25	2	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.22	Influenza virus A H3 NT
26	16	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	2.22	Sapovirus genogroup unknown
27	8	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃,	ぬぐい液	2.23	<i>Streptococcus pyogenes T1</i>
28	2	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.23	Influenza virus A H3 NT
29	1	男	不明発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	2.25	Human herpes virus 6
30	7	女	下気道炎	37℃, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	2.25	Rhinovirus

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
31	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	後鼻腔ぬぐい液	2. 25	Influenza virus B NT
							Influenza virus A H3 NT
32	6	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2. 27	Influenza virus B/Victoria
33	9	女	インフルエンザ	38℃, 嘔吐, 咳漱,	ぬぐい液	2. 27	Influenza virus B NT
34	9ヶ月	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2. 27	Rhinovirus
35	0ヶ月	男	細菌性髄膜炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	髄液	2. 28	Coxsackievirus B5
36	11	男	感染性胃腸炎	37℃,	ふん便	2. 27	Norovirus GII NT
37	39	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	2. 27	Sapovirus genogroup unknown
38	1	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	2. 27	Sapovirus genogroup unknown
							Norovirus GII NT
39	1	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	3. 1	Rotavirus group A G1
40	1	女	上気道炎	38℃, 上気道炎,		3. 2	Respiratory syncytial virus A
41	6	男	インフルエンザ	39℃, 下痢,	ぬぐい液	3. 2	Influenza virus B/Victoria
42	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	3. 2	Sapovirus genogroup unknown
43	1	男	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	3. 2	Adenovirus 1
44	9ヶ月	女	下気道炎	39℃, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	3. 4	Human metapneumovirus
45	12	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3. 4	Influenza virus B/Victoria
46	10ヶ月	男	急性肺炎	38℃,	ぬぐい液	3. 4	Human metapneumovirus
47	2	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	3. 4	Human herpes virus 6
48	20	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	3. 5	Influenza virus B/Yamagata
49	5	女	リンゴ病疑い	39℃, 発疹,	ぬぐい液	3. 6	Human herpes virus 7
50	13	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3. 6	Influenza virus B/Victoria
51	1	男	—	39℃,	ぬぐい液	3. 7	Coxsackievirus B4
52	4	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	上気道炎,	ぬぐい液	3. 8	<i>Streptococcus pyogenes T12</i>
53	9	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	3. 8	Influenza virus A H3 NT
54	3ヶ月	女	百日咳	咳漱,	鼻腔ぬぐい液	3. 8	<i>Bordetella pertussis</i>
55	9ヶ月	男	インフルエンザ	40℃, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	3. 9	Influenza virus A H3 NT
56	13	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3. 9	Influenza virus B/Victoria
57	11	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃,	ぬぐい液	3. 11	<i>Streptococcus pyogenes T28</i>
58	9	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	3. 11	Influenza virus B NT
59	1	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	3. 11	Norovirus GII NT
60	5	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	3. 11	Human herpes virus 7
61	10	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	3. 12	Coxsackievirus B4
62	34	男	インフルエンザ	37℃, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 12	Influenza virus B/Victoria
63	4	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3. 12	Rhinovirus
64	1	女	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	3. 12	Human herpes virus 6
65	2	男	上気道炎	39℃, 上気道炎,	鼻汁	3. 13	Adenovirus 5
66	2	女	—	下痢,	ふん便	3. 13	Norovirus GII NT
67	1	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	3. 13	Influenza virus A H3 NT
68	2	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 13	Influenza virus A H3 NT
69	3	男	不明熱	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 15	Respiratory syncytial virus A
70	2	男	下気道炎	38℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻咽頭	3. 16	Rhinovirus
71	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	3. 16	Sapovirus genogroup unknown
							Adenovirus 2/6

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
72	1	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	3.18	Human herpes virus 6
							Human herpes virus 7
							Adenovirus 2/6
73	5	女	下気道炎	38℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	3.18	Rhinovirus
74	7	男	マイコプラズマ肺炎	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	3.18	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
75	6ヶ月	男	下気道炎	37℃, 下気道炎,	ぬぐい液	3.19	Rhinovirus
76	9ヶ月	男	川崎病	40℃,	鼻腔	3.19	Human herpes virus 6
77	11	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	3.25	Norovirus GII NT
78	0	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	3.25	Norovirus GII NT
79	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	3.26	Sapovirus genogroup unknown

高知県感染症情報 2013年 4月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		9	21	63	18	27	140	278	3,451	1,194
小児科	咽頭結膜熱			1	7			2	10	11	2
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	6	30	9	7	7	64	123	164
	感染性胃腸炎		42	135	489	69	25	111	871	1,289	1,034
	水痘		8	22	70	12	8	31	151	191	278
	手足口病									10	2
	伝染性紅斑			2	6	1			9	8	103
	突発性発疹			6	20	5	6	9	46	43	40
	百日咳				2	1	10		13	5	33
	ヘルパンギーナ				1				1		2
	流行性耳下腺炎		1	21	8			1	31	12	67
	RSウイルス感染症		1		8	3	1		13	108	11
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				2				2		4
STD	性器クラミジア感染症				4			1	5	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症				1				1		
	尖圭コンジローマ										3
	淋菌感染症				2				2		
基幹	菌性髄膜炎				1				1	2	1
	無菌性髄膜炎				1				1		7
	マイコプラズマ肺炎			6	16			1	23	28	13
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				3				3	1	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	6	17			4	29	26	26
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	1	1				3	2	4
	薬剤耐性緑膿菌感染症									1	
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計		69	227	752	118	84	307	1,557	5,313	2,990	
前月		279	1,089	1,821	524	407	1,193				
前年同月		134	383	1,394	427	307	345				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2013年4月

全国情報（4月1日～4月28日）

第14週（4月1日～）から第17週（～4月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の4月の上位6疾患の合計は57.93で、1月119.21、2月142.53、3月88.11（4週に補正、以下同じ）と推移している。感染性胃腸炎（3月1位37.58）は14週まで減少し、その後増加したため軽度の減少に留まっている。インフルエンザ（同2位33.51）は15週まで減少した後、僅かに増加しているが、3月の1/3と大幅に減少した。過去10年間をみると、14～15週で早期に終息する年と19週以降と遅れる年があるが、今年はこれらの中で推移している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位8.42）、水痘（同4位4.57）は減少したが、突発性発疹（同6位1.96）、流行性角結膜炎（同7位1.87）は増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		6.95	7.01	8.10	8.84	30.90
2	インフルエンザ		2.80	2.00	2.89	3.07	10.76
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.45	1.62	2.10	2.19	7.36
4	水痘		1.14	1.06	1.01	1.14	4.35
5	突発性発疹		0.54	0.55	0.61	0.64	2.34
6	流行性角結膜炎		0.50	0.56	0.59	0.57	2.22

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の4月の上位6疾患の合計は46.40で、1月103.97、2月163.03、3月105.95（4週に補正、以下同じ）と推移しており全国よりも増減幅が大きい。感染性胃腸炎（3月2位34.38）はやや減少したが、全国と同様に第14週まで減少した後は増加傾向にある。インフルエンザ（同1位57.52）は1/10に減少し全国の約1/2と少ないが、週毎の減少傾向は明らかではない。水痘（同3位5.09）、マイコプラズマ肺炎（同6位2.81）は横ばいで、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同4位3.28）は減少し、突発性発疹（同7位1.14）は増加した。全国と比較すると、A群溶血性レンサ球菌は極端に少なく、突発性発疹も少ないが、マイコプラズマ肺炎は全国7位1.93よりもかなり多い。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		5.73	7.13	6.40	9.77	29.03
2	インフルエンザ		1.52	1.29	1.81	1.17	5.79
3	水痘		1.77	1.13	1.13	1.00	5.03
4	マイコプラズマ肺炎		0.50	0.88	1.00	0.50	2.88
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.37	0.57	0.47	0.73	2.14
6	突発性発疹		0.40	0.33	0.43	0.37	1.53

2. 全体の傾向

麻しんと風しんの報告無し。関東地方の風しんの流行は続いており、免疫のない方は予防接種を受け、先天性風疹症候群や合併症を予防すべきである。

インフルエンザは終息に向かっていているが、定点あたり報告数1以上が4週間持続している。感染性胃腸炎は減少したが急激な減少ではなく、ウイルスはRotavirusのみならずNorovirusも検出されている。RSウイルス感染症は終息した。百日咳とマイコプラズマ肺炎の流行は続いている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 278名（3月3,451名）。急激に減少して終息に向かっていているが、定点あたり報告数は流行の目安である1以上が4週間続いている。幡多からの報告が140名と多い。週報によるとB型の割合が増加し、第17週はB型が9割を占めている。ウイルスはB/Yamagataが1件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名（3月11名）。6月頃から増加する疾患である。過去2年間の冬季の報告数が少なかったため、今年は流行する可能性がある。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 64名（3月123名）。今年の冬から春の報告数は少なかった。血清型はT-4とTB3264が各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 871名（3月1,289名）。4か月連続4桁から3月は3桁となり、今後も秋まで減少する。11月から4月までの報告数は7,339名で、今シーズンの流行規模は中程度である。ウイルスは、Norovirus GII NTが5件、Rotavirus AG1が4件、Sapovirusが5件、細菌はCampylobacter jejuniが1件検出された。

5) 水痘

報告数 151名（3月191名）。今シーズンは12月363名がピークで、夏休み頃には2桁に減少する。

6) 手足口病

報告数0名(3月10名). 2月28名, 3月10名で, この時期としてはやや多かったが, 今月は非流行期の通常の報告数に戻った. 2010年と2011年の2年連続大流行後, この1年余り報告数が少ない.

7) 伝染性紅斑

報告数 9名(3月8名). 2011年と2012年が多かったのが, 今後2年間程度は少ないと推測される.

8) 突発性発疹

報告数 46名(3月43名). 40名台の通常の報告が続いている.

9) 百日咳

報告数 13名(3月5名). 12月~3月まで5名以下であったが急増し, 定点あたり0.43は全国で最も多い. 須崎から10名報告されており, 地域的な流行と推測される. Bordetella pertussis が10件検出された.

10) ヘルパンギーナ

報告数 1名(3月0名). 1月から4か月連続で0~1名と非常に少ない.

11) 流行性耳下腺炎

報告数 31名(3月12名)に増加し, 通常の

非流行期の20~30名の報告数に戻った.

12) RSウイルス感染症

報告数 13名(3月108名). 3月5位定点あたり3.60から4月9位0.43に減少し, 9月から始まった今シーズンの長い流行が終息した.

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名(3月0名). 増加傾向はみられない.

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 23名(3月28名). 全国では2011年半ばから続いている大流行が下火になっているが, 高知県では減少傾向は明らかではない. Mycoplasma pneumoniae が3件検出された.

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 29名(3月26名). 20~30名の報告で大きな変動はみられない.

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 3名(3月2名). 以前の10~20名と比較して, 2012年4月以降は0~4名で少ない.

高知県感染症発生動向調査部会

会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年														総計		
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		25	
2	結核										136	148	164	151	192	131	47	969
	計										136	148	164	151	192	131	47	969
3	コレラ	1					1						1					3
	パラチフス	2																2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2									25
	腸チフス		1						1									2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	1	1	148
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	1	1	180	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						28
	Q熱	1	1	2				1										5
	オウム病			1		1												2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8		64
	マラリア								2					1				3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	1		39
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4			118
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1					6
	レプトスピラ症											1		4	2			7
	E型肝炎												1		1			2
	デング熱												1				1	2
	重症熱性血小板減少症候群																1	1
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	3	3	277
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3				24
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					26
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1			7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							2
	急性脳炎							1	1	2	6		3	1				14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1			1		1		1	1	3			9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3			35
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	1
	髄膜炎菌性髄膜炎										1							1
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1			18
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	1		99
	麻しん										5							5
	風しん										1	1			4			6
	計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	2	2	300
新型	新型インフルエンザ										34						34	
動物	鳥インフルエンザ												1				1	
計													1				1	
総計		61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	53	1,761	

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

4月はウイルス70件、細菌39件の搬入があり、そのうちウイルス33件、細菌18件の病原体を検出し、また、平成25年2月、3月に搬入された検体でウイルス15件、細菌1件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 1 1件、Adenovirus 2 1件、Adenovirus 2/6 3件、Coxsackievirus B5 1件、Human herpes virus 6 1件、Human herpes virus 7 1件、Human metapneumo virus 4件、Influenza virus AH3 NT 6件、Influenza virus B/Victoria 2件、Influenza virus B/Yamagata 1件、Norovirus GII NT 6件、Parainfluenza virus 3 3件、Rhinovirus 5件、Respiratory syncytial virus A 2件、Rota virus group AG1 5件、Sapovirus genogroup unknown 6件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 10件、*Campylobacter jejuni* 1件、*Mycoplasma pneumoniae* 4件、*Staphylococcus aureus* I 1件、*Streptococcus pyogenes* T4 2件、*Streptococcus pyogenes* TB3264 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus A H3 NT
2	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.21	Influenza virus A H3 NT
3	11	女	インフルエンザ	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.22	Influenza virus A H3 NT
4	2	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.25	Influenza virus A H3 NT
5	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.25	Influenza virus A H3 NT
6	9	女	インフルエンザ	38℃, 嘔吐, 咳漱,	ぬぐい液	2.27	Influenza virus B/Victoria
7	1	女	熱性けいれん	39℃, 中枢神経系障害,	鼻咽頭	3.7	Parainfluenza virus 3
8	9	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	3.11	Influenza virus B/Victoria
9	2	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3.13	Influenza virus A H3 NT
10	6	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃,	ぬぐい液	3.15	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4
11	38	女	上気道炎	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	3.19	Parainfluenza virus 3
12	9ヶ月	男	川崎病	40℃,	鼻腔	3.19	Rhinovirus
13	1	女	流行性角結膜炎	40℃,	ぬぐい液	3.19	Adenovirus 2
14	2	男	肺炎	40℃, 下気道炎, 肺炎,	鼻咽腔	3.22	Human metapneumovirus
15	1	女	下気道炎	38℃, 下気道炎,	ぬぐい液	3.25	Human metapneumovirus
16	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	3.26	Coxsackievirus B5
17	1	男	不明発疹症	38℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	3.27	Rhinovirus
18	7ヶ月	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3.27	Influenza virus B/Yamagata
19	1	女	-	40℃, 発疹,	ぬぐい液	3.29	Adenovirus 1
20	1	女	-	39℃,	ぬぐい液	3.29	Adenovirus 2/6
21	1	女	-	40℃,	ぬぐい液	3.29	Adenovirus 2/6
22	10ヶ月	男	気管支炎	38℃, 気管支炎,	鼻汁	3.29	Respiratory syncytial virus A
23	4	女	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	3.30	Norovirus GII NT
24	3	男	感染性胃腸炎	下痢, 腹痛,	ふん便	3.30	<i>Campylobacter jejuni</i>
25	1	男	ヘルパンギーナ様	38℃,	鼻汁	4.1	Adenovirus 2/6
26	1	女	気管支炎	38℃, 咳漱, 気管支炎,	鼻咽腔ぬぐい液	4.2	Rhinovirus
27	2	男	下気道炎	38℃, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	4.2	Rhinovirus
28	1ヶ月	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.2	<i>Bordetella pertussis</i>
29	3	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	4.3	Norovirus GII NT
30	5	女	肺炎 (ウイルス性)	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	4.4	Human metapneumovirus
31	1	男	不明発疹症	41℃,	ぬぐい液	4.5	Human herpes virus 6

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
32	1	男	上気道炎	39℃, 上気道炎,	鼻汁	4.5	Human metapneumovirus
							Rhinovirus
33	9	男	上気道炎	39℃, 上気道炎,	鼻汁	4.5	Parainfluenza virus 3
34	3	男	気管支喘息	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	4.5	Respiratory syncytial virus A
35	1	男	腸炎	下痢,	ふん便	4.5	<i>Staphylococcus aureus I</i>
36	9	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.5	<i>Bordetella pertussis</i>
37	8	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,	ぬぐい液	4.6	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>
38	6	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.6	Sapovirus genogroup unknown
39	10	女	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	4.8	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
40	7	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.8	<i>Bordetella pertussis</i>
41	4	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.9	<i>Bordetella pertussis</i>
42	9	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.10	<i>Bordetella pertussis</i>
43	7	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.10	<i>Bordetella pertussis</i>
							<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
44	4	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃, 上気道炎, 気管支炎,	ぬぐい液	4.11	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>
45	1	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.11	Norovirus GII NT
46	4ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.11	Rotavirus group A G1
47	4	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.12	Sapovirus genogroup unknown
48	5	男	マイコプラズマ肺炎	咳漱,	ぬぐい液	4.15	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	67	男	感染性胃腸炎	-	ふん便	4.15	Rotavirus group A G1
50	8	男	伝染性紅斑	38℃,	-	4.15	Human herpes virus 7
51	10ヶ月	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.15	<i>Bordetella pertussis</i>
52	6	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.15	<i>Bordetella pertussis</i>
53	3	女	上気道炎	40℃, 咳漱, 上気道炎, 発疹, 肝機	ふん便	4.16	Sapovirus genogroup unknown
54	2	女	感染性胃腸炎	39℃,	ふん便	4.16	Rotavirus group A G1
55	10ヶ月	男	-	38℃, 下痢,	ふん便	4.22	Rotavirus group A G1
56	6	男	気管支炎	39℃, 気管支炎,	ぬぐい液	4.22	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
57	7	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.22	Norovirus GII NT
58	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 気管支炎,	ふん便	4.22	Rotavirus group A G1
59	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.22	Sapovirus genogroup unknown
60	5	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.22	Sapovirus genogroup unknown
61	39	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.22	<i>Bordetella pertussis</i>
62	1	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.22	<i>Bordetella pertussis</i>
63	3	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	4.23	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
64	6ヶ月	女	-	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	-	Norovirus GII NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2013年				2013年 総計
		1	2	3	4	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-1		1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4				1	2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-12			1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-28			1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264				1	1
	計		1	3	2	6
インフルエンザ	Coxsackievirus B4			1		1
	Influenza virus A H1pdm 09	4				4
	Influenza virus A H3 NT	22	31	5		58
	Influenza virus B NT	1	9	2		12
	Influenza virus B /Victoria	4	7	8		19
	Influenza virus B Yamagata		1	1	1	3
	Rhinovirus	1	3	2		6
	計	32	51	19	1	103
咽頭結膜熱	Rhinovirus		1			1
	計		1			1
感染性胃腸炎	Adenovirus 2/6			1		1
	Coxsackievirus B5			1		1
	Norovirus GI NT	1				1
	Norovirus GII NT	6		5	5	16
	Rotavirus group A NT		1			1
	Rotavirus group AG1		1	1	4	6
	Rotavirus group AG9		1			1
	Sapovirus genogroup unknown		1	5	4	10
	<i>Campylobacter coli</i>		1			1
<i>Campylobacter jejuni</i>				1	1	
	計	7	5	13	14	39
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2/6				1	1
	Herpes simplex virus	1				1
	Human herpes virus 7	1				1
	計	2			1	3
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i>		1	1	10	12
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4			1	5
	計	4	1	1	11	17
突発性発疹	Human herpes virus 6		1			1
	計		1			1
伝染性紅斑	Human herpes virus 7				1	1
	計				1	1
細菌性髄膜炎	Coxsackievirus B5			1		1
	計			1		1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	11	3	1	2	17
	計	11	3	1	2	17
流行性角結膜炎	Adenovirus 2			1		1
	計			1		1
その他	Adenovirus 1			1	1	2
	Adenovirus 5			1		1
	Adenovirus 2/6			1	2	3
	Adenovirus 11/35	1				1
	Adenovirus C	1				1
	Coxsackievirus B4			1		1
	Human herpes virus 6		1	4	1	6
	Human herpes virus 7		6	3		9
	Human metapneumovirus			4	2	6
	Influenza virus A H3 NT		1			1
	Influenza virus B /Victoria		1			1
	Norovirus GII NT	1		1	1	3
	Parainfluenza virus 3			2	1	3
	Respiratory syncytial virus		1			1
	Respiratory syncytial virus A	5		2	2	9
	Rhinovirus	4	3	4	4	15
	Rotavirus group AG1				1	1
	Rotavirus group AG9	1				1
	Sapovirus genogroup unknown				2	2
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1		1	2
<i>Staphylococcus aureus</i> I				1	1	
	計	13	14	24	19	70
総計		69	77	63	51	260

高知県感染症情報 2013年 5月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		1	11	32	4	14	51	113	278	175
小児科	咽頭結膜熱			1	9			3	13	10	36
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	15	36	19	10	7	89	64	238
	感染性胃腸炎		72	97	505	79	42	125	920	872	1,337
	水痘		24	42	123	24	34	6	253	151	358
	手足口病		1	2	10			1	14		10
	伝染性紅斑			1					1	9	125
	突発性発疹		4	7	42	10	6	7	76	47	57
	百日咳			1		1			2	13	54
	ヘルパンギーナ		1		3		2	2	8	1	19
	流行性耳下腺炎			8	17	2		3	30	31	74
	RSウイルス感染症				3	1			4	13	4
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				3				3	2	6
STD	性器クラミジア感染症									5	1
	性器ヘルペスウイルス感染症				1				1	1	1
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症									2	
基幹	細菌性髄膜炎									1	1
	無菌性髄膜炎				1				1	1	
	マイコプラズマ肺炎			4	21				25	23	36
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				1				1	3	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	5	26			3	36	29	28
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1		3				4	3	1
	薬剤耐性緑膿菌感染症				1				1		1
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			108	194	837	140	108	208	1,595	1,559	2,562
前月			69	227	752	118	84	307			
前年同月			122	389	1,235	217	145	454			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年5月

全国情報（4月29日～6月2日）

第18週（4月29日～）から第22週（～6月2日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の5月の上位6疾患の合計は68.50で、4月72.41（5週に補正、以下同じ）とほぼ同じである。感染性胃腸炎（4月1位38.63）も4月と同程度であるが、第21週から減少傾向がみられている。（第18週は大型連休のため少ない）今シーズンは流行の持続が長く、5月の報告数としては過去10年間では昨年に次いで多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位9.2）、インフルエンザ（同2位13.45）、水痘（同4位5.44）の増減は例年通りである。インフルエンザは過去5年間ではやや多く、水痘は過去10年間では昨年と同程度で最も少ない。流行性角結膜炎（同6位2.78）、突発性発疹（同5位2.93）は春から夏にかけて僅かに増加する疾患である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎		5.99	8.04	8.65	7.63	6.83	37.14
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.39	1.88	2.38	2.31	2.29	10.25
3	インフルエンザ		2.36	1.91	1.87	1.21	0.70	8.05
4	水痘		0.93	1.55	1.38	1.50	1.54	6.90
5	流行性角結膜炎		0.42	0.65	0.65	0.71	0.69	3.12
6	突発性発疹		0.40	0.61	0.63	0.68	0.72	3.04

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の5月の上位6疾患の合計は50.11で、4月58.00（5週に補正、以下同じ）よりも減少し、全国よりもかなり少ない。感染性胃腸炎（4月1位38.63）も全国よりも少ないが、週ごとの減少傾向は明らかでない。水痘（同3位6.29）は4月に続いて全国よりも多く、特に九州および中四国で多い。マイコプラズマ肺炎（同4位3.60）は全国9位2.43よりもかなり多く、地域別では東北地方に多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同5位2.68）は非常に少なく、和歌山県2.88に次いで全国で2番目に少ない。突発性発疹（同6位1.91）は増加し全国に近づいたが、常に全国よりも少ない。インフルエンザ（同2位7.24）は大きく減少し、茨城0.95、徳島1.98、栃木2.29に次いで少ない。流行性角結膜炎は全国5位3.12であるが、高知県では7位1.00と少ない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎		5.30	5.93	6.30	6.07	7.07	30.67
2	水痘		1.33	1.73	1.90	1.30	2.17	8.43
3	マイコプラズマ肺炎		0.38	0.75	1.25	0.50	0.25	3.13
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	0.60	0.70	0.63	0.47	2.97
5	突発性発疹		0.40	0.37	0.60	0.70	0.47	2.54
6	インフルエンザ		1.15	0.65	0.42	0.15	0.00	2.37

2. 全体の傾向

麻しんの報告無し。風しんの報告4例。（臨床決定1例、血清IGM抗体の検出2例、ペア血清での抗体陽転1例）麻しん・風しんの診断は、咽頭ぬぐい液からウイルスを検出することもできますので、最寄りの保健所に問い合わせてください。風しんは大阪・東京をはじめ全国で流行しており、今年第22週までの累積患者数は9,408例であり、昨年第22週までの266例の35倍で、昨年10月から今年4月までの7か月間で先天性風疹症候群が10例報告されている。女性は2,181例で20歳台が43%、男性は7,227例で30歳台が35%、20歳台と40歳台が24%であり、特に未感染妊婦の周囲の方は積極的に予防接種すべきである。

高知県の感染症の動向は、インフルエンザが終息したが、感染性胃腸炎、水痘、A群溶連菌性咽頭炎の減少傾向はみられず、夏型感染症の流行は始まっていない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 113名（4月278名）。週毎に減少し第22週は0となり、今シーズンの流行は終息した。流行の規模は中程度で期間も平均的であった。ウイルスはB型が3件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 13名（4月10名）。増加傾向はみられない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 89名（4月64名）。冬から春に増加し秋に減少する疾患であるが、今シーズンの最高値は12月126名と少ない。（多いシーズンは月に300名以上の報告あり）血清型T-28が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 920名（4月872名）。5月から減少するシーズンと6月からのシーズンがあり、今年の後者のようで5月の減少傾向はみられなかつ

た。ウイルスは、Norovirus G II 4件、Rotavirus AG1 2件、Sapovirus1 件に加えて、Adenovirus 5件、Coxsackievirus B5 3件等が検出された。

5) 水痘

報告数 253名(4月151名)。4月よりもかなり増加することが過去にしばしばあり、5週間集計の影響や連休による人の移動などが考えられる。

6) 手足口病

報告数 14名(4月0名)。やや増加したが、週毎の定点あたり報告数の増加傾向はみられていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 1名(4月9名)。今年1月から非流行期の少ない報告数が続いている。

8) 突発性発疹

報告数 76名(4月47名)。通常の報告数の範囲内であるが、やや多い。Human herpes virus 6 (HHV6)が1件検出された。HHV6はヘルパンギーナや手足口病からも検出されている。

9) 百日咳

報告数 2名(4月13名)。12月以降は4月を除いて1～5名の1桁で、昨年3～11月の流行は沈静化している。Bordetella pertussisが2件検出された。

10) ヘルパンギーナ

報告数 8名(4月1名)。第22週は5名とやや増加傾向が見られており、今後の推移に注意が

必要である。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 30名(4月31名)。通常の非流行期の報告数を維持している。

12) RSウイルス感染症

報告数 4名(4月13名)。第21と22週の報告数は0名である。

13) 流行性角結膜炎

報告数 3名(4月2名)。少ない報告数が定着している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 25名(4月23名)。2011年6月から一桁の報告は3ヶ月のみであり、報告数増加は検査精度の向上が一因の可能性もある。Mycoplasma pneumoniaeが5件(百日咳検体からの1件を含む)検出されている。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 36名(4月29名)。30名前後で推移している。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 4名(4月3名)。14ヶ月連続で0～4名と少ない。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年																総計				
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25						
2	結核	136 148 164 151 192 131 64																986				
	計	136 148 164 151 192 131 64																986				
3	コレラ	1																1				
	パラチフス	2																2				
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2							25				
	腸チフス	1																1				
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	1	148					
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	1	180						
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1						3	28					
	Q熱	1	1	2														2				
	オウム病			1														1				
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	64					
	マラリア																2					
	レジオネラ症			2			1			1						9	7	3	6	9	1	39
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4			118				
	日本脳炎	1	1	1														1				
	レプトスピラ症												1			4	2			7		
	E型肝炎												1			1			2			
	デング熱												1			1			3			
重症熱性血小板減少症候群																2						
計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	6	280						
5	アメーバ赤痢	2	2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			24					
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3	3			53					
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4			4	3	3	6						1	3	26				
	ジアルジア症			1	2	1											1					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1														1				
	急性脳炎								1	1	2	6				3	1	14				
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1											1					
	後天性免疫不全症候群	2															2					
	侵襲性肺炎球菌感染症												2	3	3			3				
	髄膜炎菌性髄膜炎																1					
	破傷風																1					
	梅毒	2	2	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1	18					
	麻疹	3	4	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	3	101					
風しん											5			4	4	10	5					
計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	8	306						
新型	新型インフルエンザ	34																34				
	計	34																34				
動物	鳥インフルエンザ	1																1				
	計	1																1				
総計	61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	79	1,787						

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

5月はウイルス95件、細菌56件の搬入があり、そのうちウイルス53件、細菌8件の病原体を検出し、また、平成25年4月に搬入された検体でウイルス6件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 2/6 3件、Adeno virus 41 2件、Adeno virus 5 2件、Astrovirus virus NT 1件、Coxsackie virus B5 5件、Echo virus 6 1件、Human bocavirus 2件、Human herpes virus 6 6件、Human herpes virus 7 3件、Human metapneumo virus 3件、Influenza virus B NT 3件、Noro virus G II NT 4件、Parainfluenza virus 3 7件、Rhinovirus 14件、Rota virus group AG1 2件、Sapo virus genogroup unknown 1件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 2件、*Mycoplasma pneumoniae* 5件、*Streptococcus pyogenes T28* 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	男	上気道炎	40℃, 上気道炎,	鼻汁	4.11	Rhinovirus
2	1	男	扁桃炎	40℃,	鼻汁	4.16	Parainfluenza virus 3 Rhinovirus
3	11	男	不明発疹症	咳漱,	ぬぐい液	4.16	Rhinovirus
4	2	女	—	39℃,	鼻汁	4.17	Rhinovirus
5	1	男	不明発疹症	40℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	4.22	Rhinovirus
6	1	女	手足口病	39℃, 発疹,	鼻咽頭	4.24	Human herpes virus 6
7	9ヶ月	女	不明発疹症	38℃,	ぬぐい液	4.24	Parainfluenza virus 3
8	3	女	肺炎	38℃, 肺炎,	ぬぐい液	4.25	Human metapneumovirus
9	3	女	—	40℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	4.25	Parainfluenza virus 3
10	9ヶ月	男	上気道炎	咳漱, 上気道炎, 肝機能,	鼻咽腔	4.25	Parainfluenza virus 3
11	1	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	4.25	<i>Bordetella pertussis</i>
12	1	男	気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	4.26	Human bocavirus Rhinovirus
13	7ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃,	ふん便	4.26	Norovirus GII NT
14	9ヶ月	男	ヘルパンギーナ 疑い	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ぬぐい液	4.27	Human herpes virus 6
15	3	男	リンゴ病	—	ぬぐい液	4.27	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
16	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.27	Coxsackievirus B5 Rotavirus group A G1
17	9ヶ月	男	突発性発疹症	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ぬぐい液	4.27	Human herpes virus 6
18	2ヶ月	男	下気道炎	38℃, 咳漱, 下気道炎,	吸引痰	4.28	Rhinovirus
19	1	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	4.30	Coxsackievirus B5
20	1	男	不明発疹症	38℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	4.30	Human bocavirus
21	1	男	下気道炎	40℃, 下痢, 下気道炎,	ぬぐい液	4.30	Rhinovirus
22	10	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ぬぐい液	4.30	<i>Streptococcus pyogenes T28</i>
23	4	男	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	4.30	Human metapneumovirus
24	1	女	不明発疹症	39℃,	ぬぐい液	5.1	Adenovirus 5
25	2	男	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	5.7	Human herpes virus 6
26	4	男	気管支炎	気管支炎,	鼻咽腔ぬぐい液	5.7	Rhinovirus
27	1	女	滲出性扁桃炎	40℃,	ぬぐい液	5.7	Adenovirus 2/6
28	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	5.7	Parainfluenza virus 3

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
29	4	女	マイコプラズマ肺炎	40℃, 肺炎,	ぬぐい液	5.8	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
30	8ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	5.8	Adenovirus 41
31	8ヶ月	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	5.8	Adenovirus 41
32	4	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	5.8	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
33	1	男	感染性胃腸炎	39℃, 下痢,	ふん便	5.9	Adenovirus 2/6
34	1	男	急性気管支炎	40℃, 上気道炎, 気管支炎,	ぬぐい液	5.9	Echovirus 6
35	1ヶ月	女	不明発疹症	38℃, 嘔吐, 嘔気, 発疹,	ぬぐい液	5.10	Human herpes virus 6
36	7ヶ月	男	感染性胃腸炎	37℃,	ふん便	5.10	Norovirus GII NT
37	5	女	インフルエンザ	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	5.11	Influenza virus B NT
38	7	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	5.11	Coxsackievirus B5
39	4	男	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	5.11	Coxsackievirus B5
40	2ヶ月	女	肺炎	38℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎, 気管支炎, 肺炎,	鼻腔ぬぐい液	5.12	Rhinovirus
41	3	女	不明発疹症	39℃ 咳漱 発疹	ぬぐい液	5.13	Human herpes virus 7 Human metapneumovirus
42	1	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	5.13	Human herpes virus 7
43	5	女	気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	5.13	Rhinovirus
44	9	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	5.13	Influenza virus B NT
45	1	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.13	Astrovirus NT Adenovirus 2/6
46	1	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.13	Norovirus GII NT
47	4ヶ月	男	上気道炎	38℃, 咳漱, 上気道炎,	鼻咽腔ぬぐい液	5.14	Coxsackievirus B5
48	3	女	気管支炎	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	5.14	Rhinovirus
49	7	女	気管支喘息	咳漱,	鼻腔ぬぐい液	5.15	Rhinovirus
50	7	女	マイコプラズマ肺炎	40℃, 肺炎,	ぬぐい液	5.17	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
51	4	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	5.20	Sapovirus genogroup unknown
52	9ヶ月	男	気管支喘息	39℃, 咳漱,	鼻腔ぬぐい液	5.20	Parainfluenza virus 3
53	5	男	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	5.22	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
54	4	女	マイコプラズマ肺炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	5.22	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
55	7	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	5.24	<i>Bordetella pertussis</i>
56	10ヶ月	男	気管支炎	38℃, 気管支炎,	鼻汁	-	Parainfluenza virus 3
57	4	男	肺炎	38℃, 下気道炎, 肺炎,	鼻咽腔ぬぐい液	-	Rhinovirus
58	12	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	-	Influenza virus B NT
59	4	女	感染性胃腸炎	嘔吐,	ふん便	-	Adenovirus 5 Norovirus GII NT
60	9ヶ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	-	Rotavirus group A G1

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2013年					2013年 総計
		1	2	3	4	5	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-1		1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4			1	1		2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-12			1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-28			1		1	2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264				1		1
	計		1	3	2	1	7
インフルエンザ	Coxsackievirus B4			1			1
	Influenza virus A H1pdm 09	4					4
	Influenza virus A H3 NT	22	31	5			58
	Influenza virus B NT	1	9	2		3	15
	Influenza virus B /Victoria	4	7	8			19
	Influenza virus B Yamagata		1	1	1		3
	Rhinovirus	1	3	2			6
	計	32	51	19	1	3	106
咽頭結膜熱	Rhinovirus		1				1
	計		1				1
感染性胃腸炎	Adenovirus 2/6			1		2	3
	Adenovirus 41					2	2
	Adenovirus 5					1	1
	Astrovirus NT					1	1
	Coxsackievirus B5			1		3	1
	Norovirus GI NT	1					1
	Norovirus GII NT	6		5	5	4	20
	Rotavirus group A NT		1				1
	Rotavirus group AG1		1	1	4	2	8
	Rotavirus group AG9		1				1
	Sapovirus genogroup unknown		1	5	5	1	12
	<i>Campylobacter coli</i>		1				1
	<i>Campylobacter jejuni</i>				1		1
	計	7	5	13	15	16	53
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2/6				1		1
	Herpes simplex virus	1					1
	Human herpes virus 6					1	1
	Human herpes virus 7	1					1
	Human metapneumovirus					1	1
	Parainfluenza virus 3					1	1
	計	2			1	3	6
手足口病	Human herpes virus 6					1	1
	計					1	1
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i>		1	1	10	2	14
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4			1	1	6
	計	4	1	1	11	3	20
突発性発疹	Human herpes virus 6		1			1	2
	計		1			1	1
伝染性紅斑	Human herpes virus 7				1		1
	計				1		1
細菌性髄膜炎	Coxsackievirus B5			1			1
	計			1			1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	11	3	1	2	4	21
	計	11	3	1	2	4	21
流行性角結膜炎	Adenovirus 2			1			1
	計			1			1
その他	Adenovirus 1			1	1		2
	Adenovirus 5			1		1	2
	Adenovirus 2/6			1	2	1	4
	Adenovirus 11/35	1					1
	Adenovirus C	1					1
	Coxsackievirus B4			1			1
	Coxsackievirus B5					2	2
	Echovirus 6					1	1
	Human bocavirus					2	2
	Human herpes virus 6		1	4	1	3	9
	Human herpes virus 7		6	3		3	12
	Human metapneumovirus			4	2	2	8
	Influenza virus A H3 NT		1				1
	Influenza virus B /Victoria		1				1
	Norovirus GII NT	1		1	1		3
	Parainfluenza virus 3			2	2	5	9
	Respiratory syncytial virus		1				1
	Respiratory syncytial virus A	5		2	2		9
	Rhinovirus	4	3	4	9	9	29
	Rotavirus group AG1				1		1
Rotavirus group AG9	1					1	
Sapovirus genogroup unknown				1		1	
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1			1	2	
<i>Staphylococcus aureus I</i>				1		1	
	計	13	14	24	24	29	104
総計		69	77	63	57	61	323

高知県感染症情報 2013年 6月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ									113	10
小児科	咽頭結膜熱			1	4	7		4	16	13	19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	9	32	17	9	8	78	89	215	
	感染性胃腸炎	23	56	284	50	14	63	490	923	542	
	水痘	13	25	62	11	30	5	146	253	242	
	手足口病		10	41	1		2	54	14	22	
	伝染性紅斑	1	1	1	1	1		5	1	100	
	突発性発疹	1	3	30	6	8	9	57	76	67	
	百日咳		2	1		1		4	2	51	
	ヘルパンギーナ	1	8	40	3	1	62	115	8	138	
	流行性耳下腺炎		8	18	1	2	3	32	30	47	
	RSウイルス感染症									4	5
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									3	1
STD	性器クラミジア感染症				2				2		2
	性器ヘルペスウイルス感染症									1	
	尖圭コンジローマ										1
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎				2				2	1	2
	マイコプラズマ肺炎		3	17					20	26	29
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									1	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	3	28				6	41	36	38
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			3					3	4	
	薬剤耐性緑膿菌感染症			1				1	2	1	
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			46	129	566	97	66	163	1,067	1,599	1,533
前月			108	194	841	140	108	208			
前年同月			77	254	619	131	133	319			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年6月

全国情報 (6月3日～6月30日)

第23週(6月3日～)から第26週(～6月30日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の6月の上位6疾患の合計は46.41で、5月54.80(4週に補正, 以下同じ)よりも減少した。主な原因は感染性胃腸炎(5月1位29.71)の減少で、第20週(8.04)以降週毎に減少している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同2位8.20)、水痘(同4位5.52)は減少し、代わって夏型感染症である手足口病(同8位2.03)の急増と咽頭結膜熱(同7位2.08)の増加がみられた。突発性発疹(同6位2.43)は小幅な変動の範囲である。インフルエンザ(同3位6.44)は11位0.99に減少している。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1 感染性胃腸炎		5.99	5.47	4.68	4.31	20.45
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.15	2.16	1.83	1.78	7.92
3 手足口病		0.99	1.33	2.09	3.38	7.79
4 水痘		1.30	1.35	1.17	1.02	4.84
5 咽頭結膜熱		0.70	0.71	0.71	0.65	2.77
6 突発性発疹		0.65	0.66	0.66	0.67	2.64

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の6月の上位6疾患の合計は32.04で、5月40.09(4週に補正, 以下同じ)よりも減少し、5月と同様に全国よりもかなり少ない。感染性胃腸炎(5月1位24.54)は全国と同様に大幅に減少しているが、週毎の減少傾向は明らかでない。水痘(同2位6.74)も減少し全国と同程度となり、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同4位2.38)は僅かに増加したが常に全国よりも大幅に少なく、突発性発疹(同5位2.03)も概ね全国よりも少ない。全国では手足口病が急増しているが高知県ではヘルパンギーナ(同11位0.21)が急増し、全国7位2.59よりもかなり多い。逆に高知県の手足口病は7位1.80(同9位0.38)と少ない。マイコプラズマ肺炎(同3位2.50)は全国9位2.17よりも多い状態が続いている。咽頭結膜熱は高知県9位0.54で全国よりかなり少なく、まだ流行の兆候はみられない。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1 感染性胃腸炎		4.50	4.70	3.53	3.60	16.33
2 水痘		0.87	1.53	1.40	1.07	4.87
3 ヘルパンギーナ		0.20	0.37	0.60	2.67	3.84
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.60	0.97	0.33	0.70	2.60
5 マイコプラズマ肺炎		0.63	0.50	0.75	0.63	2.51
6 突発性発疹		0.43	0.30	0.53	0.63	1.89

2. 全体の傾向

麻しんと風しんの報告無し。全国の風しん報告数が減少傾向に転じたので、今後の推移に注目すべきである。

冬から春にかけて増加する疾患(感染性胃腸炎、水痘)が減少し、夏型感染症(ヘルパンギーナ、手足口病)が流行し始めている。マイコプラズマの減少傾向はみられない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名(5月113名)。今シーズンは完全に終息した。中国の鳥インフルエンザ(H7N9)の拡大傾向は無く、関係の市と省は緊急体勢を通常の状態に戻した。

2) 咽頭結膜熱

報告数 16名(5月13名)。4月10名から少しずつ増加しているが、明らかな増加傾向ではない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 78名(5月89名)。報告数が少ないシーズンであったが、今後も減少してゆくと推測される。

4) 感染性胃腸炎

報告数 490名(5月923名)。大幅に減少した。今後は10月頃に200名前後まで減少する。ウイルスはNorovirus G II NT2件、Rotavirus group AG1 1件、Coxsackie virus B5 1件が検出された。

5) 水痘

報告数 146名(5月253名)。減少に転じた。10月頃には50～80名まで減少する。

6) 手足口病

報告数 54名(5月14名)。週毎の報告数は、第23週から13, 8, 18, 41名で第26週に増加しており、また全国でも流行が始まっていることより、今後増加すると推測される。ウイルスはEnterovirus 71が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 5名(5月1名)。非流行期の少ない報告が続いている。

- 8) 突発性発疹
報告数 57名(5月76名). 減少し通常の報告数に戻った.
- 9) 百日咳
報告数 4名(5月2名). 非流行期が継続しているが, Bordetella pertussisが2件検出されており, 長引く咳の原因の一つとして注意すべきである.
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 115名(5月8名). '11年, '12年と同様に6月から急増し流行が始まった. 今後は流行の規模に注目したい. ウイルスはCoxsackievirus B8とEnterovirus 71が各1件検出された.
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 32名(5月30名). 非流行期の報告数が続いている.
- 12) RSウイルス感染症
報告数 0名(5月4名). 昨シーズンの流行開始は9月と早かったが, 来シーズンはどうだろうか.

- 13) 流行性角結膜炎
報告数 0名(5月3名). 少ない報告数で変化なし.
- 14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 20名(5月26名). 全国は昨年同期と比較してかなり少なくなっているが, 高知県では同程度の報告数が続いている. Mycoplasma pneumoniaeが4件検出された.
- 基幹定点の月報疾患
- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 41名(5月36名). 20~40名で推移し大きな変化なし. 全国では2013年は少ない.
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 3名(5月4名). 変化なし. 全国的にも年毎に報告数が減少傾向にある.

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
2	結核									136	148	164	151	192	131	73	995
	計									136	148	164	151	192	131	73	995
3	コレラ	1					1					1					3
	パラチフス	2															2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								25
	腸チフス	1							1								2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	1	148
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	1	180
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3					28
	Q熱	1	1	2				1									5
	オウム病			1		1											2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8		64
	マラリア								2					1			3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	40
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4		118
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1			6
	レプトスピラ症											1		4	2		7
	E型肝炎												1		1		2
	デング熱												1				4
	重症熱性血小板減少症候群																3
計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	8	282	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		24
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				26
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1		7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1					2
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1		14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3		35
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	1
	髄膜炎菌性髄膜炎										1						1
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		18
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	3	101
	麻しん										5						5
	風しん										1	1			4	4	10
計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	8	306	
新型	新型インフルエンザ											34					34
	計											34					34
動物	鳥インフルエンザ												1				1
	計												1				1
総計	61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	90	1,798	

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

6月はウイルス60件、細菌35件の搬入があり、そのうちウイルス20件、細菌6件の病原体を検出し、また、平成25年5月に搬入された検体でウイルス13件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Adeno virus 2/6 1件、Adeno virus 41 1件、Adeno virus C 1件、Coxsackie virus A8 1件、Coxsackie virus B5 5件、Enterovirus 71 2件、Human herpes virus 6 3件、Human herpes virus 7 3件、Human metapneumo virus 1件、Noro virus G II NT 3件、Parainfluenza virus 3 5件、Rhinovirus 3件、Rota virus group AG1 2件、Sapo virus genogroup unknown 1件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 2件、*Mycoplasma pneumoniae* 4件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	10	男	—	39℃, 下痢,	ぬぐい液	5.8	Human herpes virus 7
2	8	女	リンゴ病	—	ぬぐい液	5.8	Human herpes virus 7
3	1	女	—	40℃, 下痢,	ぬぐい液	5.15	Adenovirus 2/6
4	5	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.22	Coxsackievirus B5
5	11ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.22	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
6	1ヶ月	男	無菌性髄膜炎	39℃,	ふん便・髄液	5.22	Coxsackievirus B5
7	1	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	5.23	Adenovirus 1
8	11ヶ月	男	喘息性の気道炎	38℃,	鼻汁	5.23	Adenovirus C
9	7ヶ月	女	急性気管支炎	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	5.25	Parainfluenza virus 3
10	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.27	Adenovirus 41 Coxsackievirus B5
11	30	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	5.27	Coxsackievirus B5
12	1ヶ月	女	気管支炎	気管支炎,	鼻汁	5.28	Parainfluenza virus 3
13	7ヶ月	男	ウイルス性肺炎、乳児喘息	38℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎, 肺炎,	鼻腔ぬぐい	5.28	Parainfluenza virus 3 Rhinovirus
14	2ヶ月	男	感染性胃腸炎		ふん便	5.28	Rotavirus group A G1
15	5	男	急性脳炎・脳症	40℃, 嘔吐, 嘔気, 中枢神経系障害,	ふん便	5.29	Rotavirus group A G1
16	1ヶ月	男	百日咳	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	5.29	<i>Bordetella pertussis</i>
17	6	女	マイコプラズマ肺炎	40℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	5.31	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
18	3	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	6.1	Coxsackievirus B5
19	2	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	6.1	Norovirus GII NT
20	3	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	6.1	Norovirus GII NT
21	2	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	6.1	Rhinovirus
22	0	女	下気道炎	39℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻咽腔吸引液	6.2	Parainfluenza virus 3
23	2	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	6.3	Coxsackievirus A8
24	1	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	6.3	Enterovirus 71
25	3	女	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	6.3	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
26	6	女	不明発疹症	36℃, 発疹,	ぬぐい液	6.3	Human herpes virus 6
27	6ヶ月	女	気管支炎	38℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	6.5	Rhinovirus
28	1	女	急性肺炎	39℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎, 気管支炎, 肺炎,	鼻腔	6.5	Parainfluenza virus 3
29	3	女	肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	6.8	Human metapneumovirus
30	1	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	6.10	Human herpes virus 6
31	2	男	手足口病	37℃, 咳漱, 手足口病症状,	ぬぐい液	6.10	Enterovirus 71
32	2	男	ヘルペス口内炎	40℃,	ぬぐい液	6.11	Human herpes virus 6
33	7	女	急性発疹症	発疹,	ぬぐい液	6.11	Human herpes virus 7
34	11	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	6.15	<i>Bordetella pertussis</i>
35	5	男	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	6.24	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
36	6	女	マイコプラズマ	38℃, 肺炎,	ぬぐい液	6.25	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2013年						2013年 総計
		1	2	3	4	5	6	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-1		1					1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4			1	1			2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-12			1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-28			1		1		2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264				1			1
	計		1	3	2	1		7
インフルエンザ	Adenovirus 1					1		1
	Coxsackievirus B4			1				1
	Influenza virus A H1pdm 09	4						4
	Influenza virus A H3 NT	22	31	5				58
	Influenza virus B NT	1	9	2		3		15
	Influenza virus B /Victoria	4	7	8				19
	Influenza virus B Yamagata		1	1	1			3
Rhinovirus	1	3	2				6	
	計	32	51	19	1	4		107
咽頭結膜熱	Rhinovirus		1					1
	計		1					1
感染性胃腸炎	Adenovirus 2/6			1		2		3
	Adenovirus 41					3		3
	Adenovirus 5					1		1
	Astrovirus NT					1		1
	Coxsackievirus B5			1		6	1	8
	Norovirus GI NT	1						1
	Norovirus GII NT	6		5	5	5	2	23
	Rhinovirus						1	1
	Rotavirus group A NT		1					1
	Rotavirus group AG1		1	1	4	2	1	9
	Rotavirus group AG9		1					1
	Sapovirus genogroup unknown			1	5	5	2	13
	<i>Campylobacter coli</i>			1				1
<i>Campylobacter jejuni</i>					1		1	
	計	7	5	13	15	22	5	67
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2/6				1			1
	Coxsackievirus B8						1	1
	Enterovirus 71						1	1
	Herpes simplex virus	1						1
	Human herpes virus 6					1		1
	Human herpes virus 7	1						1
	Human metapneumovirus					1		1
	Parainfluenza virus 3					1		1
	計	2			1	3	2	8
手足口病	Enterovirus 71						1	1
	Human herpes virus 6					1		1
	計					1	1	2
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i>		1	1	10	2	2	16
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4			1	1		6
	計	4	1	1	11	3	2	22
突発性発疹	Human herpes virus 6		1			1		2
	計		1			1		1
伝染性紅斑	Human herpes virus 7				1			1
	計				1			1
細菌性髄膜炎	Coxsackievirus B5			1				1
	計			1				1
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B5					1		1
	計					1		1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	11	3	1	2	4	4	25
	計	11	3	1	2	4	4	25
流行性角結膜炎	Adenovirus 2			1				1
	計			1				1
伝染性紅斑	Human herpes virus 7					1		1
	計					1		1
その他	Adenovirus 1			1	1			2
	Adenovirus 5			1		1		2
	Adenovirus 2/6			1	2	2		5
	Adenovirus 11/35	1						1
	Adenovirus C	1				1		2
	Coxsackievirus B4			1				1
	Coxsackievirus B5					2		2
	Echovirus 6					1		1
	Human bocavirus					2		2
	Human herpes virus 6		1	4	1	3	3	12
	Human herpes virus 7		6	3		4	1	14
	Human metapneumovirus			4	2	2	1	9
	Influenza virus A H3 NT		1		1			1
	Influenza virus B /Victoria		1					1
	Norovirus GII NT	1		1	1			3
	Parainfluenza virus 3			2	2	6	4	14
	Respiratory syncytial virus		1					1
	Respiratory syncytial virus A	5		2	2			9
	Rhinovirus	4	3	4		9	2	31
	Rotavirus group AG1				1		1	2
Rotavirus group AG9	1						1	
Sapovirus genogroup unknown				1			1	
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>			1	1			2	
<i>Staphylococcus aureus</i> I				1			1	
	計	13	14	24	24	33	12	120
総計		69	77	63	57	74	26	364

高知県感染症情報 2013年7月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ										
小児科	咽頭結膜熱			2	3	16		3	24	16	14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			12	27	6	3	11	59	78	100
	感染性胃腸炎	18	27	193	17	13	49		317	490	258
	水痘	8	36	52	35	7	1		139	146	94
	手足口病	17	130	378	18	18	54		615	54	29
	伝染性紅斑			1	1				2	5	100
	突発性発疹	2	2	30	8	7	8		57	57	67
	百日咳			1	6	1			8	4	35
	ヘルパンギーナ	13	157	255	101	54	169		749	115	339
	流行性耳下腺炎			23	31	1	2	3	60	32	36
	RSウイルス感染症										
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				2				2		2
STD	性器クラミジア感染症				1			1	2	2	1
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										1
	淋菌感染症				2				2		
基幹	細菌性髄膜炎				1				1		
	無菌性髄膜炎							2	2	2	5
	マイコプラズマ肺炎			3	11			1	15	20	23
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				5				5		3
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	7	20				1	34	41	27
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									3	
	薬剤耐性緑膿菌感染症									2	
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			64	401	1,018	203	104	303	2,093	1,067	1,134
前月			46	129	566	97	66	163			
前年同月			76	126	469	102	122	239			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年7月

全国情報（7月1日～7月28日）

第27週（7月1日～）から第30週（～7月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の7月の上位6疾患の合計は65.15で、6月46.41よりも大幅に増加した。その原因は夏型感染症の手足口病（6月3位7.79）とヘルパンギーナ（同7位2.59）が約4倍に増加したことである。手足口病は過去10年間で最大の2011年の大流行に迫る勢いで、第30週の報告数は2011年を超えている。逆にヘルパンギーナは過去10年間では最少の2009年に次いで少ない。感染性胃腸炎（同1位20.45）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同2位7.92）、水痘（同4位4.84）は例年通り減少し、流行性角結膜炎（同8位2.49）は僅かに増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	手足口病		4.73	7.01	8.09	8.83	28.66
2	感染性胃腸炎		4.18	3.80	3.26	3.34	14.58
3	ヘルパンギーナ		1.78	2.75	2.84	3.38	10.75
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.60	1.45	1.05	1.13	5.23
5	水痘		0.93	0.97	0.72	0.73	3.35
6	流行性角結膜炎		0.65	0.63	0.61	0.69	2.58

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の7月の上位6疾患の合計は64.64で、6月32.04のほぼ2倍に急増し、全国とほぼ同じとなった。全国と同様に夏型感染症が増加したためであるが、高知県ではヘルパンギーナ（6月3位3.84）が6.5倍、手足口病（同7位1.80）が11倍と増加率が著しい。高知県のヘルパンギーナは全国1位である。感染性胃腸炎（同1位16.33）は大きく減少し、水痘（同2位4.87）とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同4位2.60）も減少したが、流行性耳下腺炎（同8位1.07）は大きく増加し全国10位1.22よりもかなり多い。水痘は大分県5.58に次いで全国2位と多いが、感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は概ね全国よりも少ない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	ヘルパンギーナ		3.30	6.87	5.87	8.93	24.97
2	手足口病		2.43	5.33	5.67	7.07	20.50
3	感染性胃腸炎		2.63	3.00	1.87	3.07	10.57
4	水痘		1.33	1.03	1.47	0.80	4.63
5	流行性耳下腺炎		0.50	0.40	0.63	0.47	2.00
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.90	0.47	0.23	0.37	1.97

2. 全体の傾向

麻しんと風しんの報告無し。全国の風疹報告数は6月以降減少が続いている。

全国1位のヘルパンギーナの大流行、手足口病の2年ぶりの流行がみられている。流行性耳下腺炎が増加したが、一時的なものかどうか見極める必要がある。感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少しているが、水痘の減少が緩やかで全国2位と多い。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名（6月0名）。来シーズンの流行開始時期、流行の型、流行規模はどうであろうか。

2) 咽頭結膜熱

報告数 24名（6月16名）。徐々に増加しているが急激な増加ではない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 59名（6月78名）。今後、9月頃まで減少が続く。

4) 感染性胃腸炎

報告数 317名（6月490名）。今後、9～10月頃まで減少が続く。ウイルスはCoxsackievirus B5が3件、Adenovirus 1, Echovirus 6, Norovirus G II NT, Sapovirus group unknownが各1件、細菌はCampylobacter coliとCampylobacter jejuniが各1件検出された。

5) 水痘

報告数 139名（6月146名）。10月頃まで減少が続く。全国の報告数は過去10年間で最も少ない。

6) 手足口病

報告数 615名（6月54名）。全国では2011年に大流行したが、高知県では2010年と2011年に流行し、今年は全国と高知県で流行している。今後、流行の規模がどの程度になるか注意したい。ウイルスはEnterovirus 71が11件、Coxsackievirus A6が4件、A8が2件、B5が1件検出された。

- 7) 伝染性紅斑
報告数 2名(6月5名). 2月から1桁の報告が持続し, 増加傾向はみられない. 全国も過去10年間で最も少ない.
- 8) 突発性発疹
報告数 57名(6月57名). 大きな変動のない疾患であり, 通常の報告数の範囲内である.
- 9) 百日咳
報告数 8名(6月4名). 7月はやや多かった.
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 749名(6月115名). 過去10年間の最多で, 2番目の2008年6月531名を大きく上回った. ウイルスはCoxsackievirus A8が21件, B5が2件, A6が1件検出された.
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 60名(6月32名). 50名以上は2012年5月74名以来であり, 今後の推移に注意したい.
- 12) RSウイルス感染症
報告数 0名(6月0名). 今年の流行開始時期

- は昨年同様に早いか通常か, 気になる点である.
- 13) 流行性角結膜炎
報告数 2名(6月0名). 少ない報告数が持続している.
- 14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 15名(6月20名). 全国の流行は1年8ヶ月程で減少してきているが, 高知県はほぼ3年間報告数が多い. *Mycoplasma pneumoniae* が2件検出された.
- 基幹定点の月報疾患
- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 34名(6月41名). 20~40名の範囲内である.
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 0名(6月3名). 16ヶ月連続4名以下である.

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計								
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25									
2	結核									136	148	164	151	192	131	88	1,010								
	計									136	148	164	151	192	131	88	1,010								
3	コレラ	1					1					1					3								
	パラチフス	2															2								
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								25								
	腸チフス	1							1								2								
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	2	149								
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	2	181								
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3					28								
	Q熱	1	1	2				1									5								
	オウム病			1		1											2								
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8		64								
	マラリア								2				1				3								
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	40								
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4		118								
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1				6								
	レプトスピラ症										1		4	2			7								
	E型肝炎											1		1			2								
	デング熱											1				3	4								
	重症熱性血小板減少症候群															3	3								
計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	8	282									
5	アメーバ赤痢	2	2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			24								
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		53								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				26								
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1		7								
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1						2								
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1		14								
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		9								
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3		35								
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	1								
	髄膜炎菌性髄膜炎										1						1								
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		18								
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	3	101								
	麻疹										5						5								
	風しん										1	1			4	4	10								
	計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	8	306								
新型	新型インフルエンザ											34					34								
	計											34					34								
動物	鳥インフルエンザ												1				1								
	計												1				1								
総計										61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	106	1,814

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

7月はウイルス132件、細菌37件の搬入があり、そのうちウイルス76件、細菌3件の病原体を検出し、また、平成25年6月に搬入された検体でウイルス12件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Adeno virus 2 4件、Adeno virus 5 1件、Adeno virus 6 1件、Adeno virus C 1件、Astrovirus NT 1件、Coxsackie virus A6 6件、Coxsackie virus A8 30件、Coxsackie virus B4 1件、Coxsackie virus B5 12件、Echovirus 6 1件、Enterovirus 71 15件、Human herpes virus 6 2件、Human herpes virus 7 3件、Human metapneumo virus 2件、Noro virus GII NT 2件、Parainfluenza virus 3 1件、Rhinovirus 3件、Sapo virus genogroup unknown 1件、また、細菌の内訳は、*Campylobacter jejuni* 1件、*Mycoplasma pneumoniae* 2件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	12	女	腸間膜リンパ節炎	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	5.30	Norovirus GII NT
2	3	男	手足口病	—	ぬぐい液	6.13	Enterovirus 71
3	1	女	喘息	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	6.14	Human metapneumovirus
4	1	女	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	6.15	Human herpes virus 6 Human metapneumovirus
5	11ヶ月	女	不明発疹症	下痢, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	6.17	Parainfluenza virus 3 Rhinovirus
6	9ヶ月	男	手足口病	38℃,	ぬぐい液	6.17	Enterovirus 71
7	2	男	—	39℃,	ぬぐい液	6.21	Adenovirus C
8	1ヶ月	男	細菌性髄膜炎・無菌性髄膜炎	39℃,	髄液	6.22	Coxsackievirus B4
9	2	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	6.24	Enterovirus 71
10	5	女	ヘルパンギーナ	38℃, 嘔吐, 嘔気, 口内炎,	ぬぐい液	6.25	Coxsackievirus A8
11	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 口内炎,	ぬぐい液	6.25	Coxsackievirus A8
12	6	女	感染性胃腸炎	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	6.25	Astrovirus NT
13	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	6.25	Norovirus GII NT Rhinovirus
14	12	男	マイコプラズマ	38℃,	ぬぐい液	6.26	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
15	2	男	口内炎	39℃, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	6.28	Enterovirus 71
16	4	女	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	6.28	Coxsackievirus A8
17	9ヶ月	男	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	6.29	Human herpes virus 7
18	2	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.1	Enterovirus 71
19	2	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.1	Enterovirus 71
20	1	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	7.1	Coxsackievirus B5
21	4	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.2	Human herpes virus 7
22	4	男	喘息性気管支炎	—	ぬぐい液	7.2	Rhinovirus
23	2	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	7.2	Adenovirus 1
24	1	男	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	7.4	Human herpes virus 7
25	11ヶ月	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	7.5	Human herpes virus 6
26	11ヶ月	男	ヘルパンギーナ	40℃,	ぬぐい液	7.5	Coxsackievirus A8
27	3	男	けいれん重責	38℃, 中枢神経系障害,	鼻腔	7.6	Coxsackievirus B5
28	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎	39℃, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	7.6	Coxsackievirus B5
29	9ヶ月	男	ヘルパンギーナ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.8	Coxsackievirus A8

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
30	5	男	上気道炎	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	7.9	Coxsackievirus A8
31	1	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.9	Coxsackievirus B5
32	6ヶ月	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	7.9	Coxsackievirus B5
33	1	女	手足口病	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.10	Adenovirus 5
							Coxsackievirus A6
34	1	男	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.11	Coxsackievirus A8
35	11ヶ月	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.11	Sapovirus genogroup unknown
36	6ヶ月	女	急性気管支炎	38℃, 咳漱, 気管支炎, 肝機能,	ふん便	7.11	Coxsackievirus B5
37	4	女	コクサッキーウイルス感染症	39℃, 上気道炎,		7.12	Coxsackievirus A8
38	1	女	ヘルパンギーナ	40℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.12	Coxsackievirus A6
39	3	女	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	7.12	Coxsackievirus A8
40	3	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.12	Coxsackievirus A8
41	8	女	マイコプラズマ	38℃, 気管支炎,	ぬぐい液	7.12	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
42	4ヶ月	男	不明発疹症	38℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	7.13	Coxsackievirus A6
43	2	男	ヘルパンギーナ	40℃, 下痢, 腹痛, 結膜炎,	ぬぐい液	7.13	Coxsackievirus B5
44	4	男	ヘルパンギーナ 疑い	41℃,	ぬぐい液	7.13	Coxsackievirus A8
45	2	男	手足口病	40℃, 水疱, 手足口病症状, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	7.14	Coxsackievirus A6
46	1	男	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.16	Adenovirus 2
							Coxsackievirus A8
47	1	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus A8
48	1	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus A6
49	2	女	手足口病	38℃, 咳漱, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus A6
50	1	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus B5
51	1	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.16	Enterovirus 71
52	1	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.16	Enterovirus 71
53	2	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.16	Enterovirus 71
54	1	男	手足口病 疑い	発疹,	ぬぐい液	7.16	Adenovirus 6
55	1	男	手足口病 疑い	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus A8
56	1	男	手足口病 疑い	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.16	Enterovirus 71
57	1	男	百日咳 疑い	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus A8
58	1	男	ヘルパンギーナ	上気道炎,	ぬぐい液	7.17	Coxsackievirus A8
59	1	男	手足口病	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	7.17	Adenovirus 2
							Coxsackievirus A8
60	1	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.17	Enterovirus 71
61	2	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.17	Enterovirus 71
62	8ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃, 水疱,	ぬぐい液	7.18	Adenovirus 2
							Coxsackievirus A8
63	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	7.18	Coxsackievirus A8
64	11	女	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	7.18	<i>Campylobacter jejuni</i>
65	6	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.18	Enterovirus 71
66	9	男	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	7.19	Coxsackievirus A8
67	5ヶ月	女	感染性胃腸炎		ふん便	7.19	Coxsackievirus B5
68	5	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.19	Enterovirus 71

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
69	11ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃, 水疱,	ぬぐい液	7.20	Adenovirus 2 Coxsackievirus A8
70	1	女	ヘルパンギーナ	40℃,	ぬぐい液	7.21	Coxsackievirus A8
71	1	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	7.21	Echovirus 6
72	2	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus A8
73	2	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus A8
74	1	男	ヘルパンギーナ	40℃, 口内炎,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus A8
75	2	男	ヘルパンギーナ	39℃, 腹痛, 咳漱,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus A8
76	2	女	ヘルパンギーナ	40℃,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus B5
77	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.22	Coxsackievirus B5
78	3	女	急性咽頭扁桃炎	40℃, 上気道炎, 水疱, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus A8
79	30	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.22	Enterovirus 71
80	11	男	無菌性髄膜炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 関節痛,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus A8
81	3	男	ヘルパンギーナ	40℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	7.23	Coxsackievirus A8
82	11ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.23	Coxsackievirus A8
83	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎	39℃, 中枢神経系障害,	ふん便	—	Coxsackievirus B5

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2013年							2013年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-1		1						1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4			1	1				2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-12			1					1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-28			1		1			2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264				1				1
	計		1	3	2	1			7
インフルエンザ	Adenovirus 1					1			1
	Coxsackievirus B4			1					1
	Influenza virus A H1pdm 09	4							4
	Influenza virus A H3 NT	22	31	5					58
	Influenza virus B NT	1	9	2		3			15
	Influenza virus B /Victoria	4	7	8					19
	Influenza virus B Yamagata	1	1	1	1				3
Rhinovirus	1	3	2					6	
	計	32	51	19	1	4			107
咽頭結膜熱	Rhinovirus		1						1
	計		1						1
感染性胃腸炎	Adenovirus 1							1	1
	Adenovirus 2/6			1					3
	Adenovirus 41					2			3
	Adenovirus 5					1			1
	Astrovirus NT					1	1		2
	Coxsackievirus B5			1		6	1	3	11
	Echovirus 6							1	1
	Norovirus GI NT	1							1
	Norovirus GII NT	6		5	5	5	2	1	24
	Rhinovirus						1	1	2
	Rotavirus group A NT		1						1
	Rotavirus group AG1		1	1	4	2	1		9
	Rotavirus group AG9		1						1
	Sapovirus genogroup unknown		1	5	5	2		1	14
<i>Campylobacter coli</i>		1						1	
<i>Campylobacter jejuni</i>					1			1	
	計	7	5	13	15	22	6	9	77
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2							2	2
	Adenovirus 2/6				1				1
	Coxsackievirus A6							1	1
	Coxsackievirus A8						1	21	22
	Coxsackievirus B5							2	2
	Coxsackievirus B8								1
	Enterovirus 71						1		1
	Herpes simplex virus		1						1
	Human herpes virus 6					1			1
	Human herpes virus 7	1							1
	Human metapneumovirus					1			1
Parainfluenza virus 3					1			1	
	計	2			1	3	3	26	35
手足口病	Adenovirus 2							1	1
	Adenovirus 5							1	1
	Adenovirus 6							1	1
	Coxsackievirus A6							4	4
	Coxsackievirus A8							2	2
	Coxsackievirus B5							1	1
	Enterovirus 71						4	11	15
	Human herpes virus 6							1	1
	計					1	4	21	26
百日咳	Coxsackievirus A8							1	1
	<i>Bordetella pertussis</i>		1	1	10	2	2		16
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4			1	1			6
	計	4	1	1	11	3	2	1	23
突発性発疹	Human herpes virus 6		1			1			2
	計		1			1			2
細菌性髄膜炎	Coxsackievirus B5			1					1
	計			1					1
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8							1	1
	Coxsackievirus B4							1	1
	Coxsackievirus B5					1		2	2
	計					1		4	4
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	11	3	1	2	4	4	2	27
	計	11	3	1	2	4	4	2	27
流行性角結膜炎	Adenovirus 2			1					1
	計			1					1
伝染性紅斑	Human herpes virus 7				1	1			2
	計				1	1			2
その他	Adenovirus 1			1	1				2
	Adenovirus 2							1	1
	Adenovirus 5			1		1			2
	Adenovirus 2/6			1	2	2			5
	Adenovirus 11/35	1							1
	Adenovirus C	1				1	1		3
	Coxsackievirus A6							1	1
	Coxsackievirus A8							4	4
	Coxsackievirus B4			1					1
	Coxsackievirus B5					2		4	6
	Echovirus 6					1			1
	Enterovirus 71							1	1
	Human bocavirus					2			2
	Human herpes virus 6		1	4	1	3	4	1	14
	Human herpes virus 7	6		3		4	1	3	17
	Human metapneumovirus		4	4	2	2	3		11
	Influenza virus A H3 NT		1						1
	Influenza virus B /Victoria		1						1
	Norovirus GII NT	1		1	1		1		4
	Parainfluenza virus 3			2	2	6	5		15
	Respiratory syncytial virus		1						1
	Respiratory syncytial virus A	5		2	2				9
	Rhinovirus	4	3	4	9	9	3	1	33
Rotavirus group AG1				1				1	
Rotavirus group AG9	1					1		2	
Sapovirus genogroup unknown				1				1	
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>			1					2	
<i>Staphylococcus aureus</i> I				1				1	
	計	13	14	24	24	33	19	16	143
総計		69	77	63	57	74	38	79	455

高知県感染症情報 2013年 8月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ										2
小児科	咽頭結膜熱				9	19	2	9	39	24	26
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			5	15	3	4	7	34	59	76
	感染性胃腸炎	16	23	200	12	9	26	286	317	304	
	水痘	4	17	38	22	2	3	86	139	118	
	手足口病	39	133	548	50	71	139	980	615	12	
	伝染性紅斑			1				1	2	48	
	突発性発疹	1	6	37	3	6	12	65	57	77	
	百日咳	1		3				4	8	63	
	ヘルパンギーナ	63	79	250	142	86	74	694	749	154	
	流行性耳下腺炎		31	50	1	6	18	106	60	45	
	RSウイルス感染症	1		6		2	15	24		16	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			4				4	2	4	
STD	性器クラミジア感染症		1	1				2	2	2	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ									2	
	淋菌感染症								2		
基幹	細菌性髄膜炎			1				1	2	1	1
	無菌性髄膜炎			4				4	2	3	
	マイコプラズマ肺炎		5	11				2	18	16	34
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1	5	3	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8	7	17				2	34	34	34
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1						1		1	
	薬剤耐性緑膿菌感染症										2
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			134	307	1,196	252	188	308	2,385	2,094	1,027
前月			64	401	1,019	203	104	303			
前年同月			73	124	487	107	80	156			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年8月

全国情報（7月29日～9月1日）

第31週（7月29日～）から第35週（～9月1日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の8月の上位6疾患の合計は65.37で、7月81.44（5週に補正，以下同じ）よりもかなり減少した。流行性角結膜炎（7月6位3.23）が僅かに増加した以外、総ての疾患が減少している。手足口病（同1位35.83）は第30週8.83をピークに減少しているが、第30週から34週は2011年の大流行を上回っている。第33週までに検出された409件のエンテロウイルスのうちCoxsackievirusA6が268件（66%）、Enterovirus71が94件（23%）を占めている。感染性胃腸炎（同2位18.23）、ヘルパンギーナ（同3位13.44）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同4位6.54）、突発性発疹（同7位3.13）は総て減少し、水痘（同5位4.19）も8月7位2.70と減少している。例年上位6疾患の報告数が最も減少するのは9月または10月である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	35週	計
1	手足口病		8.66	7.95	5.23	4.24	4.25	30.33
2	感染性胃腸炎		3.24	2.93	2.12	2.96	2.83	14.08
3	ヘルパンギーナ		3.26	2.92	1.84	1.48	1.42	10.92
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.95	0.80	0.55	0.64	0.68	3.62
5	流行性角結膜炎		0.68	0.74	0.61	0.73	0.71	3.47
6	突発性発疹		0.64	0.58	0.44	0.62	0.67	2.95

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の8月の上位6疾患の合計は74.00で、7月80.80（5週に補正，以下同じ）よりも減少したが、全国よりも多い。手足口病（7月2位25.63）は31週がピークとなり全国を上回った。ヘルパンギーナ（同1位31.21）は減少したが全国の2倍以上である。全国1位は新潟33.92に譲り、山形30.9に次いで3位である。感染性胃腸炎（同3位13.21）は減少し全国の2/3、流行性耳下腺炎（同5位2.50）は増加し全国（11位1.17）の3倍、水痘（同4位5.79）は約1/2に減少し全国（7位2.70）とほぼ同じ、マイコプラズマ（同8位2.36）は横ばいで全国（9位1.93）よりも多い状態が継続など、全国とは少しずつ異なっている。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	35週	計
1	手足口病		8.17	7.73	6.50	4.50	5.77	32.67
2	ヘルパンギーナ		7.03	6.13	5.13	2.97	1.87	23.13
3	感染性胃腸炎		2.63	1.87	1.87	1.93	1.23	9.53
4	流行性耳下腺炎		0.87	0.80	0.63	0.77	0.47	3.54
5	水痘		0.83	0.47	0.70	0.33	0.53	2.86
6	マイコプラズマ肺炎		0.63	0.38	0.50	0.38	0.38	2.27

2. 全体の傾向

麻しんの報告無し。風しんの3例。（臨床決定2例，血清IGM抗体の検出1例）麻しん風しんの正確な診断のためには抗原検査が重要ですので、最寄りの保健所に連絡し咽頭ぬぐい液を提出してください。

手足口病はピークを迎え、ヘルパンギーナは減少に転じ、流行性耳下腺炎の増加傾向が明らかになった。咽頭結膜熱とRSウイルス感染症は今後の推移に注意しなければならない。

手足口病は、回復後も比較的長期間にわたり便からウイルスが検出されること、不顕性感染もあることより、発症して診断された患者を隔離しても効果的な感染防止対策とはならないので、解熱して回復した児は集団生活に復帰し感染防止対策（手洗いと排泄物の適正な処理）を継続することが基本であるとされている。（感染症週報第33週）

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名（7月0名）。南半球では地域によりAH1pdm2009・AH3・Bが検出されており、日本の次シーズンの流行開始時期と流行株はどうなるであろうか。

2) 咽頭結膜熱

報告数 39名（7月24名）。7月から増加傾向にあるが、ピークがどの程度になるか注目したい。Coxsackievirus B5が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 34名（7月59名）。例年通り減少している。

4) 感染性胃腸炎

報告数 286名（7月317名）。9月頃に最低となる年が多い。Sapovirusが1件検出された。

5) 水痘

報告数 86名（7月139名）。例年10月頃まで減少する。

6) 手足口病

報告数 980名（7月615名）。今年の流行の

ピークは8月であり、2011年8月976名と同程度で2010年7月1,621名よりもかなり少ない。ウイルスは、CoxsackievirusA6が9件、A8が1件、Enterovirus71が5件検出され、全国と同様の傾向を示している。(全国情報参照)しかし、高知県の今年の累計ではA6は17件、Entero.71が23件で全国とは異なる。A6による手足口病では、発疹が大きく四肢末端に限局せずに広範囲に認められ、水痘を疑われる症例があると報告されている。(感染症週報第33週)

7) 伝染性紅斑

報告数 1名(7月2名)。少ない報告が継続している。

8) 突発性発疹

報告数 65名(7月57名)。変動の少ない疾患であるが、4か月連続で57名以上とやや多い。1歳から8歳の不明発疹症患者7名からHuman herpes virus6または7が検出されている。

9) 百日咳

報告数 4名(7月8名)。7月はやや多かったが、8月は減少し継続しなかった。

10) ヘルパンギーナ

報告数 694名(7月749名)。減少したが過去10年間では先月に続き2番目に多く、大流行が続いている。

CoxsackievirusA8が5件、A6が2件検出された。今年の累計ではA8が32件で最も多く、主な原因ウイルスである。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 106名(7月60名)。流行が始まったと考えられ、持続期間と規模に注意して経過を見たい。

12) RSウイルス感染症

報告数 24名(7月0名)。急激に増加し8月の件数としては最も多い。昨年と同様の傾向であり今後の推移に注意すべきである。地域別では幡多15名、高知市6名、須崎2名と県西部からの報告が多い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 4名(7月2名)。今年1月以降0~4名と少ない。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 18名(7月16名)。全国では2011年6月からの流行が終息してきているが、高知県では減少傾向は見られない。Mycoplasma pneumoniaeが1件検出された。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 34名(7月34名)。変化なし。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 1名(7月0名)。非常に少ない報告数が続いている。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年												総計			
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25
2	結核																3
	計																1,012
3	コレラ	1					1					1					3
	バラチフス	2															2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								25
	腸チフス		1						1								2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	2	149
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	2	181
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3				28
	Q熱	1	1	2					1								5
	オウム病			1		1											2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8		64
	マラリア								2					1			3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	40
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4		118
	日本脳炎	1	1	1						1			1	1			6
	レプトスピラ症											1		4	2		7
	E型肝炎												1		1		2
	デング熱												1				4
重症熱性血小板減少症候群																3	
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	8	282
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		24
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3			3	53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4	4	4	3	3		6			1	3			26
	ジアルジア症		1	2	1												7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1			1	1	2
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1		14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1	1			1	3		9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37
	侵襲性肺炎球菌感染症																1
	髄膜炎菌性髄膜炎										1						1
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		18
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	3	101
	麻疹										5						5
風しん										1	1			4	7	13	
	計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	13	311
新型	新型インフルエンザ																34
	計																34
動物	鳥インフルエンザ													1			1
	計													1			1
	総計	61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	113	1,821

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

8月はウイルス91件、細菌22件の搬入があり、そのうちウイルス51件、細菌1件の病原体を検出し、また、平成25年5月から7月に搬入された検体でウイルス32件、細菌2件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Adeno virus C 1件、Astro virus NT 1件、Coxsackie virus A6 16件、Coxsackie virus A8 18件、Coxsackie virus B5 1件、Echovirus 6 2件、Echovirus 30 1件、Enterovirus 71 9件、Enterovirus NT 1件、Herpes simplex virus 1件、Human herpes virus 6 6件、Human herpes virus 7 8件、Human metapneumo virus 3件、Norovirus G I NT 1件、Norovirus G II NT 1件、Respiratory syncytial virus A 4件、Rhinovirus 7件、Sapo virus genogroup unknown 1件、また、細菌の内訳は、*Mycoplasma pneumoniae* 3件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	手足口病	-	ぬぐい液	5.24	Enterovirus 71 Rhinovirus
2	7ヶ月	男	感染性胃腸炎	中枢神経系障害,	ふん便	5.25	Astrovirus NT
3	11ヶ月	男	手足口病	-	ぬぐい液	6.5	Enterovirus NT
4	8	男	不明発疹症	-	ぬぐい液	6.16	Human herpes virus 7
5	2	女	川崎病	発疹, 結膜炎,	ぬぐい液	6.22	Human herpes virus 6
6	4	男	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	6.25	Human herpes virus 7
7	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎		ふん便	7.6	Rhinovirus
8	7ヶ月	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.8	Rhinovirus
9	1	女	急性発疹症	40℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	7.10	Human herpes virus 6
10	5ヶ月	男	感染性胃腸炎	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.18	Norovirus GI NT
11	4	男	不明発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	7.19	Human herpes virus 7
12	2	女	発熱、殿部、手足に発疹	39℃, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	7.22	Coxsackievirus A6 Adenovirus C
13	11ヶ月	女	ヘルパンギーナ	40℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.23	Coxsackievirus A8
14	1	女	ヘルパンギーナ	上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.23	Coxsackievirus A8
15	1	男	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	7.24	Human herpes virus 6
16	6	男	ヘルパンギーナ	40℃,	ぬぐい液	7.24	Coxsackievirus A8
17	3	女	ヘルパンギーナ	38℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.25	Enterovirus 71
18	8ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.25	Rhinovirus
19	29	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	7.25	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
20	3ヶ月	女	マイコプラズマ肺炎	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	7.26	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
21	1	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.26	Coxsackievirus A6
22	3	女	不明発疹症	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ぬぐい液	7.27	Human herpes virus 6
23	3	女	無菌性髄膜炎	39℃, 嘔吐,	-	7.28	Echovirus 6
24	3	女	ヘルパンギーナ	上気道炎, 気管支炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.29	Coxsackievirus A8
25	11ヶ月	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.29	Coxsackievirus A6
26	1	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.29	Coxsackievirus A6
27	11ヶ月	男	手足口病	38℃, 上気道炎, 口内炎, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.29	Coxsackievirus A6
28	3	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.29	Enterovirus 71
29	2ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液・ふん便	7.30	Coxsackievirus A8

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
30	1	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.30	Norovirus GII NT
31	13	男	急性心筋炎	38℃, 循環器機能障害,	ぬぐい液	7.30	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
32	2	男	手足口病	40℃,	ぬぐい液	7.30	Enterovirus 71
33	1ヶ月	男	新生児発熱	39℃,	ふん便	7.30	Echovirus 6
34	10ヶ月	男	肺炎	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.30	Respiratory syncytial virus A
35	1	男	—	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	7.31	Adenovirus 1
36	4	男	手足口病	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.31	Herpes simplex virus 1 Human herpes virus 7
37	1	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8.1	Enterovirus 71
38	7	男	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎, 下気道炎,	ぬぐい液	8.1	Coxsackievirus A8
39	3	女	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	8.2	Coxsackievirus A8
40	8ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃, 下痢, 口内炎,	ぬぐい液	8.3	Coxsackievirus A8
41	1	女	手足口病	39℃, 発疹, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.3	Coxsackievirus A6
42	2	男	手足口病	39℃, 手足口病症状, 中枢神経系障害,	髄液・ふん便 ・ぬぐい液	8.5	Coxsackievirus A6
43	1	男	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	8.5	Coxsackievirus A6
44	31	女	上気道炎	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	8.5	Coxsackievirus A8
45	2	男	ヘルパンギーナ	38℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	8.6	Coxsackievirus A8
46	1	女	感染性胃腸炎	—	ふん便	8.6	Sapovirus genogroup unknown
47	2	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8.6	Enterovirus 71
48	3	男	ヘルパンギーナ	39℃, 下痢, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	8.7	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7 Human metapneumovirus
49	1	男	感染性胃腸炎、細菌性	39℃, 下痢, 咳漱, 肺炎,	鼻腔ぬぐい液	8.8	Human metapneumovirus
50	15	女	無菌性髄膜炎	40℃, 嘔吐,	鼻咽頭口腔ぬぐい液	8.8	Coxsackievirus A8
51	11	女	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	8.9	Mycoplasma pneumoniae
52	1	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.9	Coxsackievirus A6
53	1	男	手足口病 ヘルパンギーナ	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 発疹,	ぬぐい液	8.9	Coxsackievirus A6
54	1ヶ月	男	新生児感染症 (胎内感染)	嘔吐,	ぬぐい液・尿	8.9	Coxsackievirus A8
55	6	男	急性脳症	41℃, 上気道炎, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	8.10	Human herpes virus 7
56	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.12	Coxsackievirus A6
57	2	女	ヘルパンギーナ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	8.12	Coxsackievirus A8
58	3	女	気管支炎	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	8.12	Rhinovirus
59	1	男	下気道炎	39℃, 下気道炎,	鼻咽頭口腔ぬぐい液	8.13	Respiratory syncytial virus A
60	1	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8.14	Enterovirus 71
61	1	男	肺炎	40℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	8.15	Respiratory syncytial virus A
62	11ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎, 気管支炎, 口内炎,	ぬぐい液	8.15	Coxsackievirus A8
63	4ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 気管支炎,	ふん便	8.15	Coxsackievirus A8
64	1	女	手足口病	39℃, 下痢, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.16	Coxsackievirus A6
65	5	女	急性脳炎	39℃, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	8.16	Coxsackievirus A8
		急性脳症	ふん便		8.18		

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
66	1	女	手足口病 疑い	水疱, 発疹,	ぬぐい液	8.16	Coxsackievirus A6
67	1	男	喘息性気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎, 肺炎,	鼻咽腔ぬぐい液	8.17	Human metapneumovirus
68	10ヶ月	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8.19	Rhinovirus
69	1	男	手足口病	咳漱,	ぬぐい液	8.19	Rhinovirus
70	2	男	気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	8.20	Respiratory syncytial virus A
71	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8.20	Coxsackievirus A6
72	7ヶ月	女	手足口病	38℃, 発疹,	ぬぐい液	8.20	Coxsackievirus A8
73	1	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8.21	Echovirus 30
74	1	男	無菌性髄膜炎	39℃,	ふん便	8.21	Coxsackievirus A8
75	1	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.22	Enterovirus 71
76	3	女	手足口病	39℃, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	8.24	Coxsackievirus A6
77	1	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.26	Coxsackievirus A6
78	2	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.26	Enterovirus 71
79	5	女	不明発疹症	39℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	8.26	Human herpes virus 7
80	7ヶ月	女	咽頭結膜炎	40℃, 下気道炎,	鼻咽頭口腔ぬぐい液	8.27	Coxsackievirus B5

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2013年								2013年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-1		1								1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4			1	1						2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-12			1							1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-28			1		1					2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					1					1
	計		1	3	2	1					7
インフルエンザ	Adenovirus 1					1					1
	Coxsackievirus B4			1							1
	Influenza virus A H1pdm 09	4									4
	Influenza virus A H3 NT	22	31	5							58
	Influenza virus B NT	1	9	2		3					15
	Influenza virus B /Victoria	4	7	8							19
	Influenza virus B Yamagata	1	1	1	1					3	
	Rhinovirus	1	3	2						6	
	計	32	51	19	1	4					107
咽頭結膜熱	Coxsackievirus B5									1	1
	Rhinovirus		1								1
	計		1							1	2
感染性胃腸炎	Adenovirus 1			1				1			1
	Adenovirus 2/6				1		2				3
	Adenovirus 41						3				3
	Adenovirus 5						1				1
	Astrovirus NT						2	1			3
	Coxsackievirus A8									1	1
	Coxsackievirus B5			1		6	1	3			11
	Echovirus 6							1			1
	Human metapneumovirus								1		1
	Norovirus GI NT	1							2		2
	Norovirus GII NT	6		5	5	5	2	2			25
	Rhinovirus						1	1			2
	Rotavirus group A NT		1								1
	Rotavirus group AG1		1	1	4	2	1				9
	Rotavirus group AG9		1								1
	Sapovirus genogroup unknown		1	5	5	2		1	1		15
<i>Campylobacter coli</i>		1								1	
<i>Campylobacter jejuni</i>				1				1		2	
	計	7	5	13	15	23	6	11	3		83
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2				1			2			2
	Adenovirus 2/6							1			1
	Coxsackievirus A6							1		2	3
	Coxsackievirus A8						1	26	5		32
	Coxsackievirus B5							2			2
	Coxsackievirus B8							1			1
	Enterovirus 71						1	1			2
	Herpes simplex virus	1									1
	Human herpes virus 6				1				1		2
	Human herpes virus 7	1							1		2
	Human metapneumovirus								1		1
	Parainfluenza virus 3					1					1
Rhinovirus								1		1	
	計	2			1	3	3	33	10		52
手足口病	Adenovirus 2							1			1
	Adenovirus 5							1			1
	Adenovirus 6							1			1
	Coxsackievirus A6							8	9		17
	Coxsackievirus A8							2	1		3
	Coxsackievirus B5							1			1
	Enterovirus 71					1	4	13	5		23
	Enterovirus NT							1			1
	Herpes simplex virus								1		1
	Human herpes virus 6					1					1
	Human herpes virus 7								1		1
Rhinovirus						1		1		3	
	計					3	5	28	18		54
百日咳	Coxsackievirus A8			1	1	10	2	2	1		16
	<i>Bordetella pertussis</i>					1	1				2
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4							1		7
	計	4	1	1	11	3	2	2			24
突発性発疹	Human herpes virus 6		1			1					2
	計		1			1					2
細菌性髄膜炎	Coxsackievirus B5			1							1
	計			1							1
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8							1	2		3
	Coxsackievirus B4							1			1
	Coxsackievirus B5					1		2			3
	Echovirus 6							1			1
	Rhinovirus							1			1
	計					1		6	2		9
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	11	3	1	2	4	4	3	1		29
	計	11	3	1	2	4	4	3	1		29
流行性角結膜炎	Adenovirus 2			1							1
	計			1							1
伝染性紅斑	Human herpes virus 7				1	1					2
	計				1	1					2
その他	Adenovirus 1			1	1				1		3
	Adenovirus 2								1		1
	Adenovirus 5			1		1					2
	Adenovirus 2/6			1	2	2					5
	Adenovirus 11/35	1									1
	Adenovirus C	1				1	1	1			4
	Coxsackievirus A6							2			2
	Coxsackievirus A8								4	4	8
	Coxsackievirus B4			1							1
	Coxsackievirus B5					2		4			6
	Echovirus 6					1			1		2
	Echovirus 30								1		1
	Enterovirus 71							1			1
	Human bocavirus					2					2
	Human herpes virus 6		1	4	1	3	5	4	1		19
	Human herpes virus 7		6	3	4	3	4	3	1		23
	Human metapneumovirus		1	4	2	2	3		1		12
	Influenza virus A H3 NT										1
	Influenza virus B /Victoria		1								1
	Norovirus GII NT		1	1	1			1			4
	Parainfluenza virus 3			2	2	6	5				15
	Respiratory syncytial virus		1								1
	Respiratory syncytial virus A		5	2	2			1	3		13
	Rhinovirus		4	3	4	9	3	1	2		35
	Rotavirus group AG1					1		1			2
	Rotavirus group AG9		1								1
	Sapovirus genogroup unknown					1					1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>			1							2	
<i>Staphylococcus aureus</i> 1					1					1	
	計	13	14	24	24	33	22	23	17		170
総計		69	77	63	57	77	42	106	52		543

高知県感染症情報 2013年 9月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ							1	1		
小児科	咽頭結膜熱			1	29	1	6	3	40	39	18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	7	18	6	1	7	7	41	34	58
	感染性胃腸炎	10	12	113	7	11	12	12	165	286	213
	水痘			12	46	7	1	3	69	86	84
	手足口病	33	97	283	68	58	55	55	594	980	16
	伝染性紅斑				3		1		4	1	30
	突発性発疹	2	8	23	7	4	9	9	53	65	53
	百日咳						2		2	4	16
	ヘルパンギーナ	10	22	44	4	8	16	16	104	694	96
	流行性耳下腺炎	1	26	65	2	2	26	26	122	106	36
	RSウイルス感染症	1	2	8			1	36	48	24	75
眼科	急性出血性結膜炎										1
	流行性角結膜炎				4				4	4	5
STD	性器クラミジア感染症				1			1	2	2	
	性器ヘルペスウイルス感染症				1				1		
	尖圭コンジローマ							1	1		
	淋菌感染症				1				1		
基幹	細菌性髄膜炎			1					1	2	1
	無菌性髄膜炎				2				2	4	4
	マイコプラズマ肺炎	1	6	6					13	18	28
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2	1	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8	4	20				5	37	34	28
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									1	
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計		68	198	669	102	95	175	1,307	2,385	764	
前月		134	307	1,196	252	188	308				
前年同月		49	109	420	45	44	97				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2013年9月

全国情報 (9月2日～9月29日)

第36週(9月2日～)から第39週(～9月29日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の9月の上位6疾患の合計は37.20で、8月52.30(4週に補正, 以下同じ)の約7割に減少し、1年間で最も感染症が少ない季節になってきた。これは、今年の最高値2月142.53の1/4であり、感染症の季節的変動の大きさを再認識する。夏型感染症の手足口病(8月1位24.26)は半減し、ヘルパンギーナ(同3位8.74)は約4割に減少した。一方、冬型感染症のRSウイルス感染症(同9位1.80)は2倍以上に増加した。昨年も9月に増加しており、流行開始時期が早くなる傾向にある。感染性胃腸炎(同2位11.26)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同4位2.90)、流行性角結膜炎(同5位2.78)は大きな変動がなかった。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	手足口病		3.88	3.96	2.94	1.87	12.65
2	感染性胃腸炎		3.06	3.05	2.66	2.62	11.39
3	RSウイルス感染症		0.81	1.11	1.08	0.94	3.94
4	ヘルパンギーナ		1.15	1.08	0.66	0.40	3.29
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.78	0.86	0.74	0.72	3.10
6	流行性角結膜炎		0.76	0.81	0.65	0.61	2.83

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の9月の上位6疾患の合計は36.90で、8月59.20(4週に補正, 以下同じ)の約6割に減少した。これは、高知県の今年の最高値1月195.06の約1/5である。手足口病(8月1位26.14)は流行のピークが全国よりも遅れたため、8・9月は全国よりも多いが39週より大きく減少している。感染性胃腸炎(同3位7.62)は減少し、全国の1/2と少ない。7月全国1位(24.97)であったヘルパンギーナ(同2位18.50)は、全国と同程度に減少した。流行性耳下腺炎(同4位2.83)は大きく増加したが、全国(11位0.90)は過去10年間で最も少ない。水痘(同5位2.29)は全国(8位1.88)よりも多く、突発性発疹(同7位1.74)は全国(7位2.27)よりも少ない。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	手足口病		5.07	6.73	5.33	2.67	19.80
2	感染性胃腸炎		1.20	1.33	1.60	1.37	5.50
3	流行性耳下腺炎		0.93	0.80	1.00	1.33	4.06
4	ヘルパンギーナ		1.03	1.27	0.60	0.57	3.47
5	水痘		0.57	0.53	0.87	0.33	2.30
6	突発性発疹		0.37	0.67	0.40	0.33	1.77

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

大流行した手足口病はピークを超え、ヘルパンギーナは終息しつつある。流行性耳下腺炎の流行が始まった。RSウイルス感染症は増加しているが、全国よりも少なく週ごとの増加傾向も明らかではない。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の継続的な減少は、小児へのワクチン公費負担の効果かもしれない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1名(8月0名)。都道府県別では沖縄県185名が飛びぬけて多く、次は島根県39名である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 40名(8月39名)。7月(24名)から増加傾向であるが、急激ではない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 41名(8月34名)。今年の9月までの報告数は過去10年間で最も少ない。11月頃から3桁に増加することが多い。

4) 感染性胃腸炎

報告数 165名(8月286名)。過去10年間では、最も少なかった2011年8月146名に次いで少ない。

5) 水痘

報告数 69名(8月86名)。11月頃から増加する疾患である。

6) 手足口病

報告数 594名(8月980名)。2010年・2011年に次ぐ今年の流行は8月がピークであった。Coxsackievirus A6が13件、Enterovirus71が4件、Coxsackievirus A8とEchovirus6が各1件検出された。今シーズンの原因ウイルスは前半がEnterovirus71(27件検出)、後半はCoxsackievirus A6(30件検出)である。

7) 伝染性紅斑

報告数 4名(8月1名)。2009年と同様で少

ない報告数が持続している。

8) 突発性発疹

報告数 53名(8月65名)。変動が少ない疾患であるが7・8月の報告数は比較的多かった。

9) 百日咳

報告数 2名(8月4名)。昨年の大流行後、1年間ほど非流行期が続いている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 104名(8月694名)。大きく減少し今年の大流行は終息しつつある。ウイルスは、Coxsackievirus B8が3件検出されたが、今年の原因ウイルスはCoxsackievirus A8であり32件検出されている。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 122名(8月106名)。2か月連続3桁の報告数であり、2～3年毎の流行期に入ったと推測される。今後は、流行の規模と期間に注意したい。定点あたり報告数4.06は福井県(6.09)に次いで2位である。

12) RSウイルス感染症

報告数 48名(8月24名)。36名が幡多であり、8月から引き続いて幡多での発生が多い。サーベ

イランスが始まった2004年以降の9月では昨年の75名に次いで多く、全国同様に早期発生の傾向がみられている。定点あたり報告数は全国3.94(4位)と比較すると、高知県1.60(8位)であり全国の1/2以下とまだ少ない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 4名(8月4名)。増加傾向はみられない。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 13名(8月18名)。全国よりも遅れたが、高知県でも減少傾向である。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 37名(8月34名)。変化なし。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(8月1名)。2011年2月から公費負担となった小児肺炎球菌ワクチンの効果か、2012年4月以降4名以下が18か月続いている。全国でも2013年が過去10年間で最も少なく、2012年がそれに次いでいる。

高知県感染症発生動向調査部会

会長 吉川 清志

高知県における全数報告疾患

類型	病名	報告年														総計														
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		25													
2	結核															136	148	164	151	192	131	100	1,022							
	計															136	148	164	151	192	131	100	1,022							
3	コレラ															1														3
	パラチフス															2														2
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2							25												
	腸チフス															1														2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	150													
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	182													
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1							3	28												
	Q熱	1	1	2												1	5													
	オウム病															1	2													
	つつが虫病				9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	64												
	マラリア															2	3													
	レジオネラ症				2			1			1					9	7	3	6	9	2	40								
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4				118											
	日本脳炎	1	1	1												1	1				6									
	レプトスピラ症															1			4	2			7							
	E型肝炎															1			1				2							
	デング熱															1				3			4							
	重症熱性血小板減少症候群															3				3			3							
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	8	282													
5	アメーバ赤痢															2	2	2	3	2	2	3				24				
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				3	53												
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3							6	1	3	26										
	ジアルジア症				1	2	1												1	1			7							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症															1				2			2							
	急性脳炎															1	1	2	6	3	1				14					
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1												1	1	1	3	9							
	後天性免疫不全症候群	2			2			2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37											
	侵襲性肺炎球菌感染症															1				1			1							
	髄膜炎菌性髄膜炎															1				1			1							
	破傷風				2	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1	18											
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	4			102											
	麻しん															5				5			5							
	風しん															1	1				4	7	13							
	計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	14	312													
新型	新型インフルエンザ																			34	34									
動物	鳥インフルエンザ																			1	1									
計																			1	1										
総計															61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	125	1,833

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

9月はウイルス57件、細菌25件の搬入があり、そのうちウイルス27件、細菌3件の病原体を検出し、また、平成25年4月から7月に搬入された検体でウイルス12件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 11/35 1件、Adeno virus 3 1件、Adeno virus NT 1件、Coxsackie virus A6 14件、Coxsackie virus A8 4件、Coxsackie virus B4 1件、Echovirus 6 1件、Enterovirus 71 4件、Enterovirus NT 1件、Human herpes virus 6 3件、Human herpes virus 7 4件、Human metapneumo virus 1件、Parainfluenza virus 3 1件、Rhinovirus 2件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 2件、*Mycoplasma pneumoniae* 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	3	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	4. 3	Coxsackievirus B4
2	28	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	4. 6	Human herpes virus 7
3	6	男	細菌性髄膜炎		うがい液	4. 11	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
4	11	男	不明発疹症	咳漱,	ぬぐい液	4. 16	Human herpes virus 6
5	7	女	無菌性髄膜炎	38℃,	鼻咽頭口腔 ぬぐい液	4. 17	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
6	1	男	上気道炎	39℃, 上気道炎,	鼻汁	5. 17	Parainfluenza virus 3 Rhinovirus
7	1	男	感染性胃腸炎	40℃,	ふん便	5. 24	Adenovirus NT
8	6	女	不明発疹症	36℃, 発疹,	ぬぐい液	6. 3	Human herpes virus 7
9	5	男	ヘルパンギーナ	40℃, 口内炎, 肝機能,	ぬぐい液	7. 30	Enterovirus NT
10	1	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8. 27	Coxsackievirus A6
11	1	男	手足口病	38℃, 気管支炎, 手足口病症状,	ぬぐい液	8. 27	Enterovirus 71
12	1	女	ヘルパンギーナ	40℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 28	Coxsackievirus A8
13	10	男	出血性膀胱炎	血尿	尿	8. 29	Adenovirus 11/35
14	4	女	ヘルパンギーナ	40℃, 上気道炎, 気管支炎,	ぬぐい液	8. 29	Coxsackievirus A8
15	2ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ふん便	8. 29	Rhinovirus
16	1	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 2	Coxsackievirus A6
17	9ヶ月	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 2	Coxsackievirus A6
18	3	女	手足口病	40℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 4	Coxsackievirus A6
19	1	女	口内炎	39℃, 水疱, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	9. 5	Coxsackievirus A6
20	2	男	ヘルパンギーナ 手足口病	37℃, 口内炎,	ぬぐい液	9. 5	Coxsackievirus A8
21	9ヶ月	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 6	Coxsackievirus A6
22	5ヶ月	男	ヘルパンギーナ	38℃, 下痢, 発疹,	ふん便, ぬぐい液	9. 9	Coxsackievirus A8
23	3	男	気管支炎	39℃, 腹痛, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	9. 9	Human metapneumovirus
24	1	女	気管支炎 気管支喘息の疑い、	38℃, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	鼻腔	9. 9	Adenovirus 3
25	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	9. 9	Coxsackievirus A6
26	1	男	手足口病	37℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 10	Coxsackievirus A6
27	2	男	手足口病	発疹,	ぬぐい液	9. 11	Coxsackievirus A6
28	1	女	手足口病	38℃, 発疹, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 12	Coxsackievirus A6
29	1	男	手足口病	水疱, 発疹, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 12	Coxsackievirus A6
30	1	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 13	Coxsackievirus A6
31	2	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	9. 13	<i>Bordetella pertussis</i>
32	1	女	手足口病	40℃, 水疱, 発疹, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 17	Coxsackievirus A6
33	4ヶ月	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	9. 17	Enterovirus 71
34	1	男	手足口病	39℃, 咳漱, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 19	Coxsackievirus A6
35	2	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	9. 20	Echovirus 6
36	1	女	手足口病	39℃, 発疹,	ぬぐい液	9. 21	Enterovirus 71
37	36	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	9. 21	<i>Bordetella pertussis</i>
38	1	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9. 24	Enterovirus 71
39	1ヶ月	男	百日咳	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	9. 24	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2013年									2013年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-1		1									1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4			1	1							2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-12			1								1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-28			1		1						2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264			1	1							2
	計		3	3	2	1						7
インフルエンザ	Adenovirus 1											1
	Coxsackievirus B4			1								1
	Influenza virus A H1pdm 09	4										4
	Influenza virus A H3 NT	22	31	5								58
	Influenza virus B NT	1	9	2		3						15
	Influenza virus B /Victoria	4	7	8								19
Influenza virus B Yamagata	1	1	1		1						3	
Rhinovirus	1	3	2								6	
	計	32	51	19	1	4						107
咽頭結膜熱	Coxsackievirus B5									1		1
	Rhinovirus		1									1
	計		1							1		2
感染性胃腸炎	Adenovirus 1								1			1
	Adenovirus 2/6			1			2					3
	Adenovirus 41						3					3
	Adenovirus 5						1					1
	Adenovirus NT						1					1
	Astrovirus NT						2	1				3
	Coxsackievirus A8									1		1
	Coxsackievirus B4											1
	Coxsackievirus B5			1	1		6	1	3			11
	Echovirus 6								1			1
	Human metapneumovirus									1		1
	Norovirus GI NT	1									1	2
	Norovirus GII NT	6		5	5	5	2	2				25
	Rhinovirus						1	1			1	3
	Rotavirus group A NT	1										1
	Rotavirus group AG1	1	1	4	2	1						9
	Rotavirus group AG9	1										1
Sapovirus genogroup unknown	1	5	5	2			1	1			15	
<i>Campylobacter coli</i>	1										1	
<i>Campylobacter jejuni</i>			1					1			2	
	計	7	5	13	16	24	6	11	3	1		86
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2									2		2
	Adenovirus 2/6				1							1
	Coxsackievirus A6							1		2		3
	Coxsackievirus A8							1	26	5		32
	Coxsackievirus B5								2			2
	Coxsackievirus B8								1		3	4
	Enterovirus 71							1				2
	Enterovirus NT								1			1
	Herpes simplex virus	1										1
	Human herpes virus 6					1				1		2
	Human herpes virus 7	1								1		2
	Human metapneumovirus					1				1		2
	Parainfluenza virus 3											1
Rhinovirus								1			1	
	計	2			1	3	3	34	10	3		56
手足口病	Adenovirus 2									1		1
	Adenovirus 5									1		1
	Adenovirus 6									1		1
	Coxsackievirus A6								8	9	13	30
	Coxsackievirus A8								2	1	1	4
	Coxsackievirus B5									1		1
	Echovirus 6										1	1
	Enterovirus 71					1	4	13	5	4		27
	Enterovirus NT						1					1
	Herpes simplex virus									1		1
	Human herpes virus 6					1						1
	Human herpes virus 7										1	1
	Rhinovirus						1		1			3
	計					3	5	28	18	19		73
百日咳	Coxsackievirus A8									1		1
	<i>Bordetella pertussis</i>		1	1	10	2	2				2	18
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4		1	1	1	1	1			1	8
	計	4	1	1	11	3	2	2		3		27
突発性発疹	Human herpes virus 6		1									2
	計		1									2
細菌性髄膜炎	Coxsackievirus B5			1								1
	Human herpes virus 6			1								1
	Human herpes virus 7			1								1
	計			2								3
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8								1	2		3
	Coxsackievirus B4							1				1
	Coxsackievirus B5								2			3
	Human herpes virus 6			1								1
	Human herpes virus 7			1								1
	Echovirus 6								1			1
Rhinovirus								1			1	
	計				2	1		6	2			11
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	11	3	1	2	4	4	3	1			29
	計	11	3	1	2	4	4	3	1			29
流行性角結膜炎	Adenovirus 2			1								1
	計			1								1
伝染性紅斑	Human herpes virus 7			1	1							2
	計			1	1							2
その他	Adenovirus 1			1	1					1		3
	Adenovirus 2								1			1
	Adenovirus 3										1	1
	Adenovirus 5			1		1						2
	Adenovirus 2/6			1	2	2						5
	Adenovirus 11/35	1									1	2
	Adenovirus C	1				1	1					4
	Coxsackievirus A6								2			3
	Coxsackievirus A8								4	4		8
	Coxsackievirus B4			1								1
	Coxsackievirus B5					2			4			6
	Echovirus 6					1				1		2
	Echovirus 30									1		1
	Enterovirus 71								1			1
	Human bocavirus					2						2
	Human herpes virus 6	1	4	2	3	5	4	1				20
	Human herpes virus 7	6	3	1	4	4	4	3				25
	Human metapneumovirus		4	2	2	3	4		1	1		13
	Influenza virus A H3 NT	1										1
	Influenza virus B /Victoria	1										1
	Norovirus GII NT	1		1	1		1					4
	Parainfluenza virus 3			2	2	7	5					16
	Respiratory syncytial virus		1									1
Respiratory syncytial virus A	5		2	2			1	3			13	
Rhinovirus	4	3	4	9	10	3	1	2			36	
Rotavirus group AG1				1							2	
Rotavirus group AG9	1										1	
Sapovirus genogroup unknown				1							1	
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	1			1							2	
<i>Staphylococcus aureus</i> I				1							1	
	計	13	14	24	26	35	23	23	17	4		179
総計		69	77	63	64	80	43	107	52	30		585

高知県感染症情報 2013年10月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ									1	5
小児科	咽頭結膜熱			1	12			7	20	40	7
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			10	11	7		3	31	41	78
	感染性胃腸炎	20	10	77	10	3	24		144	165	273
	水痘	2	8	24	2		9		45	69	99
	手足口病	2	44	83	33	27	53		242	594	5
	伝染性紅斑					5	3		8	4	10
	突発性発疹	2	4	15	6	1	9		37	53	48
	百日咳				1		3		4	2	11
	ヘルパンギーナ	3	4	6	2	2	8		25	104	22
	流行性耳下腺炎	2	23	64	3	7	22		121	122	25
	RSウイルス感染症		7	44	5	11	48		115	48	110
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				2				2	4	5
STD	性器クラミジア感染症				1			1	2	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症							1	1	1	
	尖圭コンジローマ									1	
	淋菌感染症				1				1	1	3
基幹	細菌性髄膜炎									1	
	無菌性髄膜炎				2			1	3	2	
	マイコプラズマ肺炎		1	5					6	13	33
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2					2	2	1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)										
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	7	14			1		27	37	46
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			2					2		2
	薬剤耐性緑膿菌感染症							1	1		1
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			36	119	366	73	57	188	839	1,307	786
前月			68	198	669	102	95	175			
前年同月			52	161	391	64	36	82			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年10月

全国情報（9月30日～10月27日）

第40週(9月30日～)から第43週(～10月27日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国の10月の上位6疾患の合計は31.03で、9月37.20よりもさらに減少し今年最も少ない。感染性胃腸炎(9月2位11.39)は増加したが持続的な増加傾向はみられない。手足口病(同1位12.65)は1/2以下に減少し、週毎にも減少しており2011年に次ぐ大流行は終息しつつある。RSウイルス感染症(同3位3.94)は増加したが週毎の増加傾向はみられず、昨年似た推移を示している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同5位3.10)と水痘(同8位1.88)は冬季に向けて今後も増加すると推測される。突発性発疹(同7位2.27)は変化なし。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	感染性胃腸炎		3.00	3.07	2.90	3.68	12.65
2	手足口病		1.71	1.67	1.29	1.06	5.73
3	RSウイルス感染症		1.03	1.21	1.04	1.17	4.45
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.96	0.99	0.76	1.10	3.81
5	突発性発疹		0.59	0.60	0.49	0.54	2.22
6	水痘		0.51	0.57	0.55	0.54	2.17

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の10月の上位6疾患の合計は23.46で、9月36.90の約2/3と大きく減少し全国よりもかなり少ない。手足口病(9月1位19.80)は全国と同様に1/2以下に減少したが全国の1.4倍、流行性耳下腺炎(同3位4.06)は全国11位0.90の4.5倍と多い。一方、感染性胃腸炎(同2位5.50)、水痘(同5位2.30)、突発性発疹症(同1.77)は減少し全国よりも少なく、特に感染性胃腸炎は全国の4割に満たない。RSウイルス感染症(同8位1.60)は全国に遅れて増加し、まだ全国よりも少ない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同9位1.37)は10月7位1.03で全国の3割以下である。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	手足口病		2.20	2.03	2.30	1.53	8.06
2	感染性胃腸炎		1.17	1.13	1.07	1.43	4.80
3	流行性耳下腺炎		1.00	1.27	1.13	0.63	4.03
4	RSウイルス感染症		0.60	0.80	1.00	1.43	3.83
5	水痘		0.60	0.40	0.30	0.20	1.50
6	突発性発疹		0.23	0.27	0.47	0.27	1.24

2. 全体の傾向

麻しんの報告無し。風しんの報告1例(臨床診断例)。

第42週からロタウイルス感染性胃腸炎の基幹定点からの全例報告が開始された。

今年大流行した手足口病は終息に向かっている。2年あまり続いたマイコプラズマ肺炎の報告数が減少してきた。流行性耳下腺炎の流行が続いているがまだ急激な増加はみられていない。RSウイルス感染症は週毎の増加傾向がみられている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名(9月1名)。全国では738名の報告があり、沖縄183名、静岡72名、東京64名、兵庫54名、北海道42名の順である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 20名(9月40名)。8月39名、9月とやや多かったが10月は減少しており、今後の動向に注目したい。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 31名(9月41名)。過去10年間では2008年8月の22名に次いで少ない。今年3桁の報告数は3月123名の1回のみであり、年間を通じて少ない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 144名(9月165名)。9月よりもさらに減少し、過去10年間で最も少なかった2011年8月146名を下回った。ウイルスはAdenovirus 3, Coxsackievirus B5, Echovirus 11, が各1件検出された。

5) 水痘

報告数 45名(9月69名)。6月以降減少しているが、11月頃から増加する疾患である。

6) 手足口病

報告数 242名(9月594名)。1/2以下に減少し、第43週には注意報値2.0を下回った。ウイルスはCoxsackievirus A6が7件検出された。今シーズンの主な原因ウイルスは全国と

同様に Coxsackievirus A6 (37 件) であったが、Enterovirus71 (27 件) の検出割合は全国よりも高い。(全国は A6 : 71 = 1 : 0.29)

7) 伝染性紅斑

報告数 8 名 (9 月 4 名). 2012 年の流行後、9 か月連続 1 桁が続いている。

8) 突発性発疹

報告数 37 名 (9 月 53 名). 大きな変動はない疾患であるが、冬に向かって報告数が減少してきた。

9) 百日咳

報告数 4 名 (9 月 2 名). 非流行期の 1 桁の報告数が続いているが、Bordetella pertussis が 3 件検出されている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 25 名 (9 月 104 名). 9 月の 1/4 に減少した。来月以降しばらくの間、1 桁の報告数となるであろう。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 121 名 (9 月 122 名). 122 名 (8 月 106 名). 3 か月連続 3 桁の報告数であり、2011 年末以来の流行期に入った。前回の流行期間は半年あまりであったが、今後の推移に注目したい。定点あたり報告数 4.03 は福井 (5.46) に次いで 2 位である。

12) RS ウイルス感染症

報告数 115 名 (9 月 48 名). 2 倍以上に急増し、週毎に増加傾向にあるため今後の動向に注意すべきである。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2 名 (9 月 4 名). 2009 年以降では 10 名以上の報告は 3 回のみである。

14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 6 名 (9 月 13 名). 2 年余り続いた流行が全国と同様に終息しつつある。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 27 名 (9 月 37 名). 他の多罪耐性菌を含め対応がなされているためか、長期的には減少している。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 2 名 (9 月 0 名). 報告数減少が続いている原因として小児肺炎球菌ワクチンの効果も考えられる。侵襲性肺炎球菌および侵襲性インフルエンザ菌感染症が 2013 年 4 月 1 日から届出対象疾患となり、高齢者の肺炎球菌ワクチンも含め、予防接種の効果判定の指標となるであろうか。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年														総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		25
2	結核									136	148	164	151	192	131	114	1,036
	計									136	148	164	151	192	131	114	1,036
3	コレラ	1					1					1					3
	バチルス	2															2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								25
	腸チフス		1						1								2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	150
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	182
4	A 型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3					28
	Q 熱	1	1	2				1									5
	オウム病			1		1											2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8		64
	マラリア								2					1			3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	40
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	119
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1				6
	レプトスピラ症											1		4	2		7
	E 型肝炎												1		1		2
	デング熱												1				4
	重症熱性血小板減少症候群															3	3
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	9	283
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		24
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				26
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1		7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1					2
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1		14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1	1		1	1	3		9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	1
	髄膜炎菌性髄膜炎									1							1
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		18
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	6	104
	麻しん										5						5
	風しん										1	1			4	8	14
計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	17	315	
新型	新型インフルエンザ										34						34
計											34						34
動物	鳥インフルエンザ													1			1
計														1			1
総計		61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	143	1,851

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

10月はウイルス51件、細菌31件の搬入があり、そのうちウイルス24件、細菌9件の病原体を検出し、また、平成25年9月に搬入された検体でウイルス6件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 3 1件、Adeno virus 6 1件、Adeno virus NT 2件、Coxsackie virus A6 7件、Coxsackie virus A8 1件、Coxsackie virus B5 1件、Echo virus 6 1件、Echo virus 11 3件、Enterovirus 68 3件、Human herpes virus 6 3件、Human herpes virus 7 2件、Respiratory syncytial virus A 1件、Respiratory syncytial virus B 1件、Rhino virus 3件。また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 3件、*Mycoplasma pneumoniae* 6件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	9.11	Human herpes virus 7
2	13	男	感染性胃腸炎	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, リンパ節	ふん便	9.13	Coxsackievirus B5
3	1	女	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 中枢神経系障害,	ふん便, ぬぐい液	9.15	Human herpes virus 6
4	8ヶ月	女	不明発疹症	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 発疹,	ぬぐい液	9.17	Coxsackievirus A8
5	6	男	下気道炎	40℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	9.18	Enterovirus 68
6	4	男	下気道炎	40℃, 下痢, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	9.18	Enterovirus 68
7	3	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	9.19	Human herpes virus 7
8	4ヶ月	女	急性細気管支炎	39℃, 咳漱, 上気道炎,	鼻腔ぬぐい	9.24	Enterovirus 68
9	1	男	手足口病	39℃, 発疹, 手足口病症状,	ぬぐい液	9.24	Coxsackievirus A6
10	5	男	感染性胃腸炎	39℃, 下痢,	ぬぐい液	9.24	Adenovirus 3
11	7	女	マイコプラズマ	40℃, 下痢, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	9.25	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
12	3	男	無菌性髄膜炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	-	9.25	Echovirus 6
13	3	女	気管支喘息	咳漱,	鼻腔ぬぐい	9.25	Rhinovirus
14	6	男	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	9.28	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
15	3ヶ月	女	急性気管支炎	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	9.28	Respiratory syncytial virus A
16	1	女	急性心筋炎	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	9.30	Adenovirus NT
17	5ヶ月	女	川崎病	40℃, 下痢,	鼻腔ぬぐい液	10.2	Rhinovirus
18	1	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	10.4	Human herpes virus 6
19	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10.5	Adenovirus 6
20	1ヶ月	男	-	39℃,	髄液	10.5	Echovirus 11
21	1	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10.7	Human herpes virus 6
22	3	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	10.7	<i>Bordetella pertussis</i>
23	1	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	10.7	Adenovirus NT
24	2	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	10.9	Echovirus 11
25	9ヶ月	女	乳児喘息	咳漱,	ふん便	10.9	Rhinovirus
26	1ヶ月	男	無菌性髄膜炎	39℃,	ふん便	10.10	Echovirus 11
27	2	女	手足口病	39℃, 発疹, 手足口病症状,	ぬぐい液	10.11	Coxsackievirus A6
28	2	女	急性出血性結膜炎, 手足口病	38℃, 咳漱, 上気道炎, 水疱, 発疹, 口内炎, 手足口病症状, 結膜炎,	ぬぐい液, ふん便	10.15	Coxsackievirus A6
29	2	女	手足口病	口内炎, 手足口病症状,	ぬぐい液	10.15	Coxsackievirus A6
30	1	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	10.16	Coxsackievirus A6
31	1	男	手足口病	39℃, 気管支炎, 発疹,	ぬぐい液	10.16	Coxsackievirus A6
32	1	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	10.16	<i>Bordetella pertussis</i>
33	7	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	10.16	<i>Bordetella pertussis</i>
34	11	女	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	10.16	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
35	1	女	肺炎	40℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	10.17	Respiratory syncytial virus B
36	5	男	下気道炎	38℃, 下気道炎,	ぬぐい液	10.18	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
37	1	男	手足口病	39℃,	ぬぐい液	10.21	Coxsackievirus A6
38	11	男	マイコプラズマ	38℃, 肺炎,	ぬぐい液	10.25	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
39	11	女	マイコプラズマ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	10.25	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

高知県感染症情報 2013年11月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ			1	26	3	20		50		15
小児科	咽頭結膜熱			3	45			3	51	20	5
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		8	25	13	4	4	55	31	102
	感染性胃腸炎	19		54	197	21	19	23	333	144	832
	水痘	1		12	54	4	2	11	84	45	272
	手足口病	1		29	34	23	25	34	146	242	4
	伝染性紅斑				2				2	8	23
	突発性発疹	4		2	31	5	3	6	51	37	59
	百日咳				2				2	4	11
	ヘルパンギーナ			1	3	5	1	3	13	25	21
	流行性耳下腺炎	1		24	93	1	36	26	181	121	30
	RSウイルス感染症	9		21	127	8	8	22	195	115	89
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									2	6
STD	性器クラミジア感染症				1			1	2	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									1	
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症				1				1	1	
基幹	細菌性髄膜炎			1					1		1
	無菌性髄膜炎				3				3	3	3
	マイコプラズマ肺炎			5	18				23	6	41
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									2	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				1				1		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4		8	12			5	29	27	36
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				2				2	2	
	薬剤耐性緑膿菌感染症				1				1	1	
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			40	169	678	83	118	138	1,226	839	1,552
前月			36	119	366	73	57	188			
前年同月			111	270	730	160	96	185			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年11月

全国情報（10月28日～12月1日）

第44週（10月28日～）から第48週（～12月1日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

11月の上位6疾患の合計は56.48で、10月39.13（5週に補正，以下同じ）から増加に転じた。感染性胃腸炎（10月1位15.81）は2倍に増加し、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同4位4.76）も大きく増加し、それぞれ46週以降は週ごとの増加がみられているが過去10年間では平均程度の報告数である。RSウイルス感染症（同3位5.56）は昨年と同様に早期に（9月から）増加した後、11月は大きな増減なく推移している。水痘（同6位2.71）も2倍となったが例年よりもやや少ない。手足口病（同2位7.16）は約1/2に減少し大流行は終息したが、11月としては過去10年間では3番目に多い。流行性角結膜炎（同7位2.53）は季節による変動幅が小さくなってきている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		4.12	4.11	5.74	6.72	10.33	31.02
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.17	1.11	1.36	1.49	1.90	7.03
3	RSウイルス感染症		1.34	1.16	1.28	1.30	1.35	6.43
4	水痘		0.84	0.84	1.05	1.15	1.64	5.52
5	手足口病		1.09	0.79	0.68	0.64	0.59	3.79
6	流行性角結膜炎		0.51	0.43	0.56	0.61	0.58	2.69

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の11月の上位6疾患の合計は34.20で、10月29.33（5週に補正）よりも僅かに増加したのみで、全国とは大きな差がある。感染性胃腸炎（10月2位6.00）は2倍近くに増加したが全国の約1/3と少ない。RSウイルス感染症（同4位4.79）は全国と同程度であるが、週ごとに増加傾向がみられている。流行性耳下腺炎（同3位5.04）は増加し福井県8.32に次いで全国2位である。手足口病（同1位10.08）は全国よりもまだ多いが、週ごとに減少している。マイコプラズマ肺炎（同9位0.95）は3倍に増加し全国よりも多い傾向が続いている。水痘（同5位1.88）は高知県でも増加したが全国の1/2に留まっている。全国2位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は高知県7位1.83であり全国で最も少ない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		1.03	2.00	1.90	2.40	3.77	11.10
2	RSウイルス感染症		1.37	0.97	1.10	1.47	1.60	6.51
3	流行性耳下腺炎		0.90	0.63	1.57	1.33	1.60	6.03
4	手足口病		1.60	1.27	0.87	0.63	0.50	4.87
5	マイコプラズマ肺炎		0.38	0.88	0.25	0.88	0.50	2.89
6	水痘		0.60	0.27	0.60	0.43	0.90	2.80

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

冬型感染症が増加しつつある。まず、インフルエンザの流行が始まりかけており、現時点で検出されたウイルスはAH3（いわゆるA香港型）である。次に、RSウイルス感染症は週ごとの増加傾向があり注意すべきである。感染性胃腸炎は増加しているがまだ比較的少ない。流行性耳下腺炎の流行は続いている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘は少ない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 50名（10月0名）。11月の定点あたり報告数は1.04で全国と全く同じである。2009年のAH1pdm09の大流行を除けば、11月の報告数としては最も多い。48週の定点あたり報告数は0.79であったが49週は2.00となり流行の指標である1を超えている。ウイルスはAH3NT（いわゆるA香港型）のみ9件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 51名（10月20名）。急激に増加し過去2年間で最も多い。全国の11月の報告数は過去10年間で最も多く、高知県の今後の動向に注目したい。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 55名（10月31名）。増加に転じたが11月としては過去10年間で最も少なく、都道府県別でも最も少ない。血清型T-28が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 333名（10月144名）。増加したが過去10年間では4番目に少なく、12月以降の動向に注意すべきである。ウイルスは検出されていない。

5) 水痘

報告数 84名（10月45名）。通常通り増加に転じたが、過去10年間では3番目に少ない。

6) 手足口病

報告数 146名（10月242名）。2010年の流行で

は急激に減少したが、今年の流行は2011年に似て比較的緩やかに減少している。Coxsackievirus A6が6件、Enterovirus 71が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 2名(10月8名)。10か月連続1桁の報告数である。

8) 突発性発疹

報告数 51名(10月37名)。増加したが変動幅の範囲である。1年間の報告数は、6月～9月に最高となり、11月～4月に最低となることが多い。

9) 百日咳

報告数 2名(10月4名)。2012年12月以降は、2013年4月13名以外は1桁の報告数である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 13名(10月25名)。1桁にまでは減少しなかった。Coxsackievirus A6が1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 181名(10月121名)。さらに増加し、過去4年間で最も多い。全国では福井県、高知県、福島県などで流行している。

12) RSウイルス感染症

報告数 195名(10月115名)。11月としては2004年の調査開始以来最も多い。加えて週ごとの増加傾向があり、今後の推移に注意すべき疾患である。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(10月2名)。少ない報告数が続いている。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 23名(10月6名)。高知市18名、中央東5名と再び増加した。東北地方の報告が多い。基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 29名(10月27名)。30名前後で大きな変動なし。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 2名(10月2名)。2013年の毎月の報告数は0～4名で推移している。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年													総計			
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		24	25	
2	結核										136	148	164	151	192	131	122	1,044
	計										136	148	164	151	192	131	122	1,044
3	コレラ	1					1						1					3
	パラチフス	2																2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2									25
	腸チフス		1						1									2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3		150
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3		182
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					28
	Q熱	1	1	2				1										5
	オウム病			1		1												2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	2		66
	マラリア								2					1				3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2		40
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1		119
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1					6
	レプトスピラ症											1		4	2			7
	E型肝炎												1		1			2
	デング熱												1				3	4
	重症熱性血小板減少症候群																	3
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	11		285
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3			24
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					26
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1			7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							2
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1			14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3			9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2		37
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	1
	髄膜炎菌性髄膜炎									1								1
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1			18
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	7		105
	麻しん										5							5
	風しん										1	1			4	8		14
計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	18		316	
新型	新型インフルエンザ											34						34
計												34						34
動物	鳥インフルエンザ													1				1
計														1				1
総計		61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	154		1,862

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

11月はウイルス62件、細菌28件の搬入があり、そのうちウイルス33件、細菌7件の病原体を検出し、また、平成25年10月に搬入された検体でウイルス9件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Coxsackie virus A6 7件、Coxsackie virus B1 1件、Coxsackie virus B2 1件、Echo virus 25 1件、Entero virus 71 1件、Human herpes virus 6 4件、Human herpes virus 7 3件、Influenza virus AH3 NT 9件、Respiratory syncytial virus B 2件、Rhino virus 12件、また、細菌の内訳は、*Mycoplasma pneumoniae* 6件、*Streptococcus pyogenes*T28 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	10	女	伝染性紅斑	発疹,	ぬぐい液	10.15	Human herpes virus 7
2	5ヶ月	女	RSウイルス細気管支炎	咳漱, 上気道炎,	鼻腔ぬぐい	10.16	Rhinovirus
3	4	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10.19	Human herpes virus 7
4	11	女	急性肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	10.20	Rhinovirus
5	2ヶ月	男	無呼吸発作	—	ふん便	10.22	Adenovirus 1
6	6ヶ月	女	不明発疹症	39℃, 下痢, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	10.25	Human herpes virus 6
7	2ヶ月	男	無菌性髄膜炎	中枢神経系障害,	髄液	10.25	Human herpes virus 6
8	1	女	急性上気道炎	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 上気道炎,	鼻腔	10.27	Rhinovirus
9	4	男	気管支炎	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	10.28	Rhinovirus
10	3	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	10.29	Coxsackievirus A6
11	11	女	マイコプラズマ	37℃, 気管支炎,	ぬぐい液	10.30	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
12	9ヶ月	男	気管支炎	下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔ぬぐい液	10.31	Rhinovirus
13	7	女	マイコプラズマ	39℃, 下気道炎, 肺炎,	ぬぐい液	10.31	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
14	10	男	マイコプラズマ	39℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	10.31	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
15	2	男	手足口病	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	10.31	Coxsackievirus A6
16	3	男	手足口病 疑い	咳漱, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	10.31	Enterovirus 71
17	2	女	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	11.1	Coxsackievirus A6
18	11	女	マイコプラズマ	40℃, 肺炎,	ぬぐい液	11.1	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
19	2	男	けいれん重積	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	11.3	Human herpes virus 6
20	1	女	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	11.5	Human herpes virus 7
21	7	男	気管支炎	38℃, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	11.5	Rhinovirus
22	1	女	手足口病	39℃, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	11.5	Coxsackievirus A6
23	1	男	手足口病	水疱, 発疹,	ぬぐい液	11.5	Coxsackievirus A6
24	3	女	気管支炎	37℃, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	11.7	Rhinovirus
25	2ヶ月	男	急性気管支炎	39℃, 咳漱, 上気道炎, 気管支炎,	ふん便	11.8	Rhinovirus
26	1	男	—	40℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	11.11	Respiratory syncytial virus B
27	2	男	肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	11.11	Respiratory syncytial virus B
28	0ヶ月	男	新生児発熱呼吸障害	39℃,	尿・ぬぐい液	11.12	Coxsackievirus B2
29	1	女	川崎病疑い	39℃, 結膜炎,	ぬぐい液	11.12	Human herpes virus 6
30	1ヶ月	男	肺炎	38℃, 咳漱, 肺炎,	鼻汁	11.13	Echovirus 25
31	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	11.14	Rhinovirus
32	1	女	急性気管支炎、ウイルス性発疹症	38℃, 咳漱, 上気道炎, 肝機能,	ぬぐい液・ふん便	11.15	Coxsackievirus B1

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
33	1	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.15	Coxsackievirus A6
34	1	女	肺炎、気管支喘息	39℃, 咳漱, 上気道炎, 肺炎,	鼻腔ぬぐい	11.15	Rhinovirus
35	34	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	11.16	Influenza virus A H3 NT
36	4	女	マイコプラズマ	38℃, 肺炎,	ぬぐい液	11.18	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
37	1	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	11.18	Coxsackievirus A6
38	6	男	手足口病	口内炎, 手足口病症状,	—	11.18	Rhinovirus
39	1	男	不明発疹症	下痢, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	11.19	Rhinovirus
40	8	男	感染性胃腸炎	39℃, 腹痛,	ぬぐい液	11.19	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
41	7	男	インフルエンザ	39℃, 腹痛, 咳漱,	—	11.20	Influenza virus A H3 NT
42	3	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	11.21	<i>Streptococcus pyogenes T28</i>
43	29	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	鼻腔	11.24	Influenza virus A H3 NT
44	39	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.25	Influenza virus A H3 NT
45	85	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.25	Influenza virus A H3 NT
46	42	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.25	Influenza virus A H3 NT
47	4	男	インフルエンザ	39℃, 腹痛, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	11.25	Influenza virus A H3 NT
48	4	男	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	11.25	Influenza virus A H3 NT
49	2	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.25	Influenza virus A H3 NT

高知県感染症情報 2013年12月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		8	50	262	92	191	36	639	50	369
小児科	咽頭結膜熱		1	1	48	1	1	12	64	51	13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			7	25	3	2	12	49	55	126
	感染性胃腸炎		38	183	729	101	18	52	1,121	333	2,022
	水痘		6	13	95	26	2	4	146	84	363
	手足口病			2	6	1	5	12	26	146	1
	伝染性紅斑				1				1	2	17
	突発性発疹		2	1	24	3	9	2	41	51	48
	百日咳				1				1	2	3
	ヘルパンギーナ							4	4	13	6
	流行性耳下腺炎			18	115	1	35	32	201	181	17
	RSウイルス感染症		8	43	204	20	16	39	330	195	212
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				4				4		6
STD	性器クラミジア感染症				1				1	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症				1				1	1	
基幹	細菌性髄膜炎			1	2				3	1	
	無菌性髄膜炎				2				2	3	
	マイコプラズマ肺炎			1	17				18	23	46
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										3
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				1			3	4	1	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		12	2	11			6	31	29	41
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									2	3
	薬剤耐性緑膿菌感染症									1	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症										
計			75	322	1,549	248	279	214	2,687	1,226	3,298
前月			40	169	678	83	118	138			
前年同月			219	420	1,518	338	210	593			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2013年12月

全国情報 (12月2日～12月29日)

第49週(12月2日～)から第52週(～12月29日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

12月の上位6疾患の合計は89.85で、11月45.18(4週に補正、以下同じ)の2倍に増加した。上位6疾患は総て増加しているが、特に感染性胃腸炎(11月1位24.82)は約2.5倍に急増した。例年の感染性胃腸炎のピークは12月で60.96は中程度の報告数である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同2位5.62)、水痘(同4位4.42)、咽頭結膜熱(同8位1.69)もかなり増加している。特に、咽頭結膜熱は過去10年間の12月では最も多い。RSウイルス感染症(同3位5.14)は例年12月にピークの5位の報告数となるが、今シーズンは10月4.45、11月5.14と早期から増加した。インフルエンザ(同11位0.83)は12月の報告数としては少ない。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	計
1	感染性胃腸炎		13.11	15.92	18.07	13.86	60.96
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.08	2.28	2.38	1.74	8.48
3	水痘		1.69	1.85	2	1.96	7.50
4	RSウイルス感染症		1.39	1.39	1.30	1.16	5.24
5	インフルエンザ		0.67	0.82	1.39	1.90	4.78
6	咽頭結膜熱		0.66	0.73	0.80	0.70	2.89

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の12月の上位6疾患の合計は75.50で、11月27.36(4週に補正、以下同じ)の約2.8倍に増加したが、その内容は全国とは異なっている。感染性胃腸炎(11月1位8.88)は4.2倍に増加したが、全国の6割に留まっている。インフルエンザ(同10位0.83)は急増し、全国の約3倍と多い。RSウイルス感染症(同2位5.21)も全国の2倍で全国6位、全国1位徳島18.05、2位香川13.11と四国が多い。流行性耳下腺炎(同3位4.82)は継続して全国(11位1.07)よりも多く、福井7.37に次ぐ全国2位である。マイコプラズマ肺炎(同5位2.31)も継続して全国(10位1.41)よりも多い。水痘(同6位2.25)は急増したが全国よりも少ない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8位1.63)は全国で最も少ない。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	計
1	感染性胃腸炎		4.67	6.73	11.00	14.97	37.37
2	インフルエンザ		2.00	2.44	3.92	4.96	13.32
3	RSウイルス感染症		2.43	2.23	3.73	2.60	10.99
4	流行性耳下腺炎		1.93	1.57	2.07	1.13	6.70
5	水痘		0.70	1.60	1.37	1.20	4.87
6	マイコプラズマ肺炎		0.25	0.50	1.00	0.50	2.25

2. 全体の傾向

麻しんの報告無し。風しんの報告1例(臨床診断例) 感染性胃腸炎は急増したが例年と比較すると少なく、インフルエンザは12月としては過去10年間で最も多い。冬季を代表する2疾患の動向に注意すべきである。また、今回の流行性耳下腺炎の流行規模がどの程度になるか、今シーズンのRSウイルス感染症は12月がピークとなるのか、全国で流行している咽頭結膜熱は高知県ではどうなるのか等にも注目したい。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 639名(11月50名)。急増し、2009年のAH1pdm2009の大流行を除けば、12月としては過去10年間で最も多い。地域別定点あたり報告数は須崎47.75、中央西18.40、高知市16.37、中央東4.54、幡多4.51、安芸2.00の順である。年齢別では、5～9歳110名、1～4歳100名、30～39歳82名、10～14歳76名の順である。ウイルスは、AH3NT(いわゆるA香港型)のみ35件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 64名(11月51名)。さらに増加し、過去3年間では2011年9月87名に次いで多い。プール熱とも言われるため夏に流行するイメージがあるが、夏に増加・秋に減少・年末にかけて再上昇・年明けから低下する疾患であり、2013年は全国も夏よりも12月が多い。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 49名(11月55名)。減少し、11月と同様に過去10年間で12月としては最低の報告数である。高知県の12月定点あたり報告数1.63は全国最低で、46位徳島2.57よりもかなり少ない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,121名(11月333名)。大きく増加したが、12月としては2009年504名、2004年970名に次いで少ない。ウイルスは、Sapovirusが3件、NorovirusGⅡが2件、Adenovirus6が1件検出された。週報ではロタウイルスが2件報告されている。

5) 水痘

報告数 146名(11月84名). 11月12月と例年通り増加した. 多いときには300名を超える疾患である.

6) 手足口病

報告数 26名(11月146名). 今後さらに減少して1桁になると推測される. ウイルスはEnterovirus71が4件検出された.

7) 伝染性紅斑

報告数 1名(11月2名). 11ヶ月連続1桁で, 最も少ない時期が続いている.

8) 突発性発疹

報告数 41名(11月51名). 大きな変動なく40~70名程度で推移している.

9) 百日咳

報告数 1名(11月2名). 2012年に流行後, 非流行期が続いている.

10) ヘルパンギーナ

報告数 4名(11月13名). 5月頃から増加する疾患である.

11) 流行性耳下腺炎

報告数 201名(11月181名). 200名を超えたのは2009年4月255名以来である.

12) RSウイルス感染症

報告数 330名(11月195名). 1シーズンに2回以上300名を記録したことは過去にはない. ピークは12月から2月であるが, 最近は徐々に流行開始時期が早まり, 流行期間が長期化してきている.

13) 流行性角結膜炎

報告数 4名(11月0名). 継続して報告数は少ない.

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 18名(11月23名). 全国では約2年間続いた流行が沈静化し, 12月の報告数は過去10年間では平均より少なくなっているが, 高知県は減少傾向が乏しい.

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 31名(11月29名). 30名前後で大きな変化なし.

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(11月2名). 2013年は0~4名で推移した.

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における全数報告疾患

類型	病名	報告年														総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		25
2	結核									136	148	164	151	192	131	128	1,050
	計									136	148	164	151	192	131	128	1,050
3	コレラ	1					1					1					3
	パラチフス	2															2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								25
	腸チフス	1							1								2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	150
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	182
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3				28
	Q熱	1	1	2				1									5
	オウム病			1		1											2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	67
	マラリア								2					1			3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	40
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	119
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1				6
	レプトスピラ症											1		4	2	1	8
	E型肝炎												1		1		2
	デング熱												1				3
	重症熱性血小板減少症候群																4
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	287
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		24
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				26
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1		7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1					2
	急性脳炎								1	1	2	6		3	1		14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37
	侵襲性肺炎球菌感染症																1
	髄膜炎菌性髄膜炎										1						1
	破傷風		2	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		18
	梅毒	2	3	4	4	11	9	6	27	6	4	5	3	4	10	8	106
	麻しん										5						5
	風しん										1	1			4	9	15
	計	16	13	21	15	22	20	17	39	29	24	24	14	15	29	20	318
新型	新型インフルエンザ											34					34
	計											34					34
動物	鳥インフルエンザ												1				1
	計												1				1
総計	61	47	67	42	50	53	47	61	194	196	260	196	242	192	164	1,872	

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

12月はウイルス74件、細菌8件の搬入があり、そのうちウイルス64件の病原体を検出し、また、平成25年11月に搬入された検体でウイルス3件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Adeno virus 3 1件、Adeno virus 5 1件、Adeno virus 6 2件、Enterovirus 68 1件、Enterovirus 71 6件、Human herpes virus 6 5件、Human herpes virus 7 2件、Influenza virus AH3 NT 35件、Noro virus G II/4 1件、Respiratory syncytial virus A 1件、Respiratory syncytial virus B 3件、Rhino virus 3件、Sapovirus genogroup unknown 5件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	気管支炎	咳漱, 上気道炎,	喀痰	11.20	Rhinovirus
2	2	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	11.22	Sapovirus genogroup unknown
3	20	男	インフルエンザ	37℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.25	Influenza virus A H3 NT
4	10	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.25	Enterovirus 71
5	18	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.27	Influenza virus A H3 NT
6	81	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.27	Influenza virus A H3 NT
7	15	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.28	Influenza virus A H3 NT
8	53	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.28	Influenza virus A H3 NT
9	4	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	11.29	Influenza virus A H3 NT
10	1	男	急性気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	11.29	Adenovirus 3
11	10ヶ月	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	11.29	Adenovirus 1
12	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.30	Influenza virus A H3 NT
13	1ヶ月	男	下気道炎	下気道炎,	ぬぐい液	12.2	Respiratory syncytial virus B
14	74	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.2	Influenza virus A H3 NT
15	16	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	12.2	Influenza virus A H3 NT
16	5	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	12.2	Influenza virus A H3 NT
17	6	男	インフルエンザ	39℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	12.3	Influenza virus A H3 NT
18	54	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.3	Influenza virus A H3 NT
19	34	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.3	Influenza virus A H3 NT
20	4	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	12.3	Enterovirus 71 Human herpes virus 7
21	46	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	-	Influenza virus A H3 NT
22	42	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	-	Influenza virus A H3 NT
23	11	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.4	Influenza virus A H3 NT
24	6	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	12.4	Influenza virus A H3 NT
25	13	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	12.4	Influenza virus A H3 NT
26	4	男	インフルエンザ		ぬぐい液	-	Influenza virus A H3 NT
27	13	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	-	Influenza virus A H3 NT
28	4	女	インフルエンザ	40℃, 腹痛, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	-	Influenza virus A H3 NT
29	3	男	感染性胃腸炎	下痢, 腹痛,	ふん便	-	Adenovirus 6
30	2	女	肺炎	咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	-	Respiratory syncytial virus B
31	1	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	12.5	Human herpes virus 6
32	5	男	インフルエンザ	39℃, 腹痛, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	12.5	Influenza virus A H3 NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
33	2	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	12.5	Sapovirus genogroup unknown
34	2	男	けいれん重積発作、 流行性耳下腺炎の疑い		ぬぐい液	12.5	Enterovirus 68
					ふん便	12.6	Enterovirus 71
35	8	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	-	12.6	Influenza virus A H3 NT
36	12	男	インフルエンザ	39℃, 気管支炎,	ぬぐい液	12.6	Influenza virus A H3 NT
37	14	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.6	Influenza virus A H3 NT
38	10	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛, 咳漱,	ぬぐい液	12.6	Influenza virus A H3 NT
39	4	男	感染性胃腸炎	38℃, 腹痛,	ふん便	12.6	Norovirus GII/4
40	2	女	不明熱	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.7	Human herpes virus 6
							Respiratory syncytial virus A
41	9	男	インフルエンザ	39℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	12.7	Influenza virus A H3 NT
42	2	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	12.9	Human herpes virus 6
							Respiratory syncytial virus B
43	1	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	12.9	Influenza virus A H3 NT
44	3	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	12.9	Influenza virus A H3 NT
45	3	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	12.9	Influenza virus A H3 NT
46	2	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.9	Influenza virus A H3 NT
47	1	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	12.9	Enterovirus 71
48	1	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	12.10	Enterovirus 71
49	3	女	-	嘔吐, 嘔気,	ふん便	12.11	Sapovirus genogroup unknown
50	11	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	12.11	Influenza virus A H3 NT
51	7	女	インフルエンザ	40℃, 関節痛,	ぬぐい液	12.11	Influenza virus A H3 NT
52	2	女	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ぬぐい液	12.11	Rhinovirus
53	2	女	急性咽頭炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ぬぐい液	12.11	Rhinovirus
54	2	女	不明発疹症	41℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	12.13	Human herpes virus 6
55	9	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	12.13	Influenza virus A H3 NT
56	1	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	12.13	Enterovirus 71
57	3	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	12.14	Sapovirus genogroup unknown
58	44	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	12.15	Influenza virus A H3 NT
59	11ヶ月	男	急性肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	12.15	Adenovirus 6
60	3ヶ月	女	下気道炎	39℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	12.16	Adenovirus 5
61	1	男	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	12.16	Human herpes virus 6
62	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	12.16	Sapovirus genogroup unknown
63	4	女	けいれん重積	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	12.17	Human herpes virus 7

高知県感染症情報 2014年 1月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		115	578	1,438	373	208	618	3,330	639	2,101
小児科	咽頭結膜熱				16	1	1	6	24	64	1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	2	48	10	1	7	70	49	65
	感染性胃腸炎		105	322	1,162	228	127	156	2,100	1,121	1,242
	水痘		17	26	101	10	9	18	181	146	253
	手足口病			2	1				3	26	7
	伝染性紅斑			1	1	1			3	1	10
	突発性発疹		2	5	24	8	6	5	50	41	44
	百日咳				1				1	1	4
	ヘルパンギーナ			1					1	4	
	流行性耳下腺炎		3	20	116	3	21	25	188	201	8
	RSウイルス感染症		7	28	104	14	3	33	189	330	167
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				4				4	4	1
STD	性器クラミジア感染症				1				1	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										1
	尖圭コンジローマ										1
	淋菌感染症									1	
基幹	細菌性髄膜炎			1					1	3	
	無菌性髄膜炎				2				2	2	
	マイコプラズマ肺炎			1	11			1	13	18	24
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2		
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				7			2	9	4	24
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		13	1	16			4	34	31	1
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症				1				1		
薬剤耐性アシネトバクター感染症										3,956	
計			264	988	3,056	648	376	875	6,207	2,687	1,552
前月			75	322	1,549	248	279	214			
前年同月			219	469	1,893	464	291	620			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年1月

全国情報 (12月30日～2月2日)

第1週(12月30日～)から第5週(～2月2日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

1月の上位6疾患の合計は147.95で、12月112.31(5週に補正、以下同じ)よりも大きく増加した。インフルエンザ(12月5位5.98)は第51週に流行の指標である1を超え1.39となり、以後週毎に増加して第3週には注意報値10を、第5週には警報値30を超えた。増加の時期や程度は例年通りで、今後はピークの時期が注目される。ウイルスは主にAH3とAH1pdm09が、同時にBも検出されている。感染性胃腸炎(同1位76.19)は減少したが、週毎の報告数は10余りが継続している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同2位10.6)、水痘(同3位9.38)、RSウイルス感染症(同4位6.55)、流行性角結膜炎(同7位3.25)は総て減少した。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	5週	計
1	インフルエンザ		2.16	5.51	11.78	24.81	34.44	78.70
2	感染性胃腸炎		4.26	10.96	10.31	12.09	10.44	48.06
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.55	1.62	1.69	2.19	2.15	8.20
4	水痘		1.25	2.17	1.10	1.45	0.94	6.91
5	RSウイルス感染症		0.59	0.84	0.63	0.64	0.59	3.29
6	流行性角結膜炎		0.23	0.85	0.55	0.57	0.59	2.79

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の1月の上位6疾患の合計は160.33で、12月(5週に補正、94.38)の1.7倍に急増し全国を超えた。感染性胃腸炎(12月1位46.71)は全国とは異なり1.5倍に増加し、インフルエンザ(同2位16.65)は全国よりも早く増加し第4週にピークを迎えたようであり警報値に至らなかった。RSウイルス感染症(同3位13.74)は高知県も1/2以下に減少に減少したが、全国1位宮崎9.83、2位山口9.09に次いで3位である。流行性耳下腺炎(同4位8.38)も減少したが、全国9位1.08に比し高値であり、12月と同じく福井8.31に次いで全国2位である。水痘(同5位6.09)は横ばいで全国と大きな差はない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同8位2.04)は少し増加したが全国よりも非常に少なく、12月に引き続き全国で最も少ない。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	5週	計
1	感染性胃腸炎		8.03	15.50	15.43	15.57	15.47	70.00
2	インフルエンザ		6.50	8.71	13.44	20.90	19.83	69.38
3	RSウイルス感染症		1.03	1.77	1.47	1.33	0.70	6.30
4	流行性耳下腺炎		1.07	1.47	0.93	1.47	1.33	6.27
5	水痘		1.20	1.17	1.77	0.93	0.97	6.04
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.00	0.37	0.37	0.37	0.23	2.34

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

鳥インフルエンザ(H7N9)が引き続き中国で発生しています。疑い患者発生した場合、保健所に情報提供し適切な対応をお願いします。

今シーズンのインフルエンザの流行は小規模で、2月以降減少に向かうと推測される。感染性胃腸炎が増加し、流行性耳下腺炎の流行が続いている。RSウイルス感染症は減少に転じ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は少ない報告数が継続している。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3,330名(12月639名)。第6週の定点あたり報告数が13.15と減少しているため、今シーズンは第4週がピークであり、2月は減少すると推測される。過去10年間のシーズン最大報告数をみると、2007年3月3,003名に次いで少ない。定点あたり報告数が1を超えた第49週(2.00)から7週目の第4週にピークに達した。ウイルスは、AH3が11件、AH1pdm09が8件、Bが9件検出され、AH1pdm09とBが増加している。

2) 咽頭結膜熱

報告数 24名(12月64名)。大きく減少し、昨年夏からの流行が減少に転じたと推測される。ウイルスは、Adenovirus3が4件、Adenovirus2/6が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 70名(12月49名)。増加したが3桁に達しない報告数であり、定点あたり報告数2.34は先月に続き全国最下位である。

4) 感染性胃腸炎

報告数 2,100名(12月1,121名)。急増し例年程度の報告数となった。今シーズンのピークは1月と推測されるが、今後は流行の継続期間に注目したい。ウイルスは、NorovirusGII 26件、Sapovirus 12件、Rotavirus 3件検出された。

Norovirus と Sapovirus がしばしば同時に検出されている。

5) 水痘

報告数 181名(12月146名)。夏から秋に減少し11～12月から増加する疾患であり、今後さらに増加することが多い。

6) 手足口病

報告数 3名(12月26名)。昨年の流行は終息した。流行したウイルスは、CoxsackievirusA6とEnterovirus71で、発疹が広範囲で大きいことが特徴であった。

7) 伝染性紅斑

報告数 3名(12月1名)。1年間1桁の報告数が続き、非流行期が続いている。

8) 突発性発疹

報告数 50名(12月41名)。40から70名程度の変動幅の範囲である。

9) 百日咳

報告数 1名(12月1名)。2009年と2012年に流行がみられた。

10) ヘルパンギーナ

報告数 1名(12月4名)。5月頃から増加する。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 188名(12月201名)。3桁の報告数

が昨年8月から6ヶ月続いている。

12) RSウイルス感染症

報告数 189名(12月330名)。2年連続して9月から増加し、今シーズンは12月をピークに減少に転じた。今後も早期からの流行するのか注目したい。

13) 流行性角結膜炎

報告数 4名(12月4名)。0～4名で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 13名(12月18名)。1桁の報告数は、2007～2009年では11回、2012年は2回、2013年は1回のみである。この原因として診断技術の向上も関与している可能性がある。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 34名(12月31名)。変動なし。全国の2013年の報告数は過去10年間で最も少ない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(12月0名)。全国でも2012年から大きく減少している。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計			
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		26		
2	結核																131	1,062		
	計																131	1,062		
3	コレラ	1															1	3		
	パラチフス	2															1	2		
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2							25		
	腸チフス	1															1	2		
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	150			
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	182			
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1							28			
	Q熱	1	1	2													5			
	オウム病															1	2			
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	67		
	マラリア															2	3			
	レジオネラ症			2			1			1				9	7	3	6	9	2	40
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	119			
	日本脳炎	1	1	1													1	6		
	レプトスピラ症															1	8			
	E型肝炎															1	2			
	デング熱															1	4			
	重症熱性血小板減少症候群															1	3			
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	287			
5	アメーバ赤痢															2	24			
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				53			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4			4	3	3							27				
	ジアルジア症			1	2	1											7			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症															1	2			
	急性脳炎															1	14			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症															1	9			
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37			
	侵襲製肺炎球菌感染症															1	1			
	髄膜炎菌性髄膜炎															1	1			
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1	19		
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	108			
	麻しん															5	5			
	風しん															1	15			
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	322				
新型	新型インフルエンザ															34	34			
動物	鳥インフルエンザ															1	1			
計															1	1				
総計																61	1,888			

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

1月はウイルス114件、細菌13件の搬入があり、そのうちウイルス85件、細菌3件の病原体を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 2 1件、Adeno virus 2/6 1件、Adeno virus 3 5件、B19 virus 1件、Echo virus 30 2件、Human herpes virus 6 1件、Human metapneumo virus 2件、Influenza virus AH1 pdm09 8件、Influenza virus AH3 NT 12件、Influenza virus B NT 5件、Influenza virus B /Victoria 3件、Influenza virus B /Yamagata 2件、Norovirus GII NT 27件、Rota virus group AG3 2件、Rota virus group A NT 1件、Sapovirus genogroup unknown 12件。また、細菌の内訳は、*Mycoplasma pneumoniae* 3件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	男	急性上気道炎、急性肺炎	39℃、咳漱、上気道炎、下気道炎、気管支炎、肺炎、	鼻腔	12.27	Adenovirus 2
2	11ヶ月	男	不明発疹症	下痢、発疹、	ぬぐい液	12.30	B19 virus
3	25	女	インフルエンザ	39℃、咳漱、	ぬぐい液	1.5	Influenza virus B/Victoria
4	10	男	咽頭結膜炎	40℃、上気道炎、	ぬぐい液	1.6	Adenovirus 3
5	9	女	咽頭結膜炎	40℃、上気道炎、結膜炎、	ぬぐい液	1.6	Adenovirus 3
6	8	女	マイコプラズマ	39℃、肺炎、	ぬぐい液	1.7	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
7	1	女	インフルエンザ	40℃、	ぬぐい液	1.8	Influenza virus A H1pdm09
8	9	男	無菌性髄膜炎	38℃、下痢、中枢神経系障害、	髄液	1.8	Echovirus 30
					ふん便	1.10	
9	4	女	インフルエンザ	39℃、咳漱、	ぬぐい液	1.9	Influenza virus A H1pdm09
10	10	男	インフルエンザ	39℃、咳漱、	ぬぐい液	1.9	Influenza virus B/Victoria
11	1	女	咽頭結膜炎	40℃、	ぬぐい液	1.9	Adenovirus 2/6
12	2	女	急性上気道炎、気管支炎	40℃、咳漱、上気道炎、下気道炎、気管支炎、	鼻腔	1.9	Human herpes virus 6
13	1	男	流行性角結膜炎	37℃、結膜炎、	眼脂	1.9	Adenovirus 3
14	4	男	インフルエンザ	39℃、上気道炎、	ぬぐい液	1.10	Influenza virus B NT
15	2	女	インフルエンザ	40℃、上気道炎、	ぬぐい液	1.10	Influenza virus B/Yamagata
16	1	女	感染性胃腸炎	下痢、	ふん便	1.10	Norovirus GII NT
17	6	女	感染性胃腸炎	38℃、嘔吐、嘔気、	ふん便	1.10	Norovirus GII NT
18	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、咳漱、	ふん便	1.10	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
19	1	男	感染性胃腸炎	下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	1.10	Norovirus GII NT
20	2	女	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、	ふん便	1.10	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
21	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、	ふん便	1.10	Norovirus GII NT
22	6ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢、嘔吐、嘔気、咳漱、	ふん便	1.10	Sapovirus genogroup unknown
23	15	男	インフルエンザ	39℃、咳漱、関節痛、	ぬぐい液	1.11	Influenza virus A H3 NT
24	8	女	マイコプラズマ	40℃、肺炎、	ぬぐい液	1.11	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
25	3	女	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、腹痛、	ふん便	1.11	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
26	4	男	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、腹痛、	ふん便	1.11	Norovirus GII NT
27	33	女	インフルエンザ	38℃、咳漱、中枢神経系障害、	ぬぐい液	1.13	Influenza virus B NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
28	10ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 14	Norovirus GII NT
29	6ヶ月	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 14	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
30	11ヶ月	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 14	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
31	4	女	肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	1. 14	Human metapneumovirus
32	38	男	—	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 15	Influenza virus A H3 NT
33	3	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 15	Influenza virus A H3 NT
34	3	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 15	Norovirus GII NT
35	2	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 15	Sapovirus genogroup unknown
36	9	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	1. 16	Influenza virus A H1pdm09
37	5	男	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 16	Influenza virus A H1pdm09
38	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 16	Norovirus GII NT
39	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 17	Influenza virus A H3 NT
40	13	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	1. 17	Influenza virus A H3 NT
41	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 17	Influenza virus A H3 NT
42	1	男	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	1. 17	Rotavirus group A NT
43	4	女	肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	1. 17	Human metapneumovirus
44	4	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 18	Norovirus GII NT
45	4	男	無菌性髄膜炎, 単純性股関節炎	39℃, 咳漱, 関節痛, 嘔吐, 嘔気	ふん便, 髄液	1. 18	Echovirus 30
46	7	男	—	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 20	Influenza virus B/Yamagata
47	1	女	インフルエンザ	40℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	1. 20	Influenza virus A H1pdm09
48	5	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 20	Influenza virus A H1pdm09
49	15	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	1. 20	Influenza virus A H3 NT
50	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 20	Influenza virus A H3 NT
51	9	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1. 20	Influenza virus A H3 NT
52	2	女	咽頭結膜炎	40℃,	ぬぐい液	1. 20	Adenovirus 3
53	4	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛, 咳漱,	ふん便	1. 20	Norovirus GII NT
54	7	女	—	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 21	Norovirus GII NT
55	3	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻汁	1. 21	Influenza virus A H1pdm09
56	7	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 21	Influenza virus B/Victoria
57	5	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1. 21	Sapovirus genogroup unknown
58	13	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 22	Influenza virus B NT
59	5	女	マイコプラズマ	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	1. 22	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
60	5	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 22	Norovirus GII NT
61	1	女	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 気管支炎,	ふん便	1. 22	Norovirus GII NT
62	8	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1. 22	Norovirus GII NT
63	9	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1. 22	Norovirus GII NT
64	3	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1. 23	Influenza virus A H3 NT
65	4	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 23	Norovirus GII NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
66	2	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.23	Rotavirus group A G3
							Sapovirus genogroup unknown
67	2	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus B NT
68	3	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus B NT
69	2	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1.24	Norovirus GII NT
70	12	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.25	Influenza virus A H3 NT
71	1	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.25	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
72	6ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	1.25	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
73	8	女	インフルエンザ	上気道炎,	ぬぐい液	1.27	Influenza virus A H1pdm09
74	11	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	1.27	Influenza virus A H3 NT
75	1	女	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 肝機能,	ふん便	1.27	Norovirus GII NT
							Rotavirus group A G3
76	9	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1.27	Norovirus GII NT
77	2	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.27	Norovirus GII NT
							Sapovirus genogroup unknown
78	3ヶ月	女	咽頭結膜炎	上気道炎, 結膜炎,	ぬぐい液	-	Adenovirus 3

高知県感染症情報 2014年2月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		93	471	1,447	438	150	570	3,169	3,330	5,255
小児科	咽頭結膜熱			1	14	1	1	6	23	24	6
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	13	29	6	19	5	73	70	83
	感染性胃腸炎		46	193	546	97	28	107	1,017	2,100	1,083
	水痘		19	14	61	5	3	12	114	181	154
	手足口病			5	1	2			8	3	28
	伝染性紅斑			1	2			1	4	3	9
	突発性発疹		1	3	21	2	7	3	37	50	29
	百日咳									1	1
	ヘルパンギーナ									1	1
	流行性耳下腺炎		1	42	94	14	26	11	188	188	9
	RSウイルス感染症		6	9	18	4	2	12	51	189	229
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									4	1
STD	性器クラミジア感染症				1				1	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症										1
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎			1					1	1	
	無菌性髄膜炎				2				2	2	
	マイコプラズマ肺炎			2	6				8	13	18
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									2	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				5				5	9	31
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1	2	15			5	23	34	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症									1	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症										6,941
計			168	757	2,262	569	236	732	4,724	6,207	13,882
前月			264	988	3,056	648	376	875			
前年同月			359	1,232	2,624	850	453	1,423			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年2月

全国情報（2月3日～3月2日）

第6週（2月3日～）から第9週（～3月2日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

2月の上位6疾患の合計は158.58で、1月118.36（4週に補正、以下同じ）よりも大幅に増加した。インフルエンザ（1月1位62.96）のピークは第5週34.44で例年程度であるが、今シーズンの特徴は第9週まで減少傾向が明らかでなく流行の幅が広いことである。AH3、AH1pdm09、B型（ビクトリア系統株・山形系統株）など多種のウイルスが同時に検出されていることが一因かもしれない。感染性胃腸炎（同2位38.45）は2か月連続で減少し、第7週以降は過去10年間では最も少ない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位）6.56は第10週頃にピークとなることが多い。水痘（同4位5.53）および突発性発疹（同7位1.58）は過去10年間で最も少ない。流行性角結膜炎（同6位2.23）は第5週以降徐々に減少している。RSウイルス感染症（同5位3.29）は2月7位1.60に半減した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	6週	7週	8週	9週	計
1	インフルエンザ		30.72	28.18	27.36	28.44	114.70
2	感染性胃腸炎		8.18	6.22	6.50	6.78	27.68
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.04	1.75	2.13	2.29	8.21
4	水痘		1.15	1.06	1.11	1.00	4.32
5	流行性角結膜炎		0.56	0.54	0.51	0.45	2.06
6	突発性発疹		0.41	0.36	0.41	0.43	1.61

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の2月の上位6疾患の合計は114.12で、1月128.26（4週に補正、以下同じ）よりも減少し、全国よりもかなり少ない。この差はインフルエンザ報告数の差である。インフルエンザ（1月2位55.50）は第4週20.90以降減少していたが、再上昇し第9週には今シーズンの最高値となった。感染性胃腸炎（同1位56.00）は大きく減少したが全国を上回っている。流行性耳下腺炎（同4位5.04）は増加し、全国（10位0.85）第1位の報告数である。一方、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同6位1.87）は増加したが、全国で最も少ない。水痘（同5位4.83）はやや増加し、RSウイルス感染症（同3位5.04）は大きく減少しているが、それぞれ全国と同程度である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	6週	7週	8週	9週	計
1	インフルエンザ		13.15	13.44	17.90	21.54	66.03
2	感染性胃腸炎		10.70	7.67	8.10	7.43	33.90
3	流行性耳下腺炎		1.43	1.30	1.50	2.03	6.26
4	水痘		0.87	0.97	1.20	0.77	3.81
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.53	0.33	0.93	0.63	2.42
6	RSウイルス感染症		0.73	0.40	0.37	0.20	1.70

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

インフルエンザは再び増加し速やかな流行終息はみられず、10週以降の動向に注意しなければならない。流行性耳下腺炎は全国1位、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は全国47位が高知県の2月の特徴である。RSウイルス感染症は終息に向かい、水痘は例年に比べて少ない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3,169名（1月3,330名）。第7週から再上昇したが流行のピークとしては小さい。今シーズンは、第2のピークが第1よりもやや高く幅が広く例年とは異なっている。定点あたりの地域別報告数は、高知市90.44、中央西87.60、幡多71.26、中央西42.82、須崎37.50、安芸23.25の順である。ウイルスはAH1pdm09が18件、AH3NTが9件、Bが1件検出された。原因ウイルスがAH3NT（12月34件、1月11件）からAH1pdm09（12月0件、1月8件）やB（12月0件、1月9件）に変化している。

2) 咽頭結膜熱

報告数 23名（1月24名）。非流行期は1桁の報告数となるが、今月は大きな減少はみられなかった。ウイルスはAdenovirus3が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 73名（1月70名）。冬から春にかけて増加する疾患であるが、今シーズンは現在まで3桁に増加することがなく05～06年・07～08年と同様で少ない。定点あたり報告数2.42は全国で最も少なく、46位の山梨3.62よりもかなり少ない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,017名（1月2,100名）。半減し、12月以降の報告数は4,000名余りで例年程度である。これまでは4桁の報告数が3月から5月までみられているので、今シーズンの流行の幅

に注目したい。ウイルスは、Norovirus GII 9 件、Sapovirus2 件、Adenovirus41 型と 5 型が各 1 件検出された。

5) 水痘

報告数 114 名 (1 月 181 名)。11 ~ 12 月から増加する疾患であるが、2013 年 6 月以降 200 名以上の報告がなく少ない。

6) 手足口病

報告数 8 名 (1 月 3 名)。次の流行まで 1 桁が続くと推測される。

7) 伝染性紅斑

報告数 4 名 (1 月 3 名)。増加傾向はみられない。

8) 突発性発疹

報告数 37 名 (1 月 50 名)。通常の 40 ~ 70 名程度よりもやや少ない。

9) 百日咳

報告数 0 名 (1 月 1 名)。2011 年 7 月以来の報告数 0 名である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 0 名 (1 月 1 名)。手足口病と同様に次の流行まで 1 桁が続く。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 188 名 (1 月 188 名)。2013 年 8 月以降、7 か月連続 3 桁であり、2 月の定点あたり報告数

6.26 は福井 (5.73) を超え全国 1 位となった。

12) RS ウイルス感染症

報告数 51 名 (1 月 189 名)。今シーズンは早期 (9 月) から増加し、早めに終息に向かっている。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0 名 (1 月 4 名)。14 か月間 0 ~ 4 名で推移している。

14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 8 名 (1 月 13 名)。高知県の定点あたり報告数 1.01 (8 位) は徐々に低下し、全国 0.90 (9 位) と同程度となってきた。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 23 名 (1 月 34 名)。過去の報告数 (40 ~ 70 名程度) と比較するとコントロールされてきている。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0 名 (1 月 0 名)。3 か月連続 0 名であり、過去の報告数 (20 ~ 40 名程度) と比較すると激減している。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計		
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		26	
2	結核																1,070		
	計																1,070		
3	コレラ	1															3		
	パラチフス	2															2		
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2							25	
	腸チフス	1															2		
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	150		
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	182		
4	A 型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1							28		
	Q 熱	1	1	2													5		
	オウム病				1														2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	67	
	マラリア															3			
	レジオネラ症			2			1			1							40		
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	119		
	日本脳炎	1	1	1													6		
	レプトスピラ症												1	1	4	2	1	8	
	E 型肝炎													1			1	2	
	デング熱													1				4	
	重症熱性血小板減少症候群																3		
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	287		
	5	アメーバ赤痢															24		
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				54		
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4			4	3	3							27			
ジアルジア症				1	2	1											7		
バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1														2
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1			14	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症					1	1											9		
後天性免疫不全症候群		2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37		
侵襲製肺炎球菌感染症																1			
髄膜炎菌性髄膜炎																1			
破傷風				3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1	19	
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	108		
麻しん																5			
風しん													1	1			4	9	15
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	323			
新型	新型インフルエンザ																34		
計																34			
動物	鳥インフルエンザ															1			
計																1			
総計																1,897			

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

2月はウイルス 108件、細菌 35件の搬入があり、そのうちウイルス 58件を検出し、また、平成 26 年 1 月に搬入された検体でウイルス 9 件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 3 1 件、Adeno virus 41 1 件、Adeno virus 6 1 件、Human herpes virus 6 2 件、Human herpes virus 7 3 件、Human metapneumo virus 3 件、Influenza virus AH 1 pdm09 19 件、Influenza virusA H3 NT 10 件、Influenza virusB NT 1 件、Influenza virusB/Yamagata 3 件、Norovirus G II NT 10 件、Parainfluenza virus1 1 件、Rhinovirus 8 件、Respiratory syncytial virusA 1 件、Respiratory syncytial virusB 1 件、Sapo virus genogroup unknown 2 件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	3	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H3 NT
2	2	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	1.17	Human herpes virus 7
3	5	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.20	Influenza virus A H1pdm09
4	79	男	声帯周囲腫脹	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1.21	Human herpes virus 7
5	13	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	1.22	Influenza virus B/Yamagata
6	1	男	喘息性気管支炎	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	1.22	Human metapneumovirus
7	2	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus B/Yamagata
8	3	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.24	Influenza virus B/Yamagata
9	13	女	不明熱	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	1.25	Rhinovirus
10	8	女	インフルエンザ	上気道炎,	ぬぐい液	1.27	Influenza virus A H1pdm09
11	1	女	急性気管支炎	40℃, 咳漱, 気管支炎,	ふん便	1.28	Human herpes virus 6
12	6	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.29	Norovirus GII NT
13	3	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1.29	Norovirus GII NT
14	11ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.29	Norovirus GII NT
15	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.29	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
16	6	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.29	Sapovirus genogroup unknown
17	1	女	-	38℃, 嘔吐,	ふん便	1.30	Norovirus GII NT
18	2	女	インフルエンザ	中枢神経系障害,	鼻腔	1.30	Influenza virus A H1pdm09
19	4	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	1.30	Influenza virus A H1pdm09
20	6	女	インフルエンザ	中枢神経系障害,	鼻腔拭い	1.30	Influenza virus A H1pdm09
21	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 下気道炎, 肺炎,	ぬぐい液	1.30	Influenza virus A H3 NT
22	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐,	ふん便	1.30	Norovirus GII NT
23	1ヶ月	女	急性気管支炎, 百日咳	咳漱,	ぬぐい液	1.30	Rhinovirus
24	2	男	気管支炎	40℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	1.31	Rhinovirus Human metapneumovirus
25	1	男	グループ	咳漱,	鼻腔	1.31	Parainfluenza virus 1
26	2	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1.31	Adenovirus 6
27	1	男	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐,	ふん便	1.31	Norovirus GII NT
28	4	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.1	Influenza virus A H1pdm09
29	1	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.1	Influenza virus A H3 NT
30	1	男	感染性胃腸炎	40℃, 下痢, 気管支炎,	ふん便	2.1	Norovirus GII NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
31	5	男	下気道炎	38℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻咽腔	2.3	Rhinovirus
32	3	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.3	Influenza virus A H3 NT
33	58	女	インフルエンザ	38℃, 下痢, 咳漱, 上気道炎, 関節痛	ぬぐい液	2.3	Influenza virus A H3 NT
34	6	男	インフルエンザ	39℃, 腹痛, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.3	Influenza virus A H3 NT
35	6	男	咽頭結膜炎	38℃,	ぬぐい液	2.3	Adenovirus 3
36	7ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 下気道炎,	ふん便	2.3	Adenovirus 41
37	1	男	不明熱	41℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	2.3	Respiratory syncytial virus B
38	11	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	2.4	Influenza virus A H3 NT
39	5	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.4	Influenza virus A H3 NT
40	5ヶ月	男	急性気管支炎	咳漱, 下気道炎, 気管支炎,	ぬぐい液	2.4	Human metapneumovirus
41	3	男	肺炎	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	2.5	Respiratory syncytial virus A
42	3	男	インフルエンザ	38℃, 発疹,	ぬぐい液	2.5	Influenza virus A H1pdm09
43	6	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.5	Influenza virus A H3 NT
44	8	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	2.5	Norovirus GII NT
45	5	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	2.6	Norovirus GII NT
46	2	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.7	Influenza virus A H1pdm09
47	30	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.8	Influenza virus A H1pdm09
48	2	男	インフルエンザ	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	2.8	Influenza virus A H1pdm09
49	6ヶ月	女	不明発疹症	38℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	2.10	Rhinovirus
50	2	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	2.10	Rhinovirus
51	8	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.10	Influenza virus A H1pdm09
52	1	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	2.10	Influenza virus A H1pdm09
53	2	男	インフルエンザ	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.10	Influenza virus A H1pdm09
54	15	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2.12	Influenza virus A H1pdm09
55	8	男	インフルエンザ	咳漱,	ぬぐい液	2.12	Influenza virus A H1pdm09
56	12	女	インフルエンザ	37℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.12	Influenza virus A H1pdm09
57	1	男	急性肺炎	38℃, 咳漱, 上気道炎, 肺炎,	鼻腔	2.12	Rhinovirus
58	1	女	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	2.13	Rhinovirus Human herpes virus 7
59	1	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2.14	Influenza virus A H1pdm09
60	3	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2.14	Influenza virus A H3 NT
61	44	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus A H1pdm09
62	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.17	Influenza virus A H1pdm09
63	12	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.17	Influenza virus B NT
64	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	2.18	Human herpes virus 6

高知県感染症情報 2014年 3月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		170	505	1,292	442	168	666	3,243	3,169	3,451
小児科	咽頭結膜熱				5	1	5	10	21	23	11
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	4	39	2	25	12	84	73	123
	感染性胃腸炎		35	86	425	79	17	108	750	1,017	1,289
	水痘		16	16	38	7	2	22	101	114	191
	手足口病				1				1	8	10
	伝染性紅斑			2		1			3	4	8
	突発性発疹		2	5	24	4	4	4	43	37	43
	百日咳				1				1		5
	ヘルパンギーナ										
	流行性耳下腺炎			35	110	36	22	17	220	188	12
	RSウイルス感染症			1	5	2	3	14	25	51	108
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				2				2		
STD	性器クラミジア感染症				2				2	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症				1				1		
基幹	細菌性髄膜炎				1				1	1	2
	無菌性髄膜炎				1				1	2	
	マイコプラズマ肺炎			6	10				16	8	28
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2		1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1	6				7	5	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	3	16				21	23	26
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										2
	薬剤耐性緑膿菌感染症										1
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			227	664	1,981	574	246	853	4,545	4,724	5,313
前月			168	757	2,262	569	236	732			
前年同月			279	1,089	1,821	524	407	1,193			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年3月

全国情報 (3月3日～3月30日)

第10週(3月3日～)から第13週(～3月30日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

3月の上位6疾患の合計は116.62で、2月158.58よりも大きく減少し1月とほぼ同じ値である。その原因はインフルエンザ(2月1位114.70)の大幅な減少である。ピークの第5週(34.44)から第9週(28.44)までは緩やかに減少し、今シーズンは流行期間が長かったが、第12・13週から減少が明瞭になってきている。感染性胃腸炎(同2位27.68)は、第4週(12.09)をピークに急激に減少したが、第7週から第11週までは6台で推移し、第12週から5台に減少した。第20週頃までこの程度で推移することが多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同3位8.21)、水痘(同4位4.32)、流行性角結膜炎(同5位2.06)は減少し、突発性発疹(同6位1.61)は僅かに増加した。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ		22.93	22.79	18.59	12.13	76.44
2	感染性胃腸炎		6.52	6.74	5.87	5.70	24.83
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.19	2.15	1.83	1.68	7.85
4	水痘		1.03	0.96	0.88	1.01	3.88
5	流行性角結膜炎		0.44	0.51	0.46	0.49	1.90
6	突発性発疹		0.43	0.42	0.42	0.45	1.72

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の3月の上位6疾患の合計は108.7で、2月114.12よりも僅かに減少し全国と同程度となった。その原因はインフルエンザ報告数の差の縮小である。インフルエンザ(2月1位66.03)は、第4週(20.90)と第9週(21.50)との2つのピークがあり、全国と同様に流行期間が長かったが、第13週から減少している。感染性胃腸炎(同2位33.90)は減少し全国とほぼ同じ報告数であるが、週毎の減少傾向は明らかでない。流行性耳下腺炎(同3位6.26)は増加し、全国(8位0.92)よりも非常に多い状態が継続しており、都道府県別では2位福岡(3.22)の2倍以上で、2か月連続で全国第1位である。水痘(同4位3.81)は全国と同様に減少、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同5位2.42)は増加したが全国の約1/3と少ない。マイコプラズマ肺炎

(同8位1.01)は増加し、全国(11位0.88)の2倍以上である。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ		17.92	19.02	17.13	13.50	67.57
2	感染性胃腸炎		4.93	6.03	7.53	6.50	24.99
3	流行性耳下腺炎		1.87	1.80	1.87	1.80	7.34
4	水痘		1.30	0.43	0.50	1.13	3.36
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.70	0.47	0.93	0.70	2.80
6	マイコプラズマ肺炎		0.50	0.63	0.25	0.63	2.01

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。全国では、昨年増加した風しんは下火になったが、替わって麻しんが増加しており、本年14週までの報告数は253例で昨年1年間(232例)を上回った。報告者の約8割は予防接種歴がない又は不明である。定期の麻しん・風しんワクチンを確実に接種し、未接種者は接種を受けて予防すべきである。

ピークは低いが流行期間が長い今シーズンのインフルエンザは減少傾向にある。RSウイルス感染症は早期に流行が始まり、早期に終息に向かっている。流行性耳下腺炎は2ヶ月連続で全国1位、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2か月連続で全国最少である。サーベイランス対象疾患ではないが、ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症の報告が週報で散見されている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3,243名(2月3,169名)。やや増加し、1月(3,330名)から3か月連続でほぼ同数が報告された。通常インフルエンザは8週間程度の急峻なピークを呈するが、今シーズンは第2週から第13週までの12週間にわたって注意報基準値10を上回り、流行期間が長かった。ウイルスは、AH1pdm09が17件、Bが9件(NT5件、Yamagata4件)、AH3が2件検出された。ウイルスの検出状況と週報から、11・12月はAH3で流行が始まり、1月にはAH1pdm09とBが加わり、2月はAH1pdm09が、3月後半はBが感染の主体となり、1シーズンに3種類のウイルスが流行したため流行期間が延長したと推測される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 21名(2月23名)。通常夏季(7～9月)にピークを呈する疾患であるが、昨年は12月64

- 名が最多で、1月以降は20名台で推移している。
- 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
報告数 84名(2月73名)。僅かに増加したが3桁には達せず、定点あたり報告数(2.80)は2月に引き続き全国で最も少ない。
- 4) 感染性胃腸炎
報告数 750名(2月1,017名)。3桁に減少したが、4月以降に再上昇することもあり注意すべきである。ウイルスは、Norovirus G II NTが6件、Rotavirus AG3が2件 Sapovirusが1件検出された。
- 5) 水痘
報告数 101名(2月114名)。夏に減少し11月頃から増加する疾患で、過去10年間の各流行シーズンのピークは240～440名であるが、今シーズンは今のところ1月181名が最高値である。
- 6) 手足口病
報告数 1名(2月8名)。昨年の大流行の翌年、今年はどうなるであろうか。
- 7) 伝染性紅斑
報告数 3名(2月4名)。2012年に流行後、1年以上少ない報告数が続いている。
- 8) 突発性発疹
報告数 43名(2月37名)。変動なし。
- 9) 百日咳
報告数 1名(2月0名)。昨年8月以降は0～4名。
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 0名(2月0名)。流行開始時期は4

- ～7月と変動する。
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 220名(2月188名)。全国1の流行が続いている。
- 12) RSウイルス感染症
報告数 25名(2月51名)。今シーズンは流行の開始が昨年8～9月と早く、終息も早い。
- 13) 流行性角結膜炎
報告数 2名(2月0名)。3月の定点あたり報告数は、全国(5位2.06)に比し高知県(11位0.66)は少ない。
- 14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 16名(月8名)。1ヶ月で再び2桁の報告数に復した。報告数は以前よりも増加しており、感度の良いLAMP法による検査の保健適応が関与している可能性がある。
- 基幹定点の月報疾患
- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 21名(2月23名)。全国と同様に変動なし。
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 0名(2月0名)。2年間0～4名と少ない。小児への予防接種の効果であろうか。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年												総計			
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25
2	結核																
	計																
3	コレラ	1					1					1					
	パラチフス	2															
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2								
	腸チフス		1						1								
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3		
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3					
	Q熱	1	1	2				1									
	オウム病			1		1											
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3
	マラリア								2						1		
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1				
	レプトスピラ症											1		4	2	1	
	E型肝炎												1		1		
	デング熱												1				3
	重症熱性血小板減少症候群																3
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			1
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3	3			1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				1
	ジアルジア症		1	2	1									1	1		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1					
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	2	3	3	2		37
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	1
	髄膜炎菌性髄膜炎										1						1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	1
	麻疹									5							5
風しん									1	1				4	9	15	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	7	
新型	新型インフルエンザ										34						
計											34						
動物	鳥インフルエンザ												1				
計													1				
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	37

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

3月はウイルス87件、細菌21件の搬入があり、そのうちウイルス53件、細菌1件の病原体を検出し、また、平成26年2月に搬入された検体でウイルス15件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 2 1件、Adeno virus 3 1件、Adeno virus 41 1件、Adeno virus 5 1件、Adeno virus 6 1件、Coxsackie virus B2 2件、Cytomegalo virus 1件、Human metapneumo virus 9件、Influenza virus AH1 pdm09 23件、Influenza virus AH3 NT 3件、Influenza virus B NT 5件、Influenza virus B/Yamagata 6件、Noro virus G II NT 7件、Rhinovirus 2件、Rota virus group AG3 2件、Sapo virus genogroup unknown 2件、Varicella-zoster virus 1件、また、細菌の内訳は、*Mycoplasma pneumoniae* 1件、であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	2	女	咽頭結膜炎	39℃,	ぬぐい液	2.5	Adenovirus 5
2	8ヶ月	女	突発性発疹	40℃, 発疹,	ぬぐい液	2.12	Cytomegalovirus
3	12	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.17	Influenza virus B/Yamagata
4	1	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	2.19	Sapovirus genogroup unknown
5	8	男	無菌性髄膜炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	髄液	2.19	Varicella-zoster virus
6	5	男	下気道炎	40℃, 下気道炎,	鼻咽頭口腔 ぬぐい液	2.20	Human metapneumovirus
7	1	女	咽頭結膜炎	40℃, 咳漱, 下気道炎,	ぬぐい液	2.20	Adenovirus 3
8	63	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.21	Influenza virus A H1pdm09
9	2	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.21	Influenza virus A H1pdm09
10	33	男	インフルエンザ	37℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.21	Influenza virus A H1pdm09
11	5ヶ月	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.21	Influenza virus A H1pdm09
12	9	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ぬぐい液	2.24	Influenza virus A H1pdm09
13	8	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	2.24	Influenza virus A H3 NT
14	6	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	2.24	Influenza virus B/Yamagata
15	2	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	2.25	Influenza virus A H1pdm09
16	8	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気,	鼻腔	2.25	Influenza virus A H1pdm09
17	13	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2.25	Influenza virus B NT
18	6	女	インフルエンザ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.26	Influenza virus A H3 NT
19	6	男	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.27	Influenza virus A H1pdm09 Influenza virus B/Yamagata
20	13	男	マイコプラズマ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.27	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
21	6	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	2.27	Norovirus GII NT
22	6	女	肺炎	40℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	2.27	Human metapneumovirus
23	7	男	インフルエンザ	38℃, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	2.28	Influenza virus B/Yamagata
24	9ヶ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	2.28	Norovirus GII NT
25	37	男	インフルエンザ		ぬぐい液	3.1	Influenza virus A H1pdm09
26	36	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	3.1	Influenza virus B NT
27	2	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	3.1	Norovirus GII NT
28	10ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃, 下痢,	ふん便	3.1	Rotavirus group A G3
29	8	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎,	鼻咽腔	3.3	Influenza virus A H1pdm09

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
30	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	3. 4	Sapovirus genogroup unknown
31	3	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	3. 5	Adenovirus 41 Norovirus GII NT
32	7ヶ月	男	肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	3. 6	Human metapneumovirus
33	4ヶ月	男	インフルエンザ	37℃, 咳漱, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽腔	3. 6	Influenza virus A H1pdm09
34	6	女	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	3. 7	Norovirus GII NT
35	1	女	感染性胃腸炎	40℃, 下痢,	ふん便	3. 7	Rotavirus group A G3
36	6	女	急性膵炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	3. 7	Norovirus GII NT
37	1	女	気管支炎	39℃, 気管支炎,	鼻汁	3. 10	Adenovirus 6 Rhinovirus
38	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	3. 10	Influenza virus A H1pdm09
39	12	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3. 10	Influenza virus A H1pdm09
40	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 10	Influenza virus A H1pdm09
41	4	女	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 10	Influenza virus B/Yamagata
42	2	女	インフルエンザ	38℃, 腹痛, 咳漱, 筋肉痛,	ぬぐい液	3. 11	Influenza virus A H1pdm09
43	11ヶ月	女	肺炎	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	3. 11	Human metapneumovirus
44	1	女	hMPV	39℃, 下気道炎,	ぬぐい液	3. 12	Human metapneumovirus
45	2	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	3. 12	Influenza virus A H1pdm09
46	4	女	不明発疹症	39℃, 下痢, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	3. 12	Human metapneumovirus
47	1ヶ月	男	無菌性髄膜炎	40℃, 発疹,	ふん便、髄液	3. 12	Coxsackievirus B2
48	3	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	3. 13	Influenza virus A H1pdm09
49	1ヶ月	男	気管支炎	気管支炎,	ぬぐい液	3. 14	Rhinovirus
50	9	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	3. 15	Influenza virus A H1pdm09
51	10	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	3. 15	Influenza virus B/Yamagata
52	46	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	3. 15	Influenza virus B NT
53	6	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	3. 15	Influenza virus B NT
54	5	男	インフルエンザ	咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 17	Human metapneumovirus
55	5	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3. 17	Influenza virus A H1pdm09
56	3	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 17	Influenza virus A H1pdm09
57	45	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3. 17	Influenza virus A H3 NT
58	1	女	喘息性気管支炎	40℃, 咳漱, 気管支炎, 発疹,	ぬぐい液	3. 18	Human metapneumovirus
59	11ヶ月	女	不明熱	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	3. 19	Adenovirus 2
60	3	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	3. 21	Norovirus GII NT
61	30	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	3. 22	Influenza virus B NT
62	1	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	3. 22	Coxsackievirus B2
63	13	男	インフルエンザ	咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3. 24	Influenza virus A H1pdm09
64	44	男	インフルエンザ	38℃,	鼻腔	3. 24	Influenza virus A H1pdm09
65	33	女	インフルエンザ	38℃,	鼻腔	3. 24	Influenza virus A H1pdm09
66	1	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	鼻咽腔	3. 24	Human metapneumovirus

高知県感染症情報 2014年 4月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		66	177	310	78	39	111	781	3,243	278
小児科	咽頭結膜熱			1	2		4	8	15	21	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	4	25	4	9	14	57	84	64
	感染性胃腸炎		50	181	608	190	46	92	1,167	750	872
	水痘		12	30	55	18	7	32	154	101	151
	手足口病									1	
	伝染性紅斑				3				3	3	9
	突発性発疹		2	5	27	7	1	6	48	43	47
	百日咳				2	1			3	1	13
	ヘルパンギーナ					1		1	2		1
	流行性耳下腺炎			27	61	31	22	30	171	220	31
RSウイルス感染症		1	1	5		3	6	16	25	13	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				6				6	2	2
STD	性器クラミジア感染症			1					1	2	5
	性器ヘルペスウイルス感染症										1
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症									1	2
基幹	細菌性髄膜炎			1					1	1	1
	無菌性髄膜炎									1	1
	マイコプラズマ肺炎			1	21				22	16	23
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				1				1	2	3
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			2	24			5	31	7	29
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		4	6	11			3	24	21	3
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				2				2		
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
薬剤耐性アシネトバクター感染症										1,559	
計			136	437	1,163	330	131	308	2,505	4,545	5,313
前月			227	664	1,981	574	246	853			
前年同月			69	227	754	118	84	307			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年4月

全国情報 (3月31日～4月27日)

第14週(3月31日～)から第17週(～4月27日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

4月の上位6疾患の合計は61.53で、3月116.62の約1/2に減少した。感染性胃腸炎(3月2位24.83)は、第7週以降は2005年と同程度で過去10年間では最も少なく推移していたが、第16・17週は中位に増加した。インフルエンザ(同1位76.44)は約1/4に減少した。今シーズンは、第3週から第13週まで11週間にわたり注意報値10を超え、流行の期間が長かった。A群溶血性連鎖球菌咽頭炎(同3位7.85)は例年程度であるが、水痘(同4位3.88)は過去10年間で最も少ない。突発性発疹(3月1.72)は第1週から15週までは過去10年間で最も少なかった。流行性角結膜炎(同5位1.90)は僅かに増加した。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		5.07	5.76	7.61	8.58	27.02
2	インフルエンザ		6.13	4.18	4.65	4.03	18.99
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.43	1.59	2.12	2.37	7.51
4	水痘		0.97	0.91	0.88	0.92	3.68
5	突発性発疹		0.50	0.53	0.62	0.62	2.27
6	流行性角結膜炎		0.47	0.48	0.52	0.59	2.06

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の4月の上位6疾患の合計は72.66で、3月108.7の2/3の減少に留まり、全国よりもかなり多い。その原因は感染性胃腸炎(3月2位24.99)の増加である。インフルエンザ(同1位67.57)は全国と同様に約1/4に減少した。注意報値10を超えたのは第3週から第13週で全国と同じ11週間であり、流行期間が長かった。流行性耳下腺炎(同3位7.34)は減少したが、2月以降3か月連続で全国最多である(全国は7位1.99)。水痘(同4位3.36)、感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)(同8位0.88、4月全国7位1.90)、マイコプラズマ肺炎(同6位2.01、4月全国10位0.88)はいずれも増加し、全国よりもかなり多い。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		6.70	8.90	11.37	11.93	38.90
2	インフルエンザ		6.04	4.40	3.35	2.48	16.27
3	流行性耳下腺炎		1.67	1.50	1.53	1.00	5.70
4	水痘		0.97	1.97	1.17	1.03	5.14
5	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0.25	0.63	1.50	1.50	3.88
6	マイコプラズマ肺炎		0.88	0.63	0.63	0.63	2.77

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。全国的には、昨年の風しんに代わって麻疹の流行がみられ、海外(特に東南アジア)から輸入された後、国内で発生している。小児だけでなく成人も含め感受性者(ワクチン未接種者・接種不明者)はワクチンを接種すべきである。

流行期間が長かった今シーズンのインフルエンザは終息に向かっている。感染性胃腸炎は例年と同様に再増加した。流行性耳下腺炎(3か月連続全国1位)、マイコプラズマ肺炎(全国2位)は多いが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(3か月連続全国最少)は少ない。週報でのヒトメタニューモウイルス感染症の報告は続いている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 781名(3月3,243名)。今シーズンは、1月から3月まで3,000名台前半で推移し大きなピークは無かったが、流行開始の12月から4月までの報告総数は11,162名で中程度の流行規模であった。ウイルスは、influenza virus B NT 2件、Yamagata 2件が検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 15名(3月21名)。2003年から2007年までは7～9月に3桁のピークがみられていたが、2008年以降の3桁の報告は2010年9月の151名のみで、ピークは小さくなり流行周期が不明瞭になっている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 57名(3月84名)。高知県の定点あたり報告数8位1.9(全国3位7.51)は、3か月連続で全国で最も少なく、全国1位の山形県18.23の約1/10である。提出された2件の血清型はUntypableであった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,167名(3月750名)。今シーズンも二峰性の増加がみられた。4または5月まで

流行がみられるので、来月はどうなるであろうか。ウイルスは、Norovirus GⅡが7件、Rotavirus groupAG3が2件検出されたが、週報ではロタウイルスの報告が多い。

5) 水痘

報告数 154名(3月101名)。冬季に増加する疾患であるが、今シーズンの最高は1月181名と少ない。

6) 手足口病

報告数 0名(3月1名)。今年は昨年に引き続き大流行するか、それとも少ないか。

7) 伝染性紅斑

報告数 3名(3月3名)。増加傾向はみられない。

8) 突発性発疹

報告数 48名(3月43名)。長期的には少子化の影響もあり減少している。

9) 百日咳

報告数 3名(3月1名)。2012年の流行後、2013年5月以降は1桁の報告が続いている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 2名(3月0名)。4～7月から増加する疾患である。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 171名(3月220名)。2013年8月以

降3桁、11月以降は150名以上が続き、全国で1位である。

12) RSウイルス感染症

報告数 16名(3月25名)。4月の報告数としては過去10年間で3番目に多い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 6名(3月2名)。2012年12月以来の5名以上の報告である。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 22名(3月16名)。定点あたり報告数2.77は、青森4.5に次いで全国2位である。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 24名(3月21名)。変化なし。1999年の調査開始以降の最多は2002年1月160名であり、最近の報告数は少ない。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 2名(3月0名)。1999年の調査開始以降、最多は2004年2月53名であり、MRSA感染症と同様に少ない。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計															
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		26														
2	結核																131	149	163	156	192	132	128	41	1,092							
	計																131	149	163	156	192	132	128	41	1,092							
3	コレラ	1															1						3									
	パラチフス	2															1						2									
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2							25														
	腸チフス	1															1						2									
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	150															
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	182															
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1						3	28															
	Q熱	1	1	2												1	5															
	オウム病				1												1	2														
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	67														
	マラリア												2						2													
	レジオネラ症			2			1			1						9	7	3	6	9	2	40										
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	119															
	日本脳炎	1	1	1												1	1	1	1	1	1	6										
	レプトスピラ症												1					4	2	1	8											
	E型肝炎												1						1	2												
	デング熱												1						3	4												
	重症熱性血小板減少症候群												1						3	3												
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	287															
	5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3	1	25														
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				54															
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4			4	3	3						6	1	3	28														
ジアルジア症				1	2	1												1	7													
バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1												1	2														
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1			15														
劇症型溶血性レンサ球菌感染症					1	1	1						1	1	3			9														
後天性免疫不全症候群		2			2			4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37														
侵襲製肺炎球菌感染症													1						1	2												
髄膜炎菌性髄膜炎													1						1	1												
破傷風				3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1	20														
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	109															
麻しん													5						5													
風しん													1				4	9	15													
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	329																
新型	新型インフルエンザ																34	34														
動物	鳥インフルエンザ																1	1														
計																1	1															
総計																61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	50	1,925

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

4月はウイルス72件、細菌12件の搬入があり、そのうちウイルス36件、細菌2件の病原体を検出し、また、平成26年3月に搬入された検体でウイルス6件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 2件、Adeno virus 3 1件、Adeno virus NT 1件、Coxsackie virus B2 3件、Cytomegalo virus 1件、Epstein-Barr virus 1件、Human simplex virus 1 1件、Human herpes virus 6 1件、Human metapneumo virus 8件、Influenza virus B NT 2件、Influenza virus B/Victoria 1件、Influenza virus B/Yamagata 2件、Noro virus G II NT 7件、Rhinovirus 8件、Rota virus group AG3 2件、Sapo virus genogroup unknown 1件、また、細菌の内訳は、*Streptococcus pyogenes Untypable* 2件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	喘息性気管支炎	40℃, 咳漱, 気管支炎, 発疹,	ぬぐい液	3.18	Cytomegalovirus
2	0ヶ月	男	—	39℃, 中枢神経系障害, 髄液細胞増多	ふん便	3.19	Herpes simplex virus 1
3	2	男	右顔面神経麻痺	38℃, 上気道炎, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	3.21	Epstein-Barr virus
4	30	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	3.22	Influenza virus B/Victoria
5	11ヶ月	女	不明熱	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	3.22	Adenovirus NT
6	1	女	不明発疹症	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	3.24	Human herpes virus 6
7	2ヶ月	女	気管支炎	気管支炎,	ぬぐい液	3.25	Human metapneumovirus Rhinovirus
8	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	3.25	Rhinovirus
9	2	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	3.27	Coxsackievirus B2
10	10	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3.27	Influenza virus B/Yamagata
11	3	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 腹痛,	ふん便	3.27	Norovirus GII NT
12	4	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	上気道炎,	ぬぐい液	3.28	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>
13	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	3.28	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>
14	5	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	3.28	Norovirus GII NT
15	11ヶ月	男	咽頭結膜炎	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	3.31	Adenovirus 1
16	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 腹痛,	ふん便	3.31	Norovirus GII NT
17	3	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 腹痛,	ふん便	3.31	Norovirus GII NT
18	1	女	感染性胃腸炎、気管支炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 下気道炎,	ふん便 ふん便 鼻咽腔	3.31	Rotavirus group A G3 Sapovirus genogroup unknown Human metapneumovirus
19	5	女	肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	ぬぐい液	4.1	Adenovirus 3
20	1	女	不明熱	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	4.2	Coxsackievirus B2
21	1	男	インフルエンザ	38℃, 下痢,	ぬぐい液	4.2	Rhinovirus
22	1	男	喘息性気管支炎 F1u (-) RSV (-) マイコプラズマ IgM (+)	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	4.4	Human metapneumovirus
23	3	男	咽頭結膜熱	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	4.4	Rhinovirus
24	3	男	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	4.5	Norovirus GII NT
25	1	男	肺炎	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	4.5	Human metapneumovirus
26	10	女	インフルエンザ	咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	4.7	Influenza virus B/Yamagata

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
27	5	男	無菌性髄膜炎	38℃,	鼻咽頭口腔ぬぐい液, 髄液	4. 8	Coxsackievirus B2
28	1	女	不明熱	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	4. 9	Human metapneumovirus
29	2	男	ヒトメタニューモ感染症	40℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	4. 10	Human metapneumovirus
30	9	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	4. 10	Norovirus GII NT
31	2	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	4. 10	Rotavirus group A G3
32	2	女	咽頭結膜熱	40℃, 咳漱, 発疹, 肝機能,	ぬぐい液	4. 11	Adenovirus 1
33	39	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 関節痛,	ぬぐい液	4. 13	Influenza virus B NT
34	8ヶ月	男	グループ症候群	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	4. 15	Rhinovirus
35	9	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	4. 17	Influenza virus B NT
36	11ヶ月	女	気管支炎	38℃, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽空ぬぐい液	4. 17	Human metapneumovirus
37	5	男	ヒトメタニューモ感染症	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	4. 18	Human metapneumovirus
38	1	男	ヒトメタニューモ感染症	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	4. 18	Rhinovirus
39	2	女	咽頭結膜熱	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	4. 18	Rhinovirus
40	8ヶ月	男	下気道炎	38℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎,	ぬぐい液	4. 21	Rhinovirus
41	11	女	感染性胃腸炎	—	ふん便	4. 22	Norovirus GII NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年				2014年 総計
		1	2	3	4	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable				2	2
	計				2	2
インフルエンザ	Coxsackievirus B2				1	1
	Human metapneumovirus			2		2
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17		50
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2		24
	Influenza virus B NT	2		4	2	8
	Influenza virus B /Victoria	3		1		4
	Influenza virus B Yamagata	4	2	4	2	12
	Rhinovirus				1	1
	計	30	36	30	6	102
咽頭結膜熱	Adenovirus 1				2	2
	Adenovirus 2/6	1				1
	Adenovirus 3	4	2			6
	Adenovirus 5		1			1
	Rhinovirus				2	2
	計	5	3		4	12
感染性胃腸炎	Adenovirus 41		1	1		2
	Adenovirus 6		1			1
	Human metapneumovirus				1	1
	Norovirus GI NT					
	Norovirus GII NT	26	9	6	7	48
	Rotavirus group A NT	1				1
	Rotavirus group AG1					
	Rotavirus group AG3	2		2	2	6
	Sapovirus genogroup unknown	12	3	1	1	17
	計	41	14	10	11	76
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8					
	Coxsackievirus B2			1	1	2
	Echovirus 30	2				2
	Varicella-zoster virus		1			1
	計	2	1	1	1	5
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3		1		4
	計	3		1		4
流行性角結膜炎	Adenovirus 3	1				1
	計	1				1
その他	Adenovirus 2	1		1		2
	Adenovirus 3				1	1
	Adenovirus 6			1		1
	Adenovirus NT			1		1
	B19virus	1				1
	Coxsackievirus B2			1	1	2
	Cytomegalo virus		1	1		2
	Epstein-Barr virus			1		1
	Herpes simplex virus 1			1		1
	Human herpes virus 6	1	2	1		4
	Human herpes virus 7	2	1			3
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	19
	Influenza virus A H3 NT	1				1
	Influenza virus B /Yamagata	1				1
	Norovirus GII NT	1	1	1		3
	Parainfluenza virus 1		1			1
	Respiratory syncytial virus A		1			1
	Respiratory syncytial virus B		1			1
	Rhinovirus	1	7	2	5	15
	計	12	18	17	14	61
総計		94	72	59	38	263

高知県感染症情報 2014年 5月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		7	57	77	33	19	18	211	781	113
小児科	咽頭結膜熱			5	15	1	3	16	40	15	13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	16	31	19	11	17	95	57	89
	感染性胃腸炎		59	171	623	143	87	153	1,236	1,167	923
	水痘		12	20	85	38	11	67	233	154	253
	手足口病				4	1		1	6		14
	伝染性紅斑			2	4	1			7	3	1
	突発性発疹		3	7	41	11	12	9	83	48	76
	百日咳									3	2
	ヘルパンギーナ		1	12	4	1		1	19	2	8
	流行性耳下腺炎		2	29	65	25	4	33	158	171	30
	RSウイルス感染症		3		3	1			7	16	4
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				7				7	6	3
STD	性器クラミジア感染症				1			2	3	1	
	性器ヘルペスウイルス感染症										1
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎			1					1	1	
	無菌性髄膜炎				2				2		1
	マイコプラズマ肺炎				26				26	22	26
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									1	1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				56			8	64	31	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		8	2	18			5	33	24	36
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									2	4
	薬剤耐性緑膿菌感染症				2				2		1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症										
計			96	322	1,064	274	147	330	2,233	2,505	1,599
前月			136	437	1,163	330	131	308			
前年同月			108	194	841	140	108	208			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年5月

全国情報（4月28日～6月1日）

第18週（4月28日～）から第22週（～6月1日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

5月の上位6疾患の合計は68.93で、4月76.91（5週に補正，以下同じ）よりも減少した。感染性胃腸炎（4月1位34.00）は、過去10年間では12年と1・2位を争っている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位9.39）は、20週以降は過去10年間では08年に次いで多い。水痘（同4位4.60）は4月よりも増加したが、月ごとの報告数は過去10年間で最も少ない。インフルエンザ（同2位23.74）は終息している。感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）（同7位2.38）、突発性発疹（同5位2.84）は増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎		7.21	6.36	8.74	8.83	8.09	39.23
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.95	1.63	2.78	2.87	2.94	12.17
3	水痘		1.04	1.23	1.26	1.15	1.35	6.03
4	インフルエンザ		2.52	1.09	0.83	0.56	0.35	5.35
5	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0.80	0.58	0.67	0.63	0.47	3.15
6	突発性発疹		0.54	0.48	0.64	0.65	0.69	3.00

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の5月の上位6疾患の合計は69.94で、4月90.83（5週に補正，以下同じ）よりもかなり減少し、全国とほぼ同じになった。感染性胃腸炎（4月1位48.63）は、全国とは異なり第17週11.93以降減少傾向がみられる。（第19週は5/5～5/11連休）感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）（同5位4.85）は全国4位と多く、水痘（同4位6.43）も全国よりも多い。インフルエンザ（同2位20.34）は、第22週に大きく減少し全国よりも少ない。流行性耳下腺炎（同3位7.13）は減少したが、全国（9位1.39）の3倍以上で福島県5.9に次いで2位である。マイコプラズマ肺炎（同6位3.46）は全国（10位1.30）の2.5倍と多く、全国6位である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎		10.73	7.17	8.77	7.93	6.60	41.20
2	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		1.50	1.13	1.13	2.38	1.88	8.02
3	水痘		1.57	1.03	2.07	1.03	2.07	7.77
4	流行性耳下腺炎		1.13	0.90	1.17	0.90	1.17	5.27
5	インフルエンザ		1.79	0.63	0.90	0.90	0.19	4.41
6	マイコプラズマ肺炎		0.88	0.38	1.13	0.50	0.38	3.27

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

感染性胃腸炎の流行が続いている。全国と比較すると、ロタウイルスによる感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎は非常に多く、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は最も少ない。インフルエンザは終息に向かって減少している。ヘルパンギーナの流行が始まりつつあり、注意すべきである。週報ではヒトメタニューモウイルス感染症が報告されており、ウイルスが3件検出された。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 211名（4月781名）。過去10年間の5月の報告数をみると、2011年630名が最多、2004年2名が最少である。5月の3桁の報告数は1980年～2006年では1988年146名の1回のみであるが、2007年以降では6回あり、実際に増加しているのか、5月にも迅速検査するようになった結果なのか不明である。ウイルスはInfluenza virus B NTが3件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 40名（4月15名）。今年の最高値である。全国では過去10年間で06年に次ぐ報告数が続いており、高知県の今後の動向に注意すべき疾患である。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 95名（4月57名）。高知県では3桁の報告数は、12年は9か月あったが、13年1月以降17か月間で1か月のみである。定点あたり報告数3.17は全国で最も少ない。一方、全国の報告数は、第20週以降では過去10年間で08年と同程度で最も多い。

4) 感染性胃腸炎

報告数 1,236名（4月1,167名）。減少傾向はみられず、流行が長引いている。5月の報告数としては過去10年間で12年1,337名に次いで多い。ウイルスは、Norovirus G II NTが6件、

Sapovirus が 2 件, Adeno-virus 3 と Coxsackievirus B2 が各 1 件検出された。

5) 水痘

報告数 233 名 (4 月 154 名)。大きく増加し、昨年 5 月以来の 200 名以上の報告である。

6) 手足口病

報告数 6 名 (4 月 0 名)。5 月頃から増加する疾患であるが、流行規模は毎年大きく変動する。

7) 伝染性紅斑

報告数 7 名 (4 月 3 名)。非流行期が 1 年半余り持続している。

8) 突発性発疹

報告数 83 名 (4 月 48 名)。50 名程度の安定した報告数が続いている疾患であるが、11 年 6 月 93 名以降最も多い。

9) 百日咳

報告数 0 名 (4 月 3 名)。増加傾向なし。

10) ヘルパンギーナ

報告数 19 名 (4 月 2 名)。2 桁に増加したので、今後さらに増加すると推測される。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 158 名 (4 月 171 名)。僅かに減少したが、3 桁の報告が 10 か月連続している。

12) RS ウイルス感染症

報告数 7 名 (4 月 16 名)。減少が続いているが、5 月の報告数としては過去 10 年間で最も多い。

13) 流行性角結膜炎

報告数 7 名 (4 月 6 名)。2 ヶ月連続でやや多い。

14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 26 名 (4 月 22 名)。すべて高知市からの報告で、かなり多い報告数である。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 33 名 (4 月 24 名)。20 ~ 40 名の範囲で推移している。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 2 名 (4 月 2 名)。12 年 4 月以降は 4 名以下である。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年																総計													
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26														
2	結核															131	149	163	156	192	132	128	55	1,106							
	計															131	149	163	156	192	132	128	55	1,106							
3	コレラ	1															1						1	3							
	パラチフス	2																				2	2								
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2						25	25													
	腸チフス	1															1						2	2							
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	150														
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	182															
4	A 型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1						3	28														
	Q 熱	1	1	2															1	5											
	オウム病			1				1															2								
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	67													
	マラリア															2						3									
	レジオネラ症			2				1				1				9	7	3	6	9	2	40									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	1	120													
	日本脳炎	1	1	1															1	1						6					
	レプトスピラ症															1				4	2	1	8								
	E 型肝炎															1						1	2								
	デング熱															1						3	1	5							
	重症熱性血小板減少症候群															3						1	4								
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	3	290														
5	アメーバ赤痢	2	2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			1	25													
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				1	54													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3				6			2	28													
	ジアルジア症			1	2	1															7										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症															1						2									
	急性脳炎															1	1	2	5	1	3	1	1	15							
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1															9										
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	37													
	侵襲製肺炎球菌感染症															1						2	3								
	髄膜炎菌性髄膜炎															1						1									
	破傷風			3	2	2	1				1	1	2	3	1	1	1	3	22												
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	2	109													
	麻しん															5						5									
風しん															1	1						15									
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	12	332														
新型	新型インフルエンザ															34						34									
動物	鳥インフルエンザ															34						34									
計															1						1										
総計															61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	70	1,945

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

5月はウイルス69件、細菌8件の搬入があり、そのうちウイルス27件の病原体を検出し、また、平成25年4月に搬入された検体でウイルス13件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 3 2件、Adeno virus 6 1件、Coxsackie virus A5 1件、Coxsackie virus B2 2件、Coxsackie virus B3 1件、Human herpes virus 6 4件、Human herpes virus 7 4件、Human metapneumo virus 3件、Influenza virus B NT 3件、Influenza virus B/Yamagata 3件、Noro virus G II NT 7件、Parainfluenza virus 2 1件、Rhinovirus 6件、Sapo virus genogroup unknown 2件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	7	女	無菌性髄膜炎、流行性耳下腺炎	39℃、腹痛、	髄液	4.10	Human herpes virus 7
2	39	男	インフルエンザ	39℃、咳漱、関節痛、	ぬぐい液	4.13	Influenza virus B/Yamagata
3	11ヶ月	女	下気道炎	38℃、下気道炎、気管支炎、	鼻咽空ぬぐい液	4.17	Adenovirus 3 Coxsackievirus B3
4	6	女	不明発疹症	発疹、筋肉痛、	ぬぐい液	4.17	Human herpes virus 7
5	9	男	インフルエンザ	39℃、咳漱、	ぬぐい液	4.17	Influenza virus B/Yamagata
6	4	女	咽頭結膜炎、咽頭結膜熱	38℃、	ぬぐい液	4.18	Rhinovirus
7	2	男	感染性胃腸炎、川崎病	下痢、嘔吐、嘔気、腹痛、発疹、	ふん便	4.22	Human herpes virus 6
8	5ヶ月	男	先天性喘鳴	37℃、咳漱、	ぬぐい液	4.23	Rhinovirus
9	11	男	インフルエンザ	38℃、咳漱、上気道炎、関節痛、	ぬぐい液	4.24	Influenza virus B/Yamagata
10	6	男	感染性胃腸炎	38℃、嘔吐、	ふん便	4.24	Norovirus GII NT
11	6	男	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、	ふん便	4.25	Norovirus GII NT
12	9ヶ月	男	急性上気道炎	39℃、咳漱、上気道炎、	鼻腔ぬぐい	4.25	Rhinovirus
13	5	女	不明発疹症	発疹、	ぬぐい液	4.26	Human herpes virus 7
14	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	嘔吐、	ふん便	4.27	Adenovirus 3 Norovirus GII NT
15	11ヶ月	男	不明発疹症	40℃、下痢、咳漱、発疹、	ぬぐい液	4.28	Human herpes virus 6
16	1	男	不明発疹症	41℃、下痢、発疹、	ぬぐい液	4.30	Human herpes virus 6
17	3	男	感染性胃腸炎	39℃、下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	4.30	Coxsackievirus B2
18	7ヶ月	男	下気道炎	39℃、咳漱、下気道炎、	ぬぐい液	5.1	Human metapneumovirus Rhinovirus
19	5	男	インフルエンザ	40℃、	ぬぐい液	5.1	Influenza virus B NT
20	5	女	急性気管支炎	39℃、咳漱、気管支炎、	ぬぐい液	5.1	Human metapneumovirus
21	1	女	感染性胃腸炎	39℃、下痢、嘔吐、嘔気、中枢神経系障害、	ふん便	5.2	Norovirus GII NT
22	1	男	急性気管支炎	40℃、咳漱、気管支炎、	ぬぐい液	5.2	Adenovirus 6
23	12	男	インフルエンザ	39℃、関節痛、	ぬぐい液	5.4	Influenza virus B NT
24	11ヶ月	女	喘息様気管支炎	38℃、咳漱、下気道炎、気管支炎、肺炎、	鼻	5.4	Human metapneumovirus
25	8	男	急性上気道	39℃、咳漱、上気道炎、	鼻腔ぬぐい	5.7	Parainfluenza virus 2
26	11ヶ月	男	急性中耳炎	37℃、咳漱、上気道炎、	ぬぐい液	5.7	Rhinovirus
27	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、	ふん便	5.8	Norovirus GII NT
28	5	男	不明発疹症	39℃、発疹、	ぬぐい液	5.9	Coxsackievirus B2
29	1	女	ヘルパンギーナ	38℃、	ぬぐい液	5.9	Coxsackievirus A5
30	4	男	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、腹痛、	ふん便	5.9	Sapovirus genogroup unknown Norovirus GII NT
31	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、	ふん便	5.9	Norovirus GII NT
32	5	女	不明発疹症	発疹、	ぬぐい液	5.10	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
33	7	男	インフルエンザ	40℃、咳漱、上気道炎、	ぬぐい液	5.12	Influenza virus B NT
34	9	女	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、	ふん便	5.12	Sapovirus genogroup unknown
35	1ヶ月	男	気管支炎	39℃、咳漱、気管支炎、	ぬぐい液	5.13	Rhinovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年					2014年 総計
		1	2	3	4	5	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>				2		2
	計				2		2
インフルエンザ	Coxsackievirus B2				1		1
	Human metapneumovirus			2			2
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17			50
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2			24
	Influenza virus B NT	2		4		3	9
	Influenza virus B /Victoria	3		1			4
	Influenza virus B Yamagata	4	2	4	5		15
	Rhinovirus				1		1
計	30	36	30	7	3	106	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1				2		2
	Adenovirus 2/6	1					1
	Adenovirus 3	4	2				6
	Adenovirus 5		1				1
	Rhinovirus				3		3
計	5	3		5		13	
感染性胃腸炎	Adenovirus 3					1	1
	Adenovirus 41		1	1			2
	Adenovirus 6		1				1
	Coxsackievirus B2					1	1
	Human herpes virus 6				1		1
	Human metapneumovirus				1		1
	Norovirus GII NT	26	9	6	8	6	55
	Rotavirus group A NT	1					1
	Rotavirus group AG3	2		2	2		6
	Sapovirus genogroup unknown	12	3	1	1	2	19
計	41	14	10	13	10	88	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A5					1	1
	計					1	1
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8						
	Coxsackievirus B2			1	1		2
	Echovirus 30	2					2
	Human herpes virus 7				1		1
	Varicella-zoster virus		1				1
計	2	1	1	2		6	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3		1			4
	計	3		1			4
流行性角結膜炎	Adenovirus 3	1					1
	計	1					1
その他	Adenovirus 2	1		1			2
	Adenovirus 3				2		2
	Adenovirus 6			1		1	2
	Adenovirus NT			1			1
	B19virus	1					1
	Coxsackievirus B2			1	1	1	3
	Coxsackievirus B3				1		1
	Cytomegalo virus		1	1			2
	Epstein-Barr virus			1			1
	Herpes simplex virus 1			1			1
	Human herpes virus 6	1	2	1	1	2	7
	Human herpes virus 7	2	1		2	1	6
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	3	22
	Influenza virus A H3 NT	1					1
	Influenza virus B /Yamagata	1					1
	Norovirus GII NT	1	1	1			3
	Parainfluenza virus 1		1				1
	Parainfluenza virus 2					1	1
	Respiratory syncytial virus A		1				1
	Respiratory syncytial virus B		1				1
Rhinovirus	1	7	2	6	4	20	
計	12	18	17	20	13	80	
総計		94	72	59	49	27	301

高知県感染症情報 2014年6月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ				4	2	1		7	211	
小児科	咽頭結膜熱			2	12	3		8	25	40	16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	16	53	38	11	8		128	95	78
	感染性胃腸炎	64	91	183	48	33	41		460	1,236	490
	水痘	19	19	39	38	3	35		153	233	146
	手足口病		3	4	2	1			10	6	54
	伝染性紅斑		1						1	7	5
	突発性発疹	1	7	31	3	8	10		60	83	57
	百日咳			1					1		4
	ヘルパンギーナ	6	23	65	16	8	2		120	19	115
	流行性耳下腺炎		26	33	28	15	27		129	158	32
	RSウイルス感染症	8							8	7	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			2					2	7	
STD	性器クラミジア感染症			1				1	2	3	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症							1	1		
基幹	細菌性髄膜炎			2					2	1	
	無菌性髄膜炎			2					2	2	2
	マイコプラズマ肺炎		4	24					28	26	20
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			3					3		
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			14				2	16	64	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9	3	12				8	32	33	41
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										3
	薬剤耐性緑膿菌感染症									2	2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症										
計			109	195	485	178	80	143	1,190	2,233	1,067
前月			96	322	1,064	274	147	330			
前年同月			46	129	566	97	66	163			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年6月

全国情報（6月2日～6月29日）

第23週（6月2日～）から第26週（～6月29日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

6月の上位6疾患の合計は48.11で、5月55.14（4週に補正，以下同じ）よりも減少した。感染性胃腸炎（5月1位31.38）は週ごとに減少しているが過去10年間では12年に次いで多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同2位9.74）、水痘（同3位4.82）も週ごとに減少しているが、総数は5月とほぼ同じである。夏型感染症であるヘルパンギーナ（同13位0.74）、咽頭結膜熱（同7位2.33）は、大きく増加し、特に後者は過去10年間では06年に次いで多い。突発性発疹（同6位2.40）は変動が少ない。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		6.65	5.80	5.46	4.99	22.90
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.63	2.55	2.47	2.36	10.01
3	水痘		1.35	1.28	1.13	1.03	4.79
4	ヘルパンギーナ		0.48	0.85	1.31	1.74	4.38
5	咽頭結膜熱		0.85	0.82	0.84	0.83	3.34
6	突発性発疹		0.70	0.65	0.67	0.67	2.69

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の6月の上位6疾患の合計は36.52で、5月55.95（4週に補正，以下同じ）よりも大きく減少し全国の約3/4である。感染性胃腸炎（5月1位32.96）は1/2以下となり全国よりもかなり少ない。水痘（同3位6.22）は減少し全国と同程度である。流行性耳下腺炎（同4位4.22）は横ばいであるが、全国（9位1.38）の3倍余りで佐賀・福島に次いで3位、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同7位2.54）は急増したが全国の1/2以下と少ない。ヘルパンギーナ（同11位0.50）は全国と同様に急増した。マイコプラズマ（同6位2.62）は増加し全国11位1.06の3倍以上で、福島・富山に次いで3位である。咽頭結膜熱は9位0.83で全国で最も少ない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		3.67	4.93	3.87	2.87	15.34
2	水痘		1.20	1.90	0.77	1.23	5.10
3	流行性耳下腺炎		1.27	1.03	1.13	0.87	4.30
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.93	1.27	1.23	0.83	4.26
5	ヘルパンギーナ		0.47	0.97	0.87	1.70	4.01
6	マイコプラズマ肺炎		0.75	0.38	1.38	1.00	3.51

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

感染性胃腸炎は減少し、同時に5月2位のロタウイルス感染性胃腸炎も7位（定点あたり2.01）に後退した。ヘルパンギーナの流行が始まり、流行性耳下腺炎の流行は続いており、マイコプラズマの報告数も多いが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と咽頭結膜熱は全国よりもかなり少ない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 7名（5月211名）。終息した。沖縄は患者数1,093名、定点あたり18.84で例年夏にも流行がみられる。

2) 咽頭結膜熱

報告数 25名（5月40名）。全国では大きく増加しているが、高知県では減少し、定点あたり報告数0.83は全国で最も少ない。10年9月155名以降3桁の報告はない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 128名（5月95名）。増加し13年3月以来の3桁である。定点あたり報告数は、全国では下から5番目と少ない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 460名（5月1236名）。大きく減少し例年程度となった。ウイルスは、Adenovirus 1が2件、Norovirus G II NTが2件検出された。

5) 水痘

報告数 153名（5月233名）。大きく減少し4月の値（154名）に戻った。

6) 手足口病

報告数 10名（5月6名）。全国とは異なり増加傾向はみられない。ウイルスはCoxsackievirus A5が2件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 1名（5月7名）。非流行期が続いている。

8) 突発性発疹

報告数 60名（5月83名）。2か月連続でやや

多い。

9) 百日咳

報告数 1名(5月0名)。今年1月以降、0～3名と少ない。

10) ヘルパンギーナ

報告数 120名(5月19名)。例年通り急激に増加した。昨年は大流行したが今年はどうであろう。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 129名(5月158名)。3月220名以降徐々に減少している。

12) RSウイルス感染症

報告数 8名(5月7名)。最も少ない季節である。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名(5月7名)。通常の報告数に戻った。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 28名(5月26名)。3か月連続20名以上と多い。高知市24名、中央東4名、年齢は1歳から70歳以上まで広く分布している。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 32名(5月33名)。変動なし。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(5月2名)。2年余り0～4名が続いている。

高知県感染症発生動向調査部会

会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年																総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		
2	結核										131	149	163	156	192	132	128	71	1,122
	計										131	149	163	156	192	132	128	71	1,122
3	コレラ	1					1						1						3
	バラチフス	2																	2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2										25
	腸チフス		1						1										2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3			150
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3			182
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3						28
	Q熱	1	1	2				1											5
	オウム病			1		1													2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3		67
	マラリア								2					1					3
	レジオネラ症		2		1		1					9	7	3	6	9	2	1	41
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	3		122
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1						6
	レプトスピラ症											1		4	2	1			8
	E型肝炎												1		1				2
	デング熱												1				3	1	5
	重症熱性血小板減少症候群																3	4	7
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	9		296
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3			3	27
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1	54
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2	28
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1			7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							2
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1			1	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3				9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2			37
	侵襲製肺炎球菌感染症															1	2		3
	髄膜炎菌性髄膜炎										1								1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1			3	22
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8		2	109
	麻しん										5								5
風しん										1	1			4	9			15	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	14		334	
新型	新型インフルエンザ											34						34	
	計											34						34	
動物	鳥インフルエンザ												1					1	
	計												1					1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	94	1,969	

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

6月はウイルス64件、細菌5件の搬入があり、そのうちウイルス25件の病原体を検出し、また、平成25年5月に搬入された検体でウイルス6件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 12件、Adeno virus 62件、Coxsackie virus A5 2件、Cytomegalovirus 3件、Human herpes virus 64件、Human herpes virus 72件、Influenza virus B NT 1件、Noro virus G II NT 1件、Parainfluenza virus 35件、Rhinovirus 8件、Rota virus group AG3 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	2ヶ月	男	気管支炎	38℃, 咳漱, 上気道炎, 気管支炎,	鼻腔	5.13	Rhinovirus
2	3ヶ月	男	急性気管支炎	37℃, 気管支炎, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	5.17	Rhinovirus
3	1	女	—	40℃, 中枢神経系障害,	ぬぐい液, 髄液	5.20	Human herpes virus 6
4	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	5.20	Adenovirus 6
5	2	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.23	Rotavirus group A G3
6	7	女	インフルエンザ	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	5.26	Influenza virus B NT
7	11ヶ月	男	顔面神経麻痺、ウイルス感染症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	5.28	Adenovirus 6 Human herpes virus 6
8	7	男	急性気管支炎	38℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	5.28	Cytomegalovirus
9	10ヶ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.29	Adenovirus 1
10	11ヶ月	男	不明発疹症	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	5.30	Human herpes virus 7
11	2	女	不明発疹症	38℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	5.30	Rhinovirus
12	4	女	急性咽頭炎	41℃, 咳漱, 上気道炎, 発疹, 口内炎, 結膜炎,	—	6.1	Parainfluenza virus 3
13	10ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	6.2	Coxsackievirus A5
14	10ヶ月	女	感染性胃腸炎		ふん便	6.2	Adenovirus 1
15	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	6.2	Rhinovirus
16	7	女	エンテロウイルス	40℃, 発疹,	ぬぐい液	6.3	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
17	1	女	不明熱	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	6.4	Parainfluenza virus 3
18	4	女	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	6.6	Norovirus GII NT
19	7ヶ月	男	不明発疹症	40℃,	ぬぐい液	6.6	Parainfluenza virus 3
20	1	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	6.7	Human herpes virus 6
21	2	女	ヘルパンギーナ	39℃, 下痢,	ぬぐい液	6.9	Coxsackievirus A5
22	11ヶ月	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	6.9	Parainfluenza virus 3 Rhinovirus
23	2ヶ月	男	急性気管支炎	40℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	6.11	Rhinovirus
24	1	女	不明熱	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	6.11	Cytomegalovirus Parainfluenza virus 3
25	1	男	不明発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	6.11	Cytomegalovirus Rhinovirus
26	2ヶ月	女	急性上気道炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	6.13	Rhinovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年						2014年 総計
		1	2	3	4	5	6	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable				2			2
	計				2			2
インフルエンザ	Coxsackievirus B2				1			1
	Human metapneumovirus			2				2
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17				50
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2				24
	Influenza virus B NT	2		4		4		10
	Influenza virus B /Victoria	3		1				4
	Influenza virus B Yamagata	4	2	4	5			15
	Rhinovirus				1			1
	計	30	36	30	7	4		107
咽頭結膜熱	Adenovirus 1				2			2
	Adenovirus 2/6	1						1
	Adenovirus 3	4	2					6
	Adenovirus 5		1					1
	Rhinovirus				3			3
	計	5	3		5			13
感染性胃腸炎	Adenovirus 1						2	2
	Adenovirus 3					1		1
	Adenovirus 41		1	1				2
	Adenovirus 6		1			1		2
	Coxsackievirus B2					1		1
	Human herpes virus 6				1			1
	Human metapneumovirus				1			1
	Norovirus GII NT	26	9	6	8	6	1	56
	Rotavirus group A NT	1						1
	Rotavirus group AG3	2		2	2	1		7
	Sapovirus genogroup unknown	12	3	1	1	2		19
	計	41	14	10	13	12	3	93
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A5					1	2	3
	計					1	2	3
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8							
	Coxsackievirus B2			1	1			2
	Echovirus 30	2						2
	Human herpes virus 7				1			1
	Varicella-zoster virus		1					1
	計	2	1	1	2			6
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3		1				4
	計	3		1				4
流行性角結膜炎	Adenovirus 3	1						1
	計	1						1
その他	Adenovirus 2	1		1				2
	Adenovirus 3				2			2
	Adenovirus 6			1		1	1	3
	Adenovirus NT			1				1
	B19virus	1						1
	Coxsackievirus B2			1	1	1		3
	Coxsackievirus B3				1			1
	Cytomegalo virus		1	1			3	5
	Epstein-Barr virus			1				1
	Herpes simplex virus 1			1				1
	Human herpes virus 6	1	2	1	1	3	3	11
	Human herpes virus 7	2	1		2	1	2	8
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	3		22
	Influenza virus A H3 NT	1						1
	Influenza virus B /Yamagata	1						1
	Norovirus GII NT	1	1	1				3
	Parainfluenza virus 1		1					1
	Parainfluenza virus 2					1		1
	Parainfluenza virus 3						5	5
	Respiratory syncytial virus A		1					1
Respiratory syncytial virus B		1					1	
Rhinovirus	1	7	2	6	6	6	28	
	計	12	18	17	20	16	20	103
総計		94	72	59	49	33	25	332

高知県感染症情報 2014年 7月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ									7	
小児科	咽頭結膜熱			1	4	12	1	49	67	25	24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			9	36	11	4	16	76	128	59
	感染性胃腸炎		43	50	146	15	23	24	301	460	317
	水痘		3	34	34	11	7	33	122	153	139
	手足口病		1	2	8		5	2	18	10	615
	伝染性紅斑				1	1			2	1	2
	突発性発疹		7	10	37	9	4	5	72	60	57
	百日咳				2				2	1	8
	ヘルパンギーナ		26	51	103	51	37	52	320	120	749
	流行性耳下腺炎			5	61	22	22	22	132	129	60
	RSウイルス感染症							1	1	8	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									2	2
STD	性器クラミジア感染症				1			1	2	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ				1				1		
	淋菌感染症									1	2
基幹	細菌性髄膜炎							1	1	2	1
	無菌性髄膜炎				1			1	2	2	2
	マイコプラズマ肺炎			2	24				26	28	16
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									3	5
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1	4				5	16	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	2	15			4	23	32	34
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
	薬剤耐性アシネトバクター感染症										
計			82	167	478	132	103	211	1,173	1,190	2,094
前月			109	195	485	178	80	143			
前年同月			64	401	1,019	203	104	303			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年7月

全国情報 (6月30日～8月3日)

第27週(6月30日～)から第31週(～8月3日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

7月の上位6疾患の合計は59.70で、6月60.13(5週に補正、以下同じ)とほぼ同じであった。ヘルパンギーナ(6月4位5.48)は第28週から30週頃にピークとなる疾患で、過去10年間ではやや多い。感染性胃腸炎(同1位28.63)は例年通り徐々に減少している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同2位12.51)も減少を続けているが、過去10年間では08年と同程度で最も多い。手足口病(同8位2.64)は急激に増加したが例年に比べてかなり少ない。水痘(同3位5.99)は過去10年間では13年と同程度で最も少ない。咽頭結膜熱(同5位4.18)は6月がピークで減少している。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	31週	計
1	ヘルパンギーナ		2.54	3.73	4.94	4.12	4.39	19.72
2	感染性胃腸炎		4.62	4.28	3.89	3.21	3.41	19.41
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.13	1.99	1.67	1.14	1.09	8.02
4	手足口病		0.78	0.96	1.24	1.11	1.12	5.21
5	水痘		0.95	0.83	0.77	0.69	0.64	3.88
6	咽頭結膜熱		0.76	0.76	0.75	0.59	0.60	3.46

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の7月の上位6疾患の合計は34.95で、6月45.65(5週に補正、以下同じ)よりもかなり減少し、全国の6割足らずである。ヘルパンギーナ(同5位5.01)は約2倍に増加したが全国の約1/2である。感染性胃腸炎(同1位19.18)はほぼ半減し全国の約1/2と少ない。流行性耳下腺炎(同3位5.38)も徐々に減少しているが、全国7位3.28よりもかなり多い。水痘(同2位6.38)は全国と同程度に減少している。マイコプラズマ(同6位4.39)は減少したが全国11位1.24よりもかなり多く、富山・青森・宮城に次いで全国4位である。逆にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同4位5.33)は和歌山2.31に次いで全国で2番目に少ない。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	31週	計
1	ヘルパンギーナ		1.77	2.00	1.90	2.13	2.87	10.67
2	感染性胃腸炎		2.47	2.60	2.20	1.33	1.43	10.03
3	流行性耳下腺炎		0.93	0.73	1.27	0.93	0.53	4.39
4	水痘		1.07	0.77	0.93	0.43	0.87	4.07
5	マイコプラズマ肺炎		0.63	0.88	0.50	0.75	0.50	3.26
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.67	0.70	0.43	0.43	0.30	2.53

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

多くの疾患は夏から秋にかけて減少するが、夏型感染症のヘルパンギーナと咽頭結膜熱が増加した。

世界的には西アフリカ諸国(ギニア、リベリア、シエラレオネなど)でのエボラ出血熱の流行が大きな問題になっている。新潟県や石川県で増加しているパレコウイルス3型が高知県でも6～7月で9件検出された。年齢は0～2か月、症状は発熱・感染性胃腸炎・気道感染症・無菌性髄膜炎・敗血症様症状であり、注意が必要である。またパラインフルエンザ3型が6～7月に17件検出され、気道感染症・インフルエンザ様症状をきたしている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名(6月7名)。沖縄は603名(定点あたり10.39)の報告あり、6月1,093名に続いて多い。

2) 咽頭結膜熱

報告数 67名(6月25名)。全国は6位で定点あたり3.46に減少したが、高知県は8位2.24(6月9位1.04)と増加した。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 76名(6月128名)。今後はしばらく2桁の報告数が続き、11月から3桁に増加することが多い。

4) 感染性胃腸炎

報告数 301名(6月460名)。9～10月に最低となる。

5) 水痘

報告数 122名(6月153名)。7～11月は2桁に減少することが多い。

6) 手足口病

報告数 18名(6月10名)。全国は4位で定点あたり5.21と多いが、昨年大流行した高知県は10位0.60で、香川0.40に次いで全国で2番目に少ない。

- 7) 伝染性紅斑
報告数 2名(6月1名). 増加傾向はみられない.
- 8) 突発性発疹
報告数 72名(6月60名). 3か月連続で60名以上と多い.
- 9) 百日咳
報告数 2名(6月1名). 非流行期が継続している.
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 320名(6月120名). 例年7月にこの程度の最高値となることが多い. ウイルスは, Coxsackie A4が5件, B5が2件検出された.
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 132名(6月129名). 3月220名をピークに減少傾向にあるが, 12ヶ月連続3桁の流行が続いている. 過去10年間で最も少なかった2013年1月8名と比べると変動幅が大きい.
- 12) RSウイルス感染症
報告数 1名(6月8名). 最近では9月から増

- 加しているが今年はどうであろうか.
- 13) 流行性角結膜炎
報告数 0名(6月2名). 通常の報告数である.
- 14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 26名(6月28名). 4か月連続で20名以上と多い. 高知市24名, 中央東2名, 年齢は1~4歳から70歳以上と幅広い.
- 基幹定点の月報疾患
- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 23名(6月32名). 20~35名程度で大きな変化なし.
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 0名(6月0名). 今年は4月2名以外は総て0名である. 2012年5月から減少している.

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年																総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	81	1,132
	計									131	149	163	156	192	132	128	81	1,132
3	コレラ	1					1						1					3
	バラチフス	2																2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2									25
	腸チフス		1						1									2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3		150
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3		182
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						28
	Q熱	1	1	2				1										5
	オウム病			1		1												2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	67
	マラリア								2					1				3
	レジオネラ症		2		1		1					9	7	3	6	9	2	41
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	5	124
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1					6
	レプトスピラ症											1		4	2	1		8
	E型肝炎											1	1	1				2
	デング熱											1				3	1	5
	重症熱性血小板減少症候群															3	7	10
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	14	301
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	1	3	2	1	3	2	3		4	28
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1	54
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2	28
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1			7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1						1								2
	急性脳炎							1	1	2	5	1	3	1			1	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1	1	3				9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2		37
	侵襲製肺炎球菌感染症															1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎									1								1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		3	22
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	2	109
	麻疹									5								5
	風しん									1	1				4	9		15
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	15	335	
新型	新型インフルエンザ										34						34	
	計										34						34	
動物	鳥インフルエンザ												1				1	
	計												1				1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	110	1,985

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

7月はウイルス126件、細菌7件の搬入があり、そのうちウイルス61件の病原体を検出し、また、平成25年6月に搬入された検体でウイルス19件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 41 1件、Adeno virus 6 1件、Coxsackie virus A4 8件、Coxsackie virus A5 8件、Coxsackie virus B2 13件、Human herpes virus 6 3件、Human herpes virus 7 1件、Noro virus G II NT 1件、Parainfluenza virus 3 12件、Parecho virus 3 11件、Rhinovirus 19件、Rotavirus group A G3 2件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1ヶ月	女	急性気管支炎	39℃, 下痢, 中枢神経系障害,	ふん便	6.15	Parechovirus 3
2	0ヶ月	男	敗血症疑い・無呼吸	39℃,	ぬぐい液	6.16	Parechovirus 3
			敗血症、脳炎、脳症		ふん便	6.17	
3	14	女	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	6.17	Rotavirus group A G3
5	1	男	ヘルパンギーナ	38℃,	ぬぐい液	6.18	Coxsackievirus B2
6	1	男	不明熱	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	6.18	Parainfluenza virus 3
7	1	男	ヘルパンギーナ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ぬぐい液	6.19	Coxsackievirus A5
8	3	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	6.19	Coxsackievirus A5
9	2	女	感染性胃腸炎	40℃, 上気道炎, 発疹, 肝機能,	ふん便	6.19	Coxsackievirus B2
10	2ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	6.19	Rhinovirus
11	3	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	6.19	Rotavirus group A G3
12	3	女	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	6.20	Coxsackievirus A5
13	1ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃,	ふん便	6.20	Parechovirus 3
14	5	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	6.20	Rhinovirus
15	3ヶ月	男	感染性胃腸炎		ふん便	6.21	Adenovirus 6
16	2	男	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	6.21	Rhinovirus
17	1	男	ヘルパンギーナ	39℃, 口内炎,	ぬぐい液	6.23	Coxsackievirus A4
18	1	女	ヘルパンギーナ	41℃, 下痢,	ぬぐい液	6.23	Coxsackievirus A5
19	0ヶ月	女	咽頭結膜炎	39℃,	ふん便	6.23	Parechovirus 3
20	1ヶ月	男	感染性胃腸炎	41℃,	ふん便	6.23	Parechovirus 3
21	11	男	上気道炎	39℃, 嘔吐, 上気道炎,	ぬぐい液	6.24	Coxsackievirus B2
22	2	男	口内炎	38℃, 口内炎,	ぬぐい液	6.24	Rhinovirus
23	1	女	ヘルパンギーナ	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	6.25	Coxsackievirus A5
24	3	女	感染性胃腸炎	37℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	6.25	Coxsackievirus B2
25	11	男	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐,	ふん便	6.25	Coxsackievirus B2
26	1	男	手足口病	38℃, 口内炎, 手足口病症状,	ぬぐい液	6.25	Rhinovirus
27	1	男	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	6.26	Coxsackievirus A4
28	1	男	ヘルパンギーナ	40℃, 上気道炎,	-	6.26	Parainfluenza virus 3
29	5	女	感染性胃腸炎	38℃, 腹痛,	ふん便	6.26	Coxsackievirus B2
30	9	女	流行性耳下腺炎	38℃,	ぬぐい液	6.26	Rhinovirus
31	9	女	流行性筋痛症		鼻咽頭口腔ぬぐい液	6.27	Rhinovirus
32	8ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	6.27	Coxsackievirus B2
							Norovirus GII NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
33	4	女	不明発疹症	41℃, 発疹,	ぬぐい液	6.28	Human herpes virus 6
34	0ヶ月	女	ウイルス感染症	40℃,	ふん便	6.29	Parechovirus 3
35	1	女	ヘルパンギーナ	40℃, 下痢,	ぬぐい液	6.30	Coxsackievirus A4
36	2	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	6.30	Coxsackievirus A4
37	1	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	6.30	Rhinovirus
38	2	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	6.30	Human herpes virus 7
39	6ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.1	Coxsackievirus A5
40	3	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.1	Rhinovirus
41	1	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	7.1	Rhinovirus
42	11	男	精巣上体炎		ふん便, 尿	7.2	Coxsackievirus B2
43	10ヶ月	男	不明発疹症	40℃, 嘔吐, 嘔気, 発疹,	ぬぐい液	7.2	Human herpes virus 6
44	0ヶ月	男	ウイルス感染症	40℃,	ふん便, 鼻腔ぬぐい液	7.4	Parechovirus 3
45	1	男	クループ、喘息性気管支炎	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	7.4	Parainfluenza virus 3
46	3ヶ月	女	無菌性髄膜炎	39℃,	髄液	7.4	Coxsackievirus B2
47	2	女	無菌性髄膜炎	40℃, 嘔吐, 腹痛,	ふん便	7.4	Parechovirus 3
					ぬぐい液		Rhinovirus
48	6	男	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 上気道炎, 発疹, 結膜炎, 関節痛, 筋肉痛, リンパ節浮腫,	ぬぐい液	7.5	Rhinovirus
					ふん便	7.7	
49	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎	38℃,	ふん便, 髄液	7.5	Parechovirus 3
50	0ヶ月	男	—	39℃,	ぬぐい液	7.7	Coxsackievirus B2
51	1ヶ月	女	ウイルス感染症	39℃,	ぬぐい液	7.7	Coxsackievirus B2
52	1	女	ヘルパンギーナ	38℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	7.7	Coxsackievirus A5
54	21	男	気管支炎	39℃,	ぬぐい液	7.7	Parainfluenza virus 3
55	3	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.7	Human herpes virus 6
56	45	女	上気道炎	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	7.7	Parainfluenza virus 3
57	5	女	川崎病	38℃, 嘔吐, 嘔気, 発疹, 結膜炎,	ぬぐい液	7.7	Rhinovirus
58	7ヶ月	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.9	Adenovirus 41
							Coxsackievirus A4
59	2	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	7.9	Rhinovirus
60	45	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	7.10	Parainfluenza virus 3
61	63	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	7.10	Parainfluenza virus 3
62	9	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.10	Parainfluenza virus 3
63	41	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.10	Parainfluenza virus 3
64	5	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.10	Parainfluenza virus 3
65	11ヶ月	男	急性発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.12	Coxsackievirus A5
66	1	男	不明発疹症 エンテロ	発疹,	ぬぐい液	7.12	Rhinovirus
67	4	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	7.14	Coxsackievirus A4
68	3	女	手足口病	37℃, 口内炎,	ぬぐい液	7.14	Rhinovirus
69	6ヶ月	女	不明熱	40℃, 下痢, 咳漱,	ぬぐい液	7.15	Parainfluenza virus 3
70	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.16	Coxsackievirus A4

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
71	1ヶ月	男	肺炎	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	7.16	Parainfluenza virus 3
72	1	男	不明熱	39℃, 水疱,	ぬぐい液	7.16	Rhinovirus
73	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	7.16	Rhinovirus
74	6	女	流行性胸痛症	37℃,	うがい液	7.17	Coxsackievirus B2
75	0ヶ月	女	新生児発熱	39℃,	ふん便, 髄液	7.17	Parechovirus 3
76	1	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.18	Coxsackievirus A4
77	0ヶ月	女	新生児敗血症	39℃,	髄液, ぬぐい液, ふん便	7.18	Coxsackievirus B2

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年							2014年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable				2				2
	計				2				2
インフルエンザ	Coxsackievirus B2				1				1
	Human metapneumovirus			2					2
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17					50
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2					24
	Influenza virus B NT	2		4		4			10
	Influenza virus B /Victoria	3		1					4
	Influenza virus B Yamagata	4	2	4	5				15
	Parainfluenza virus 3							5	5
Rhinovirus				1				1	
	計	30	36	30	7	4		5	112
咽頭結膜熱	Adenovirus 1				2				2
	Adenovirus 2/6	1							1
	Adenovirus 3	4	2						6
	Adenovirus 5		1						1
	Parechovirus 3							1	1
	Rhinovirus				3				3
	計	5	3		5			1	14
感染性胃腸炎	Adenovirus 1						2		2
	Adenovirus 3					1			1
	Adenovirus 41		1	1				1	3
	Adenovirus 6		1			1	1		3
	Coxsackievirus A4							2	2
	Coxsackievirus A5						1	1	2
	Coxsackievirus B2					1	1	4	6
	Human herpes virus 6				1				1
	Human metapneumovirus				1				1
	Norovirus GI NT	26	9	6	8	6	1	1	57
	Parechovirus 3						2		2
	Rhinovirus						1	2	3
	Rotavirus group A NT	1							1
	Rotavirus group AG3	2		2	2	1	2		9
Sapovirus genogroup unknown	12	3	1	1	2			19	
	計	41	14	10	13	12	11	11	112
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A4						1	5	6
	Coxsackievirus A5					1	5	2	8
	Coxsackievirus B2						1		1
	Parainfluenza virus 3							1	1
	Rhinovirus							1	1
	計					1	7	9	17
手足口病	Human herpes virus 6							1	1
	Human herpes virus 7							1	1
	Rhinovirus							3	3
	計							5	5
流行性耳下腺炎	Rhinovirus							1	1
	計							1	1
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8							1	3
	Coxsackievirus B2			1	1				2
	Echovirus 30	2							2
	Human herpes virus 7				1				1
	Parechovirus 3							2	2
	Rhinovirus							1	1
	Varicella-zoster virus		1						1
	計	2	1	1	2			4	10
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3		1					4
	計	3		1					4
流行性角結膜炎	Adenovirus 3	1							1
	計	1							1
その他	Adenovirus 2	1		1					2
	Adenovirus 3				2				2
	Adenovirus 6			1		1	1		3
	Adenovirus NT			1					1
	B19virus	1							1
	Coxsackievirus A5							1	1
	Coxsackievirus B2			1	1	1		6	9
	Coxsackievirus B3				1				1
	Cytomegalo virus		1	1			3		5
	Epstein-Barr virus		1						1
	Herpes simplex virus 1			1					1
	Human herpes virus 6	1	2	1	1	3	3	2	13
	Human herpes virus 7	2	1		2	1	2		8
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	3			22
	Influenza virus A H3 NT	1							1
	Influenza virus B /Yamagata	1							1
	Norovirus GI NT	1	1	1					3
	Parainfluenza virus 1		1						1
	Parainfluenza virus 2					1			1
	Parainfluenza virus 3						6	5	11
	Parechovirus 3						3	3	6
	Respiratory syncytial virus A		1						1
Respiratory syncytial virus B		1						1	
Rhinovirus	1	7	2	6	6	8	8	38	
	計	12	18	17	20	16	26	25	134
総計		94	72	59	49	33	44	61	412

高知県感染症情報 2014年 8月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ				1			2	3		
小児科	咽頭結膜熱			3	3	3		28	37	67	39
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	19	6	3	4	35	76	34
	感染性胃腸炎	43	128	117	36	14	19	19	357	301	286
	水痘			23	32		1	9	65	122	86
	手足口病			3	17		6	1	27	18	980
	伝染性紅斑	1			4	1			6	2	1
	突発性発疹	1	9	35	11	9	8	8	73	72	65
	百日咳									2	4
	ヘルパンギーナ	13	43	62	23	12	129	129	282	320	694
	流行性耳下腺炎		2	53	16	13	33	33	117	132	106
	RSウイルス感染症		1	5	5				6	1	24
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎										4
STD	性器クラミジア感染症		1						1	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ				1				1	1	
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎									1	2
	無菌性髄膜炎				2				2	2	4
	マイコプラズマ肺炎				14				14	26	18
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				3				3		1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									5	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	2	12				6	22	23	34
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										1
	薬剤耐性緑膿菌感染症				1				1		
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			60	218	381	96	58	239	1,052	1,173	2,385
前月			82	167	478	132	103	211			
前年同月			134	307	1,196	252	188	308			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年8月

全国情報（8月4日～8月31日）

第32週（8月4日～）から第35週（～8月31日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

8月の上位6疾患の合計は34.93で、7月59.70の約6割に大きく減少した。感染性胃腸炎（7月2位19.41）は約2/3に、ヘルパンギーナ（同1位19.72）は約1/2に、手足口病（同4位5.21）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位8.02）、流行性角結膜炎（同7位3.28）、突発性発疹（同8位3.16）の上位6疾患は総て減少した。特にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は7月の約4割に大きく減少した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	32週	33週	34週	35週	計
1	感染性胃腸炎		3.26	2.43	3.22	3.28	12.19
2	ヘルパンギーナ		3.72	2.43	2.25	2.25	10.65
3	手足口病		1.01	0.77	0.86	1.03	3.67
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.95	0.62	0.78	0.83	3.18
5	流行性角結膜炎		0.77	0.48	0.89	0.74	2.88
6	突発性発疹		0.63	0.46	0.63	0.64	2.36

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の7月の上位6疾患の合計は31.55で、7月34.95よりも僅かに減少し、全国とほぼ同じとなった。感染性胃腸炎（7月2位10.03）は増加し、ヘルパンギーナ（同1位10.67）は減少したが、どちらも全国との差は小さい。流行性耳下腺炎（同3位4.39）は全国9位1.23の3倍以上であり、福島5.18、福井4.41に次いで全国3位と多い。突発性発疹（同7位2.40）および水痘（同4位4.07）8月全国7位2.04は全国とほぼ同じで、マイコプラズマ肺炎（同5位3.26）は8月全国11位0.95よりもかなり多い。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	32週	33週	34週	35週	計
1	感染性胃腸炎		3.03	3.40	3.03	2.43	11.89
2	ヘルパンギーナ		3.20	2.67	2.27	1.27	9.41
3	流行性耳下腺炎		0.90	0.93	0.90	1.17	3.90
4	突発性発疹		0.47	0.53	0.80	0.63	2.43
5	水痘		0.47	0.67	0.40	0.63	2.17
6	マイコプラズマ肺炎		0.25	0.50	0.50	0.50	1.75

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

世界的には西アフリカでエボラ出血熱の流行が続く死者は2630人（9月18日WHO発表）、日本ではデング熱の国内感染が17都道府県在住の141人に達し（9月19日厚生労働省発表）、高知県でも1例の感染者が確認された。

今年の手足口病は少なく、夏から秋に減少する疾患（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘）が減少し、流行していた流行性耳下腺炎も徐々に減少している。一方、RSウイルス感染症が増加しているため注意すべきである。7月と8月の無菌性髄膜炎症例から、CoxsackievirusB2が2件、Parechovirus3が2件検出されている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3名（7月0名）。2009年のAH1pdmの流行を除くと、過去10年間の7月から10月の報告数は0～6名である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 37名（7月67名）。プール熱とも言われ、これまでは夏に流行がみられていたが、最近では冬季の報告が増加し夏季のピークが低下してきている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 35名（7月76名）。定点あたり報告数は、全国4位3.18に比べ高知8位1.17と低値で、全国で最も少ない。過去10年間では8～10月に年間の最低値（22～67名）となっている。

4) 感染性胃腸炎

報告数 357名（7月301名）。過去10年間では7～11月に最低値（144～341名）となっている。ウイルスは、Coxsackievirus A4、Echovirus 30が各1件検出された。

5) 水痘

報告数 65名（7月122名）。過去10年間では8～10月に最低値（33～84名）となっている。

6) 手足口病

報告数 27名（7月18名）。僅かに増加したが定点あたり報告数は、全国3位3.67に比べ高知9位0.90と低値であり、今年は2012年と同様に非常に少ない年になりそうである。ウイルスは、Coxsackievirus A16が2件、Enterovirus71が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 6名（7月2名）。流行の兆しはみられない。

8) 突発性発疹

報告数 73名(7月72名). 概ね40~60名の範囲であるが, 4か月連続60名以上と多い.

9) 百日咳

報告数 0名(7月2名). 非流行期が継続している.

10) ヘルパンギーナ

報告数 282名(7月320名). 過去10年間では二峰性の増加をきたしたことはないので, 今シーズンの最高値は7月であり平均的な報告数である. ウイルスは, Coxsackievirus A4が4件, A5が4件, B2およびB3が各1件検出された.

11) 流行性耳下腺炎

報告数 117名(7月132名). 3月220名をピークに減少傾向にある.

12) RSウイルス感染症

報告数 6名(7月1名). 過去10年間では, 2011年までの8月は0~2名と少ないが, 2012年16名, 2013年24名と早期に検出される傾向にある. 9月以降, 更に増加する可能性が高い.

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(7月0名). 全国5位2.88に比べ非常に少なく, 報告数0は島根と高知のみである.

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 14名(7月26名). 2011年8月以降の37か月では1桁は4か月のみであり, それ以前と比較して恒常的に多い.

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 22名(7月23名). 変化なし. 0~4歳4名, 65歳以上11名で小児と高齢者に多い.

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(7月0名). 2012年5月以降に明らかに減少しており, 小児の肺炎球菌ワクチンの公費負担が2011年2月から開始されたことと関係があるかもしれない.

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計		
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		26	
2	結核										131	149	163	156	192	132	128	95	1,146
	計										131	149	163	156	192	132	128	95	1,146
3	コレラ	1					1						1						3
	バラチフス	2																	2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2										25
	腸チフス		1						1										2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	3		153
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	3		185
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3						28
	Q熱	1	1	2				1											5
	オウム病			1		1													2
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3		67
	マラリア								2					1					3
	レジオネラ症		2		1		1					9	7	3	6	9	2	1	41
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	5		124
	日本脳炎	1	1	1						1			1	1					6
	レプトスピラ症											1		4	2	1			8
	E型肝炎												1		1				2
	デング熱												1				3	1	5
	重症熱性血小板減少症候群																3	8	11
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	15		302
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3				30
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1	54
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3						28
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1			7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							2
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1			1	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1					1		1	1	3				9
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2			37
	侵襲製肺炎球菌感染症																1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎										1								1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1			3	22
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8			109
	麻しん										5								5
	風しん										1	1			4	9			15
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	17		337	
新型	新型インフルエンザ										34								34
計											34								34
動物	鳥インフルエンザ												1						1
計													1						1
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	130		2,005

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

8月はウイルス73件、細菌2件の搬入があり、そのうちウイルス41件の病原体を検出し、また、平成26年6月から7月に搬入された検体でウイルス20件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Coxsackie virus A16 2件、Coxsackie virus A4 6件、Coxsackie virus A5 6件、Coxsackie virus B2 9件、Coxsackie virus B3 1件、Cytomegalovirus 2件、Echovirus 11 2件、Echovirus 30 2件、Enterovirus 71 2件、Enterovirus NT 1件、Epstein-Barr virus 1件、Human herpes virus 6 5件、Human herpes virus 7 3件、Parainfluenza virus 1 1件、Parainfluenza virus 3 5件、Parecho virus 3 2件、Rhino virus 11件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	3	男	手足口病 疑い	手足口病症状,	ぬぐい液	6.13	Cytomegalovirus
2	15	男	不明熱性疾患	39℃, 上気道炎, リンパ節浮腫,	鼻咽頭口腔 ぬぐい液	7.2	Epstein-Barr virus
3	3	女	手足口病	下痢, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.4	Enterovirus NT
4	5	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	7.4	Human herpes virus 6
							Human herpes virus 7
5	1	男	ヘルペスウイルス感染	38℃, 口内炎, 手足口病症状,	ぬぐい液・ ふん便	7.8	Human herpes virus 6
6	2	男	咽頭炎	39℃, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	7.11	Echovirus 11
7	1	女	リンパ節腫脹	40℃, 咳漱, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	7.18	Rhinovirus
8	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	7.22	Rhinovirus
9	2ヶ月	女	急性気管支炎	咳漱, 上気道炎, 下気道炎, 気管 支炎,	鼻咽腔	7.23	Parainfluenza virus 3
10	2	女	上気道炎	40℃, 嘔吐, 腹痛,	ぬぐい液	7.23	Coxsackievirus B2
11	1	女	不明発疹症	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.23	Parainfluenza virus 3
12	8	男	けいれん	39℃, 嘔吐, 嘔気, 中枢神経系障 害,	ぬぐい液	7.24	Human herpes virus 7
13	1	男	けいれん重積	40℃,	ふん便	7.25	Coxsackievirus B2
14	3	女	咽頭結膜熱	40℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛, 発疹, 口 内炎, 結膜炎, 肝機能,	鼻咽頭ぬぐい液	7.25	Rhinovirus
15	1	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.25	Human herpes virus 6
16	5	男	下気道炎	39℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻咽腔ぬぐい液	7.27	Rhinovirus
17	3	女	突発性発疹もしくは エンテロウイルス感 染症	40℃,	ぬぐい液	7.28	Human herpes virus 6
18	4	女	右胸痛	38℃,	ぬぐい液	7.29	Coxsackievirus B2
19	3	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	7.29	Coxsackievirus A5
20	1	男	不明発疹症	39℃, 下痢, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	7.29	Rhinovirus
21	2	女	ヘルパンギーナ	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	7.30	Coxsackievirus A4
22	3	女	ヘルパンギーナ	38℃,	ぬぐい液	7.30	Coxsackievirus A5
23	1	女	手足口病	水疱, 手足口病症状,	ぬぐい液	7.30	Parechovirus 3
24	1	男	不明熱	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	7.30	Coxsackievirus B2
25	1	女	咽頭結膜熱	発疹, 結膜炎,	ぬぐい液	7.31	Rhinovirus
26	11ヶ月	男	夏カゼ症候群	下痢,	ふん便	7.31	Parechovirus 3
27	1	男	不明熱	40℃,	ぬぐい液	7.31	Coxsackievirus A5
28	2	男	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	8.1	Coxsackievirus B2
29	2	女	咽頭結膜熱	40℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛, 口内炎,	ぬぐい液	8.1	Echovirus 11

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
30	9ヶ月	女	急性気管支炎	40℃, 咳漱, 気管支炎, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	8. 2	Cytomegalovirus
31	8ヶ月	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	8. 2	Human herpes virus 6
32	11ヶ月	男	ヘルパンギーナ	40℃,	ぬぐい液	8. 5	Coxsackievirus A4
33	6ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎, 口内炎,	ぬぐい液	8. 5	Coxsackievirus A4
34	1	男	不明熱	40℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	8. 5	Coxsackievirus A4
35	1	男	不明熱	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	8. 5	Coxsackievirus A5
36	1	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 5	Rhinovirus
37	2ヶ月	女	急性上気道炎、熱性けいれん疑い	38℃, 上気道炎,	鼻腔	8. 7	Rhinovirus
38	1	女	不明熱	40℃,	ぬぐい液	8. 8	Enterovirus 71
39	2	女	感染性胃腸炎	37℃, 腹痛,	ぬぐい液	8. 11	Rhinovirus
40	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 水疱,	ぬぐい液	8. 12	Coxsackievirus A5
41	13	男	無菌性髄膜炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	髄液	8. 14	Coxsackievirus B2
42	1	男	不明熱	39℃,	ぬぐい液	8. 15	Coxsackievirus B2
43	1	女	不明発疹症	40℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	8. 15	Human herpes virus 7
44	12	女	咽頭結膜熱	39℃,	ぬぐい液	8. 15	Coxsackievirus B2
45	8ヶ月	女	不明発疹症	38℃, 嘔吐, 嘔気, 発疹,	ぬぐい液	8. 16	Rhinovirus
46	5	男	不明熱 リンパ節腫大		ぬぐい液	8. 16	Rhinovirus
47	6ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 口内炎,	ぬぐい液	8. 20	Coxsackievirus A5
48	10ヶ月	女	感染性胃腸炎		ふん便	8. 21	Coxsackievirus A4
49	50	男	気管支炎	41℃, 気管支炎,	喀痰	8. 22	Parainfluenza virus 3
50	44	男	気管支炎	39℃, 気管支炎,	ぬぐい液	8. 22	Parainfluenza virus 3
51	8ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	8. 22	Coxsackievirus B3
52	3	男	不明熱	40℃,	ぬぐい液	8. 22	Parainfluenza virus 1
53	10	男	不明熱	39℃,	ぬぐい液	8. 23	Coxsackievirus B2
54	2	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 23	Echovirus 30
55	4	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	8. 24	Echovirus 30
56	3	女	ヘルパンギーナ	40℃, 水疱,	ぬぐい液	8. 25	Coxsackievirus A4
57	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8. 25	Coxsackievirus A16
58	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8. 25	Coxsackievirus A16
59	1	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8. 25	Enterovirus 71
60	1	女	不明熱	39℃,	ぬぐい液	-	Parainfluenza virus 3

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年								2014年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>				2						2
	計				2						2
インフルエンザ	Coxsackievirus B2				1						1
	Human metapneumovirus			2							2
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17							50
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2							24
	Influenza virus B NT	2		4			4				10
	Influenza virus B /Victoria	3		1							4
	Influenza virus B Yamagata	4	2	4		5					15
	Parainfluenza virus 3								5		5
Rhinovirus					1					1	
	計	30	36	30	7	4		5		112	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1				2						2
	Adenovirus 2/6	1									1
	Adenovirus 3	4	2								6
	Adenovirus 5		1								1
	Coxsackievirus B2								1		1
	Echovirus 11								1		1
	Parechovirus 3							1			1
Rhinovirus				3				1	1	5	
	計	5	3		5			2	3	18	
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1		2			2
	Adenovirus 3						1				1
	Adenovirus 41		1	1				1			3
	Adenovirus 6		1			1	1				3
	Coxsackievirus A4							2	1		3
	Coxsackievirus A5						1	1			2
	Coxsackievirus B2					1	1	4			6
	Echovirus 30								1		1
	Human herpes virus 6				1						1
	Human metapneumovirus				1						1
	Norovirus GII NT	26	9	6	8	6	1	1			57
	Parechovirus 3						2				2
	Rhinovirus						1	2	1		4
	Rotavirus group A NT	1									1
	Rotavirus group AG3	2		2	2	1	2				9
Sapovirus genogroup unknown	12	3	1	1	2					19	
	計	41	14	10	13	12	11	11	3	115	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A4					1	5	4		10	
	Coxsackievirus A5					1	5	2	4	12	
	Coxsackievirus B2						1		1	2	
	Coxsackievirus B3								1	1	
	Parainfluenza virus 3							1		1	
	Rhinovirus							1		1	
	計					1	7	9	10	27	
手足口病	Coxsackievirus A16							2		2	
	Cytomegalo virus						1			1	
	Enterovirus 71								1	1	
	Enterovirus NT							1		1	
	Human herpes virus 6							2		2	
	Human herpes virus 7							2		2	
	Parechovirus 3								1	1	
Rhinovirus							3		3		
	計						1	8	4	13	
流行性耳下腺炎	Rhinovirus							1		1	
	計							1		1	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8										
	Coxsackievirus B2			1	1			1	1	4	
	Echovirus 30	2								2	
	Human herpes virus 7				1					1	
	Parechovirus 3							2		2	
	Rhinovirus							1		1	
	Varicella-zoster virus		1							1	
	計	2	1	1	2			4	1	11	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3		1						4	
	計	3		1						4	
流行性角結膜炎	Adenovirus 3	1								1	
	計	1								1	
その他	Adenovirus 2	1		1						2	
	Adenovirus 3				2					2	
	Adenovirus 6			1		1				3	
	Adenovirus NT			1						1	
	B19virus	1								1	
	Coxsackievirus A4								1	1	
	Coxsackievirus A5							1	2	3	
	Coxsackievirus B2			1	1	1		9	3	15	
	Coxsackievirus B3				1					1	
	Cytomegalo virus		1	1			3		1	6	
	Echovirus 11							1		1	
	Echovirus 30								1	1	
	Enterovirus 71								1	1	
	Epstein-Barr virus			1				1		2	
	Herpes simplex virus 1			1						1	
	Human herpes virus 6	1	2	1	1	3	3	5	1	17	
	Human herpes virus 7	2	1		2	1	2	1	1	10	
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	3				22	
	Influenza virus A H3 NT	1								1	
	Influenza virus B /Yamagata	1								1	
	Norovirus GII NT	1	1	1						3	
	Parainfluenza virus 1		1						1	2	
	Parainfluenza virus 2					1				1	
	Parainfluenza virus 3						6	7	3	16	
	Parechovirus 3						3	3	1	7	
	Respiratory syncytial virus A	1								1	
Respiratory syncytial virus B	1								1		
Rhinovirus	1	7	2	6	6	8	12	4	46		
	計	12	18	17	20	16	26	40	20	169	
総計		94	72	59	49	33	45	80	41	473	

高知県感染症情報 2014年9月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		7	1	3			45	56	3	1
小児科	咽頭結膜熱		1	6	4	1	2	13	27	37	40
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			4	34	13	4	5	60	35	41
	感染性胃腸炎		30	76	131	25	13	20	295	357	165
	水痘			11	35			8	54	65	69
	手足口病			9	34	1	2	3	49	27	594
	伝染性紅斑					1			1	6	4
	突発性発疹		3	6	36	6	6	4	61	73	53
	百日咳										2
	ヘルパンギーナ		20	27	29	5	6	30	117	282	104
	流行性耳下腺炎			9	65	4	9	28	115	117	122
	RSウイルス感染症			8	50	1	9	25	93	6	48
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				4				4		4
STD	性器クラミジア感染症			1	2				3	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										1
	尖圭コンジローマ				2				2	1	1
	淋菌感染症										1
基幹	細菌性髄膜炎										1
	無菌性髄膜炎							1	1	2	2
	マイコプラズマ肺炎			7	14				21	14	13
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				3				3	3	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				1				1		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	3	13			6	24	22	37
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				1				1		
	薬剤耐性緑膿菌感染症										1
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			63	168	461	57	51	188	988	1,052	1,307
前月			60	218	381	96	58	239			
前年同月			68	198	669	102	95	175			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年9月

全国情報（9月1日～9月28日）

第36週（9月1日～）から第39週（～9月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

9月の上位6疾患の合計は31.62で、8月34.93よりも僅かに減少した。例年9月または10月が最も少なく30前後の値となる。感染性胃腸炎（8月1位12.19）の週毎の報告数は、第32週（8月第1週）以降では休日の影響で2台に減少した以外は3.2～3.4で安定している。ヘルパンギーナ（同2位10.65）は半減し、ピークの7月19.72の約1/4に減少した。A群溶血性レンサ球菌（同4位3.18）は増加に転じ、過去10年間では最も多い。手足口病（同3位3.67）は横ばいであるが第38週から減少傾向にあり、今シーズンの報告数は2012年と同程度で非常に少ない。RSウイルス感染症（同10位1.00）は35週から急増し37～39週は横ばいである。2012年以降は9月から急増するパターンとなっている。突発性発疹（同6位2.36）は不変である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	感染性胃腸炎		3.43	3.30	2.90	2.92	12.55
2	ヘルパンギーナ		1.99	1.69	0.93	0.63	5.24
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.99	1.09	0.99	1.19	4.26
4	手足口病		1.11	1.11	0.83	0.66	3.71
5	RSウイルス感染症		0.69	0.95	0.93	0.94	3.51
6	突発性発疹		0.65	0.61	0.54	0.55	2.35

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の9月の上位6疾患の合計は25.34で、8月31.55よりもかなり減少し全国よりも少ない。2006年以降、高知県では09年8月を除き9月または10月が最も少なく、最低値は20～28台となり全国よりも低値で変動幅が大きい。感染性胃腸炎（8月1位12.19）は週毎に減少、ヘルパンギーナ（同2位10.65）は大きくかつ週毎に減少し、どちらも全国よりも少ない。流行性耳下腺炎（同3位3.90）は横ばいであるが、全国10位1.16の3倍以上で沖縄5.18、福島4.4に次いで多い。RSウイルス感染症（同12位0.2）は週毎に増加しているが全国よりも少ない。マイコプラズマ肺炎（同6位1.75）は増加し、全国11位1.05の2.5倍である。突発性発疹（同4位2.43）は減少し全国よりも少ない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	感染性胃腸炎		3.60	2.63	1.90	1.70	9.83
2	ヘルパンギーナ		1.57	1.20	0.73	0.40	3.90
3	流行性耳下腺炎		1.03	0.97	1.13	0.70	3.83
4	RSウイルス感染症		0.30	0.80	0.97	1.03	3.10
5	マイコプラズマ肺炎		0.88	0.88	0.50	0.38	2.64
6	突発性発疹		0.67	0.50	0.30	0.57	2.04

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

西アフリカのエボラ出血熱の勢いが止まらず、欧米では帰国者の発症や2次感染がみられている。

感染症の最も少ない季節になったが、RSウイルス感染症が急増し、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と手足口病も増加し、一時的なインフルエンザの流行がみられた。一方、咽頭結膜熱・感染性胃腸炎・水痘・ヘルパンギーナは減少している。11月頃から冬型感染症が徐々に増加すると予測される。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 56名（8月3名）。過去10年間の9月の報告数は、2009年671名を除くと0～4名であり、かなり多い。1歳2名から80歳以上5名まで総ての年齢に分布している。地域は幡多45名、安芸7名、高知市3名、中央東1名で、幡多に集中している。第36～39週の定点あたり報告数は、0.44、0.33、0.19、0.21で感染の拡大傾向はみられない。迅速検査ではA型であり、ウイルスはAH3NTが1件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 27名（8月37名）。今シーズンは7月67名をピークに減少が続いている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 60名（8月35名）。8～9月に最低値になることが多いので、今後は冬に向かって増加してゆくと推測される。8月の定点あたり報告数は全国で最も少なかったが、9月は増加し全国では5番目に少ない。血清型TB3264が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 295名（8月357名）。減少したが過去10年間の9月では06年305名に次いで多く、最も少ない年は2013年9月165名である。ウイルスは、Coxsackievirus A4が2件、Sapovirusが1件検出された。

- 5) 水痘
報告数 54名(8月65名). 今年の最低値である. 11月頃より増加することが多い.
- 6) 手足口病
報告数 49名(8月27名). 8月・9月と今年の最高値を更新しているが, 全国と同様に非常に少ない.
- 7) 伝染性紅斑
報告数 1名(8月6名). 2～3年周期で増減する疾患であり, 約2年間報告数が少ない.
- 8) 突発性発疹
報告数 61名(8月73名). 5か月連続で60名以上と多い. 年間を通して大きな変動のない疾患であるが, 夏に増加し冬に減少する傾向がある.
- 9) 百日咳
報告数 0名(8月0名). 非流行期が続いている.
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 117名(8月282名). 7月320名をピークに減少が続き, 通常の経過である. ウイルスはCoxsackievirus B2が1件検出された. 今シーズンのウイルスはCoxsackievirus A4とA5が主体であった.
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 115名(8月117名). 僅かの減少に留まり, 昨年8月以降3桁が続き, 定点あたり報

- 告数は全国3位である.
- 12) RSウイルス感染症
報告数 93名(8月6名). 過去10年間の9月の最高値であり, 以前は11～12月に増加していたが, 2012年以降は全国と同様に9月から増加している.
- 13) 流行性角結膜炎
報告数 4名(8月0名). 変化なし.
- 14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 21名(8月14名). 今年は20名以上が5か月あり恒常的に多く, 定点あたり報告数は全国4位である. 0歳から64歳までの広範な年齢層の報告がある.
- 基幹定点の月報疾患
- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 24名(8月22名). 全国と同様に65歳以上が17名(71%)を占めている.
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 1名(8月0名). 今年の9月までの合計は3名のみと少ない.

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年												総計															
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25	26											
2	結核																131	149	163	156	192	132	128	108	1,159				
	計																131	149	163	156	192	132	128	108	1,159				
3	コレラ																1												3
	バラチフス																2												2
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2												25						
	腸チフス																1												2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	3	153											
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	3	185												
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1												28							
	Q熱	1	1	2												5													
	オウム病																2												
	つつが虫病																67												
	マラリア																3												
	レジオネラ症																42												
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	126											
	日本脳炎	1	1	1												6													
	レプトスピラ症																8												
	E型肝炎																2												
	デング熱																6												
	重症熱性血小板減少症候群																12												
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	20	307											
5	アメーバ赤痢																6												
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3	3				54											
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																2												
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4				4	3	3	6	1	3					28											
	ジアルジア症																7												
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																2												
	急性脳炎																15												
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																9												
	後天性免疫不全症候群	2			2	4	2	3	6	3	3	2	3	3				39											
	侵襲製肺炎球菌感染症																2												
	髄膜炎菌性髄膜炎																1												
	破傷風																22												
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	3	110											
	麻しん																5												
	風しん																15												
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	22	342												
新型	新型インフルエンザ																34												
	計																34												
動物	鳥インフルエンザ																1												
	計																1												
総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	153	2,028												

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

9月はウイルス87件、細菌5件の搬入があり、そのうちウイルス33件、細菌1件の病原体を検出し、また、平成25年8月に搬入された検体でウイルス1件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 5 1件、Coxsackie virus A16 1件、Coxsackie virus A4 6件、Coxsackie virus A5 1件、Coxsackie virus A9 1件、Coxsackie virus B2 4件、Echovirus 18 1件、Echovirus 30 2件、Enterovirus 71 4件、Influenzavirus AH3 NT 1件、Parainfluenza virus 3 1件、Parechovirus 1 2件、Respiratory syncytialvirus A 2件、Respiratory syncytialvirus B 1件、Rhinovirus 5件、Sapovirus genogroup unknown 1件。また、細菌の内訳は、*Streptococcus pyogenes TB3264* 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	4	男	無菌性髄膜炎	40℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	8.11	Coxsackievirus B2
2	3	男	胸痛症	39℃, 下気道炎,	ぬぐい液	8.26	Respiratory syncytial virus A
3	1	男	咽頭結膜熱	39℃, 咳漱, 中枢神経系障害,	鼻咽腔ぬぐい液	8.26	Parainfluenza virus 3
4	2	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.26	Enterovirus 71
5	2	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	8.26	Enterovirus 71
6	1	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8.26	Enterovirus 71
7	1ヶ月	男	急性気管支炎	39℃, 咳漱, 気管支炎,	ふん便	8.27	Coxsackievirus B2
8	3	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	8.27	Enterovirus 71
9	1	女	不明発疹症	40℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	8.28	Coxsackievirus A9
10	1	女	不明発疹症	40℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	8.29	Coxsackievirus A4
11	11ヶ月	男	咽頭結膜炎	41℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	8.30	Rhinovirus
12	4	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	9.1	Adenovirus 5
13	9ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	9.1	Coxsackievirus A4 Sapovirus genogroup unknown
14	3	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	9.2	Coxsackievirus A4
15	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	9.4	Rhinovirus
16	1	女	手足口病	発疹,	ぬぐい液	9.4	Parechovirus 1
17	3	男	RSウイルス感染症	39℃, 気管支炎,	ぬぐい液	9.4	Coxsackievirus B2 Respiratory syncytial virus B
18	4ヶ月	女	不明熱	40℃,	ぬぐい液	9.4	Rhinovirus
19	11	男	咽頭炎		ぬぐい液	9.5	Coxsackievirus A4
20	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎 疑い	39℃,	髄液	9.5	Echovirus 18
21	11	男	流行性胸痛症		ふん便	9.5	Coxsackievirus A4
22	13	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	9.6	Influenza virus A H3 NT
23	9	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	9.8	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>
24	0ヶ月	男	急性上気道炎	37℃, 上気道炎,	ぬぐい液	9.8	Rhinovirus
25	2	男	ヘルパンギーナ	39℃, 腹痛, 肺炎,	ぬぐい液	9.8	Coxsackievirus B2
26	11ヶ月	男	咽頭結膜炎	39℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻腔ぬぐい液	9.8	Respiratory syncytial virus A
27	3	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9.9	Coxsackievirus A16
28	3	男	流行性筋痛症の疑い	39℃,	ふん便	9.9	Coxsackievirus A5
29	1	女	上気道炎	41℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	9.11	Coxsackievirus A4
30	7ヶ月	女	下気道炎	38℃, 下痢, 上気道炎,	ぬぐい液	9.12	Rhinovirus
31	6	男	アレルギー性紫斑病		ぬぐい液	9.12	Echovirus 30
32	2	女	—	40℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液、ふん便	9.13	Parechovirus 1
33	7	女	急性上気炎	38℃,	鼻腔ぬぐい	9.19	Echovirus 30

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年									2014年 総計		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9			
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>										1	1	
	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>				2							2	
	計				2						1	3	
インフルエンザ	Coxsackievirus B2				1							1	
	Human metapneumovirus			2								2	
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17								50	
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2							1	25	
	Influenza virus B NT	2		4			4					10	
	Influenza virus B /Victoria	3		1								4	
	Influenza virus B Yamagata	4	2	4		5						15	
	Parainfluenza virus 3							5				5	
	Rhinovirus				1							1	
	計	30	36	30	7	4		5			1	113	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1					2						2	
	Adenovirus 2/6	1										1	
	Adenovirus 3	4	2									6	
	Adenovirus 5		1									1	
	Coxsackievirus B2								1			1	
	Echovirus 11								1			1	
	Parechovirus 3							1				1	
	Parainfluenza virus 3										1	1	
	Respiratory syncytial virus A										1	1	
		Rhinovirus				3			1	1		1	6
	計	5	3		5			2	3	3		21	
感染性胃腸炎	Adenovirus 1						1	2				2	
	Adenovirus 3								1			1	
	Adenovirus 41		1	1								3	
	Adenovirus 6		1			1	1					3	
	Coxsackievirus A4							2	1	2		5	
	Coxsackievirus A5						1	1				2	
	Coxsackievirus B2					1	1	4				6	
	Echovirus 30								1			1	
	Human herpes virus 6					1						1	
	Human metapneumovirus					1						1	
	Norovirus GI NT	26	9	6	8	6	1	1				57	
	Parechovirus 3							2				2	
	Rhinovirus							1	2	1	1	5	
	Rotavirus group A NT	1										1	
Rotavirus group AG3	2		2	2	1	2					9		
Sapovirus genogroup unknown	12	3	1	1	2						20		
	計	41	14	10	13	12	11	11	3	4		119	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A4						1	5	4			10	
	Coxsackievirus A5						1	5	2	4		12	
	Coxsackievirus B2							1		1	1	3	
	Coxsackievirus B3									1		1	
	Parainfluenza virus 3								1			1	
		Rhinovirus							1	1			2
	計					1	7	9	10	1		28	
手足口病	Coxsackievirus A16								2	1		3	
	Cytomegalo virus							1				1	
	Enterovirus 71								1	4		5	
	Enterovirus NT								1			1	
	Human herpes virus 6							2				2	
	Human herpes virus 7							2				2	
	Parechovirus 1									1		1	
	Parechovirus 3									1		1	
		Rhinovirus							3				3
		計						1	8	4	6		19
流行性耳下腺炎	Rhinovirus							1				1	
	計							1				1	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A8												
	Coxsackievirus B2			1	1			1	2			5	
	Echovirus 18									1		1	
	Echovirus 30	2										2	
	Human herpes virus 7				1							1	
	Parechovirus 3							2				2	
	Rhinovirus							1				1	
	Varicella-zoster virus			1								1	
	計	2	1	1	2			4	2	1		13	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3		1								4	
	計	3		1								4	
流行性角結膜炎	Adenovirus 3	1										1	
	計	1										1	
その他	Adenovirus 2	1		1								2	
	Adenovirus 3				2							2	
	Adenovirus 5									1		1	
	Adenovirus 6			1		1						3	
	Adenovirus NT			1								1	
	B19virus	1										1	
	Coxsackievirus A4								1	4		5	
	Coxsackievirus A5							1	2	1		4	
	Coxsackievirus A9									1		1	
	Coxsackievirus B2			1	1	1		9	3	2		17	
	Coxsackievirus B3				1							1	
	Cytomegalo virus		1	1			3		1			6	
	Echovirus 11							1				1	
	Echovirus 30								1	2		3	
	Enterovirus 71								1			1	
	Epstein-Barr virus			1				1				2	
	Herpes simplex virus 1			1								1	
	Human herpes virus 6	1	2	1	1	3	3	5	1			17	
	Human herpes virus 7	2	1		2	1	2	1	1			10	
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	3						22	
	Influenza virus A H3 NT	1										1	
	Influenza virus B /Yamagata	1										1	
	Norovirus GI NT	1		1								3	
	Parainfluenza virus 1								1			2	
	Parainfluenza virus 2											1	
	Parainfluenza virus 3		1				1					2	
	Parechovirus 1							6	7	3		16	
	Parechovirus 3							3	3	1		7	
	Respiratory syncytial virus A			1							1	2	
	Respiratory syncytial virus B		1	2							1	2	
		Rhinovirus	1	7	2	6	6	8	12	4	3		49
		計	12	18	17	20	16	26	40	20	17		186
	総計		94	72	59	49	33	45	80	42	34		508

高知県感染症情報 2014年10月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		3	1	1	2		1	8	56	
小児科	咽頭結膜熱			1	10	1		5	17	27	20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			5	57	13	12	14	101	60	31
	感染性胃腸炎	17	91	122	22	8	22	282	295	144	
	水痘		16	41	4	11	13	85	54	45	
	手足口病	1	40	77	3			1	122	49	242
	伝染性紅斑		3					1	4	1	8
	突発性発疹	2	18	36	1	9	3	69	61	37	
	百日咳										4
	ヘルパンギーナ	4	10	7	2	4	16	43	117	25	
	流行性耳下腺炎	1	3	40	8	5	27	84	115	121	
	RSウイルス感染症	3	42	115	10	12	34	216	93	115	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			2					2	4	2
STD	性器クラミジア感染症				1				1	3	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										1
	尖圭コンジローマ									2	
	淋菌感染症										1
基幹	細菌性髄膜炎				1				1		
	無菌性髄膜炎				1				1	1	3
	マイコプラズマ肺炎		5	16					21	21	6
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			3					3	3	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									1	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	4	3				4	14	24	27
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症							1	1	1	2
	薬剤耐性緑膿菌感染症										1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症										
計			34	239	533	66	61	142	1,075	988	839
前月			63	168	461	57	51	188			
前年同月			36	119	366	73	57	188			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年10月

全国情報 (9月29日～11月2日)

第40週(9月29日～)から第44週(～11月2日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

10月の上位6疾患の合計は38.69で、9月39.53(5週に補正、以下同じ)よりも僅かに減少し1年で最も感染症の少ない季節となっている。感染性胃腸炎(9月1位15.69)は9月以降の各週の報告数は3前後で推移していたが第43・44週と増加し、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同2位5.33)も第43週から増加し、今後さらに増加する疾患である。後者は過去10年間の10月では最も多い。RSウイルス感染症(同5位4.39)は9月から増加したが横ばい状態である。水痘(同8位2.46)は急増し例年程度の報告数となってきた。手足口病(同4位4.64)は減少したが週毎の減少傾向はみられない。突発性発疹(同6位2.94)は大きな変動なし。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	44週	計
1	感染性胃腸炎		3.13	3.12	2.98	3.62	4.23	17.08
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.26	1.28	1.19	1.66	1.91	7.30
3	RSウイルス感染症		0.92	0.94	0.82	0.86	1.09	4.63
4	水痘		0.59	0.63	0.63	0.76	0.84	3.45
5	手足口病		0.71	0.78	0.59	0.60	0.75	3.43
6	突発性発疹		0.56	0.57	0.53	0.57	0.57	2.80

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の10月の上位6疾患の合計は29.64で、9月31.68(5週に補正、以下同じ)よりも僅かに減少し全国の3/4に留まっている。感染性胃腸炎(9月1位12.29)が少ないことがその主因であり、9月よりも減少し週毎に減少している。RSウイルス感染症(同4位3.88)は急増し全国の約1.5倍である。手足口病(同9位2.03)も第43・44週と急増し全国とは異なる推移を示している。水痘(同8位2.25)の増加は全国に比し少ない。流行性耳下腺炎(同3位4.79)は大きく減少したが、全国11位1.44の約2倍である。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	44週	計
1	感染性胃腸炎		2.20	2.10	1.87	1.73	1.50	9.40
2	RSウイルス感染症		1.17	1.57	1.23	1.90	1.33	7.20
3	手足口病		0.53	0.63	0.57	0.80	1.53	4.06
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.40	0.63	0.60	0.90	0.83	3.36
5	水痘		0.33	0.67	0.63	0.37	0.83	2.83
6	流行性耳下腺炎		0.40	0.90	0.33	0.53	0.63	2.79

2. 全体の傾向

麻しんの報告無し。風しんの報告1例(IgM抗体検査診断例)。疑い例は保健所に連絡して抗原検査を行って下さい。西アフリカでのエボラ出血熱の流行が続き、日本での対応準備が迫られている。

手足口病とRSウイルス感染症が大きく増加し、冬季に増加する疾患であるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎・水痘も増加している。しかし、感染性胃腸炎やインフルエンザの増加傾向はみられていない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 8名(9月56名)。9月は幡多で45名発症したが10月は県内各地域から1～3名の報告であり、年齢別では1～3歳3名、30～49歳3名、70歳以上2名である。ウイルスは検出されていないが、週報の情報ではA型が1件報告されている。

2) 咽頭結膜熱

報告数 17名(9月27名)。7月67名以降減少が続き、3桁の報告は2010年9月155名まで遡る。ウイルスはAdenovirus NTが1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 101名(9月60名)。冬季に増加する疾患で9月から増加に転じている。昨シーズンが少なかったので今シーズンは多くなる可能性がある。

4) 感染性胃腸炎

報告数 282名(9月295名)。増加傾向はみられない。ウイルスはAdenovirus NTが1件検出された。

5) 水痘

報告数 85名(9月54名)。冬季に増加する疾患で増加に転じており、11月も増加すると推測される。

6) 手足口病

報告数 122名(9月49名)。大きく増加した。過去10年間のピークは5月から11月と変動があり、流行の幅も大きい疾患であり、今後の推移

- に注意したい。ウイルスは Coxsackievirus A16 が 2 件検出された。
- 7) 伝染性紅斑
報告数 4 名 (9 月 1 名)。変化なし。
- 8) 突発性発疹
報告数 69 名 (9 月 61 名)。6 か月連続 60 名以上で多い。
- 9) 百日咳
報告数 0 名 (9 月 0 名)。非流行期が続いている。
- 10) ヘルパンギーナ
報告数 43 名 (9 月 117 名)。7 月 320 名以降減少が続いている。過去 10 年間では、今シーズンの報告数は中程度である。ウイルスは Coxsackievirus A2 が 1 件検出された。
- 11) 流行性耳下腺炎
報告数 84 名 (9 月 115 名)。2 桁の報告数は昨年 7 月 60 名以来であり、長く続いた流行が終息に向かっている可能性があり、今後の推移に注目したい。
- 12) RS ウイルス感染症
報告数 216 名 (9 月 93 名)。2013 年 10 月 115 名を大きく上回り、過去 10 年間の 10 月としては最も多い。今後はピーク値と流行継続期間に

- 注意すべきである。
- 13) 流行性角結膜炎
報告数 2 名 (9 月 4 名)。変化なし。
- 14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)
報告数 21 名 (9 月 21 名)。地域別では高知市 16 名、中央東 5 名、年齢別では 1 歳から 59 歳 (20 歳以上 18 名)。20 名以上の比較的多い報告数が継続している。
- 基幹定点の月報疾患
- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 14 名 (9 月 24 名)。20 名未満は 2012 年 1 月以来である。65 歳以上が 12 名 (86%) を占める。
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 1 名 (9 月 1 名)。2011 年に小児に対して肺炎球菌ワクチンが定期接種化され、2012 年 5 月以降の報告数は 0～4 名、さらに 2013 年 7 月以降は 0～2 名と少ない。2012 年以降の動向は全国も同様の傾向である。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年																									総計					
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26															
2	結核																131	149	163	156	192	132	128	121	1,172							
	計																131	149	163	156	192	132	128	121	1,172							
3	コレラ																1											3				
	バラチフス																2											2				
	細菌性赤痢	11	4	2				3	1	2	2											25										
	腸チフス																1											2				
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	4	154														
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	4	186															
4	A 型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											28											
	Q 熱	1	1	2											1	5																
	オウム病																1											2				
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	67														
	マラリア																2											3				
	レジオネラ症			2			1			1											43											
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	126														
	日本脳炎	1	1	1											1	1						6										
	レプトスピラ症																1			4	2	1			8							
	E 型肝炎																1			1						2						
	デング熱																1						3	2	6							
	重症熱性血小板減少症候群																					3	10	13								
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	22	309															
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1			3	2	2	3	30														
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3				54															
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																1											3				
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4			4	3	3				6	1	3			28														
	ジアルジア症			1	2	1											1	1	1			7										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																1											2				
	急性脳炎																1	1	2	5	1	3	1			15						
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																1			1	3						9					
	後天性免疫不全症候群	2			2	2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	4	41														
	侵襲製肺炎球菌感染症																					1	2			3						
	髄膜炎菌性髄膜炎																1											1				
	破傷風			3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1	22														
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	3	110														
	麻しん																					5			5							
	風しん																1	1						4	9	1	16					
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	26	346															
新型	新型インフルエンザ																					34			34							
計																					34			34								
動物	鳥インフルエンザ																					1			1							
計																					1			1								
総計																61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	173	2,048

検査情報

ウイルス, 細菌の分離状況

10月はウイルス56件, 細菌1件の搬入があり, そのうちウイルス21件の病原体を検出し, また, 平成25年7月から9月に搬入された検体でウイルス23件を検出した. 検出ウイルスの内訳は, Adeno virus 31件, Adeno virus 411件, Adeno virus NT 2件, Coxsackie virus A16 5件, Coxsackie virus A2 2件, Coxsackie virus A4 3件, Cytomegalovirus 4件, Echo virus 301件, Epstein-Barr virus 1件, Human herpes virus 6 5件, Human herpes virus 7 3件, Parainfluenza virus 11件, Parainfluenza virus 3 1件, Respiratory syncytial virus 1件, Rhino virus 13件であった.

ウイルス, 細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
1	3	男	不明熱 発疹	40℃, 上気道炎, 発疹, リンパ節浮腫,	ぬぐい液	7.28	Epstein-Barr virus
2	1	男	不明発疹症	下痢, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	8.25	Rhinovirus
3	11ヶ月	女	不明発疹症	40℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	8.27	Human herpes virus 6
4	2	男	肺炎	咳漱, 肺炎,	鼻咽腔	8.29	Rhinovirus
5	1	女	不明発疹症	39℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	9.3	Human herpes virus 7
6	12	女	多形滲出性紅斑	40℃, 下痢, 腹痛,	ぬぐい液	9.4	Human herpes virus 7
7	11	女	無菌性髄膜炎	-	うがい液	9.9	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
8	2	男	川崎病	39℃, 咳漱, 下気道炎, 結膜炎, リンパ節浮腫,	鼻腔	9.10	Cytomegalovirus
9	9	女	咽頭結膜熱	40℃, 結膜炎,	ぬぐい液	9.12	Coxsackievirus A2
10	1	女	不明発疹症	40℃,	ぬぐい液	9.16	Human herpes virus 6
11	16	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	9.16	Coxsackievirus A16
12	9	女	急性肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	鼻咽腔	9.17	Rhinovirus
13	9	女	急性肺炎	39℃, 咳漱, 肺炎,	喀痰	9.18	Rhinovirus
14	1	男	咽頭結膜熱 アデノ迅速+	41℃, 咳漱, 上気道炎, 結膜炎,	ぬぐい液	9.18	Adenovirus 3
15	1	女	クルーズ症候群	39℃, 咳漱, 上気道炎,	鼻腔ぬぐい	9.19	Rhinovirus
16	2	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 腹痛,	ふん便	9.19	Adenovirus 41
17	6ヶ月	男	無菌性髄膜炎	39℃, 中枢神経系障害,	ぬぐい液	9.19	Coxsackievirus A4
18	8	男	気管支炎	咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	9.25	Parainfluenza virus 3
19	1	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9.26	Coxsackievirus A16
20	1	男	急性上気道炎	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	9.27	Rhinovirus
21	1	女	不明発疹症	40℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	9.29	Human herpes virus 6
22	1	男	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	9.30	Coxsackievirus A16
23	1	女	喘息性気管支炎	咳漱,	ぬぐい液	9.30	Rhinovirus
24	1	女	不明発疹症	39℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	10.1	Human herpes virus 6
25	2	女	咽頭結膜炎	40℃, 発疹,	ぬぐい液	10.1	Adenovirus NT
26	2	男	-	39℃, 咳漱, 発疹,	鼻咽腔ぬぐい液	10.2	Cytomegalovirus
27	1ヶ月	女	下気道炎	40℃, 下気道炎,	うがい液	10.2	Parainfluenza virus 1
28	3ヶ月	男	急性上気道炎	上気道炎,	鼻汁	10.2	Rhinovirus
29	8	男	急性気管支炎	38℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎, 気管支炎,	鼻腔ぬぐい液	10.6	Rhinovirus
30	7	男	反復性耳下腺炎	-	ぬぐい液	10.6	Coxsackievirus A4

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
31	1	女	急性肺炎	39℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎, 肺炎,	鼻腔ぬぐい液	10. 7	Respiratory syncytial virus
32	8ヶ月	女	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	10. 8	Coxsackievirus A2
33	5	女	流行性胸痛症疑い	37℃, 咳漱,	ぬぐい液	10. 9	Rhinovirus
34	6	女	不明熱	41℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ぬぐい液	10. 10	Coxsackievirus A4
35	0ヶ月	女	小頭症、TORCH症候群	-	尿	10. 10	Cytomegalovirus
36	1	男	不明発疹症	40℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	10. 10	Cytomegalovirus
37	1	男	手足口病	39℃, 咳漱, 手足口病症状,	ぬぐい液	10. 15	Coxsackievirus A16
38	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10. 15	Rhinovirus
39	8ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	10. 17	Adenovirus NT
40	8ヶ月	女	不明発疹症	41℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	10. 18	Rhinovirus
41	1	男	上気道炎	39℃, 下痢, 咳漱, 上気道炎,	鼻咽腔	10. 20	Rhinovirus
42	5	男	無菌性髄膜炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	10. 22	Echovirus 30
43	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	10. 27	Coxsackievirus A16

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年										2014年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>										1		1
	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>				2								2
	計				2						1		3
インフルエンザ	Coxsackievirus B2				1								1
	Human metapneumovirus			2									2
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17									50
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2							1		25
	Influenza virus B NT	2	4			4							10
	Influenza virus B /Victoria	3	1										4
	Influenza virus B /Yamagata	4	2	4	5								15
	Parainfluenza virus 3							5					5
Rhinovirus				1								1	
	計	30	36	30	7	4		5		1			113
咽頭結膜熱	Adenovirus 1				2								2
	Adenovirus 2/6	1											1
	Adenovirus 3	4	2								1		7
	Adenovirus 5		1										1
	Adenovirus NT											1	1
	Coxsackievirus A2									1			1
	Coxsackievirus B2												1
	Echovirus 11								1				1
	Parechovirus 3							1					1
	Parainfluenza virus 3											1	1
	Respiratory syncytial virus A									1	1		2
Rhinovirus				3					1	1		5	
	計	5	3		5			2	3	5	1	24	
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1	2						2
	Adenovirus 3												1
	Adenovirus 41		1	1				1			1		4
	Adenovirus 6		1				1						2
	Adenovirus NT											1	1
	Coxsackievirus A4							2	1	2			5
	Coxsackievirus A5							1	1				2
	Coxsackievirus B2						1	4					5
	Echovirus 30								1				1
	Human herpes virus 6				1								1
	Human metapneumovirus				1								1
	Norovirus GII NT	26	9	6	8	6	1	1					57
	Parechovirus 3							2					2
	Rhinovirus						1	2	1	1			5
Rotavirus group A NT	1											1	
Rotavirus group AG3	2		2	2	1	2						9	
Sarvovirus genogroup unknown	12	3	1	1	2						1	20	
	計	41	14	10	13	12	11	11	3	5	1	121	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A2							1	5	4			10
	Coxsackievirus A4						1	2	4				7
	Coxsackievirus A5							1	1				2
	Coxsackievirus B2						1		1				2
	Coxsackievirus B3												1
	Parainfluenza virus 3							1					1
	Rhinovirus							1					1
		計					1	7	9	10	1	1	29
手足口病	Coxsackievirus A16								1			2	3
	Cytomegalo virus												1
	Enterovirus 71								1	4			5
	Enterovirus NT								1				1
	Human herpes virus 6								2				2
	Human herpes virus 7								2				2
	Parechovirus 1										1		1
	Parechovirus 3										1		1
	Rhinovirus								3				3
	計						1	8	4	9	2	24	
流行性耳下腺炎	Rhinovirus										1	1	
	計										1	1	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A4										1		1
	Coxsackievirus A8												1
	Coxsackievirus B2				1	1		1	2				5
	Echovirus 18									1			1
	Echovirus 30	2										1	3
	Human herpes virus 6												1
	Human herpes virus 7				1								2
	Parechovirus 3								2				2
	Rhinovirus								1				1
	Varicella-zoster virus		1										1
	計	2	1	1	2			4	2	4	1	17	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3		1									4
	計	3		1									4
流行性角結膜炎	Adenovirus 3	1											1
	計	1											1
その他	Adenovirus 2	1		1									2
	Adenovirus 3				2								2
	Adenovirus 5										1		1
	Adenovirus 6				1		1						3
	Adenovirus NT			1									1
	B19virus	1		1									2
	Coxsackievirus A4								1	4	2		7
	Coxsackievirus A5								1	2	1		4
	Coxsackievirus A9									1			1
	Coxsackievirus B2			1	1	1		9	3	2			17
	Coxsackievirus B3				1								1
	Cytomegalo virus		1	1			3		1	1	3		10
	Echovirus 11								1				1
	Echovirus 30									1	2		3
	Enterovirus 71									1			1
	Epstein-Barr virus				1				2				3
	Herpes simplex virus 1				1								1
	Human herpes virus 6	1	2	1	1	3	3	5	1	3	1		21
	Human herpes virus 7	2	1		2	1	2	1	1	2			12
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	3							22
	Influenza virus A H3 NT	1											1
	Influenza virus B /Yamagata	1											1
	Norovirus GII NT	1	1	1									3
	Parainfluenza virus 1			1						1		1	3
	Parainfluenza virus 2					1							1
	Parainfluenza virus 3							6	7	3		1	17
	Parechovirus 1										1		1
	Parechovirus 3							3	3	1			7
	Respiratory syncytial virus												1
Respiratory syncytial virus A												2	
Respiratory syncytial virus B		1										1	
Rhinovirus	1	7	2	6	6	8	12	5	9	6		62	
	計	12	18	17	20	16	26	41	21	29	15	215	
総計		94	72	59	49	33	45	81	43	55	21	552	

高知県感染症情報 2014年11月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ				6		1	3	10	8	50
小児科	咽頭結膜熱			1	8	2	2		13	17	51
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	10	90	11	15	25		152	101	55
	感染性胃腸炎	16	96	152	28	33	46		371	282	333
	水痘	4	7	60	9	10	15		105	85	84
	手足口病	1	94	109	11	8	1		224	122	146
	伝染性紅斑			2	3	1			6	4	2
	突発性発疹	1	17	23	5	8	3		57	69	51
	百日咳				5				5		2
	ヘルパンギーナ			1	3		1	2	7	43	13
	流行性耳下腺炎	7	3	16	3	2	12		43	84	181
	RSウイルス感染症	1	28	75	10	12	35		161	216	195
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				1				1	2	
STD	性器クラミジア感染症				1				1	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症										1
基幹	細菌性髄膜炎									1	1
	無菌性髄膜炎				3				3	1	3
	マイコプラズマ肺炎			3	15				18	21	23
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				4				4	3	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				1				1		1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	2		6			3	18	14	29
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									1	2
	薬剤耐性緑膿菌感染症										1
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			38	264	581	80	92	145	1,200	1,075	1,226
前月			34	239	533	66	61	142			
前年同月			40	169	678	83	118	138			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年11月

全国情報（11月3日～11月30日）

第45週(11月3日～)から第48週(～11月30日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

11月の上位6疾患の合計は50.13で、10月30.95(4週に補正,以下同じ)の約1.6倍に増加した。感染性胃腸炎(10月1位13.66)は45週以降毎週増加しているが、例年と同程度の推移である。A群溶血性連鎖球菌咽頭炎(同2位5.84)1.5倍、RSウイルス感染症(同3位3.70)約1.6倍、水痘(同4位2.76)約1.5倍、インフルエンザ(同13位0.32)約10.7倍、手足口病(同5位2.74)と6疾患総て増加している。インフルエンザは第48週に流行の指標である1.0を超え、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎とRSウイルス感染症は過去10年間の11月では最も多い。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		4.19	5.78	7.42	7.66	25.05
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.70	2.17	2.49	2.40	8.76
3	RSウイルス感染症		1.06	1.37	1.65	1.74	5.82
4	水痘		0.97	1.01	1.10	1.17	4.25
5	インフルエンザ		0.22	0.37	0.94	1.90	3.43
6	手足口病		0.65	0.71	0.81	0.65	2.82

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の11月の上位6疾患の合計は36.01で、10月23.71(4週に補正,以下同じ)の約1.5倍に増加したが、全国よりもかなり少ない。感染性胃腸炎(10月1位7.52)約1.6倍、手足口病(同3位3.25)約2.3倍、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎(同4位2.69)約1.9倍、水痘(同5位2.26)約1.5倍、マイコプラズマ肺炎(同7位2.10)は増加し、RSウイルス感染症(同2位5.76)は僅かに減少した。感染性胃腸炎、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は全国よりもかなり少なく、手足口病は全国の約2.6倍で、マイコプラズマ肺炎は全国(8位1.53)の約1.5倍である。高知県のインフルエンザは14位0.2で流行期に入っていない。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		2.17	3.07	3.73	3.40	12.37
2	手足口病		1.73	1.53	2.33	1.87	7.46
3	RSウイルス感染症		0.73	1.17	1.43	2.03	5.36
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.93	0.90	1.70	1.53	5.06
5	水痘		0.40	1.07	0.63	1.40	3.50
6	マイコプラズマ肺炎		0.13	0.38	0.75	1.00	2.26

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

インフルエンザ流行の兆候はみられない。冬季に増加する疾患(A群溶血性連鎖球菌感染症、感染性胃腸炎、水痘)は増加した。RSウイルス感染症の流行は続いているが全国に比し少ない。手足口病は今年の最高値となった。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 10名(10月8名)。まだ流行の兆候はみられない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 13名(10月17名)。全国では過去10年間の11月では最も多いが、高知県では徐々に減少している。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 152名(10月101名)。冬に増加する疾患で2カ月連続3桁となり、今年11月12月は昨年の2～3倍の報告数である。血清型はT12とUntypableが各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 371名(10月282名)。増加したがまだ大幅な増加ではない。ウイルスはAdenovirus6が2件、Echovirus11が1件、Sapovirusが1件検出された。

5) 水痘

報告数 105名(10月85名)。冬季に増加する疾患であり、9月の今年の最低値54名以降徐々に増加している。1歳29名、2歳22名、3歳17名の順に多く、今後は水痘ワクチン定期接種化の影響に注目したい。

6) 手足口病

報告数 224名(10月122名)。今年の最高値である。過去10年間をみると、その年のピークは4月から11月と変動し、ピーク値の最高1621名(2010年7月)最低29名(2012年7月)も変動が大きい疾患である。Coxsackievirusa16が9

件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 6名(10月4名)。増加傾向はみられない。

8) 突発性発疹

報告数 57名(10月69名)。年間を通して大きな変動はないが、冬には減少傾向がみられる疾患である。

9) 百日咳

報告数 5名(10月0名)。2~4歳4名、20歳以上1名、すべて高知市である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 7名(10月43名)。大きく減少し終息した。ウイルスはEnterovirus71が1件検出された。今年検出されたウイルスはCoxsackievirusA5が12件、A4が10で、この2種が主な原因ウイルスであった。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 43名(10月84名)。昨年8月から今年9月まで3桁の報告があり流行が続いていたが、終息に向かっている。

12) RSウイルス感染症

報告数 161名(10月216名)。全国は過去10年間で最も多いが、高知県では僅かに減少し

た。RSvirusAが1件検出されており、迅速検査陰性でもPCRで検出されることがある。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(10月2名)。2009年から2桁の報告が稀となり、2013年から0名の月もみられ、徐々に減少している。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 18名(10月21名)。全国では2011年後半から2012年に大流行した後、2014年は少ない状態が続いているが、高知県では減少幅が小さく比較的多い報告が続いている。10歳から54歳が16名である。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 18名(10月14名)。2カ月連続20名未満で、35歳から69歳が10名、70歳以上が7名である。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(10月1名)。今年11月までの報告数は4名のみである。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年															総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		26
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	127	1,176
	計									131	149	163	156	192	132	128	127	1,176
3	コレラ	1					1					1						3
	パラチフス	2																2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2		2								25
	腸チフス		1						1									2
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	155
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	187	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						28
	Q熱	1	1	2				1										5
	オウム病			1		1												2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	2	69
	マラリア								2					1				3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	44
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	126
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1					6
	レプトスピラ症											1			4	2	1	8
	E型肝炎												1		1			2
	デング熱												1				3	2
	重症熱性血小板減少症候群																3	10
計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	25	312	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			7	31
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1	54
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症																	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2	28
	ジアルジア症			1	1						1			1	1			2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症										1							7
	急性脳炎			1					1	1	2	5	1	3	1		1	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1	1	1	1	3			1	10
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	44
	侵襲製肺炎球菌感染症																1	2
	侵襲製インフルエンザ菌感染症																	3
	髄膜炎菌性髄膜炎										1							1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		3	22
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	3	110
	麻しん										5							5
風しん										1	1			4	9	1	16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	32	352	
新型	新型インフルエンザ																	34
	計																	34
動物	鳥インフルエンザ													1				1
	計													1				1
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	187	2,062

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

11月はウイルス46件、細菌8件の搬入があり、そのうちウイルス32件、細菌3件の病原体を検出し、また、平成26年10月に搬入された検体でウイルス2件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Adeno virus 2 1件、Adeno virus 6 2件、Coxsackie virus A16 9件、Cytomegalo virus 1件、Echo virus 11 1件、Enterovirus 71 1件、Parecho virus 1 1件、Respiratory syncytial virus A 2件、Rhino virus 4件、Sapovirus genogroup unknown 1件、また、細菌の内訳は、*Streptococcus pyogenes T12* 1件、*Streptococcus pyogenes Untypable* 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	11ヶ月	男	下気道炎	39℃, 下気道炎,	ぬぐい液	10.20	Cytomegalovirus
2	1	男	急性気管支炎	40℃, 咳漱, 気管支炎,	ぬぐい液	10.27	Respiratory syncytial virus A
3	2	男	急性細気管支炎	39℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎, 気管支炎,	鼻腔ぬぐい	10.28	Respiratory syncytial virus A
4	3	男	手足口病	手足口病症状,	うがい液	10.29	Rhinovirus
5	1	男	急性発疹症	発疹,	ぬぐい液	11.1	Parechovirus 1 Rhinovirus
6	6ヶ月	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.6	Coxsackievirus A16
7	1	男	ヘルパンギーナ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	11.6	Enterovirus 71
8	0ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃,	ふん便	11.6	Echovirus 11
9	2	女	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.6	Adenovirus 2 Coxsackievirus A16
10	4	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	11.7	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>
11	3	男	手足口病	37℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.8	Coxsackievirus A16
12	13	男	手足口病	37℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.10	Coxsackievirus A16
13	9	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	11.11	<i>Streptococcus pyogenes T12</i>
14	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	11.11	Coxsackievirus A16
15	1	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.17	Coxsackievirus A16
16	5ヶ月	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	11.17	Rhinovirus
17	2	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	11.18	Adenovirus 1 Rhinovirus
18	1	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.19	Coxsackievirus A16
19	11ヶ月	女	感染性胃腸炎、急性上気道炎	上気道炎,	ふん便、ぬぐい液	11.20	Adenovirus 6
20	11ヶ月	女	感染性胃腸炎、急性上気道炎	39℃, 上気道炎,	ふん便、ぬぐい液	11.20	Adenovirus 6 Sapovirus genogroup unknown
21	1	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	11.21	Coxsackievirus A16
22	1	男	手足口病	38℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.21	Coxsackievirus A16

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2014年											2014年 総計			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes T12</i>											1			1	1
	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>											1			1	1
	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>					2									2	3
	計					2							1		2	5
インフルエンザ	Coxsackievirus B2					1										1
	Human metapneumovirus				2											2
	Influenza virus A H1pdm 09	9	24	17												50
	Influenza virus A H3 NT	12	10	2							1					25
	Influenza virus B NT	2		4			4									10
	Influenza virus B /Victoria	3		1												4
	Influenza virus B Yamagata	4	2	4		5										15
	Parainfluenza virus 3					1										5
	Rhinovirus								5							5
計	30	36	30		7		4			5		1			113	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1					2										2
	Adenovirus 2/6	1														1
	Adenovirus 3	4		2							1					7
	Adenovirus 5			1												1
	Adenovirus NT													1		1
	Coxsackievirus A2											1				1
	Coxsackievirus B2											1				1
	Echovirus 11													1		1
	Parechovirus 3														1	1
	Parainfluenza virus 3													1		1
	Respiratory syncytial virus A													1		1
	Rhinovirus					3							1	1	1	6
	計	5	3			5							2	3	5	24
感染性胃腸炎	Adenovirus 1						1		2							2
	Adenovirus 3															1
	Adenovirus 41		1	1				1			1					4
	Adenovirus 6		1				1	1							2	5
	Adenovirus NT															1
	Coxsackievirus A4									2		1			2	5
	Coxsackievirus A5							1	1							2
	Coxsackievirus B2						1	1	4							6
	Echovirus 11														1	1
	Echovirus 30													1		1
	Human herpes virus 6					1					1					1
	Human metapneumovirus					1										1
	Norovirus GII NT	26	9	6		8		6	1	1						57
	Parechovirus 3								2							2
	Rhinovirus								1	2			1	1		5
	Rotavirus group A NT	1														1
	Rotavirus group AG3	2			2		1	2								9
	Sapovirus genogroup unknown	12	3		1	1									1	21
計	41	14	10	13	12	11	11	11	3	5	1	4	1	4	125	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A2													1	1	
	Coxsackievirus A4							1	5	4					10	
	Coxsackievirus A5						1	5	2	4					12	
	Coxsackievirus B2							1		1					3	
	Coxsackievirus B3									1					1	
	Enterovirus 71													1	1	
	Parainfluenza virus 3														1	
	Rhinovirus								1						1	
	計						1	7	9	10	1	1	1	1	30	
手足口病	Adenovirus 2														1	
	Coxsackievirus A16									2		4	2	9	17	
	Cytomegalo virus						1								1	
	Enterovirus 71									1		4			5	
	Enterovirus NT								1						1	
	Human herpes virus 6														2	
	Human herpes virus 7									2						2
	Parechovirus 1												1		1	
	Parechovirus 3														1	
	Rhinovirus									3				1	4	
	計							1	8	4	9	2	11	1	35	
流行性耳下腺炎	Rhinovirus														1	
	計														1	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus A4													1	1	
	Coxsackievirus B2				1	1			1	2			1		5	
	Echovirus 18										1				1	
	Echovirus 30	2									1				3	
	Human herpes virus 6											1			1	
	Human herpes virus 7					1							1		2	
	Parechovirus 3								2						2	
	Rhinovirus											1			1	
Varicella-zoster virus			1											1		
計	2	1	1	2				4	2	4	1			17		
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		3		1										4	
	計		3		1										4	
流行性角結膜炎	Adenovirus 3		1												1	
	計		1												1	
その他	Adenovirus 1	1												1	1	
	Adenovirus 2				1										2	
	Adenovirus 3					2									2	
	Adenovirus 5										1				1	
	Adenovirus 6														3	
	Adenovirus NT				1		1								1	
	B19virus	1													1	
	Coxsackievirus A4									1	4		2		7	
	Coxsackievirus A5								1	2	1				4	
	Coxsackievirus A9														1	
	Coxsackievirus B2				1	1	1		9	3	2				17	
	Coxsackievirus B3					1									1	
	Cytomegalo virus		1	1				3		1	1		4		11	
	Echovirus 11									1					1	
	Echovirus 30										1	2			3	
	Enterovirus 71										1				1	
	Epstein-Barr virus								2						3	
	Herpes simplex virus 1														1	
	Human herpes virus 6	1	2	1	1	3	3	5	1	3	1				21	
	Human herpes virus 7	2	1		2	1	2	1	1	2					12	
	Human metapneumovirus	3	3	6	7	3									22	
	Influenza virus A H3 NT	1													1	
	Influenza virus B /Yamagata	1													1	
	Norovirus GII NT	1		1											3	
	Parainfluenza virus 1			1									1		3	
	Parainfluenza virus 2						1								1	
	Parainfluenza virus 3							6	7	3			1		17	
	Parechovirus 1										1			1	2	
	Parechovirus 3								3	3	1				7	
	Respiratory syncytial virus												1		1	
	Respiratory syncytial virus A		1										1	1	4	
Respiratory syncytial virus B		1										1		2		
Rhinovirus	1	7	2	6	6	8	12	5	9	6	3			65		
計	12	18	17	20	16	26	41	21	29	17	6	3	223	223		
総計	94	72	59	49	33	45	81	43	55	23	24	578	578			

高知県感染症情報 2014年12月

(64 定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		38	91	280	168	29	53	659	10	639
小児科	咽頭結膜熱			2	7		1	1	11	13	64
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		7	11	101	20	10	39	188	152	49
	感染性胃腸炎		27	269	254	77	44	45	716	371	1,121
	水痘		11	31	59	10	4	9	124	105	146
	手足口病		11	96	213	7	24	17	368	224	26
	伝染性紅斑				1			1	2	6	1
	突発性発疹		2	6	33	5	4	1	51	57	41
	百日咳				1		1		2	5	1
	ヘルパンギーナ			1	2	3			6	7	4
	流行性耳下腺炎		41	2	18	1	2	9	73	43	201
	RSウイルス感染症		6	46	117	32	5	27	233	161	330
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎									1	4
STD	性器クラミジア感染症			1	3			2	6	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症				1				1		
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症							2	2		1
基幹	細菌性髄膜炎										3
	無菌性髄膜炎									3	2
	マイコプラズマ肺炎			2	14				16	18	18
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2	4	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1	3				4	1	4
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		9	3	8			4	24	18	31
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
計			152	562	1,117	323	124	210	2,488	1,200	2,687
前月			38	264	581	80	92	145			
前年同月			75	322	1,549	248	279	214			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2014年12月

全国情報 (12月1日～12月28日)

第49週(12月1日～)から第52週(～12月28日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

12月の上位6疾患の合計は122.59で、11月50.13の約2.5倍に急増した。インフルエンザ(11月5位3.43)は第48週に1.90と流行の指標である1を超えた後、毎週ほぼ倍々に増加している。昨シーズンよりも3週間早い流行期入りで過去10年間では2009年を除き最も多い。感染性胃腸炎(同1位25.05)も増加しているが、過去10年間では最も少ない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同2位8.76)とRSウイルス感染症(同3位5.82)は増加し、過去10年間では最も多い。水痘(同4位4.25)は増加したが過去10年間では最も少ない。逆に手足口病(同2.82)はこの季節としては過去10年間では2004年と同程度に多い。今月は疾患による流行の大小が顕著である。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	計
1	インフルエンザ		3.49	7.38	15.17	26.63	52.67
2	感染性胃腸炎		9.63	10.80	11.49	10.26	42.18
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.83	2.99	2.89	2.31	11.02
4	RSウイルス感染症		2.18	2.59	2.38	1.95	9.10
5	水痘		1.22	1.25	1.26	1.09	4.82
6	手足口病		0.74	0.78	0.70	0.58	2.80

県内情報

1. 全国との対比(定点当たり報告数)

高知県の12月の上位6疾患の合計は68.05で、11月36.01の約2倍に増加したが全国の約1/2と少ない。感染性胃腸炎(11月1位12.37)は週毎に増加しているが全国の1/2以下と少ない。インフルエンザ(同14位0.20)は、全国よりも3週遅れ第51週に報告数が1を超えたが全国の約1/3に留まり、今後さらに増加すると推測される。手足口病(同2位7.46)はさらに増加し、全国では愛媛・沖縄に次ぐ第3位である。RSウイルス感染症(同3位5.36)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(同4位5.06)、水痘(同5位3.50)は増加したが全国よりも少ない。インフルエンザ以外の5疾患の順番は全国・高知共に11月と同じである。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	計
1	感染性胃腸炎		3.57	4.47	6.57	9.27	23.88
2	インフルエンザ		0.25	0.50	3.58	9.40	13.73
3	手足口病		2.77	3.80	3.13	2.57	12.27
4	RSウイルス感染症		2.00	2.07	2.07	1.63	7.77
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.57	1.73	1.63	1.33	6.26
6	水痘		0.70	0.87	1.60	0.97	4.14

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

インフルエンザの流行が始まり、今シーズンの流行ウイルスは現時点ではAH3である。さらに感染性胃腸炎も増加し感染症が急増する季節になってきた。RSウイルス感染症の流行は継続し、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は昨シーズンよりも多いと推測される。手足口病は冬季としては異例の流行がみられている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 659名(11月10名)。過去10年では2009年を除くと12月の最高値である。年齢別では10～14歳141名、5～9歳114名、30～39歳81名、1～4歳80名の順で、地域別定点あたりの報告数は中央西33.60、高知市17.49、安芸9.50、中央東8.27、須崎7.25、幡多6.63の順である。ウイルスはAH3が2件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 11名(11月13名)。全国では過去10年間で昨年仅次于、2010年と同程度に報告数が多いが、高知県では少ない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 188名(11月152名)。3か月連続3桁。非常に少なかった昨シーズンと比べると、今シーズンの増加が推測される。血清型はT2とTB3264が各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 716名(11月371名)。12月は4桁に増加することが多いが、軽度の増加に留まっている。ウイルスはNorovirus GII 2件、Sapovirus1件の他、Adenovirus, Coxsackievirus, Echovirus, Enterovirusなどが12件検出された。

5) 水痘

報告数 124名(11月105名)。10月以降徐々に増加し、例年と同程度で推移している。

6) 手足口病

報告数 368名(11月224名)。2014年およ

び過去10年間の12月の最高値である。ウイルスはCoxsackievirusA16が9件検出され、現在の原因ウイルスである。

7) 伝染性紅斑

報告数 2名(11月6名)。依然として少ないが、全国では増加傾向がみられており、今後の推移に注意すべきである。

8) 突発性発疹

報告数 51名(11月57名)。出生数が減少し、長期的には全国および高知県の報告数は徐々に減少している。

9) 百日咳

報告数 2名(11月5名)。2012年の流行以降、報告数は少なく、今年は0～5名/月である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 6名(11月7名)。夏頃に増加するまで1桁が続く。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 73名(11月43名)。昨年8月から約1年間続いた流行が終息に向かっていているが、急激には減少していない。定点あたり報告数は、全国12位1.06に比し高知県7位2.43とまだ多い。

12) RSウイルス感染症

報告数 233名(11月161名)。今シーズンは9月から増加した。減少に転ずるのは2～4月である。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(11月1名)。高知県の報告数は非常に少なく、全国も年ごとに減少傾向にあるが11月12月共には8位と比較的多い。

14) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 16名(11月18名)。20歳～44歳13名、70歳以上3名。定点あたり報告数は、全国11位1.34に比し高知県8位2.01と多い。

基幹定点の月報疾患

15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 24名(11月18名)。15歳から69歳が11名、70歳以上13名で高齢者に多い。

16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(11月0名)。2014年は0名9か月、1名2か月、2名1か月であり、2012年5月から激減している。

高知県感染症発生動向調査部会
会長 吉川 清志

高知県における月別全数報告疾患

類型	病名	報告年												総計							
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	25	26			
2	結核													1,185							
	計													1,185							
3	コレラ	1												3							
	バラチフス	2												2							
	細菌性赤痢	11	4	2			3	1	2	2							25				
	腸チフス		1												2						
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	155			
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	187			
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1							28				
	Q熱	1	1	2												5					
	オウム病		1												2						
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3	70			
	マラリア													3							
	レジオネラ症		2			1			1					9	7	3	6	9	2	4	44
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	126			
	日本脳炎	1	1	1												6					
	レプトスピラ症													8							
	E型肝炎													2							
	デング熱													6							
	重症熱性血小板減少症候群													14							
		計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	314		
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1							7				
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3			3	7	54			
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症												7								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4			4	3	3					6	1	3	2	28			
	ジアルジア症		1	2	1												7				
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													2							
	急性脳炎													15							
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1												10				
	後天性免疫不全症候群	2			2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	44				
	侵襲型インフルエンザ菌感染症												1								
	侵襲型肺炎球菌感染症												5								
	髄膜炎菌性髄膜炎												1								
	破傷風		3	2	2	1			1	1	2	3	1	1	1	1	4	23			
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	111			
	麻しん												5								
風しん												16									
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	360			
新型	新型インフルエンザ													34							
	計													34							
動物	鳥インフルエンザ													1							
	計													1							
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	206	2,081			

検査情報

1. ウイルス、細菌の分離状況

12月はウイルス74件、細菌8件の搬入があり、そのうちウイルス32件、細菌3件の病原体を検出し、また、平成25年10月から11月に搬入された検体でウイルス16件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adeno virus 1 1件、Adeno virus 6 1件、Adeno virus 41 2件、Coxsackie virus A16 9件、Coxsackie virus B1 1件、Cytomegalovirus 3件、Echovirus 11 1件、Enterovirus NT 2件、Epstein-Barr virus 2件、Herpes simplex virus 1 1件、Human herpes virus 6 4件、Human herpes virus 7 1件、Influenza virus AH3 NT 2件、Noro virus G II NT 2件、Parechovirus 1 3件、Respiratory syncytial virus A 1件、Rhino virus 11件、Sapo virus genogroup unknown 1件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 1件、*Streptococcus pyogenes T21* 1件、*Streptococcus pyogenes TB3264* 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	2	男	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	10.22	Rhinovirus
2	10	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	10.27	Rhinovirus
3	2	男	不明発疹症	41℃, 発疹,	ぬぐい液	10.27	Human herpes virus 6
4	9	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10.27	Human herpes virus 7
5	10ヶ月	男	咽頭結膜炎, 突発性発疹症	40℃, 気管支炎, 発疹,	ぬぐい液	10.28	Respiratory syncytial virus A
6	1	男	手足口病	39℃, 上気道炎, 中枢神経系障害,	鼻咽腔ぬぐい液	11.2	Cytomegalovirus
7	14	女	伝染性単核球症	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	11.4	Epstein-Barr virus
8	1	男	ウイルス性肝障害	肝機能,	ぬぐい液	11.7	Rhinovirus
9	1	男	感染性胃腸炎	40℃, 嘔吐, 嘔気, 口内炎,	ふん便	11.8	Herpes simplex virus 1
10	1	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	11.11	Human herpes virus 6
11	1	女	急性細気管支炎 急性中耳炎	39℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎,	鼻腔ぬぐい	11.11	Human herpes virus 6
12	10ヶ月	男	不明熱	40℃,	ぬぐい液	11.13	Epstein-Barr virus
13	6ヶ月	女	下気道炎	咳漱, 下気道炎,	鼻咽腔	11.18	Rhinovirus
14	1	男	急性肺炎	37℃, 咳漱, 上気道炎, 下気道炎,	鼻腔ぬぐい液	11.18	Rhinovirus
15	8ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎,	ふん便	11.19	Parechovirus 1
16	1	男	不明発疹症	36℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	11.19	Cytomegalovirus
17	1	女	下気道炎	咳漱, 下気道炎,	鼻咽腔	11.25	Parechovirus 1 Rhinovirus
18	3	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	11.25	Coxsackievirus A16
19	4	男	肺炎	40℃, 咳漱, 肺炎,	鼻汁ぬぐい	11.26	Enterovirus NT
20	1	男	肺炎	38℃, 咳漱, 肺炎,	鼻咽腔	11.26	Rhinovirus
21	3	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	11.26	Rhinovirus
22	5	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	11.26	Adenovirus 41
23	2	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	11.26	Adenovirus 41
24	1	女	手足口病	39℃, 手足口病症状,	ぬぐい液	11.26	Coxsackievirus A16
25	10	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	11.26	Coxsackievirus A16
26	9	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,	ぬぐい液	11.27	<i>Streptococcus pyogenes T12</i>
27	1	女	急性咽頭炎	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	11.28	Adenovirus 6
28	1	男	咽頭結膜熱	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎, 発疹, 結膜炎,	ぬぐい液	11.29	Rhinovirus
29	1	男	感染性胃腸炎	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 上気道炎, 発疹, 結膜炎,	ふん便	11.29	Enterovirus NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
30	13	女	不明発疹症	39°C, 発疹,	ぬぐい液	11. 29	Rhinovirus
31	4	男	感染性胃腸炎		ふん便	12. 1	Coxsackievirus B1
32	1	女	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	12. 1	Adenovirus 1 Coxsackievirus A16
33	5	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	12. 1	<i>Bordetella pertussis</i>
34	8ヶ月	女	不明発疹症	39°C, 発疹,	ぬぐい液	12. 3	Human herpes virus 6
35	1	男	急性脳炎/脳症	40°C, 咳漱, 中枢神経系障害,	ふん便	12. 4	Rhinovirus
36	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐,	ふん便	12. 5	Echovirus 11 Sapovirus genogroup unknown
37	52	男	インフルエンザ	38°C,	鼻腔	12. 7	Influenza virus A H3 NT
38	10ヶ月	男	感染性胃腸炎	41°C, 咳漱, 中枢神経系障害,	ふん便	12. 7	Parechovirus 1
39	9	男	手足口病	37°C, 手足口病症状,	ぬぐい液	12. 8	Coxsackievirus A16
40	1	男	手足口病	38°C, 手足口病症状,	ぬぐい液	12. 8	Coxsackievirus A16
41	2	女	手足口病	38°C, 手足口病症状,	ぬぐい液	12. 9	Coxsackievirus A16
42	5ヶ月	男	上気道炎	咳漱, 上気道炎,	鼻咽腔液	12. 9	Cytomegalovirus
43	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	12. 9	Coxsackievirus A16
44	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	12. 10	Norovirus GII NT
45	7ヶ月	女	手足口病	咳漱, 手足口病症状,	ぬぐい液	12. 10	Coxsackievirus A16
46	9	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	上気道炎,	ぬぐい液	12. 11	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>
47	13	男	インフルエンザ	39°C, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	12. 13	Influenza virus A H3 NT
48	9ヶ月	男	感染性胃腸炎	38°C, 嘔吐, 嘔気, 咳漱,	ふん便	12. 15	Norovirus GII NT

V 参 考

高知県の伝染病

高知県法定・指定伝染病患者(疑似を含む)疾病別年次別発生数

年	コレラ		赤痢(疫痢)		腸管性出血性大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		ジフテリア		流行性脳脊髄膜炎		日本脳炎		急性灰白髄炎		計		
	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	
昭和	30			647	31			40	1	1		118	2	11	3	72	26			889	63
	31			1,440	26			25	1	1		158	2	3		114	39			1,741	68
	32			1,704	23			37	1	2		260		6		59	27			2,068	51
	33			1,377	23			41		4		268	2	8	1	89	22			1,787	48
	34			2,107	24			17				595	17	7		47	18	9	3	2,782	62
	35			1,857	14			15		1		416	1	6	1	57	25	37	2	2,389	43
	36			1,640	14			14	1	1		267	4	2		77	35	29		2,030	54
	37			2,180	3			8				268	1	2		71	27	4	1	2,533	32
	38			724	10			7		3		296		3	1	18	9	1	1	1,052	21
	39			778	1			6				136		1		52	22	3		976	23
	40			1,151	4			1				71		3		28	9			1,254	13
	41			1,085	2			1		2		48		1		57	30	1		1,195	32
	42			1,119	2			1	1			57				41	18	1	1	1,219	22
	43			227				3				14				29	12	1	1	274	13
	44			338	3			2				7				13	8			360	11
	45			269				2				6				7	5			284	5
	46			38				7				1				9	4			55	4
	47			23				8				1				3	3			35	3
	48			16				1				6				5	1			28	1
	49			10				1				2		1						14	
	50			379								1				3	2			383	2
	51			25				2				1				4	3			32	3
	52			19				2		2		1				2	2			26	2
	53			21				2		1						2	1			26	1
	54			14				1				1				4	2			20	2
	55			14				3						2		3				22	
	56			1												1				2	
	57			3												4	1			7	1
	58			24				2												26	
	59			5						5		1								11	
	60	2		7						1						1				11	
61			5								2				5				12		
62			5				2												7		
63			1																1		
平成	元		1																1		
	2			4											8	5			12	5	
	3			2															2		
	4			2						1									3		
	5																		0		
	6	1		5	1														6	1	
	7			2						1									3		
	8			3			13								1				17		
9			11			5						1		2				19			
10	1		3			19		1	1					1				26			
11	1		1											1				3			

1. とうそう、発しんチフス、ペストについては、28年以降発生なし。
2. 腸管性出血性大腸菌感染症については、平成8年8月6日指定伝染病に指定された。
3. 平成11年は、3月31日まで、4月以降は感染症法により別掲。

高知県日本脳炎患者発生状況

年	患者発生数（人）		性別・年齢	診定月日	予 後	日脳汚染決定月日	
昭和	56	1	男 1	男 47歳	8月28日	転症	9月16日
	57	4	男 2 女 2 (1)	男 41歳	8月07日	治癒（真性）	7月21日
				男 81歳	8月14日	治癒（真性）	
				女 85歳	8月21日	死亡	
				女 6歳	8月31日	治癒（真性）	
	58						8月23日
	59						指定ならず
	60	1	男 1	男 81歳	8月24日	転症	8月07日
	61	5	男 2 女 3	男 42歳	8月06日	治癒（真性）	8月28日
				女 78歳	8月27日	治癒（疑似）	
女 76歳				8月29日	治癒（真性）		
女 68歳				9月03日	治癒（真性）		
男 54歳				9月13日	治癒（疑似）		
62						8月19日	
63						8月29日	
平成	元						8月17日
	2	8	男 6 (5) 女 2	男 49歳	8月14日	死亡（真性）	8月01日
				男 41歳	8月22日	死亡（真性）	
				男 31歳	8月29日	死亡（疑似）	
				女 45歳	9月03日	転症	
				男 90歳	9月08日	死亡（真性）	
				男 27歳	9月18日	転症	
				男 65歳	9月26日	死亡（真性）	
				女 68歳	10月13日	転症	
	3						8月02日
	4						8月27日
	5						8月28日
	6						8月03日
	7						8月16日
	8	1	男 1	男 73歳	8月23日	治癒（真性）	8月09日
	9	2	男 1	男 60歳	8月20日	治癒（真性）	8月01日
			女 1	女 59歳	9月30日	治癒（真性）	
	10	1	女 1	女 86歳	8月04日	治癒（疑似）	7月17日
	11	1	男 1	男 56歳	8月20日	治癒（真性）	7月16日
	12	1	女 1	女 71歳	9月12日	治癒（真性）	7月19日
	13	1	女 1	女 11歳	10月30日	治癒（真性）	8月24日
	14						7月23日
	15						7月04日
	16						7月12日
	17						6月30日
	18	1	男 1	男 46歳	9月01日	治癒（真性）	8月03日
19						8月03日	
20						7月23日	
21	1	女 1	女 1歳	10月23日	治癒（真性）	7月17日	
22	1	男 1	男 70歳	11月22日	治癒（真性）	9月03日	
23						9月16日	
24						8月01日	
25						7月16日	
26						7月30日	

注：平成14年から日脳汚染決定年月日を日本脳炎ウイルス感染の注意報発令に変更（ ）内死亡数

VI そ の 他

高知県感染症発生動向調査事業実施要綱

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和54年6月から県単独で、昭和56年7月からは全国レベルで開始され、さらに昭和62年1月からコンピュータを用いたオンラインシステムにおいて27疾患を対象にする等、充実・拡大されて運用されてきたところである。平成10年9月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第114号、以下「法」という。）が成立し、平成11年4月から施行されたことに伴い、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の県民や医療関係者への的確な提供・公開について、同法第三章（第12条～第16条）による施策として感染症発生動向調査を位置づけ、医師等の医療関係者の協力のもと、的確な体制を構築していくこととする。

第2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

- (1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

- (8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る.）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る.）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

- (15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

- (20) E型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む.）、(22) A型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFVウイルスであるものに限る.）、(34) 腎症候性出血熱、(35) 西部ウマ脳炎、(36) ダニ媒介脳炎、(37) 炭疽、(38) チクングニア熱、(39) つつが虫病、(40) デング熱、(41) 東部ウマ脳炎、(42) 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く.）、(43) ニパウイルス感染症、(44) 日本紅斑熱、(45) 日本脳炎、(46) ハンタウイルス肺症候群、(47) Bウイルス病、(48) 鼻疽、(49) ブルセラ症、(50) ベネズエラウマ脳炎、(51) ヘンドラウイルス感染症、(52) 発しんチフス、(53) ボツリヌス症、(54) マラリア、(55) 野兎病、(56) ライム病、(57) リッサウイルス感染症、(58) リフトバレー熱、(59) 類鼻疽、(60) レジオネラ症、(61) レプトスピラ症、(62) ロッキー山紅斑熱

五類感染症

(63) アメーバ赤痢, (64) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く.), (65) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症, (66) 急性脳炎 (ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く.), (67) クリプトスポリジウム症, (68) クロイツフェルト・ヤコブ病, (69) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症, (70) 後天性免疫不全症候群, (71) ジアルジア症, (72) 侵襲性インフルエンザ菌感染症, (73) 侵襲性髄膜炎菌感染症, (74) 侵襲性肺炎球菌感染症, (75) 水痘 (患者が入院を要すると認められるものに限る.) (76) 先天性風しん症候群, (77) 梅毒, (78) 播種性クリプトコックス症, (79) 破傷風, (80) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症, (81) バンコマイシン耐性腸球菌感染症, (82) 風しん, (83) 麻しん, (84) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(110) 新型インフルエンザ, (111) 再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症 (定点)

(85) R S ウイルス感染症, (86) 咽頭結膜熱, (87) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎, (88) 感染性胃腸炎, (89) 水痘, (90) 手足口病, (91) 伝染性紅斑, (92) 突発性発しん, (93) 百日咳, (94) ヘルパンギーナ, (95) 流行性耳下腺炎, (96) インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く.), (97) 急性出血性結膜炎, (98) 流行性角結膜炎, (99) 性器クラミジア感染症, (100) 性器ヘルペスウイルス感染症, (101) 尖圭コンジローマ, (102) 淋菌感染症, (103) クラミジア肺炎 (オウム病を除く.), (104) 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌, 髄膜炎菌, 肺炎球菌を原因として同定された場合を除く.), (105) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症, (106) マイコプラズマ肺炎, (107) 無菌性髄膜炎, (108) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症, (109) 薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省で定める疑似症

(112) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く.) 若しくは (113) 発熱及び発しん又は水疱 (ただし, 当該疑似症が二類感染症, 三類感染症, 四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く.)

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13) 鳥インフルエンザ (H5N1)

第3 実施主体

実施主体は, 高知県及び高知市とする.

1 高知県感染症情報センター及び基幹高知県感染症情報センター

高知県感染症情報センター (以下「感染症情報センター」という.) を衛生研究所内に設置し, 高知県における基幹高知県感染症情報センターとしての役割を併せ持ち, 高知市を含む高知県域における患者情報, 疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し, 高知県健康政策部健康対策課に報告すると

ともに、全国情報と併せて、これらを速やかに県民及び保健所（高知市含む。以下同じ。）及び医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関（別紙）

定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

3 感染症発生動向調査部会

県内における情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、高知県医師会、高知大学医学部附属病院等感染症に関する専門の学識経験者の代表等からなる高知県感染症対策協議会の中に感染症発生動向調査部会を置く。部会の事務局は、高知県健康政策部健康対策課で行う。

第4 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を届出基準等通知に基づき診断した医師は、別に定める基準（平成18年3月8日付け健感発第0308001号感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出基準等について（以下、「医師の届出基準等通知」という。））に基づく様式のうち該当する感染症の様式（別記様式1-1～4-43、新型インフルエンザ等感染症については別に定める）により、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体及び病原体情報の提供の依頼を受けた場合は、協力可能な範囲において、検体（別記様式1を添付）及び病原体情報について、保健所の協力を得て衛生研究所に提供する。

イ 保健所

① 医師より当該届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。また、保健所は、当該患者（第2の(54)を除く。）を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体及び病原体情報の衛生研究所への提供について依頼する。

② 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報について、地域の特性に応じた適切な方法を用い、週報（月単位の場合は月報）等として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

ウ 衛生研究所

① 衛生研究所は、検体及び病原体情報が提供された場合は、当該検体を検査し、別記様式1に検査結果を記入のうえ保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、高知県健康政策部健康対策課及び感染症情報センターに送付する。

② 検査のうち、衛生研究所において実施困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

③ 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断された場合、県域を越えた集団感染が発生する等の

緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、高知県域で得られた患者情報及び検査情報について、直ちに中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター内に設置、以下同じ。）に報告する。
- ② 感染症情報センターは、高知県域において得られた全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて県民及び保健所、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）の患者を医師の届出基準等通知に基づき診断した医師は、医師の届出基準等通知に基づく様式のうち該当する感染症の様式（別記様式 5-1 から別記様式 5-14-3）により、診断後 7 日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また保健所から当該患者の病原体検査のための検体及び病原体情報の提供の依頼を受けた場合は、協力可能な範囲において、検体（別記様式 1 を添付）及び病原体情報について、保健所の協力を得て衛生研究所に提供する。

イ 保健所

- ① 当該届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。また保健所は、第 2 の (63), (65), (66), (68) から (70) まで, (73), (76) 又は (78) から (84) までの患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体及び病原体情報の衛生研究所への提供について依頼する。
- ② 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報について、地域の特性など必要に応じて週報（月単位の場合は月報）等として、地域住民及び市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

ウ 衛生研究所

- ① 衛生研究所は、検体及び病原体情報が提供された場合は、当該検体を検査し、別紙様式 1 に検査結果を記入のうえ保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、高知県健康政策部健康対策課及び感染症情報センターに報告する。
- ② 検査のうち、衛生研究所において実施困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- ③ 衛生研究所は、県域を越えた集団感染が発生する等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、高知県域で得られた患者情報及び病原体情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。
- ② 感染症情報センターは、高知県域において得られた全ての患者情報及び病原体情報を収集、

分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて県民及び保健所，市町村，指定届出機関その他の関係医療機関，医師会，教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

定点把握対象の五類感染症について、医師の届出基準等通知の報告基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、患者定点を選定する。

- ① 人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。
- ② 対象感染症のうち、第2の(85)から(95)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。小児科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～3万人	1
3万人～7.5万人	2
7.5万人～	$3 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 5\text{万人}$

- ③ 対象感染症のうち、第2の(96)に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記②で選定した小児科定点のうち、インフルエンザ定点として協力をする小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせたインフルエンザ定点及び別途後記⑥に定める基幹定点とする。内科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～7.5万人	1
7.5万人～12.5万人	2
12.5万人～	$3 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

なお、基幹定点における届出基準は、インフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定されることに留意すること。

- ④ 対象感染症のうち、第2の(97)及び(98)に掲げるものについては、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。眼科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～12.5万人	0
12.5万人～	$1 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 15\text{万人}$

(注) 総定点数が3未満と計算された場合は、3定点とする。

- ⑤ 対象感染症のうち、第2の(99)から(102)に掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科(産婦人科系)、医療法施行令(昭和23年政令第326号)第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関(主として各々の標榜科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～7.5万人	0
7.5万人～	$1 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 13\text{万人}$

(注) 産婦人科系と泌尿器科・皮膚科系が同数になるよう指定する。

- ⑥ 対象感染症のうち、第2の(88)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(103)から(109)までに掲げるものについては、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を2次医療圏毎に1カ所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、県は、病原体定点を選定する。この場合は、次の点に留意する。

- ① 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。
- ② アの②により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点として、第2の(86)から(88)まで、(90)及び(93)から(95)までを対象感染症とする。
- ③ アの③により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点として、第2の(96)を対象感染症とする。
- ④ アの④により選定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として、第2の(97)及び(98)を対象感染症とする。
- ⑤ アの⑥により選定された患者定点は、全て基幹病原体定点として、第2の(88)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(104)、及び(107)を対象感染症とする。

(3) 調査単位等

ア 患者情報のうち、(2)のアの②、③、④及び⑥(第2の(105)、(108)、及び(109)に関する患者情報を除く。)により選定された患者定点に関するものについては、1週間(月曜日から日曜日)を調査単位として、(2)のアの⑤及び⑥(第2の(105)、(108)及び(109)に関する

る患者情報のみ)により選定された患者定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

イ 病原体情報については、原則として結果がまとまり次第報告する。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- ① 患者定点として選定された医療機関（以下「定点医療機関」という。）は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における医師の届出基準等通知の報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。
- ② 定点医療機関は、別記様式 7-1 ～ 7-6 に、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。
- ③ 上記②による患者情報については、調査単位が週の場合は翌週の月曜日に、月単位の場合は翌月の初日に保健所への発送を行う。この場合において、提供の方法については、患者情報の円滑な収集の観点から、地域の特性に応じた適切な方法を採用することができるものとする。

イ 病原体定点

- ① 病原体定点として選定された医療機関（以下「病原体定点医療機関」という。）は、別に定める病原体検査指針により、微生物学的検査のための検体を採取する。
- ② 病原体定点で採取された検体（別記様式 8 を添付）は、速やかに衛生研究所へ送付する。

ウ 保健所

- ① 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても高知県健康政策部健康対策課及び感染症情報センターへ報告する。
- ② 保健所は、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報について、地域の特性など必要に応じて週報（月単位の場合は月報）として、地域住民及び市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

エ 衛生研究所

- ① 衛生研究所は、検体が提供された場合は、当該検体を検査し、別記様式 8 に検査結果を記載し病原体情報として病原体定点医療機関に通知するとともに、高知県健康政策部健康対策課及び感染症情報センターに送付する。
- ② 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- ③ 衛生研究所は、県域を越えた集団感染が発生する等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

オ 感染症情報センター

感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて、県民及び保健所、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

4 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、医師の届出基準等通知を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症の発生状況を地域的に把握するため、県は次の点に留意し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。

また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の疑似症の発生状況を把握できるよう考慮する。

対象疑似症のうち、第2の(112)に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）又は内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を第一号疑似症定点として指定する。

また、第2の(113)に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）又は皮膚科を標榜する医療機関（主として皮膚科医療を提供しているもの）を第二号疑似症定点として指定する。

なお、各疑似症定点の数は下記の計算式を参考として算定するとともに、内科を標榜する医療機関については、第4の3(2)ア⑥に掲げる基幹定点の要件を満たす病院を2次医療圏域毎に1カ所以上含むよう考慮する。

保健所管内人口	定点数
～3万人	3
3万人～7.5万人	4
7.5万人～12.5万人	7
12.5万人～	$7 + 6 \times (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

① 疑似症定点として選定された医療機関（以下「疑似症定点医療機関」という。）は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における医師の届出基準等通知の報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。

② 疑似症定点医療機関においては、別記様式7-7に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載し、最寄りの保健所に電話連絡後FAXする。

イ 保健所

① 保健所は、疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても高知県健康政策部健康対策課及び感染症情報センターへ報告する。

② 保健所は、感染症情報センターが出す疑似症情報等について、必要に応じて週報等として、地域住民及び市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

ウ 感染症情報センター

感染症情報センターは、県域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される県及び全国情報と併せて、県民及び保健所、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 保健所

鳥インフルエンザ（N5H1）に係る積極的疫学調査を実施した保健所は、別に定める基準（届出基準等通知）に従い、直ちに疑い症例調査支援システムに調査内容を入力するものとする。

なお、医療機関より提出される検体は、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を添付し、衛生研究所に送付する。

(2) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検体が送付された場合は、当該検体を検査し、その結果を検体を提供した医療機関及び保健所に通知する。通知を受けた保健所においては、その内容を直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 鳥インフルエンザ（N5H1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合は、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。

第5 実施時期

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

この要綱は、平成15年11月5日から施行する。

この要綱は、平成18年11月22日から施行する。

この要綱は、平成20年1月1日から施行する。

この要綱は、平成22年2月23日から施行する。

この要綱は、平成23年3月8日から施行する。

この要綱は、平成23年7月4日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

この要綱は、平成23年9月5日から施行する。ただし、第4の3の(2)の③の指定については、平成23年7月29日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年3月4日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年4月1日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年5月6日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年5月12日から施行する。ただし、第2の1の指定感染症(107)鳥インフルエンザ（H7N9）の指定期間延長については平成26年4月25日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。

別紙1 感染症発生動向調査定点医療機関

病原体検査定点数	10	2	10	0	1	0	0	7	
HC	市町村名	ICDレコード・内科受点名(18)	小児科受点名(30)	STD受点名(6)	眼科受点名(3)	第一号疑似症定点名(39)	第二号疑似症定点名(39)	基幹定点名(8)	
安芸	室戸市	室戸中央病院 0887-23-3311				室戸中央病院	室戸中央病院		
	安芸市	高知県立安芸総合病院 0887-34-3111	高知県立安芸総合病院		高知県立安芸総合病院	高知県立安芸総合病院	高知県立安芸総合病院	高知県立安芸総合病院	
	田野町	田野病院 0887-38-7111		田野病院		田野病院	田野病院		
	南国市	高知大学医学部 088-860-5811	高知大学医学部		高知大学泌尿器科		高知大学医学部	高知大学医学部	高知大学医学部
		いちばら内科小児科 088-863-3915		いちばら内科小児科	高知大学産婦人科		いちばら内科小児科	いちばら内科小児科	
		J A高知病院 088-863-2181	J A高知病院	J A高知病院		J A高知病院	J A高知病院	J A高知病院	
		あけぼの小児クリニック 088-878-6811		あけぼの小児クリニック			あけぼの小児クリニック	あけぼの小児クリニック	
	香南市	おひさまこどもクリニック 0887-57-8880		おひさまこどもクリニック			おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	
		野市中央病院 0887-55-1101	野市中央病院	野市中央病院			野市中央病院	野市中央病院	
		本山町	嶺北中央病院 0887-76-2450				嶺北中央病院	嶺北中央病院	
土佐町		早明浦病院 0887-82-0456		早明浦病院		早明浦病院	早明浦病院		
高知市		国立病院機構高知病院 088-844-3111	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院	近森病院泌尿器科	町田病院 088-872-0184	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院
		細木病院 088-822-7211	細木病院	細木病院	国見産婦人科 088-822-5954		細木病院	細木病院	細木病院
		矢野小児科 088-875-0178		矢野小児科			矢野小児科	矢野小児科	
		福井小児科 088-824-6556		福井小児科			福井小児科	福井小児科	
		高知赤十字病院 088-822-1201	高知赤十字病院	高知赤十字病院			高知赤十字病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院
		三愛病院 088-845-5291		三愛病院			三愛病院	三愛病院	
高知市	高知医療センター 088-837-3000	高知医療センター	高知医療センター			高知医療センター	高知医療センター	高知医療センター	
	けら小児科・アレルギー科 088-860-1350		けら小児科・アレルギー科			けら小児科・アレルギー科	けら小児科・アレルギー科		
	依田内科 088-841-1170		依田内科			依田内科	依田内科		
	はまだ小児科 088-805-0855		はまだ小児科			はまだ小児科	はまだ小児科		
	ふないキッズクリニック 088-832-2271		ふないキッズクリニック			ふないキッズクリニック	ふないキッズクリニック		
	近森病院 088-822-5231		近森病院			近森病院	近森病院	近森病院	
	くぼたこどもクリニック 0889-22-0666		くぼたこどもクリニック			くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック		
	高北病院 0889-22-1166		高北病院			高北病院	高北病院		
	日高クリニック 0889-24-7785		日高クリニック			日高クリニック	日高クリニック		
	石黒小児科 088-852-0100		石黒小児科			石黒小児科	石黒小児科		
須崎市	もりはた小児科 0889-43-2211		もりはた小児科			もりはた小児科	もりはた小児科		
	須崎くらしお病院 0889-43-2121		須崎くらしお病院			須崎くらしお病院	須崎くらしお病院		
	大西病院 0889-22-1191		大西病院			大西病院	大西病院		
	くぼかわ病院 0889-22-1111		くぼかわ病院			くぼかわ病院	くぼかわ病院		
四万十町	さたけ小児科 0889-37-2255		さたけ小児科			さたけ小児科	さたけ小児科		
	こいけクリニック 0889-35-5112		こいけクリニック			こいけクリニック	こいけクリニック		
	四万十市	四万十市立市民病院 0889-34-2126				四万十市立市民病院	四万十市立市民病院		
幡多	幡多けんみん病院 0889-66-2222	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院泌尿器科		幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	
	大井田病院 0889-63-2101		大井田病院	幡多けんみん病院産婦人科		大井田病院	大井田病院		
	湘南病院 0889-2-1511		湘南病院			湘南病院	湘南病院		
	土佐清水市	松谷内科 08899-2-1377		松谷内科		松谷内科	松谷内科		

※斜体は病原体検査定点

□□-□□-□□

□□□□-□□□□-□□□□□□

□□□□□□□□□□

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型コロナウイルスエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)

患者性別	(男・女)
患者年齢	(歳 月)
[主治医等記載欄]	
医療機関等名及び主治医等医師名(記載者)	定点医療機関の場合は該当するものを○で囲んで下さい ・インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点 ・性感染症定点・基幹定点
検体送付日	年 月 日 分離株(無、有、検査中)
診断名	
発病日	年 月 日
検取日	年 月 日
検取材料の種類	・ふん便(腸内容物、直腸ぬぐい液) ・髄液 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・穿刺液(腹水、胸水、関節液、その他) ・咽頭ぬぐい液(うがい液、鼻汁) ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・陰部尿道頸管擦過物/分泌物 ・細胞診、生検、剖検材料(臓器) ・血液(全血、血清、血漿、抗凝固剤) ・その他()
臨床徴候等	・無症状 ・頭痛 ・発熱(最高 °C) ・熱性けいれん、関節痛(関節炎)、筋肉痛 ・口内炎 ・上気道炎(咽頭炎/痛、扁桃炎) ・下気道炎(肺炎、気管支炎) ・水疱 ・発疹(丘疹、紅斑、バラ疹) ・出血傾向※全身体性のもの ・リンパ節腫脹(部位)、唾液腺腫脹、腎機能障害 ・浮腫(部位) ・ショック症状(低血圧、循環不全) ・その他の症状(上記以外の症状や臨床徴候)
臨床的事項	・胃腸炎(下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・角膜炎、結膜炎、角結膜炎 ・髄膜炎、意識障害、麻痺部位 ・中枢神経系症状(脳炎、脳症、脊髄炎、その他) ・循環器障害(心筋炎、心膜炎、心不全) ・黄疸 ・肝機能障害 ・多尿、腎不全) ・尿路上生殖器症状(膀胱炎、尿道炎、外陰炎、頭管炎)
基礎疾患	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)
転帰	
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項	

[保健所等記載欄](主治医記載可)	
発生の状況	・散発 ・集団発生 (無、有) ・発生市区町村() 有の場合(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舎・寮、病院、老人ホーム[介護施設を含む]、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、海外ツアー、国内ツアー、その他[])
最近の海外渡航歴	国名 年 月 日 ~ 年 月 日
ワクチン接種歴	(無、有、不明) 最終接種年月日 年 月 日
ワクチン名	(Lot No.)
[地方衛生研究所記載欄]	
記載者名	
抗体検出方法	(蛍光、IP、ELISA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他[])
結果	()
検出年月日	年 月 日
病原体	・分離培養(培養細胞:細胞名[]) 人工培地、発育鶏卵、動物、その他[] ・抗原検出(蛍光、EIA、RPHA、LA、PA、IC[イムノクロマト]、その他[]) ・遺伝子検出 1.非増幅(ハイブリ、PAGE、その他[]) 2.増幅(POR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他[]) ・電顕 ・鏡検
検出病原体(群、型、亜型)	
[その他特記事項]	

注1) 主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
注2) ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。
注3) 医療機関(民間検査所を含む)で病原体を分離した場合は、地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

工ボラ出血熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年 月 日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検査) した者 (死体) の類型	① 患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名	3 性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所	年齢 (歳) (月) (日)
8 当該者所在地	電話 () () ()
9 保健者氏名	10 保健者住所 (9.10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () () ()

11 症状	・発熱 ・頭痛 ・腹痛 ・嘔吐 ・出血 ・その他 () ・なし ・分難・同定による病原体の検出 ・検体：血液・その他 () ・ELISA法による病原体抗原の検出 ・検体：血液・その他 () ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 ・検体：血液・その他 () ・蛍光抗体法による血清抗体の検出 (IgM・IgG) ・ELISA法による血清抗体の検出 (IgM・IgG) ・その他の方法 () ・検体 () ・結果 () ・臨床決定 ()
12 診断方法	① 感染原因・感染経路 (確定・推定) 1 接触感染 (接触した人・物の種類・状況) 2 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況) 3 針等の鋭利なものからの感染 (刺入物の種類・状況) 4 輸血・血液製剤 (輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況) 5 その他 () ② 感染地域 (確定・推定) 1 日本国内 (都道府県 市区町村) 2 国外 (国 詳細地域)
13 初診年月日	平成 年 月 日
14 診断 (検査) 年月日	平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日
16 発病年月日 (*)	平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※)	平成 年 月 日

18 感染原因・感染経路・感染地域

19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 19欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
 (※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

クリミア・コンゴ出血熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年 月 日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検査) した者 (死体) の類型	① 患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名	3 性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所	年齢 (歳) (月) (日)
8 当該者所在地	電話 () () ()
9 保健者氏名	10 保健者住所 (9.10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () () ()

11 症状	・発熱 ・頭痛 ・腹痛 ・嘔吐 ・出血 ・その他 () ・なし ・分難・同定による病原体の検出 ・検体：血液・その他 () ・ELISA法による病原体抗原の検出 ・検体：血液・その他 () ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 ・検体：血液・その他 () ・蛍光抗体法による血清抗体の検出 (IgM・IgG) ・ELISA法による血清抗体の検出 (IgM・IgG) ・その他の方法 () ・検体 () ・結果 () ・臨床決定 ()
12 診断方法	① 感染原因・感染経路 (確定・推定) 1 接触感染 (接触した人・物の種類・状況) 2 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況) 3 針等の鋭利なものからの感染 (刺入物の種類・状況) 4 輸血・血液製剤 (輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況) 5 その他 () ② 感染地域 (確定・推定) 1 日本国内 (都道府県 市区町村) 2 国外 (国 詳細地域)
13 初診年月日	平成 年 月 日
14 診断 (検査) 年月日	平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日
16 発病年月日 (*)	平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※)	平成 年 月 日

18 感染原因・感染経路・感染地域

19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 19欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
 (※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

痘 そ う 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3性別
男・女
4 生年月日
年 月 日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳 (月)
6 当該者職業
7 当該者住所
電話 () -
8 当該者所在地
電話 () -
9 保護者氏名 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -

11 症状
・発熱 ・頭痛 ・四肢痛 ・腰痛 ・腹痛
・紅斑 ・丘疹 ・水疱 ・結節 ・痂皮 ・瘡癤
・膿疱 ・疼痛 ・灼熱感 ・癢感
・その他 ()
・なし
・電子顕微鏡での観察による病原体の検出
検体: 水疱・膿疱・痂皮・咽拭い液・血液
その他 ()
・分離・同定による病原体の検出
検体: 水疱・膿疱・痂皮・咽拭い液・血液
その他 ()
・蛍光抗体法による病原体抗体の検出
検体: 水疱・膿疱・痂皮・咽拭い液・血液
その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体: 水疱・膿疱・痂皮・咽拭い液・血液
その他 ()
・他の方法 ()
検体 ()
結果 ()
臨床決定 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案)年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日
(1、3、10、11、17欄は該当する番号等○で囲み、4、12から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は、診断後直ちに帰っていただきます

南 米 出 血 熱 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3性別
男・女
4 生年月日
年 月 日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳 (月)
6 当該者職業
7 当該者住所
電話 () -
8 当該者所在地
電話 () -
9 保護者氏名 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -

11 症状
・発熱 ・悪寒 ・筋痛 ・腹痛
・嘔吐 ・めまい ・頭痛
・出血 ・ショック ・神経症状
・その他 ()
・なし
・分離・同定による病原体の検出
検体: 血液・その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体: 血液・その他 ()
・ELISA法による血清抗体の検出 (IgM・IgG)
・蛍光抗体法による血清抗体の検出 (IgM・IgG)
・その他の方法 ()
検体 ()
結果 ()
臨床決定 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 針等の鋭利なものの刺入による感染(刺入物の種類・状況)
4 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案)年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は、診断後直ちに帰っていただきます

パスト発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印

従事する病院・診療所の名称 〔署名又は記名押印のこと〕
上記病院・診療所の所在地(※) 〔署名又は記名押印のこと〕
電話番号(※) 〔署名又は記名押印のこと〕

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Main table with 4 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに持って行ってください

マールブルグ病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印

従事する病院・診療所の名称 〔署名又は記名押印のこと〕
上記病院・診療所の所在地(※) 〔署名又は記名押印のこと〕
電話番号(※) 〔署名又は記名押印のこと〕

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Main table with 4 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに持って行ってください

ラッサ熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

急性灰白髄炎発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

結核発生病

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の種類, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Main table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

ジフテリア発生病

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の種類, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Main table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

重症急性性呼吸器症候群 (SARS) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。) の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所, 11 電話番号.

Main table for SARS with 11 rows (11-21) detailing symptoms, diagnosis methods, and infection details. Includes a box for reporting date and time.

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年、月、日を入力すること。)(*)欄は、患者(検定例)を診断した場合のみ記入すること。

中東呼吸器症候群 (MERS) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。) の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所, 11 電話番号.

Main table for MERS with 13 rows (13-25) detailing symptoms, diagnosis methods, and infection details. Includes a box for reporting date and time.

(1, 3, 11, 12 及び 18 欄において該当する番号等を○で囲み、4, 5 及び 13 から 17 までの欄においては年齢又は年月日を入力すること。)(*)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(**)欄は、患者(検定例)を診断した場合のみ記入すること。

鳥インフルエンザ (H 5 N 1) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

Table with 9 rows: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状・状態, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日 (*), 17 死亡年月日 (※)

この届出は診断後直ちに... (Right side of form 2-6)

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*) 欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

鳥インフルエンザ (H 7 N 9) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

Table with 9 rows: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状・状態, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日 (*), 17 死亡年月日 (※)

この届出は診断後直ちに... (Right side of form 2-7)

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*) 欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

コ レ ラ 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地 (※)

電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 1. 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名.

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項.

この届出は診断後直ちにこの届出は診断後直ちに

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

細菌性赤痢発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地 (※)

電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 1. 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名.

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項.

この届出は診断後直ちにこの届出は診断後直ちに

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

腸管出血性大腸菌感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10)は患者が未成年の場合のみ記入

11 症状
・腹痛 ・水様性下痢 ・血便
・嘔吐 ・発熱 ・溶血性貧血
・急性腎不全 ・溶血性尿毒症候群(HUS)
・痙攣 ・昏睡 ・脳症
・その他 ()
・なし
12 状況
・分離・同定による病原体の検出、かつ、分離圈における次の①、②いずれかによるペロ毒素の増強
①毒素産生 ②PCR法等による毒素遺伝子
検体・便・その他 ()
O血清型: O() ・不明
H血清型: H() ・不明
ペロ毒素: VT1/V2 ・VT1 ・VT2 ・VT(型不明)
・便でのペロ毒素の検出 (HUS 発症例に限る)
・血清でのO抗原凝集抗体又は抗ペロ毒素抗体の検出 (HUS 発症例に限る)
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
4 その他 ()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

腸チフス発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10)は患者が未成年の場合のみ記入

11 症状
・高熱 ・比較的徐脈 ・バラ疹 ・腫痛
・下痢 ・便秘 ・腸出血 ・腸穿孔
・痙攣・昏睡 ・腸性胆管炎
・その他 ()
・なし
12 状況
・分離・同定による病原体の検出
検体: 血液・骨髓液・便・尿・胆汁・その他
フーアージ型: ()
・その他の方法()
検体()
結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 その他 ()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日
(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

パラチフス発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

印

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 2 columns: 1. 診断（検査）した者（死体）の種類・患者（確定例）・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体. 2. 当該者氏名. 7. 当該者住所. 8. 当該者所在地. 9. 保護者氏名. 10. 保護者住所.

Table with 2 columns: 11. 症状. 12. 診断方法. 18. 感染原因・感染経路・感染地域. 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項.

この届出は診断後直ちにさせていただきます

（1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。 ※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。）

E型肝炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

印

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 2 columns: 1. 診断（検査）した者（死体）の種類・患者（確定例）・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体. 2. 当該者氏名. 7. 当該者住所. 8. 当該者所在地. 9. 保護者氏名. 10. 保護者住所.

Table with 2 columns: 11. 症状. 12. 診断方法. 18. 感染原因・感染経路・感染地域. 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項.

この届出は診断後直ちにさせていただきます

（1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。 ※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。）

ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む）発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の種類, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Main table with columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

A型肝炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の種類, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Main table with columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

工キノコックス症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Table with 2 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 13. 初診年月日, 14. 診断(検案)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日

この届出は診断後直ちに引っ...

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

黄熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Table with 2 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 13. 初診年月日, 14. 診断(検案)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日

この届出は診断後直ちに引っ...

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

オウム病発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2. 当該者氏名; 7. 当該者住所; 8. 当該者所在地; 9. 保健者氏名

Main diagnostic table with columns for symptoms (発熱, 頭痛, 咽痛, etc.), laboratory findings (血液, 尿, etc.), and diagnosis methods (PCR, IgM, etc.). Includes a box for reporting location and date.

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢, 年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

オムスク出血熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2. 当該者氏名; 7. 当該者住所; 8. 当該者所在地; 9. 保健者氏名

Main diagnostic table with columns for symptoms (発熱, 頭痛, 咽痛, etc.), laboratory findings (血液, 尿, etc.), and diagnosis methods (PCR, IgM, etc.). Includes a box for reporting location and date.

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢, 年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

回帰熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () 電話 ()

11 症状
・発熱 ・頭痛 ・吐瀉 ・腹痛 ・肝腫大 ・黄疸 ・発疹 ・心筋炎 ・脳出血 ・その他 ()
12 診断方法
・分濁・同定による病原体の検出
・抗体：血液・髄液・その他 ()
・暗視野顕微鏡での観察による病原体の検出
・検体：血液・その他 ()
・血液検体からの蛍光抗体法による病原体抗原の検出
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・抗体：血液・その他 ()
・その他の方法 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況：)
2 その他 ()
2 感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断 (検案) 年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちにに行ってください

キヤサナル森林病発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () 電話 ()

11 症状
・発熱 ・頭痛 ・筋肉痛 ・咳 ・嘔吐 ・脱水 ・出血 ・低血圧 ・消化器症状 ・髄膜炎 ・脳炎 ・その他 ()
12 診断方法
・分濁・同定による病原体の検出
・抗体：血液・髄液・その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・抗体：血液・髄液・その他 ()
・LjM 抗体の検出
・抗体：血清・髄液・その他 ()
・PCR法による中和抗体の検出
・結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇
・その他の方法 ()
・抗体 ()
・結果 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況：)
2 輸血・血液製剤 (輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況：)
3 その他 ()
2 感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断 (検案) 年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちにに行ってください

Q 熱 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと)

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(歳)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名
10 保羅者住所
電話() -

11 症状
・発熱
・全身倦怠
・肝機能異常
・その他
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体:血液・その他
・抗体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・抗体:血液・その他
・間接蛍光抗体法による血清抗体の検出
・ベア血清での抗体陽性・ベア血清での抗体価の上昇
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 塵埃感染(吸入物の種類・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)
(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

狂 犬 病 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと)

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(歳)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名
10 保羅者住所
電話() -

11 症状
・咬傷周辺の肉芽腫
・不穏
・発熱
・脱水発作
・興奮興奮
・その他
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体:唾液・その他
・蛍光抗体法による病原体抗原の検出
・抗体:角膜炎採膜本・頸部の皮膚・気管吸引物・唾液腺・脳組織・その他
・抗体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・抗体:唾液・髄液・脳組織・その他
・Fluorescent Focus Inhibition Testによる唾液抗体の検出
・ELISA法による唾液抗体の検出(IgM・IgG)
・その他の方法
・抗体:唾液・髄液・脳組織・その他
・抗体:唾液・髄液・脳組織・その他
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)
(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

コクシジオイデス症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年 月 日

平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師に於っては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型 ・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡疑い者の死体	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業
2 当該者氏名	男・女	年 月 日	歳 (月 日)	
7 当該者住所	電話 () - ()			
8 当該者所在地	電話 () - ()			
9 保護者氏名	10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () - ()			

11 症 状	・発熱 ・胸部結核性肺炎 ・皮膚潰瘍・腫瘍 ・その他 () ・なし	18 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路 (確定 ・ 推定) 1 塵埃感染 (吸入物の種類・状況) 2 その他 ()
12 診断方法	・分離・同定による病原体の検出 検体 () ・鏡検による病原体の検出 検体 () ・免疫拡散法による抗体の検出 検体 () ・その他の方法 () 検体 () 結果 ()	②感染地域 (確定 ・ 推定) 1 日本国内 (都道府県) 2 国外 (国) 詳細地域 ()

13 初診年月日	平成 年 月 日
14 診断 (検案(※)) 年月日	平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日
16 発病年月日 (*)	平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※)	平成 年 月 日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年・月・日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに実行してください

サル痘発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年 月 日

平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師に於っては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型 ・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡疑い者の死体	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業
2 当該者氏名	男・女	年 月 日	歳 (月 日)	
7 当該者住所	電話 () - ()			
8 当該者所在地	電話 () - ()			
9 保護者氏名	10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () - ()			

11 症 状	・発熱 ・発疹 ・局所リンパ腫 ・その他 () ・なし	18 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路 (確定 ・ 推定) 1 接触感染 (接触した人・物の種類・状況) 2 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況) 3 その他 ()
12 診断方法	・分離・同定による病原体の検出 検体 () ・電子顕微鏡での観察による病原体の検出 (確定例からの二次感染、又は感染動物からの感染が強く疑われる場合に限る) 検体 () ・蛍光抗体法による病原体抗原の検出 検体 () ・抗体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体 () ・その他の方法 () 検体 () 結果 ()	②感染地域 (確定 ・ 推定) 1 日本国内 (都道府県) 2 国外 (国) 詳細地域 ()

13 初診年月日	平成 年 月 日
14 診断 (検案(※)) 年月日	平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日
16 発病年月日 (*)	平成 年 月 日
17 死亡年月日 (※)	平成 年 月 日

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年・月・日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに実行してください

重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFVウイルスであるものに限る。） 発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと)
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断（検案）した者（死体）の類型
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(満月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 発熱 ・頭痛 ・筋肉痛 ・神経症状 ・腹痛 ・下痢 ・嘔吐 ・食欲不振 ・全身倦怠感 ・血小板減少 ・白血球減少 ・リンパ球腫脹 ・出血傾向 ・紫斑 ・刺し口 ・その他 ()
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

腎症候性出血熱(HFRS) 発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと)
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断（検案）した者（死体）の類型
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(満月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 発熱 ・点状出血 ・腎機能低下 ・その他 ()
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

西部ウマ脳炎発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(満月齢), 6 当該者職業. Includes fields for patient name, sex, birth date, age at diagnosis, and occupation.

Table with 2 columns: 7 当該者住所, 8 当該者所在地. Includes fields for patient address and location.

Table with 2 columns: 9 保護者氏名, 10 保護者住所. Includes fields for guardian name and address. Includes a note: (9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入)

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法. Includes fields for symptoms and diagnostic methods.

Table with 2 columns: 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日. Includes fields for dates of diagnosis, infection, and death.

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちにしてください

ダニ媒介脳炎発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(満月齢), 6 当該者職業. Includes fields for patient name, sex, birth date, age at diagnosis, and occupation.

Table with 2 columns: 7 当該者住所, 8 当該者所在地. Includes fields for patient address and location.

Table with 2 columns: 9 保護者氏名, 10 保護者住所. Includes fields for guardian name and address. Includes a note: (9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入)

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法. Includes fields for symptoms and diagnostic methods.

Table with 2 columns: 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日. Includes fields for dates of diagnosis, infection, and death.

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちにしてください

炭 疽 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検査) した者 (死体) の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症 状
12 診 断 方 法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにやってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等〇で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

チクングニア熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検査) した者 (死体) の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症 状
12 診 断 方 法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにやってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等〇で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

つが虫病発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域. Includes sub-sections for symptoms, diagnostic methods, and infection details.

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

デング熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域. Includes sub-sections for symptoms, diagnostic methods, and infection details.

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

東 部 ウ マ 脳 炎 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日

（署名又は記名押印のこと）

（署名又は記名押印のこと）

1 診断（検案）した者（死体）の種類
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3性別
4 生年月日
5診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
・発熱
・発疹
・リンパ節腫脹
・腹痛
・意識障害
・髄膜炎
・副肺炎
・その他
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・検体：血液・髄液・その他
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・検体：血液・髄液・その他
・IgM抗体の検出
・検体：血清・髄液・その他
・ペア血清での中和抗体の検出
・結果：抗体陽性、抗体価の有意上昇
・その他の方法
・検体
・結果
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路（確定・推定）
1 動物・蚊・昆虫等からの感染（動物・蚊・昆虫等の種類・状況）
2 輸血・血液製剤（輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況）
3 その他
②感染地域（確定・推定）
1 日本国内（都道府県 市区町村）
2 国外（国 詳細地域）
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く。）

発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日

（署名又は記名押印のこと）

（署名又は記名押印のこと）

1 診断（検案）した者（死体）の種類
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3性別
4 生年月日
5診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
・発熱、咳、下痢
・重篤な肺炎
・多臓器不全
・細膜炎
・その他
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・検体：H5・H7・H9、その他
・N型：
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・検体：H5・H7・H9、その他
・H型：H5・H7・H9、その他
・中和試験による血清抗体の検出
・H型：H5・H7・H9、その他
・その他の方法
・検体
・結果
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路（確定・推定）
1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況）
2 経口感染（飲食物の種類・状況）
3 接触感染（接触した人・物の種類・状況）
4 動物・蚊・昆虫等からの感染（動物・蚊・昆虫等の種類・状況）
5 その他
②感染地域（確定・推定）
1 日本国内（都道府県 市区町村）
2 国外（国 詳細地域）
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ニ パ ウ イ ル ス 感 染 症 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 _____ 報告年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 _____ (署名又は記名押印のこと)
上記病院・診療所の所在地(※) _____
電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保健者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 2 columns: 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*) 欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに 行 っ て く だ さ い

日 本 紅 斑 熱 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 _____ 報告年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 _____ (署名又は記名押印のこと)
上記病院・診療所の所在地(※) _____
電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保健者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 2 columns: 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*) 欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに 行 っ て く だ さ い

日本脳炎発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名, 報告年月日, 平成 年 月 日, 印, 従事する病院・診療所の名称, 上記病院・診療所の所在地(※), 電話番号(※), (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型, 患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(満月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

ハンタウイルス肺症候群(HPS)発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名, 報告年月日, 平成 年 月 日, 印, 従事する病院・診療所の名称, 上記病院・診療所の所在地(※), 電話番号(※), (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型, 患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(満月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

Ｂ ウ イ ル ス 病 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項（同条第 6 項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医師のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

鼻 痘 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項（同条第 6 項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医師のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18 欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ブルセラ症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 9 rows: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Main form table with 11 rows: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

ベネズエラウマ脳炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 9 rows: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Main form table with 11 rows: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

ハン ド ラ ウ イ ル ス 感 染 症 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 6 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2. 当該者氏名; 7. 当該者住所; 8. 当該者所在地; 9. 保護者氏名; 10. 保護者住所

Table with 2 columns: 11. 症状; 12. 診断方法; 18. 感染原因・感染経路・感染地域

この届出は診断後直ちに行ってください

Table with 4 columns: 13. 初診年月日; 14. 診断(検査)(※)年月日; 15. 感染したと推定される年月日; 16. 発病年月日(*); 17. 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

発 生 フ ィ ャ ン 知 事 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 6 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2. 当該者氏名; 7. 当該者住所; 8. 当該者所在地; 9. 保護者氏名; 10. 保護者住所

Table with 2 columns: 11. 症状; 12. 診断方法; 18. 感染原因・感染経路・感染地域

この届出は診断後直ちに行ってください

Table with 4 columns: 13. 初診年月日; 14. 診断(検査)(※)年月日; 15. 感染したと推定される年月日; 16. 発病年月日(*); 17. 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

ボツリヌス症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 2 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の種類・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 状態, 13 初診年月日, 14 診断(検査)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は、診断後直ちに、行ってください。

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

マラリア発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 2 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の種類・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 状態, 13 初診年月日, 14 診断(検査)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は、診断後直ちに、行ってください。

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

野 兎 病 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院、診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保建者氏名, 10 保建者住所

Main table with 11 rows: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

ライム病発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院、診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保建者氏名, 10 保建者住所

Main table with 13 rows: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

リッサイルス感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 4 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発症年月日, 17 死亡年月日, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに帰してください

リフトバレー熱発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main table with 4 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発症年月日, 17 死亡年月日, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに帰してください

類 鼻 痘 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Table with 11 rows for medical details: 11. 症状, 12. 診断方法, 13. 初診年月日, 14. 診断(検査)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は、診断後直ちに実行してください

レ ジ オ ネ ラ 症 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 9 rows for patient information: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名

Table with 11 rows for medical details: 11. 症状, 12. 診断方法, 13. 初診年月日, 14. 診断(検査)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は、診断後直ちに実行してください

レプトスピラ症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(満月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

ロッキン山紅斑熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(満月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

ア メ ー バ 赤 痢 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の種類
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳 () か月()

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 性的接触(A:性交 B:経口)(7:同性間 イ:異性間 ウ:不明)
3 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内() 都道府県() 市区町村()
2 国外() 国() 詳細地域()

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の種類
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
歳 () か月()

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 針等の鋭利なものの刺入による感染(刺入物の種類・状況)
2 静注薬物常用
3 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
4 性的接触(A:性交 B:経口)(7:同性間 イ:異性間 ウ:不明)
5 母子感染(7:胎内 イ:出産時 ウ:母乳)
6 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内() 都道府県() 市区町村()
2 国外() 国() 詳細地域()
③B型肝炎ワクチン接種歴(有・無・不明)

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 性別 (男・女) and 3 診断時の年齢 (0歳は月齢) 歳 (か月)

Main table with 6 rows (1-6) containing clinical details, symptoms, diagnosis methods, and dates. Includes a box for reporting date: 'この届出は診断から7日以内に行ってください'

(1. 2. 4. 5 及び 11欄)においては該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものを全てを記載すること。

急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 性別 (男・女) and 3 診断時の年齢 (0歳は月齢) 歳 (か月)

Main table with 6 rows (1-6) containing clinical details, symptoms, diagnosis methods, and dates. Includes a box for reporting date: 'この届出は診断から7日以内に行ってください'

(1. 2. 4. 5. 11欄)は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4. 5欄は、該当するものを全てを記載すること。

クリプトスポリジウム症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 3 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2. 性別(男・女), 3. 診断時の年齢(0歳は月齢)・歳(か月)

Main form table with 6 rows: 4. 症状, 5. 診断方法, 6. 初診年月日, 7. 診断(検案)年月日, 8. 感染したと推定される年月日, 9. 発症年月日, 10. 死亡年月日. Includes 11. 感染原因・感染経路・感染地域 and 12. 感染原因・感染経路・感染地域.

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。4, 5欄は、該当するものすべてに記載すること。)

この届出は診断日から7日以内に行ってください

クロイツフェルト・ヤコブ病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名または記名押印のこと)
(電話)

Main form table with 7 rows: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2. 性別(男・女), 3. 診断時の年齢・歳, 4. 病型, 5. 診断の確実度, 6. 症状, 7. 初診年月日, 8. 診断(検案)年月日, 9. 感染したと推定される年月日, 10. 発症年月日, 11. 死亡年月日, 12. 感染原因・感染経路・感染地域.

(1, 2, 4から6, 12欄は該当する番号等を○で囲み、3, 7から11欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。)

この届出は診断日から7日以内に行ってください

劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

（署名又は記名押印のこと）

医師の氏名 _____

従事する病院・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地(※) _____

電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の類型
 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別 男・女
 3 診断時の年齢 (0歳は月齢) 歳 (月)

4 症状	・ショック ・肝不全 ・腎不全 ・DIC ・脳出血 ・全身性紅斑性発疹 ・その他 ()	11 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況：） 2 経口感染（飲食物の種類・状況：） 3 接触感染（接触した人・物の種類・状況：） 4 創傷感染（創傷の部位・状況：） 5 その他（） ②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域）
5 診断方法	・分離・同定による病原体の検出 検体：血液・髄液・胸水・腹水・生検組織・手術創・膿死腔部組織・その他（） 血清群 A群・B群・C群・G群 その他（ 群） M型/T型別：M（ ）型、T（ ）型 ・その他の検査方法（） 検体（） 経路（）	

6 初診年月日 平成 年 月 日
 7 診断（検案）年月日 平成 年 月 日
 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
 9 発病年月日（*） 平成 年 月 日
 10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

(*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。

4.5欄は、該当するものすべてを記載すること。

10の届出は診断から7日以内に行ってください

後天性免疫不全症候群発生届（HIV感染症を含む）

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

（署名又は記名押印のこと）

医師の氏名 _____

従事する病院・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地(※) _____

電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の類型

・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体

2 性別 男・女
 3 診断時の年齢 歳

4 病名
 1) 無症候性キャリア
 2) AIDS
 3) その他 ()

5-1 診断方法
 ・抗HIV抗体スクリーニング検査
 1)ELISA法 2)PA法 3)IC法
 4)その他 ()
 ・確認検査
 1)Western Blot法 2)IFA法
 3)その他 ()
 ・病原検査
 1)HIV抗原検査 2)ウイルス分離
 3)PCR法
 4)その他 ()
 ・1.8か月未満の児の免疫学的所見 ()
 (該当するもの全てに○をすること)

6 診断時の症状
 1) 有
 2) 無 (無症候性キャリアの場合は、当欄の記載は不要)

7 発病年月日 平成 年 月 日
 (AIDS診断(5-2)の欄)
 8 初診年月日 平成 年 月 日
 9 診断(検案)年月日 平成 年 月 日
 (AIDS診断(5-2)の欄)
 10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日
 11 死亡年月日 ※

ジアルジア症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の種類 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別	3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男 ・ 女	歳（ 月）

4 症 状	・下痢 ・胆嚢炎 ・その他（ ）	11 感染原因・感染経路・感染地域
5 診 断 方 法	・鏡検による病原体の検出 検体：便 ・ 十二指腸液 ・ 胆汁 ・ その他（ ） ・病原体抗原の検出 検体：便 ・ 十二指腸液 ・ 胆汁 ・ その他（ ） 検査法（酵素抗体法・イムノクロマト法） ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：便 ・ 十二指腸液 ・ 胆汁 ・ その他（ ） ・その他の検査方法（ ） 検体（ ） 結果（ ）	①感染原因・感染経路（ 確定 ・ 推定 ） 1 経口感染（飲食物の種類・状況： ） 2 水系感染（水の種類・状況： ） 3 性的接触（A.性交 B.経口） ア.同性間 イ.異性間 ウ.不明 4 その他（ ） ②感染地域（ 確定 ・ 推定 ） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域 ）
6 初診年月日	平成 年 月 日	
7 診断（検査）年月日	平成 年 月 日	
8 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日	
9 発症年月日（*）	平成 年 月 日	
10 死亡年月日（※）	平成 年 月 日	

この届出は診断から7日以内に行ってください

（1、2、4、5、11欄は該当する番号を○で囲み、3、6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

（※）欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。

（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。

4、5欄は、該当するすべてを記載すること。）

この届出は診断から7日以内に行ってください

5-2	1) カンジダ症（食道、気管、気管支、肺） 2) クリプトコッカス症（肺以外） 3) コクシジオイデス症（①全身に播種したもの ②肺、頭部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの） 4) ヒストプラズマ症（①全身に播種したもの ②肺、頭部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの） 5) ニューモシテリス肺炎 6) トキソプラズマ脳症（生後1か月以後） 7) クリプトスポリジウム症（1か月以上続く下痢を伴ったもの） 8) インスポラ症（1か月以上続く下痢を伴ったもの） 9) 化膿性細菌感染症（13歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により①敗血症 ②髄膜炎 ③骨髄炎 ④中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍のいずれかが、2年以内に、二つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの） 10) サルモネラ菌血症（再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く） 11) 活動性結核（肺結核又は肺外結核） 12) 非結核性抗酸菌症（①全身に播種したもの ②肺、皮膚、頭部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの） 13) サイトメガロウイルス感染症（生後1か月以後で、肝、脾、リンパ節以外） 14) 単細胞ヘルペスウイルス感染症（①1か月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するもの ②生後1か月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの） 15) 進行性多巣性白質脳症 16) カボジ肉腫 17) 原発性脳リンパ腫 18) 非ホジキンリンパ腫（LSG分類により ①大細胞型、免疫芽球型 ②Burkitt型） 19) 感測性子宮頸癌 20) 反復性肺炎 21) リンパ管性間質性肺炎/肺リンパ管形成：LIP/PLH complex（13歳未満） 22) H1V脳症（認知症又は重症性脳炎） 23) H1V消耗性症候群（全身衰弱又はスリム病）	13 感染症のまん延及び当該患者の医療のために必要な事項として厚生労働大臣が定める事項 ①最近生年間の主な居住地 1) 日本国内（ 都道府県） 2) その他（ ） 3) 不明 ②国籍 1) 日本 2) その他 3) 不明
12	感染原因・感染経路・感染地域	①推定される感染原因・感染経路 1) 性行為感染 ア.異性間性的接触 イ.同性間性的接触 2) 静注薬物使用 3) 母子感染 4) 輸血 5) その他（ ） 6) 不明 ②推定される感染地域 1) 日本国内 2) その他（ ） 3) 不明

（1、2、4から6、12、13欄は該当する番号等を○で囲み、3、7から11欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。）

侵襲性インフルエンザ菌感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 1 row: 1 診断(検査)した者(死体)の種類・患者(確定例)・感染症死亡者の死体

Table with 2 rows: 2 性別(男・女), 3 診断時の年齢(0歳は月齢)・歳(か月)

Table with 1 row: 1 1 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 1 row: 4 症状・発熱・頭痛・嘔吐・発疹・意識障害・項部硬直・大泉門膨隆・シヨック・肺炎・胸痛・血血症・脳腫瘍・脳血管炎・多臓器不全・その他

Table with 1 row: 5 診断方法・分離・同定による病原体の検出・抗体・髄液・血液・血清型・未実施・b群・その他

Table with 1 row: 6 初診年月日・7 診断(検査)年月日・8 感染したと推定される年月日・9 発病年月日・10 死亡年月日

Table with 1 row: 1 1 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 1 row: 4 症状・発熱・頭痛・嘔吐・発疹・意識障害・項部硬直・大泉門膨隆・シヨック・肺炎・胸痛・血血症・脳腫瘍・脳血管炎・多臓器不全・その他

Table with 1 row: 5 診断方法・分離・同定による病原体の検出・抗体・髄液・血液・血清型・未実施・b群・その他

Table with 1 row: 6 初診年月日・7 診断(検査)年月日・8 感染したと推定される年月日・9 発病年月日・10 死亡年月日

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。

(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断から7日以内に行ってください

侵襲性髄膜炎菌感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 1 row: 1 診断(検査)した者(死体)の種類・患者(確定例)・感染症死亡者の死体

Table with 2 rows: 2 性別(男・女), 3 診断時の年齢(0歳は月齢)・歳(か月)

Table with 1 row: 1 1 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 1 row: 4 症状・頭痛・嘔吐・発熱・意識障害・項部硬直・大泉門膨隆・シヨック・肺炎・胸痛・血血症・脳腫瘍・脳血管炎・多臓器不全・その他

Table with 1 row: 5 診断方法・分離・同定による病原体の検出・抗体・髄液・血液・血清型・未実施・A群・B群・C群・Y群・その他

Table with 1 row: 6 初診年月日・7 診断(検査)年月日・8 感染したと推定される年月日・9 発病年月日・10 死亡年月日

Table with 1 row: 1 1 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 1 row: 4 症状・頭痛・嘔吐・発熱・意識障害・項部硬直・大泉門膨隆・シヨック・肺炎・胸痛・血血症・脳腫瘍・脳血管炎・多臓器不全・その他

Table with 1 row: 5 診断方法・分離・同定による病原体の検出・抗体・髄液・血液・血清型・未実施・A群・B群・C群・Y群・その他

Table with 1 row: 6 初診年月日・7 診断(検査)年月日・8 感染したと推定される年月日・9 発病年月日・10 死亡年月日

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。)

(※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。

(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断から7日以内に行ってください

慢性肺炎球菌感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において運用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名
報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別 男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳(か月)

4 症状
・発熱
・頭痛
・全身倦怠感
・悪寒
・咽頭痛
・呼吸困難
・嘔吐
・項硬直
・大動脈脈
・肺炎
・中耳炎
・その他
5 診断方法
・分攤・同定による病原体の検出
・抗体・髄液・血液
・血清型:未実施()型
・検体からの直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・抗体・髄液・血液
・血清型:未実施()型
6 初診年月日
7 診断(検査)年月日
8 感染したと推定される年月日
9 発熱年月日(*)
10 死亡年月日(※)

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

水痘(入院例に限る。)発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において運用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名
報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別 男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳(か月)

1)検査診断例
2)臨床診断例
4 症状
・発熱
・発疹
・痒疹
・肝炎
・急性呼吸器感染症(ARDS)
・根神経炎
・内臓播種性水痘
・他疾患入院中の発症
・後遺症
5 診断方法
・分攤・同定による病原体の検出
・抗体・髄液・血液
・血清型:未実施()型
6 初診年月日
7 診断(検査)年月日
8 感染したと推定される年月日
9 発熱年月日(*)
10 死亡年月日(※)

(1, 2, 4, 5及び11欄は該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものをすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

先天性風しん症候群発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別 3 診断時の年齢(0歳は月齢) 男・女 歳(か月)

Table with 2 columns: 1) 感染原因・感染経路・感染地域, 2) その他. Rows include 4 病型, 5 診断方法, 6 初診年月日, 7 診断(検案)年月日, 8 感染したと推定される年月日, 9 発病年月日, 10 死亡年月日.

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (＊)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

1)の届出は診断から7日以内に行ってください

梅毒発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体

2 性別 3 診断時の年齢(0歳は月齢) 男・女 歳(か月)

Table with 2 columns: 1) 感染原因・感染経路・感染地域, 2) その他. Rows include 1) 早期顕症梅毒(1期(Ⅰ期) 2) 晩期顕症梅毒, 3) 先天梅毒, 4) 無症候(無症候病原体保有者), 4 病型, 5 診断方法, 6 初診年月日, 7 診断(検案)年月日, 8 感染したと推定される年月日, 9 発病年月日, 10 死亡年月日.

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (＊)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

1)の届出は診断から7日以内に行ってください

播種性クリプトコックス症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

（署名又は記名押印のこと）

医師の氏名 _____

従事する病院・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地(※) _____

電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1	診断（検査）した者（死体）の種類 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体
---	---

2	性別	3	診断時の年齢（0歳は月齢）
男	・ 女	歳	（ か月）

4	症状 ・発熱 ・頭痛 ・呼吸器症状 ・皮疹 ・中枢神経系病変 ・その他（ ） ・分譲・同居による病原体の検出 検体：血液・尿水・胸水・髄液 その他（ ） ・病理組織学的診断（組織診断又は細胞診断で表裏を有する酵母細胞の証明） 検体：髄液・組織 その他（ ） ・ラテックス凝集法によるクリプトコックス抗原抗体の検出 検体：髄液・血液 その他（ ）	11 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 鳥類の糞などとの接触（感染源の種類） 2 免疫不全（基礎疾患や免疫抑制薬剤の種類・状況） 3 その他（ ） ②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域）
5	診断方法	6 初診年月日 平成 年 月 日 7 診断（検査(※)）年月日 平成 年 月 日 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 9 発病年月日（*） 平成 年 月 日 10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日

(1. 2. 4. 5及び11欄においては該当する番号等○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

(*)欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。

4及び5欄においては、該当するものを全てを記載すること。

この届出は診断日から7日以内に行ってください

破傷風発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

（署名又は記名押印のこと）

医師の氏名 _____

従事する病院・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地(※) _____

電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1	診断（検査）した者（死体）の種類 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体
---	---

2	性別	3	診断時の年齢（0歳は月齢）
男	・ 女	歳	（ か月）

4	症状 ・筋力のこわばり ・嚥下障害 ・痙攣 ・呼吸困難（虚脱性） ・反弓緊張 ・その他（ ） ・開口障害 ・発語障害 ・強直性痙攣 ・呼吸困難（虚脱性） ・易興奮性 ・その他（ ） ・臨床決定（ ） 診断方法	11 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 針等の鋭利なものの刺入による感染（刺入物の種類・状況） 2 静注薬物常用 3 創傷感染（創傷の部位・状況） 4 その他（ ） ②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域） ③破傷風含有ワクチン接種歴（有・無・不明）
5	診断方法	6 初診年月日 平成 年 月 日 7 診断（検査(※)）年月日 平成 年 月 日 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 9 発病年月日（*） 平成 年 月 日 10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

(*)欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。

4. 5欄は、該当するものを全てを記載すること。

この届出は診断日から7日以内に行ってください

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型

・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別

男・女

3 診断時の年齢(0歳は月齢)

歳(か月)

4	・発熱 ・皮膚感染症 ・骨髄炎 ・その他() ・肺炎 ・腸炎 ・菌血症 ・免疫不全 ・胸膜炎 ・細菌炎 ・免疫不全	1.1 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況) 2 経口感染(飲食物の種類・状況) 3 接触感染(接触した人・物の種類・状況) 4 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況) 5 創傷感染(創傷の部位・状況) 6 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県() 市区町村() 2 国外() 国() 詳細地域()
5	・通常無菌的ではない検体からの分離・同定による黄色ブドウ球菌の検出かつ分離開のバンコマイシンのMIC値が16μg/ml以上 ・通常無菌的ではない検体からの分離・同定による黄色ブドウ球菌の検出、かつ分離開のバンコマイシンのMIC値が16μg/ml以上、かつ分離開が感染症の起因菌であることを判定 検体：唾液・尿・膿・その他()	①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況) 2 経口感染(飲食物の種類・状況) 3 接触感染(接触した人・物の種類・状況) 4 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況) 5 創傷感染(創傷の部位・状況) 6 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県() 市区町村() 2 国外() 国() 詳細地域()
6	初診年月日	平成 年 月 日
7	診断(検査(※))年月日	平成 年 月 日
8	感染したと推定される年月日	平成 年 月 日
9	発病年月日(※)	平成 年 月 日
10	死亡年月日(※)	平成 年 月 日

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4.5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断日から7日以内に行ってください

バンコマイシン耐性腸球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型

・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別

男・女

3 診断時の年齢(0歳は月齢)

歳(か月)

4	・発熱 ・心内膜炎 ・皮膚感染症 ・骨髄炎 ・菌血症 ・免疫不全 ・その他() ・腸炎 ・胸膜炎 ・細菌炎	1.1 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況) 2 経口感染(飲食物の種類・状況) 3 接触感染(接触した人・物の種類・状況) 4 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況) 5 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県() 市区町村() 2 国外() 国() 詳細地域()
5	・通常無菌的ではない検体からの分離・同定による腸球菌の検出かつ分離開のバンコマイシンのMIC値が16μg/ml以上 ・通常無菌的ではない検体からの分離・同定による腸球菌の検出、かつ分離開のバンコマイシンのMIC値が16μg/ml以上、かつ分離開が感染症の起因菌であることを判定 検体：唾液・尿・膿 菌種名：() 耐性遺伝子：VanA・VanB・VanC・その他() 未定遊	①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況) 2 経口感染(飲食物の種類・状況) 3 接触感染(接触した人・物の種類・状況) 4 針等の鋭利なものへの刺入による感染(刺入物の種類・状況) 5 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県() 市区町村() 2 国外() 国() 詳細地域()
6	初診年月日	平成 年 月 日
7	診断(検査(※))年月日	平成 年 月 日
8	感染したと推定される年月日	平成 年 月 日
9	発病年月日(※)	平成 年 月 日
10	死亡年月日(※)	平成 年 月 日

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4.5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断日から7日以内に行ってください

1. 風しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をさせていただきたくこととなっておりますが、風しんに対するより迅速な行政対応に資するため、風しんを診断（臨床診断を含む）した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いいたします。

2. 臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施することともに、検査結果等を総合的に勘案し、風しんでないとは判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式5-2-0

風しん発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届出する。

医師の氏名 _____ 報告年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日
 従事する病院・診療所の名称 _____ 印
 上記病院・診療所の所在地（※） _____ （署名又は記名押印のこと）
 電話番号（※） _____

1	診断（検査）した者（死体）の類型 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体
---	---

2	性別	3	診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ か月）
男	・ 女		

1	検査診断例、 4 発熱、発熱、リンパ節腫脹、 ・関節痛、関節炎、血小版減少性紫斑病、 ・その他（ ）	1.1 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因、感染経路（確定、推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況： ） 2 接触感染（接触した人、物の種類・状況： ） 3 その他（ ） ②感染地域（確定、推定） 1 日本国内（ ） 都道府県 市区町村 2 国外（ ） 国 詳細地域 ③風しん含有ワクチン接種歴 1 回目 有（ ） 歳、無、不明 ワクチンの種類（風しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日、不明） 製造会社/Lot番号（ ） 2 回目 有（ ） 歳、無、不明 ワクチンの種類（風しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日、不明） 製造会社/Lot番号（ ）
5	分離・同定による病原体の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・ その他（ ） 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・ 血清1gM抗体の検出 その他（ ） ベア血清での抗体の有無上昇 結果：抗体陽性・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NI・PA・その他（ ） その他の検査方法（ ） 検体（ ） 結果（ ） 臨床決定（ ）	
6	初診年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日	
7	診断（検査）年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日	
8	感染したと推定される年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日	
9	発熱年月日（*） 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日	
10	死亡年月日（※） 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日	

（1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
 ※）欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
 *）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
 4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。）

1の届出は診断日から7日以内に行ってください

1. 風しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をさせていただきたくこととなっておりますが、風しんに対するより迅速な行政対応に資するため、麻しんを診断（臨床診断を含む）した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いいたします。

2. 臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施することともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果に基づいて最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないとは判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式5-2-1

麻しん発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届出する。

医師の氏名 _____ 報告年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日
 従事する病院・診療所の名称 _____
 上記病院・診療所の所在地（※） _____ （署名又は記名押印のこと）
 電話番号（※） _____

1	診断（検査）した者（死体）の類型 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体
---	---

2	性別	3	診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ か月）
男	・ 女		

1	検査診断例、 4 発熱（月 日出現）、咳、鼻汁、結核菌、 ・眼脂、コプリック斑、発疹（月 日出現）、肺炎、 中耳炎、腸炎、クループ、脳炎（急性脳炎の届出 状もお願います）、その他（ ） 5 陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ ） 月 ____ 日 結果（陽性、陰性） 遺伝子型：（ ） (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ ） 月 ____ 日 結果（陽性、陰性） 遺伝子型：（ ） (ウ) 血清1gM抗体の検出 検体採取日（ ） 月 ____ 日 結果（陽性、陰性、判定保留） 抗体価：（ ） (エ) ベア血清での抗体の有無上昇 抗体価（1回目 ____ 月 ____ 日、2回目 ____ 月 ____ 日） 結果：抗体陽性・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NI・PA・その他（ ） その他の検査方法（ ） 検体（ ） 結果（ ） 臨床決定（ ）	1.1 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因、感染経路（確定、推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況： ） 2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況： ） 3 その他（ ） ②感染地域（確定、推定） 1 日本国内（ ） 都道府県 市区町村 2 国外（ ） 国 詳細地域 ③風しん含有ワクチン接種歴 1 回目 有（ ） 歳、無、不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日、不明） 製造会社/Lot番号（ ） 2 回目 有（ ） 歳、無、不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日、不明） 製造会社/Lot番号（ ） 6 初診年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 7 診断（検査）年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 8 感染したと推定される年月日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 9 発熱年月日（*） 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 10 死亡年月日（※） 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日
---	---	---

（1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
 ※）欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
 *）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
 4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。）

薬剤耐性アシネトバクター感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項（同条第 6 項において准用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年 月 日 平成 年 月 日

医師の氏名 _____ 印
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 _____
上記病院・診療所の所在地(※) _____
電話番号(※) _____

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の種類
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別 3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男 ・ 女 歳（ か月）

4 症状	・ 尿路感染症 ・ 肺炎 ・ 腸炎 ・ 髄膜炎 ・ 胆膜炎 ・ 菌血症 ・ 敗血症 ・ 胆管炎 ・ 胆管炎 ・ その他 ()	1 1 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 以前からの保菌（保菌部位：) 2 院内感染（保菌も含めた患者数など感染伝播の状況：) 3 医療器具関連感染（中心静脈カテーテル・尿路カテーテル・人工呼吸器・その他 ()) 4 手術部位感染（手術手技：) 5 その他 () ②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域) ③90日以内の海外渡航歴（有・無） 有りの場合 1 渡航先（ 国）
5 診断方法	・ 通常無菌的ではない検体からの分離・同定によるアシネトバクター属菌の検出及び分離菌のイミペネム、アミカシン及びシプロフロキサシンに対する耐性の確認 検体：血液・膿水・胸水・髄液 その他 () 菌種名 () 上記以外で確認に用いた薬剤名 () ・ 通常無菌的ではない検体からの分離・同定によるアシネトバクター属菌の検出、分離菌のイミペネム、アミカシン及びシプロフロキサシンに対する耐性の確認、並びに分離菌が感染症の原因菌であることの判定 検体：喀痰・膿・尿 その他 () 菌種名 () 上記以外で確認に用いた薬剤名 ()	2 海外での医療機関の受診歴（有・無） 有りの場合 受診した国名（ 国） 入院歴（有・無）
6 初診年月日	平成 年 月 日	2 海外での医療機関の受診歴（有・無） 有りの場合 受診した国名（ 国） 入院歴（有・無）
7 診断（検案(※)）年月日	平成 年 月 日	
8 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日	
9 発病年月日(※)	平成 年 月 日	
10 死亡年月日(※)	平成 年 月 日	

1 の届出は診断から7日以内に行ってください。

(1, 2, 4, 5 及び 11 欄) については該当する番号等を○で囲み、3 及び 6 から 10 までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
4 及び 5 欄においては、該当するものを全てを記載すること。

感染症発生動向調査(小児科定点)

週報

保健所コード _____
医療機関コード _____

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 第 週 医療機関名: _____

疾病	年齢		0~5 月	6~11 月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20歳 以上	合計	コメント	
	男	女																	
RSウイルス感染症	男	女																	
咽頭結膜熱	男	女																	
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	男	女																	
感染性胃腸炎	男	女																	
水痘	男	女																	
手足口病	男	女																	
伝染性紅斑	男	女																	
突発性発疹	男	女																	
百日咳	男	女																	
ヘルパンギーナ	男	女																	
流行性耳下腺炎	男	女																	
福祉保健所 FAX: _____																			

(インフルエンザ定点)

疾病	年齢		0~5 月	6~11 月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	合計	予防接種		
	男	女																								
インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く)	男	女																								

感染症発生動向調査(インフルエンザ定点)

週報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 ~ ____ 年 ____ 月 ____ 日 第 ____ 週 医療機関名: _____

疾病	年齢	0~5	6~11	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	合計	予防接種	
		か月	か月	歳																				
インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く)	男																							
	女																							

コメント

福祉保健所

FAX:

感染症発生動向調査(眼科定点)

週報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____年 ____月 ____日 ~ ____年 ____月 ____日 第 ____週 医療機関名: _____

疾病	年齢		0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳 以上	合計	
	男	女																					
急性出血性結膜炎	男	女																					
流行性角結膜炎	男	女																					

コメント

福祉保健所

FAX: _____

感染症発生動向調査(STD定点)

月報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____年 ____月 ____日 ~ ____年 ____月 ____日 医療機関名: _____

疾病	年齢		1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上	合計
	男	女																
性器クラミジア感染症																		
性器ヘルペスウイルス感染症																		
尖圭コンジローマ																		
淋菌感染症																		

コメント

福祉保健所

FAX:

感染症発生動向調査(基幹定点)

週報

保健所コード

医療機関コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 第 週 医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	病原体名称(検査結果)	病原体検査							
					左記の結果を得た 病原体検査方法**							検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							

* 疾病名

- 1:細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を除く)
- 2:無菌性髄膜炎(真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む)
- 3:マイコプラズマ肺炎
- 4:クラミジア肺炎(オウム病を除く)
- 5:感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

** 病原体検査方法

- 1:分離・同定
- 2:抗原検出
- 3:核酸・PCR
- 4:塗抹鏡検
- 5:電顕
- 6:抗体検出
- 7:その他

<記載上の注意>

- ・ 細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎: 病原体が判明している場合は、その病原体名(複数検出された場合は、主要なもののみ記載)、その結果を得た病原体検出方法(複数の場合は、最も根拠となった方法の一つを選択)及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください(病原体検査欄の記載は不要)。
- ・ マイコプラズマ肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法(1, 2, 3, 6, 7のいずれか、複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。
- ・ クラミジア肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*, *C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法(1, 2, 3, 6, 7のいずれか、複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。
- ・ 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。): 病原体検査診断が必須。病原体名称欄にロタウイルスと記載の上、病原体検査方法(1, 2, 3, 7, のいずれか、複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合、感染性胃腸炎の届出も行うこと。

コメント

福祉保健所

FAX:

感染症発生動向調査(基幹定点)

月報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日
 医療機関名: _____

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	検体採取部位**
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

* 疾病名(番号を○で囲む)

1:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

3:薬剤耐性緑膿菌感染症

** 検体採取部位

複数部位から検出された場合は、

最も重要と考えられる1か所のみを記載.

コメント
福祉保健所
FAX:

緊急連絡

この届出は診断後直ちに行ってください

報告番号： _____

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日

医療機関名： _____

主治医名： _____

症候群分類 *	1	2
年齢	歳	ヶ月
性別	男	女

* 症候群分類（番号を○で囲む）

- 1： 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状
（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
- 2： 発熱及び発しん又は水疱

※届出については、最寄りの保健所に電話連絡後、FAXをお願いします。
（夜間・休日の連絡先は、高知市内；高知市保健所地域保健課電話822-0577、
高知市以外；高知県庁代表電話088-823-1111にお願いします。）

感染症発生動向調査検査依頼票

機 関 名 _____
 担当者(主治医) _____

衛研受付 _____ 年 月 日
 受付番号 _____

患 者	氏名			<input type="checkbox"/> 男	年 月 日生 (歳)	
				<input type="checkbox"/> 女	0歳の場合は必ず月歳記入 (カ月)	
住 所	住所	市	町	施設名	(年 組)	
		郡	村			
検 査 材 料	採取日	年 月 日		発病日	年 月 日	
	材料の種類	<input type="checkbox"/> ふん便 <input type="checkbox"/> 咽頭ぬぐい液 <input type="checkbox"/> 咽頭うがい液 <input type="checkbox"/> 髄液 <input type="checkbox"/> 喀痰 <input type="checkbox"/> 穿刺液 <input type="checkbox"/> 尿 <input type="checkbox"/> その他 ()				
疫 学 的 事 項	<input type="checkbox"/> 散発 <input type="checkbox"/> 家族内 <input type="checkbox"/> 集団発生 <input type="checkbox"/> 地域流行 () <input type="checkbox"/> 集団発生の場合 (<input type="checkbox"/> 保育所 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> 福祉・養護施設 <input type="checkbox"/> 老人福祉施設 <input type="checkbox"/> 飲食店() <input type="checkbox"/> その他())					
	発病疾患に対するワクチン名			今期のインフルエンザ		
	ワクチン接種歴			年 月 日	ワクチン接種歴	年 月 日
	ペット・家畜との接触機会		<input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 犬 <input type="checkbox"/> 猫 <input type="checkbox"/> 鶏 <input type="checkbox"/> 鳥 <input type="checkbox"/> 亀 <input type="checkbox"/> 猿 <input type="checkbox"/> 豚 <input type="checkbox"/> 牛 <input type="checkbox"/> その他()) <input type="checkbox"/> 無			
	本人及び家族に海外旅行の経験		<input type="checkbox"/> 有 (年 月頃 : 国名) <input type="checkbox"/> 無			
臨 床 診 断 名	<input type="checkbox"/> 感染性胃腸炎 <input type="checkbox"/> インフルエンザ <input type="checkbox"/> A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 <input type="checkbox"/> 手足口病 <input type="checkbox"/> ヘルパンギーナ <input type="checkbox"/> 咽頭結膜熱 <input type="checkbox"/> 流行性耳下腺炎 <input type="checkbox"/> 百日咳 <input type="checkbox"/> 急性出血性結膜炎 <input type="checkbox"/> 流行性角結膜炎 <input type="checkbox"/> 細菌性髄膜炎 <input type="checkbox"/> 無菌性髄膜炎					
	<input type="checkbox"/> 無症状 <input type="checkbox"/> 発熱 (最高 °C) <input type="checkbox"/> 胃腸炎症状 <input type="checkbox"/> 下痢 (回) 便性状 (<input type="checkbox"/> 血便 <input type="checkbox"/> 粘性 <input type="checkbox"/> 水様 <input type="checkbox"/> 泥状 <input type="checkbox"/> 軟状 <input type="checkbox"/> 膿状) <input type="checkbox"/> 白色 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 嘔吐・嘔気 <input type="checkbox"/> 腹痛					
	<input type="checkbox"/> 咳嗽 <input type="checkbox"/> 上気道炎 <input type="checkbox"/> 下気道炎 <input type="checkbox"/> 気管支炎 <input type="checkbox"/> 肺炎 <input type="checkbox"/> 水疱 <input type="checkbox"/> 発疹 <input type="checkbox"/> 口内炎 <input type="checkbox"/> 手足口病症状 <input type="checkbox"/> 角膜炎 <input type="checkbox"/> 結膜炎 <input type="checkbox"/> 角結膜炎 <input type="checkbox"/> 関節痛 <input type="checkbox"/> 筋肉痛 <input type="checkbox"/> 肝機能障害 <input type="checkbox"/> 腎機能障害 <input type="checkbox"/> 循環器障害 <input type="checkbox"/> リンパ節腫脹 <input type="checkbox"/> 中枢神経系症状 <input type="checkbox"/> その他()					
連絡事項等						
検査結果:報告日 年 月 日						

* 各項目の該当する箇所に「レ線」を入れてください。

高知県感染症対策協議会規約

(要 旨)

第1条 この規約は、感染症の予防及び感染症の患者の医療に関する法律第6条第1項に規定する感染症について、有効かつ的確な感染症対策を確立するとともに感染症の予防の総合的な推進を図るため、高知県感染症対策協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(任 務)

第2条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について協議するとともに当該事項の推進にあたるものとする。

- (1) 感染症発生動向調査実施要綱に基づく情報の解析・評価
- (2) 予防計画に関すること
- (3) 事前対応に即した予防対策の検討
- (4) 肝炎対策に関すること
- (5) その他、必要な事項

(組 織)

第3条 協議会は、高知県医師会、高知大学医学部附属病院など感染症に関する専門の学識経験者のなかから知事が委嘱する委員20名以内で構成する。

- 2 日常的な情報を解析し具体的な予防対策を検討するため、協議会に結核対策部会、エイズ・性感染症対策部会、感染症発生動向調査部会、肝炎対策部会の部会を設ける。

(任 期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、再任を防げない。

- 2 委員に欠員が生じたとき、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(役員等)

第5条 協議会には会長及び副会長2名をおき、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は会を統括する。
- 3 会長に事故があるときは、副会長が職務を代行する。
- 4 部会の部会長は会長が指名する。
- 5 部会の部会長は、協議会の中から会長が指名する。

(会 議)

第6条 会議は、会長が必要と認めるときに召集し、会長が議長となる。

- 2 部会は、部会長が必要に応じて召集し、部会長が議長となる。
- 3 部会での検討事項は、協議会に報告する。
- 4 協議会及び部会は、必要に応じ委員及び部会員の同意を得て会長指名の専門委員を会議に参加させることができる。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、高知県健康政策部健康対策課に置く。

(雑 則)

第8条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規約は平成12年2月17日から施行する。
- 2 高知県結核・感染症発生動向調査委員会規約及び高知県エイズ対策協議会の規約は廃止する。
- 3 第1回の協議会は、第6条第1項の規定にかかわらず知事が召集する。

附 則

この規約は平成20年1月1日から施行する。

附 則

この規約は平成22年2月8日から施行する。

附 則

この規約は平成23年2月15日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

高知県感染症対策協議会委員名簿

高知県感染症対策協議会（11名）

会 長：吉川 清志（高知医療センター）
副会長：石黒 成人（県医師会） 西原 利治（高知大）
委 員：池上 信夫（県産婦人科医会） 大串 文隆（国立高知）
小倉 英郎（大西病院） 猿田 隆夫（県医師会）
藤枝 幹也（高知大） 前田 明彦（幡多けんみん）
柳澤 光秋（市医師会） 山本 泰朗（横浜病院）

結核対策部会（4名）

会 長：大串 文隆（国立高知）
委 員：浦田 知之（高知医療センター） 竹内 栄治（日赤）
豊田 誠（高知市）

エイズ・性感染症対策部会（5名）

会 長：猿田 隆夫（県医師会）
委 員：池上 信夫（県産婦人科医会） 武内 世生（高知大）
中村 章一郎（日赤） 三木 鈴（県産婦人科医会）

肝炎対策部会（5名）

会 長：山本 泰朗（横浜病院）
委 員：石黒 成人（県医師会） 岩村 伸一（日赤）
西原 利治（高知大） 堀川 俊一（高知市）

感染症発生動向調査部会（7名）

会 長：吉川 清志（高知医療センター）
委 員：石黒 成人（県医師会） 市川 理恵（高知医療センター）
小倉 英郎（大西病院） 友田 隆士（南病院）
浜田 義文（はまだ小児科） 前田 明彦（幡多けんみん）
森畑 東洋一（もりはた小児科）

高知県感染症対策協議会の体系図

《目的》

- * 事前対応に即した感染症情報の収集・解析・評価
- * 有効かつ的確な感染症予防対策の確立

平常時

感染症対策協議会

感染症

感染症法
に基づく
疾患

日常的な情報解析委員

エイズ・性感染症対策部会

結核対策部会

肝炎対策部会

感染症発生動向調査部会
(週報・月報)

情報解析

具体の予防
対策の検討

緊急時

- * 厚生労働省専門員の派遣・助言
- * 会長指名専門委員の参加

感染症対策協議会

感染症

- ・ 集団発生
- ・ 特殊事例
(不明疾患等)

拡大防止
のために
臨時召集

事態に応じ迅速
・ 的確に対応す
るための協議

執 筆 担 当

患者情報－高知県における感染症の年次的推移（第 17 号）－

高知医療センター 吉川 清志

検査情報－高知県感染症発生動向調査における病原微生物分離－

高知医療センター 吉川 清志

地域情報－2013 年、2014 年高知県須崎地域における感染症発生動向

もりはた小児科 森畑東洋一

－2013/2014 シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討

ふないキッズクリニック 船井 守

－小児における細菌性重症感染症の発生動向

幡多けんみん病院 前田 明彦

－注目すべき感染症対策

高知県衛生研究所 松本 道明

高知県感染症発生動向調査事業報告

第 17 号

平成 27 年 3 月発行

- 発 行
- ・高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会
事務局 高知県健康政策部健康対策課
〒 780-8570 高知市丸ノ内 1-2-20
電話 088-823-9677
 - ・高知県感染症情報センター
高知県衛生研究所
〒 780-0850 高知市丸ノ内 2-4-1
電話 088-821-4961
- 印刷所
- ・(株)伸光堂
〒 780-8040 高知市神田 638-24
電話 088-834-3434